

科目区分	子ども発達学科専門教育科目						
科目名	いじめと虐待／子ども心理Ⅴ（いじめと虐待）						
担当教員	黒崎 優美					科目ナンバ－	K73710
学期	後期／2nd semester	曜日・時限	水曜1	配当学年	3	単位数	2.0
授業のテーマ	子どものいじめと虐待に対する理解と支援の実践						
授業の概要	いじめと虐待は、子どもの命に関わる重要な課題です。 本授業では、子どものいじめと虐待が生じる背景、現状、影響について理解し、保育者としての支援について実践的に学びます。						
到達目標	子どものいじめと虐待の背景、現状、影響について理解し、説明することができる。 授業で得た理解を、保育者としての対応に応用することができる。 自身の理解や疑問を言語化し、ディスカッションを通じて他者と共有することができる。						
授業計画	第1回 導入 ～いじめと虐待のイメージ～ 第2回 集団の心理(1) ～集団としての学校と家族～ 第3回 集団の心理(2) ～集団の功罪～ 第4回 いじめの心理(1) ～いじめの定義と実態～ 第5回 いじめの心理(2) ～いじめ対応の変遷～ 第6回 いじめの心理(3) ～いじめに関する主要な理論的モデル～ 第7回 いじめの心理(4) ～集団現象としてのいじめ～ 第8回 いじめの心理(5) ～いじめ対策の可能性～ 第9回 虐待の心理(1) ～虐待の定義と実態～ 第10回 虐待の心理(2) ～虐待の発見と対応～ 第11回 虐待の心理(3) ～虐待の影響～ 第12回 虐待の心理(4) ～関係の問題としての虐待～ 第13回 虐待の心理(5) ～虐待への対応～ 第14回 活動実践課題の発表 第15回 まとめと試験						
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	授業前学習：参考書の購読（1時間）。 授業後学習：課題（1時間）。						
授業方法	講義、演習（プレゼンテーション、ディスカッション）。						
評価基準と評価方法	平常点（授業への参加・貢献、授業レポート、課題、素材カード：60%）、期末試験（持ち込み可：40%）。 課題：①授業内ワークのまとめと発表、②活動実践のまとめと発表、③レポート作成、④素材カード ※①から③から1つ以上を選択すること。④は任意選択とする。						
履修上の注意	主体的に考え言語化する努力をしてください。						
教科書	なし。毎回資料を配布します。 ※過去の資料は松蔭manabaコンテンツから取得可能。						
参考書	適宜紹介します。						

科目区分	子ども発達学科専門教育科目						
科目名	英語科研究						
担当教員	作井 恵子・山内 啓子					科目ナンバー	K73520
学期	前期／1st semester	曜日・時限	水曜3	配当学年	3	単位数	2.0
授業のテーマ	英語を担当する教員としてふさわしい英語力とその背景的知識・技能を身につける。						
授業の概要	この授業では、4技能（「聞く」「読む」「話す」「書く」）また、語彙や発音、文字、文法について理論に基づいた指導法を理解します。さらに外国語を学習するには、その背景となる文学、異文化理解、日本語と比較した時の気づきなどの知識が必要ですし、年齢といった学習者要因についても理解を深めることで、児童期の外国語指導にふさわしい英語科のカリキュラムを考えるうえで必要な基礎的知識、授業を行うための基礎実践力を養うことを目的とします。 （オムニバス方式・全15回） （作井恵子・8回） 4技能のうち「聞くこと」「話すこと（やり取り・発表）」、音声・文字指導・場面に合わせたコミュニケーション、およびそれらを総括する模擬授業 （山内啓子・7回）4技能のうち「読むこと」「書くこと」、諸外国の英語教育を含めた英語教育と異文化理解、児童文学、児童期の語学学習、日本語と英語の比較						
到達目標	小学校において外国語活動・外国語科の授業が担当できるような基本的な英語力を身につけることを第一の目標とし、またそれに必要な背景的知識・技能を身につけることができる。						
授業計画	授業計画 第1回：児童期の英語教育について（山内） 第2回：教材としての児童文学・絵本（山内） 第3回：児童期の英語教育と異文化理解（山内） 第4回：児童期の語学学習（山内） 第5回：読むことについて（山内） 第6回：書くことについて（山内） 第7回：聞くことについて（作井） 第8回：話すこと（やり取り）について（作井） 第9回：話すこと（発表）について（作井） 第10回：音声教材研究（作井） 第11回：文字教材研究（作井） 第12回：場面・状況に合わせたコミュニケーション（作井） 第13回：ことばの面白さ（日本語と比較して）（山内） 第14回：模擬授業（作井） 第15回：授業総括と定期試験（作井）						
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	授業前準備学習：各回授業で扱う教科書の該当箇所を予習し、指定された課題について下調べを行うこと。（平均学習時間1時間） 授業後学習：授業内で指定された課題について指示されたように作成したり発表に向けて練習したりすること。（平均学習時間1時間）						
授業方法	各回のテーマに沿って解説・講義、またテーマに応じて適宜演習も行う。 基本的にインタラクティブな学習を多用する共同学習（グループワーク、発表、ディスカッション）の形態をとる（山内）						
評価基準と評価方法	定期試験 50%、模擬授業 30%、授業への積極的参加度 20%						
履修上の注意	出席重視、授業に積極的に取り組むこと						
教科書	樋口忠彦・加賀田哲也他『小学校英語教育法入門（新編）』（2017） 研究社 ISBN978-327-41098-8						

参考書	
-----	--

科目区分	子ども発達学科専門教育科目							
科目名	英語科指導法							
担当教員	作井 恵子・山内 啓子					科目ナンバー	K73410	
学期	後期／2nd semester		曜日・時限	水曜3	配当学年	3	単位数	2.0
授業のテーマ	英語を担当する教員としてふさわしい英語力とその背景的知識・技能を身につける。							
授業の概要	この授業では、4技能（「聞く」「読む」「話す」「書く」）また、語彙や発音、文字、文法について理論に基づいた指導法を理解します。さらに外国語を学習するには、その背景となる文学、異文化理解、日本語と比較した時の気づきなどの知識が必要ですし、年齢といった学習者要因についても理解を深めることで、児童期の外国語指導にふさわしい英語科のカリキュラムを考えるうえで必要な基礎的知識、授業を行うための基礎実践力を養うことを目的とします。 （オムニバス方式・全15回） （作井恵子・8回） 前期に引き続き、4技能のうち「聞くこと」「話すこと（やり取り・発表）」の指導法、小学校での英語教育教材、ICT活用などについての知識を身につけ、それらを総括するために模擬授業を行う （山内啓子・7回） 前期に引き続き4技能のうち「読むこと」「書くこと」、外国語学習と関連分野、異文化理解、教材作成や指導法、さらに日本語と英語の表現比較を行う。内容はスパイラル式に深める							
到達目標	小学校において外国語活動・外国語科の授業が担当できるような基本的な英語力を身につけることを第一の目標とし、またそれに必要な背景的知識・技能を身につけることができる。							
授業計画	授業計画 第1回：児童期の英語教育の関連分野一第二言語習得の面から（山内） 第2回：教材としての児童文学・絵本の適正と指導法（山内） 第3回：異文化理解教育と異文化間コミュニケーション（山内） 第4回：教材作成と活用法（山内） 第5回：読むことの指導法（山内） 第6回：書くことの指導法（山内） 第7回：聞くことの指導法（作井） 第8回：話すこと（やり取り）の指導法（作井） 第9回：話すこと（発表）の指導法（作井） 第10回：小学校での英語教材（中学年）（作井） 第11回：小学校での英語教材（高学年）（作井） 第12回：ICTと英語教育（作井） 第13回：ことばの面白さ一表現に焦点を当てて（山内） 第14回：模擬授業（作井） 第15回：授業総括と定期試験（作井）							
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	授業前準備学習：各回授業で扱う教科書の該当箇所を予習し、指定された課題について下調べを行うこと。（平均学習時間1時間） 授業後学習：授業内で指定された課題について指示されたように作成したり発表に向けて練習したりすること。（平均学習時間1時間）							
授業方法	各回のテーマに沿って解説・講義、またテーマに応じて適宜演習も行う。 基本的にインタラクティブを多用する共同学習（グループワーク、発表、ディスカッション）の形態をとる（山内）							
評価基準と評価方法	定期試験 50％、模擬授業 30％、授業への積極的参加度 20％							
履修上の注意	出席重視、授業に積極的に取り組むこと							
教科書	樋口忠彦・加賀田哲也他『小学校英語教育法入門（新編）』（2017） 研究社 ISBN978-327-41098-8							

参考書	
-----	--

科目区分	子ども発達学科専門教育科目						
科目名	音楽科研究						
担当教員	奥村 正子					科目ナンバー	K72470
学期	前期／1st semester	曜日・時限	月曜3	配当学年	2	単位数	2.0
授業のテーマ	子どもの音楽的な発達を理解する。 楽譜から音楽表現の方法について読み取る力と音楽によるコミュニケーションの基礎を学ぶ。						
授業の概要	子どもと音楽の関わりを幼児・児童期の発達とともに概観する。 小学校の共通教材、合唱や合奏を実習し、DVD等で音楽表現を鑑賞することにより、「音楽科」への関心を高める。						
到達目標	子どもの音楽的発達や子どもと音楽の関わりを知り、興味をより具体的なものとして意識することができるようになる。 どのような歌唱教材を選択し、どのような声で関わればよいのか理解し、実際に歌唱できるようになる。 子どもが使用する楽器の選択、実際の奏法がわかる。						
授業計画	第1回 ガイダンス・授業の方法の説明 第2回 楽典1（音名、音階、コードネームの復習） 第3回 楽典2（簡易伴奏、移調） 第4回 子どもの音楽的発達1：発達のみちすじ 第5回 子どもの音楽的発達2：音楽的な成長 第6回 声による表現1：子どもと歌 および小学校の共通教材について 第7回 声による表現2：特色ある音楽教育について 第8回 中間試験 及び 様々な子どもの楽器の紹介 第9回 わらべうたの実習 及び 弾き歌い実習 1 第10回 わらべうたの創作 及び 弾き歌い実習 2 第11回 子どもと楽器の関わり 及び リズムパターンについて 第12回 リズム・アンサンブル1：リズムパターンの作成 第13回 リズム・アンサンブル2：ボディパーカッション 及びアンサンブル 第14回 リズム・アンサンブル3：グループでのアンサンブル発表 第15回 まとめと期末試験						
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	次回の授業で学ぶテキスト箇所、楽曲は予習しておくこと。 テキスト掲載の教材曲には、「音楽実技」の授業における弾き歌いの課題曲が含まれています。 （学習時間：2時間）						
授業方法	講義と実習						
評価基準と評価方法	平常点40%、中間試験と発表30%、期末試験30% 出席回数が10回に満たない場合、また試験を受けない場合は評価の対象とならない。						
履修上の注意	グループワークやアンサンブルでは、一人ひとりが役割を担っている。 音楽表現の体験を充実したものにするよう、発表に向けての準備期間から主体的に参加すること。 動きやすい服装で参加する。						
教科書	『最新・幼児の音楽教育』井口 太 編著 朝日出版社 ISBN978-4-255-15627-9						
参考書	「おんがくのしくみ」教育芸術社 ISBN978-4-87788-377-5 その他は、授業中に紹介する。						

科目区分	子ども発達学科専門教育科目						
科目名	音楽科研究						
担当教員	奥村 正子					科目ナンバー	K72470
学期	前期／1st semester	曜日・時限	月曜5	配当学年	2	単位数	2.0
授業のテーマ	子どもの音楽的な発達を理解する。 楽譜から音楽表現の方法について読み取る力と音楽によるコミュニケーションの基礎を学ぶ。						
授業の概要	子どもと音楽の関わりを幼児・児童期の発達とともに概観する。 小学校の共通教材、合唱や合奏を実習し、DVD等で音楽表現を鑑賞することにより、「音楽科」への関心を高める。						
到達目標	子どもの音楽的発達や子どもと音楽の関わりを知り、興味をより具体的なものとして意識することができるようになる。 どのような歌唱教材を選択し、どのような声で関わればよいのか理解し、実際に歌唱できるようになる。 子どもが使用する楽器の選択、実際の奏法がわかる。						
授業計画	第1回 ガイダンス・授業の方法の説明 第2回 楽典1（音名、音階、コードネームの復習） 第3回 楽典2（簡易伴奏、移調） 第4回 子どもの音楽的発達1：発達のみちすじ 第5回 子どもの音楽的発達2：音楽的な成長 第6回 声による表現1：子どもと歌 および小学校の共通教材について 第7回 声による表現2：特色ある音楽教育について 第8回 中間試験 及び 様々な子どもの楽器の紹介 第9回 わらべうたの実習 及び 弾き歌い実習 1 第10回 わらべうたの創作 及び 弾き歌い実習 2 第11回 子どもと楽器の関わり 及び リズムパターンについて 第12回 リズム・アンサンブル1：リズムパターンの作成 第13回 リズム・アンサンブル2：ボディーパーカッション 及びアンサンブル 第14回 リズム・アンサンブル3：グループでのアンサンブル発表 第15回 まとめと期末試験						
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	次回の授業で学ぶテキスト箇所、楽曲は予習しておくこと。 テキスト掲載の教材曲には、「音楽実技」の授業における弾き歌いの課題曲が含まれています。 （学習時間：2時間）						
授業方法	講義と実習						
評価基準と評価方法	平常点40%、中間試験と発表30%、期末試験30% 出席回数が10回に満たない場合、また試験を受けない場合は評価の対象とならない。						
履修上の注意	グループワークやアンサンブルでは、一人ひとりが役割を担っている。 音楽表現の体験を充実したものにするよう、発表に向けての準備期間から主体的に参加すること。 動きやすい服装で参加する。						
教科書	『最新・幼児の音楽教育』井口 太 編著 朝日出版社 ISBN978-4-255-15627-9						
参考書	「おんがくのしくみ」教育芸術社 ISBN978-4-87788-377-5 その他は、授業中に紹介する。						

科目区分	子ども発達学科専門教育科目							
科目名	音楽科指導法							
担当教員	樫下 達也					科目ナンバー	K73380	
学期	後期／2nd semester		曜日・時限	金曜4	配当学年	3	単位数	2.0
授業のテーマ	小学校音楽科の授業づくり（教材研究・学習指導案作成）に必要な知識・技能を身につけ、模擬授業として実践する。							
授業の概要	音楽教育の意義を理解するために、わが国の初等音楽教育の歴史について学び、そのうえで現在の学習指導要領における音楽科の目標と内容を学ぶ。音楽科における教材研究の視点や評価の方法について学んだうえで、表現・鑑賞の教材研究、および情報機器を効果的に活用する事例の検討を行う。歌唱共通教材および教科書掲載楽曲の、教材としての価値を理解し、これを生かした指導案を作成し、模擬授業で実践する。以上の取り組みを通して「音楽科」を担当するために必要な具体的・実践的な知識と技能を身につける。							
到達目標	初等音楽教育の意義について歴史的視点から理解したうえで、これからの社会を担う子どもたちに求められる資質・能力を育成するために必要な音楽科教育の方法を理解する。小学校学習指導要領に示された音楽科の教育目標と指導内容を理解し、これを実現していくための指導技術を身につける。情報機器を活用した音楽科授業の可能性を探究するとともに、適切な教材・教具の作成・活用に関する基礎的な能力を身につけ、具体的な授業場面を想定した授業を構想することができる。							
授業計画	第1回 ガイダンス：公教育における音楽教育の意義 第2回 音楽科授業の構築に必要な力とは：模擬授業を体験しよう 第3回 音楽教育の歴史：「音楽を」教えるのか「音楽で」教えるのか 第4回 小学校学習指導要領における音楽科の目標と内容 第5回 音楽科における教材研究：教材・教具・教育内容 第6回 音楽科の評価と指導計画 第7回 鑑賞教材の研究：情報機器を活用した音楽鑑賞の可能性 第8回 歌唱教材の研究（1）：子どもの歌声の発達と発声指導の実際 第9回 歌唱教材の研究（2）：歌唱共通教材の意義と指導の実際 第10回 器楽教材の研究：リコーダーの導入と指導の実際 第11回 音楽づくりの指導：情報機器を活用した音楽づくりの実習 第12回 音楽科学習指導案の作成と検討 第13回 模擬授業と検討会（1） 第14回 模擬授業と検討会（2） 第15回 まとめ：講義の振り返りとレポートの作成							
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	本授業では模擬授業のための教材研究および学習指導案の作成を各自が授業外に作成する必要がある。授業内で示された理論を復習しながら模擬授業で扱う教材について文献等を用いて調べ、授業ではその報告を行う。また同様に授業での学習を前提に指導案を作成し、それを授業内で発表、ブラッシュアップしていく。したがって、これらの授業時間外における学習は授業の復習と予習を兼ねており、最低でも週あたり4時間程度を要する。							
授業方法	本授業では講義形式のみならず下記のようなアクティブ・ラーニングを行う。 ・模擬授業に向けた教材研究および学習指導案の作成は基本的にグループで取り組み、その進捗を発表し、議論しながら授業を進める。 ・音楽科指導に必要な音楽的技能の習得をめざして歌唱、器楽、創作、鑑賞の活動を実際に行い、それらの活動を振り返る議論をしながら学習を深める。							
評価基準と評価方法	授業中の小テスト（30%）、レポート（指導案作成を含む、40%）模擬授業（30%）							
履修上の注意	模擬授業の準備など責任感をもって学習に取り組むこと。							
教科書	笹野恵理子編著『初等音楽科教育（はじめて学ぶ教科教育7）』ミネルヴァ書房、2018年。 文部科学省『小学校学習指導要領』2017年。							
参考書								

科目区分	子ども発達学科専門教育科目							
科目名	音楽実技／音楽実技Ⅱ							
担当教員	奥村 正子・幸野 紀子					科目ナンバー	K72190	
学期	前期／1st semester		曜日・時限	水曜2	配当学年	2	単位数	1.0
授業のテーマ	「音楽表現」で学んだピアノ奏法の技能、実践力をさらに向上させ、弾き歌い曲についても学ぶ。							
授業の概要	1クラスを2つのグループに分けて行う。 毎時のピアノの個人レッスンでは、各自のグレードごとに課題曲を学習し、「弾き歌い」にも取り組む。 集団の授業では、「簡単な伴奏付け」ができるように、コードネームについての理解を深める。							
到達目標	活動場面に相応しい楽曲を用いて、身体の動きを伴った音楽表現の援助が行える。 子どもの歌唱教材から12曲を弾き歌いすることができる。 伴奏譜に記載されている基礎的なコードネームについて説明することができる。							
授業計画	第1回 ガイダンス：授業の方法の説明、課題曲の紹介、クラス分け 第2回 グレード別ピアノ課題曲と弾き歌い課題曲の解説、及び個人レッスン1 第3回 コードネーム1（3声の基本コード）、及び個人レッスン2 第4回 コードネーム2（4声の基本コード）及び個人レッスン3 第5回 弾き歌い1（歌唱教材の選択）、及び個人レッスン4 第6回 弾き歌い2（音階の中にできる3声のコード）、及び個人レッスン5 第7回 弾き歌い3（音階の中にできる4声のコード）、及び個人レッスン6 第8回 弾き歌い4（子どもの音楽活動を指導するために）、及び個人レッスン7 第9回 中間試験と楽典の確認 第10回 簡単な伴奏付け1（主要三和音と副三和音）、及び個人レッスン8 第11回 簡単な伴奏付け2（楽譜の簡略化）、及び個人レッスン9 第12回 アンサンブル1（子どものリズム楽器の特徴）、及び個人レッスン10 第13回 アンサンブル2（リズム楽器の奏法）、及び個人レッスン11 第14回 即興的な伴奏、及び個人レッスン12 第15回 まとめと期末試験							
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	ピアノ学習において、日々の継続的な練習は必須である。 （学習時間：4時間）							
授業方法	演習 個別の実技指導とともに、簡単な伴奏づけができるためのコードネームの学習やリズム楽器でのアンサンブルも体験する。 日頃の練習の成果を発表する機会を設ける。							
評価基準と評価方法	毎回の授業における課題の到達度を平常点として評価する（50%） 中間・期末試験（楽典の確認テストを含む）についても併せて評価する（50%） 出席回数が2/3未満である場合、また試験を受けなかった場合は評価の対象としない。							
履修上の注意	授業で指摘された問題点を、次回までに解決するために、各自の積極的な取り組みと十分な練習が必須である。 「弾き歌い」については、必修の課題曲以外も、レパートリーを積極的に増やすこと。 「音楽表現」を履修していること。							
教科書	ピアノのグレード毎の課題曲、弾き歌いの課題曲は、授業開講日に発表する。 『最新・幼児の音楽教育』井口 太 編著 朝日出版社 ISBN978-4-255-15627-9							
参考書	「おんがくのしくみ」教育芸術社 ISBN978-4-87788-377-5 「バーナム 全調の練習」全音楽譜出版社							

科目区分	子ども発達学科専門教育科目							
科目名	音楽実技／音楽実技Ⅱ							
担当教員	奥村 正子・幸野 紀子					科目ナンバー	K72190	
学期	前期／1st semester		曜日・時限	水曜3	配当学年	2	単位数	1.0
授業のテーマ	「音楽表現」で学んだピアノ奏法の技能、実践力をさらに向上させ、弾き歌い曲についても学ぶ。							
授業の概要	1クラスを2つのグループに分けて行う。 毎時のピアノの個人レッスンでは、各自のグレードごとに課題曲を学習し、「弾き歌い」にも取り組む。 集団の授業では、「簡単な伴奏付け」ができるように、コードネームについての理解を深める。							
到達目標	活動場面に相応しい楽曲を用いて、身体の動きを伴った音楽表現の援助が行える。 子どもの歌唱教材から12曲を弾き歌いすることができる。 伴奏譜に記載されている基礎的なコードネームについて説明することができる。							
授業計画	第1回 ガイダンス：授業の方法の説明、課題曲の紹介、クラス分け 第2回 グレード別ピアノ課題曲と弾き歌い課題曲の解説、及び個人レッスン1 第3回 コードネーム1（3声の基本コード）、及び個人レッスン2 第4回 コードネーム2（4声の基本コード）及び個人レッスン3 第5回 弾き歌い1（歌唱教材の選択）、及び個人レッスン4 第6回 弾き歌い2（音階の中にできる3声のコード）、及び個人レッスン5 第7回 弾き歌い3（音階の中にできる4声のコード）、及び個人レッスン6 第8回 弾き歌い4（子どもの音楽活動を指導するために）、及び個人レッスン7 第9回 中間試験と楽典の確認 第10回 簡単な伴奏付け1（主要三和音と副三和音）、及び個人レッスン8 第11回 簡単な伴奏付け2（楽譜の簡略化）、及び個人レッスン9 第12回 アンサンブル1（子どものリズム楽器の特徴）、及び個人レッスン10 第13回 アンサンブル2（リズム楽器の奏法）、及び個人レッスン11 第14回 即興的な伴奏、及び個人レッスン12 第15回 まとめと期末試験							
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	ピアノ学習において、日々の継続的な練習は必須である。 （学習時間：4時間）							
授業方法	演習 個別の実技指導とともに、簡単な伴奏づけができるためのコードネームの学習やリズム楽器でのアンサンブルも体験する。 日頃の練習の成果を発表する機会を設ける。							
評価基準と評価方法	毎回の授業における課題の到達度を平常点として評価する（50%） 中間・期末試験（楽典の確認テストを含む）についても併せて評価する（50%） 出席回数が2/3未満である場合、また試験を受けなかった場合は評価の対象としない。							
履修上の注意	授業で指摘された問題点を、次回までに解決するために、各自の積極的な取り組みと十分な練習が必須である。 「弾き歌い」については、必修の課題曲以外も、レパートリーを積極的に増やすこと。 「音楽表現」を履修していること。							
教科書	ピアノのグレード毎の課題曲、弾き歌いの課題曲は、授業開講日に発表する。 『最新・幼児の音楽教育』井口 太 編著 朝日出版社 ISBN978-4-255-15627-9							
参考書	「おんがくのしくみ」教育芸術社 ISBN978-4-87788-377-5 「バーナム 全調の練習」全音楽譜出版社							

科目区分	子ども発達学科専門教育科目							
科目名	音楽実技／音楽実技Ⅱ							
担当教員	奥村 正子・永峯 翠子					科目ナンバー	K72190	
学期	前期／1st semester		曜日・時限	水曜2	配当学年	2	単位数	1.0
授業のテーマ	「音楽表現」で学んだピアノ奏法の技能、実践力をさらに向上させ、弾き歌い曲についても学ぶ。							
授業の概要	1クラスを2つのグループに分けて行う。 毎時のピアノの個人レッスンでは、各自のグレードごとに課題曲を学習し、「弾き歌い」にも取り組む。 集団の授業では、「簡単な伴奏付け」ができるように、コードネームについての理解を深める。							
到達目標	活動場面に相応しい楽曲を用いて、身体の動きを伴った音楽表現の援助が行える。 子どもの歌唱教材から12曲を弾き歌いすることができる。 伴奏譜に記載されている基礎的なコードネームについて説明することができる。							
授業計画	第1回 ガイダンス：授業の方法の説明、課題曲の紹介、クラス分け 第2回 グレード別ピアノ課題曲と弾き歌い課題曲の解説、及び個人レッスン1 第3回 コードネーム1（3声の基本コード）、及び個人レッスン2 第4回 コードネーム2（4声の基本コード）及び個人レッスン3 第5回 弾き歌い1（歌唱教材の選択）、及び個人レッスン4 第6回 弾き歌い2（音階の中にできる3声のコード）、及び個人レッスン5 第7回 弾き歌い3（音階の中にできる4声のコード）、及び個人レッスン6 第8回 弾き歌い4（子どもの音楽活動を指導するために）、及び個人レッスン7 第9回 中間試験と楽典の確認 第10回 簡単な伴奏付け1（主要三和音と副三和音）、及び個人レッスン8 第11回 簡単な伴奏付け2（楽譜の簡略化）、及び個人レッスン9 第12回 アンサンブル1（子どものリズム楽器の特徴）、及び個人レッスン10 第13回 アンサンブル2（リズム楽器の奏法）、及び個人レッスン11 第14回 即興的な伴奏、及び個人レッスン12 第15回 まとめと期末試験							
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	ピアノ学習において、日々の継続的な練習は必須である。 （学習時間：4時間）							
授業方法	演習 個別の実技指導とともに、簡単な伴奏づけができるためのコードネームの学習やリズム楽器でのアンサンブルも体験する。 日頃の練習の成果を発表する機会を設ける。							
評価基準と評価方法	毎回の授業における課題の到達度を平常点として評価する（50%） 中間・期末試験（楽典の確認テストを含む）についても併せて評価する（50%） 出席回数が2/3未満である場合、また試験を受けなかった場合は評価の対象としない。							
履修上の注意	授業で指摘された問題点を、次回までに解決するために、各自の積極的な取り組みと十分な練習が必須である。 「弾き歌い」については、必修の課題曲以外も、レパートリーを積極的に増やすこと。 「音楽表現」を履修していること。							
教科書	ピアノのグレード毎の課題曲、弾き歌いの課題曲は、授業開講日に発表する。 『最新・幼児の音楽教育』井口 太 編著 朝日出版社 ISBN978-4-255-15627-9							
参考書	「おんがくのしくみ」教育芸術社 ISBN978-4-87788-377-5 「バーナム 全調の練習」全音楽譜出版社							

科目区分	子ども発達学科専門教育科目							
科目名	音楽実技／音楽実技Ⅱ							
担当教員	奥村 正子・永峯 翠子					科目ナンバー	K72190	
学期	前期／1st semester		曜日・時限	水曜3	配当学年	2	単位数	1.0
授業のテーマ	「音楽表現」で学んだピアノ奏法の技能、実践力をさらに向上させ、弾き歌い曲についても学ぶ。							
授業の概要	1クラスを2つのグループに分けて行う。 毎時のピアノの個人レッスンでは、各自のグレードごとに課題曲を学習し、「弾き歌い」にも取り組む。 集団の授業では、「簡単な伴奏付け」ができるように、コードネームについての理解を深める。							
到達目標	活動場面に相応しい楽曲を用いて、身体の動きを伴った音楽表現の援助が行える。 子どもの歌唱教材から12曲を弾き歌いすることができる。 伴奏譜に記載されている基礎的なコードネームについて説明することができる。							
授業計画	第1回 ガイダンス：授業の方法の説明、課題曲の紹介、クラス分け 第2回 グレード別ピアノ課題曲と弾き歌い課題曲の解説、及び個人レッスン1 第3回 コードネーム1（3声の基本コード）、及び個人レッスン2 第4回 コードネーム2（4声の基本コード）及び個人レッスン3 第5回 弾き歌い1（歌唱教材の選択）、及び個人レッスン4 第6回 弾き歌い2（音階の中にできる3声のコード）、及び個人レッスン5 第7回 弾き歌い3（音階の中にできる4声のコード）、及び個人レッスン6 第8回 弾き歌い4（子どもの音楽活動を指導するために）、及び個人レッスン7 第9回 中間試験と楽典の確認 第10回 簡単な伴奏付け1（主要三和音と副三和音）、及び個人レッスン8 第11回 簡単な伴奏付け2（楽譜の簡略化）、及び個人レッスン9 第12回 アンサンブル1（子どものリズム楽器の特徴）、及び個人レッスン10 第13回 アンサンブル2（リズム楽器の奏法）、及び個人レッスン11 第14回 即興的な伴奏、及び個人レッスン12 第15回 まとめと期末試験							
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	ピアノ学習において、日々の継続的な練習は必須である。 （学習時間：4時間）							
授業方法	演習 個別の実技指導とともに、簡単な伴奏づけができるためのコードネームの学習やリズム楽器でのアンサンブルも体験する。 日頃の練習の成果を発表する機会を設ける。							
評価基準と評価方法	毎回の授業における課題の到達度を平常点として評価する（50%） 中間・期末試験（楽典の確認テストを含む）についても併せて評価する（50%） 出席回数が2/3未満である場合、また試験を受けなかった場合は評価の対象としない。							
履修上の注意	授業で指摘された問題点を、次回までに解決するために、各自の積極的な取り組みと十分な練習が必須である。 「弾き歌い」については、必修の課題曲以外も、レパートリーを積極的に増やすこと。 「音楽表現」を履修していること。							
教科書	ピアノのグレード毎の課題曲、弾き歌いの課題曲は、授業開講日に発表する。 『最新・幼児の音楽教育』井口 太 編著 朝日出版社 ISBN978-4-255-15627-9							
参考書	「おんがくのしくみ」教育芸術社 ISBN978-4-87788-377-5 「バーナム 全調の練習」全音楽譜出版社							

科目区分	子ども発達学科専門教育科目						
科目名	音楽実技／音楽実技Ⅱ						
担当教員	奥村 正子・湊田 陽子					科目ナンバ－	K72190
学期	前期／1st semester	曜日・時限	水曜2	配当学年	2	単位数	1.0
授業のテーマ	「音楽表現」で学んだピアノ奏法の技能、実践力をさらに向上させ、弾き歌い曲についても学ぶ。						
授業の概要	1クラスを2つのグループに分けて行う。 毎時のピアノの個人レッスンでは、各自のグレードごとに課題曲を学習し、「弾き歌い」にも取り組む。 集団の授業では、「簡単な伴奏付け」ができるように、コードネームについての理解を深める。						
到達目標	活動場面に相応しい楽曲を用いて、身体の動きを伴った音楽表現の援助が行える。 子どもの歌唱教材から12曲を弾き歌いすることができる。 伴奏譜に記載されている基礎的なコードネームについて説明することができる。						
授業計画	第1回 ガイダンス：授業の方法の説明、課題曲の紹介、クラス分け 第2回 グレード別ピアノ課題曲と弾き歌い課題曲の解説、及び個人レッスン1 第3回 コードネーム1（3声の基本コード）、及び個人レッスン2 第4回 コードネーム2（4声の基本コード）及び個人レッスン3 第5回 弾き歌い1（歌唱教材の選択）、及び個人レッスン4 第6回 弾き歌い2（音階の中にできる3声のコード）、及び個人レッスン5 第7回 弾き歌い3（音階の中にできる4声のコード）、及び個人レッスン6 第8回 弾き歌い4（子どもの音楽活動を指導するために）、及び個人レッスン7 第9回 中間試験と楽典の確認 第10回 簡単な伴奏付け1（主要三和音と副三和音）、及び個人レッスン8 第11回 簡単な伴奏付け2（楽譜の簡略化）、及び個人レッスン9 第12回 アンサンブル1（子どものリズム楽器の特徴）、及び個人レッスン10 第13回 アンサンブル2（リズム楽器の奏法）、及び個人レッスン11 第14回 即興的な伴奏、及び個人レッスン12 第15回 まとめと期末試験						
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	ピアノ学習において、日々の継続的な練習は必須である。 （学習時間：4時間）						
授業方法	演習 個別の実技指導とともに、簡単な伴奏づけができるためのコードネームの学習やリズム楽器でのアンサンブルも体験する。 日頃の練習の成果を発表する機会を設ける。						
評価基準と評価方法	毎回の授業における課題の到達度を平常点として評価する（50%） 中間・期末試験（楽典の確認テストを含む）についても併せて評価する（50%） 出席回数が2/3未満である場合、また試験を受けなかった場合は評価の対象としない。						
履修上の注意	授業で指摘された問題点を、次回までに解決するために、各自の積極的な取り組みと十分な練習が必須である。 「弾き歌い」については、必修の課題曲以外も、レパートリーを積極的に増やすこと。 「音楽表現」を履修していること。						
教科書	ピアノのグレード毎の課題曲、弾き歌いの課題曲は、授業開講日に発表する。 『最新・幼児の音楽教育』井口 太 編著 朝日出版社 ISBN978-4-255-15627-9						
参考書	「おんがくのしくみ」教育芸術社 ISBN978-4-87788-377-5 「バーナム 全調の練習」全音楽譜出版社						

科目区分	子ども発達学科専門教育科目						
科目名	音楽実技／音楽実技Ⅱ						
担当教員	奥村 正子・淵田 陽子					科目ナンバー	K72190
学期	前期／1st semester	曜日・時限	水曜3	配当学年	2	単位数	1.0
授業のテーマ	「音楽表現」で学んだピアノ奏法の技能、実践力をさらに向上させ、弾き歌い曲についても学ぶ。						
授業の概要	1クラスを2つのグループに分けて行う。 毎時のピアノの個人レッスンでは、各自のグレードごとに課題曲を学習し、「弾き歌い」にも取り組む。 集団の授業では、「簡単な伴奏付け」ができるように、コードネームについての理解を深める。						
到達目標	活動場面に相応しい楽曲を用いて、身体の動きを伴った音楽表現の援助が行える。 子どもの歌唱教材から12曲を弾き歌いすることができる。 伴奏譜に記載されている基礎的なコードネームについて説明することができる。						
授業計画	第1回 ガイダンス：授業の方法の説明、課題曲の紹介、クラス分け 第2回 グレード別ピアノ課題曲と弾き歌い課題曲の解説、及び個人レッスン1 第3回 コードネーム1（3声の基本コード）、及び個人レッスン2 第4回 コードネーム2（4声の基本コード）及び個人レッスン3 第5回 弾き歌い1（歌唱教材の選択）、及び個人レッスン4 第6回 弾き歌い2（音階の中にできる3声のコード）、及び個人レッスン5 第7回 弾き歌い3（音階の中にできる4声のコード）、及び個人レッスン6 第8回 弾き歌い4（子どもの音楽活動を指導するために）、及び個人レッスン7 第9回 中間試験と楽典の確認 第10回 簡単な伴奏付け1（主要三和音と副三和音）、及び個人レッスン8 第11回 簡単な伴奏付け2（楽譜の簡略化）、及び個人レッスン9 第12回 アンサンブル1（子どものリズム楽器の特徴）、及び個人レッスン10 第13回 アンサンブル2（リズム楽器の奏法）、及び個人レッスン11 第14回 即興的な伴奏、及び個人レッスン12 第15回 まとめと期末試験						
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	ピアノ学習において、日々の継続的な練習は必須である。 （学習時間：4時間）						
授業方法	演習 個別の実技指導とともに、簡単な伴奏づけができるためのコードネームの学習やリズム楽器でのアンサンブルも体験する。 日頃の練習の成果を発表する機会を設ける。						
評価基準と評価方法	毎回の授業における課題の到達度を平常点として評価する（50%） 中間・期末試験（楽典の確認テストを含む）についても併せて評価する（50%） 出席回数が2/3未満である場合、また試験を受けなかった場合は評価の対象としない。						
履修上の注意	授業で指摘された問題点を、次回までに解決するために、各自の積極的な取り組みと十分な練習が必須である。 「弾き歌い」については、必修の課題曲以外も、レパートリーを積極的に増やすこと。 「音楽表現」を履修していること。						
教科書	ピアノのグレード毎の課題曲、弾き歌いの課題曲は、授業開講日に発表する。 『最新・幼児の音楽教育』井口 太 編著 朝日出版社 ISBN978-4-255-15627-9						
参考書	「おんがくのしくみ」教育芸術社 ISBN978-4-87788-377-5 「バーナム 全調の練習」全音楽譜出版社						

科目区分	子ども発達学科専門教育科目						
科目名	音楽実技／音楽実技Ⅱ						
担当教員	奥村 正子・矢野 ゆかり					科目ナンバー	K72190
学期	前期／1st semester	曜日・時限	水曜2	配当学年	2	単位数	1.0
授業のテーマ	「音楽表現」で学んだピアノ奏法の技能、実践力をさらに向上させ、弾き歌い曲についても学ぶ。						
授業の概要	1クラスを2つのグループに分けて行う。 毎時のピアノの個人レッスンでは、各自のグレードごとに課題曲を学習し、「弾き歌い」にも取り組む。 集団の授業では、「簡単な伴奏付け」ができるように、コードネームについての理解を深める。						
到達目標	活動場面に相応しい楽曲を用いて、身体の動きを伴った音楽表現の援助が行える。 子どもの歌唱教材から12曲を弾き歌いすることができる。 伴奏譜に記載されている基礎的なコードネームについて説明することができる。						
授業計画	第1回 ガイダンス：授業の方法の説明、課題曲の紹介、クラス分け 第2回 グレード別ピアノ課題曲と弾き歌い課題曲の解説、及び個人レッスン1 第3回 コードネーム1（3声の基本コード）、及び個人レッスン2 第4回 コードネーム2（4声の基本コード）及び個人レッスン3 第5回 弾き歌い1（歌唱教材の選択）、及び個人レッスン4 第6回 弾き歌い2（音階の中にできる3声のコード）、及び個人レッスン5 第7回 弾き歌い3（音階の中にできる4声のコード）、及び個人レッスン6 第8回 弾き歌い4（子どもの音楽活動を指導するために）、及び個人レッスン7 第9回 中間試験と楽典の確認 第10回 簡単な伴奏付け1（主要三和音と副三和音）、及び個人レッスン8 第11回 簡単な伴奏付け2（楽譜の簡略化）、及び個人レッスン9 第12回 アンサンブル1（子どものリズム楽器の特徴）、及び個人レッスン10 第13回 アンサンブル2（リズム楽器の奏法）、及び個人レッスン11 第14回 即興的な伴奏、及び個人レッスン12 第15回 まとめと期末試験						
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	ピアノ学習において、日々の継続的な練習は必須である。 （学習時間：4時間）						
授業方法	演習 個別の実技指導とともに、簡単な伴奏づけができるためのコードネームの学習やリズム楽器でのアンサンブルも体験する。 日頃の練習の成果を発表する機会を設ける。						
評価基準と評価方法	毎回の授業における課題の到達度を平常点として評価する（50%） 中間・期末試験（楽典の確認テストを含む）についても併せて評価する（50%） 出席回数が2/3未満である場合、また試験を受けなかった場合は評価の対象としない。						
履修上の注意	授業で指摘された問題点を、次回までに解決するために、各自の積極的な取り組みと十分な練習が必須である。 「弾き歌い」については、必修の課題曲以外も、レパートリーを積極的に増やすこと。 「音楽表現」を履修していること。						
教科書	ピアノのグレード毎の課題曲、弾き歌いの課題曲は、授業開講日に発表する。 『最新・幼児の音楽教育』井口 太 編著 朝日出版社 ISBN978-4-255-15627-9						
参考書	「おんがくのしくみ」教育芸術社 ISBN978-4-87788-377-5 「バーナム 全調の練習」全音楽譜出版社						

科目区分	子ども発達学科専門教育科目						
科目名	音楽実技／音楽実技Ⅱ						
担当教員	奥村 正子・矢野 ゆかり					科目ナンバー	K72190
学期	前期／1st semester	曜日・時限	水曜3	配当学年	2	単位数	1.0
授業のテーマ	「音楽表現」で学んだピアノ奏法の技能、実践力をさらに向上させ、弾き歌い曲についても学ぶ。						
授業の概要	1クラスを2つのグループに分けて行う。 毎時のピアノの個人レッスンでは、各自のグレードごとに課題曲を学習し、「弾き歌い」にも取り組む。 集団の授業では、「簡単な伴奏付け」ができるように、コードネームについての理解を深める。						
到達目標	活動場面に相応しい楽曲を用いて、身体の動きを伴った音楽表現の援助が行える。 子どもの歌唱教材から12曲を弾き歌いすることができる。 伴奏譜に記載されている基礎的なコードネームについて説明することができる。						
授業計画	第1回 ガイダンス：授業の方法の説明、課題曲の紹介、クラス分け 第2回 グレード別ピアノ課題曲と弾き歌い課題曲の解説、及び個人レッスン1 第3回 コードネーム1（3声の基本コード）、及び個人レッスン2 第4回 コードネーム2（4声の基本コード）及び個人レッスン3 第5回 弾き歌い1（歌唱教材の選択）、及び個人レッスン4 第6回 弾き歌い2（音階の中にできる3声のコード）、及び個人レッスン5 第7回 弾き歌い3（音階の中にできる4声のコード）、及び個人レッスン6 第8回 弾き歌い4（子どもの音楽活動を指導するために）、及び個人レッスン7 第9回 中間試験と楽典の確認 第10回 簡単な伴奏付け1（主要三和音と副三和音）、及び個人レッスン8 第11回 簡単な伴奏付け2（楽譜の簡略化）、及び個人レッスン9 第12回 アンサンブル1（子どものリズム楽器の特徴）、及び個人レッスン10 第13回 アンサンブル2（リズム楽器の奏法）、及び個人レッスン11 第14回 即興的な伴奏、及び個人レッスン12 第15回 まとめと期末試験						
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	ピアノ学習において、日々の継続的な練習は必須である。 （学習時間：4時間）						
授業方法	演習 個別の実技指導とともに、簡単な伴奏づけができるためのコードネームの学習やリズム楽器でのアンサンブルも体験する。 日頃の練習の成果を発表する機会を設ける。						
評価基準と評価方法	毎回の授業における課題の到達度を平常点として評価する（50%） 中間・期末試験（楽典の確認テストを含む）についても併せて評価する（50%） 出席回数が2/3未満である場合、また試験を受けなかった場合は評価の対象としない。						
履修上の注意	授業で指摘された問題点を、次回までに解決するために、各自の積極的な取り組みと十分な練習が必須である。 「弾き歌い」については、必修の課題曲以外にも、レパートリーを積極的に増やすこと。 「音楽表現」を履修していること。						
教科書	ピアノのグレード毎の課題曲、弾き歌いの課題曲は、授業開講日に発表する。 『最新・幼児の音楽教育』井口 太 編著 朝日出版社 ISBN978-4-255-15627-9						
参考書	「おんがくのしくみ」教育芸術社 ISBN978-4-87788-377-5 「バーナム 全調の練習」全音楽譜出版社						

科目区分	子ども発達学科専門教育科目						
科目名	音楽実技／音楽実技Ⅱ						
担当教員	奥村 正子・横山 由美子					科目ナンバー	K72190
学期	前期／1st semester	曜日・時限	水曜2	配当学年	2	単位数	1.0
授業のテーマ	「音楽表現」で学んだピアノ奏法の技能、実践力をさらに向上させ、弾き歌い曲についても学ぶ。						
授業の概要	1クラスを2つのグループに分けて行う。 毎時のピアノの個人レッスンでは、各自のグレードごとに課題曲を学習し、「弾き歌い」にも取り組む。 集団の授業では、「簡単な伴奏付け」ができるように、コードネームについての理解を深める。						
到達目標	活動場面に相応しい楽曲を用いて、身体の動きを伴った音楽表現の援助が行える。 子どもの歌唱教材から12曲を弾き歌いすることができる。 伴奏譜に記載されている基礎的なコードネームについて説明することができる。						
授業計画	第1回 ガイダンス：授業の方法の説明、課題曲の紹介、クラス分け 第2回 グレード別ピアノ課題曲と弾き歌い課題曲の解説、及び個人レッスン1 第3回 コードネーム1（3声の基本コード）、及び個人レッスン2 第4回 コードネーム2（4声の基本コード）及び個人レッスン3 第5回 弾き歌い1（歌唱教材の選択）、及び個人レッスン4 第6回 弾き歌い2（音階の中にできる3声のコード）、及び個人レッスン5 第7回 弾き歌い3（音階の中にできる4声のコード）、及び個人レッスン6 第8回 弾き歌い4（子どもの音楽活動を指導するために）、及び個人レッスン7 第9回 中間試験と楽典の確認 第10回 簡単な伴奏付け1（主要三和音と副三和音）、及び個人レッスン8 第11回 簡単な伴奏付け2（楽譜の簡略化）、及び個人レッスン9 第12回 アンサンブル1（子どものリズム楽器の特徴）、及び個人レッスン10 第13回 アンサンブル2（リズム楽器の奏法）、及び個人レッスン11 第14回 即興的な伴奏、及び個人レッスン12 第15回 まとめと期末試験						
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	ピアノ学習において、日々の継続的な練習は必須である。 （学習時間：4時間）						
授業方法	演習 個別の実技指導とともに、簡単な伴奏づけができるためのコードネームの学習やリズム楽器でのアンサンブルも体験する。 日頃の練習の成果を発表する機会を設ける。						
評価基準と評価方法	毎回の授業における課題の到達度を平常点として評価する（50%） 中間・期末試験（楽典の確認テストを含む）についても併せて評価する（50%） 出席回数が2/3未満である場合、また試験を受けなかった場合は評価の対象としない。						
履修上の注意	授業で指摘された問題点を、次回までに解決するために、各自の積極的な取り組みと十分な練習が必須である。 「弾き歌い」については、必修の課題曲以外も、レパートリーを積極的に増やすこと。 「音楽表現」を履修していること。						
教科書	ピアノのグレード毎の課題曲、弾き歌いの課題曲は、授業開講日に発表する。 『最新・幼児の音楽教育』井口 太 編著 朝日出版社 ISBN978-4-255-15627-9						
参考書	「おんがくのしくみ」教育芸術社 ISBN978-4-87788-377-5 「バーナム 全調の練習」全音楽譜出版社						

科目区分	子ども発達学科専門教育科目						
科目名	音楽実技／音楽実技Ⅱ						
担当教員	奥村 正子・横山 由美子					科目ナンバー	K72190
学期	前期／1st semester	曜日・時限	水曜3	配当学年	2	単位数	1.0
授業のテーマ	「音楽表現」で学んだピアノ奏法の技能、実践力をさらに向上させ、弾き歌い曲についても学ぶ。						
授業の概要	1クラスを2つのグループに分けて行う。 毎時のピアノの個人レッスンでは、各自のグレードごとに課題曲を学習し、「弾き歌い」にも取り組む。 集団の授業では、「簡単な伴奏付け」ができるように、コードネームについての理解を深める。						
到達目標	活動場面に相応しい楽曲を用いて、身体の動きを伴った音楽表現の援助が行える。 子どもの歌唱教材から12曲を弾き歌いすることができる。 伴奏譜に記載されている基礎的なコードネームについて説明することができる。						
授業計画	第1回 ガイダンス：授業の方法の説明、課題曲の紹介、クラス分け 第2回 グレード別ピアノ課題曲と弾き歌い課題曲の解説、及び個人レッスン1 第3回 コードネーム1（3声の基本コード）、及び個人レッスン2 第4回 コードネーム2（4声の基本コード）及び個人レッスン3 第5回 弾き歌い1（歌唱教材の選択）、及び個人レッスン4 第6回 弾き歌い2（音階の中にできる3声のコード）、及び個人レッスン5 第7回 弾き歌い3（音階の中にできる4声のコード）、及び個人レッスン6 第8回 弾き歌い4（子どもの音楽活動を指導するために）、及び個人レッスン7 第9回 中間試験と楽典の確認 第10回 簡単な伴奏付け1（主要三和音と副三和音）、及び個人レッスン8 第11回 簡単な伴奏付け2（楽譜の簡略化）、及び個人レッスン9 第12回 アンサンブル1（子どものリズム楽器の特徴）、及び個人レッスン10 第13回 アンサンブル2（リズム楽器の奏法）、及び個人レッスン11 第14回 即興的な伴奏、及び個人レッスン12 第15回 まとめと期末試験						
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	ピアノ学習において、日々の継続的な練習は必須である。 （学習時間：4時間）						
授業方法	演習 個別の実技指導とともに、簡単な伴奏づけができるためのコードネームの学習やリズム楽器でのアンサンブルも体験する。 日頃の練習の成果を発表する機会を設ける。						
評価基準と評価方法	毎回の授業における課題の到達度を平常点として評価する（50%） 中間・期末試験（楽典の確認テストを含む）についても併せて評価する（50%） 出席回数が2/3未満である場合、また試験を受けなかった場合は評価の対象としない。						
履修上の注意	授業で指摘された問題点を、次回までに解決するために、各自の積極的な取り組みと十分な練習が必須である。 「弾き歌い」については、必修の課題曲以外も、レパートリーを積極的に増やすこと。 「音楽表現」を履修していること。						
教科書	ピアノのグレード毎の課題曲、弾き歌いの課題曲は、授業開講日に発表する。 『最新・幼児の音楽教育』井口 太 編著 朝日出版社 ISBN978-4-255-15627-9						
参考書	「おんがくのしくみ」教育芸術社 ISBN978-4-87788-377-5 「バーナム 全調の練習」全音楽譜出版社						

科目区分	子ども発達学科専門教育科目						
科目名	音楽実技Ⅰ						
担当教員	奥村 正子					科目ナンバー	K01060
学期	集中講義	曜日・時限	集中1	配当学年	1	単位数	1.0
授業のテーマ	音楽実技の基礎技能及び楽典の基礎知識の習得						
授業の概要	グレード別の課題曲の個別指導とともに、楽典、ソルフェージュを学ぶ。 楽典とピアノ曲の演奏について中間試験と期末試験を実施する。						
到達目標	半音と全音、音程、長音階と短音階について理解し、説明できるようになる。 ハ長調の簡単な課題曲をト長調とヘ長調に移調して弾くことができるようになる。 指定された簡単なピアノ伴奏による子どもの歌唱教材について、2曲弾き歌いできるようになる。 ピアノ曲は各自のグレードの課題を演奏できるようになる。						
授業計画	第1回 ガイダンス：授業の方法の説明及び課題曲について 第2回 ピアノの基礎技能1 姿勢、身体の柔軟性、脱力などについて 第3回 ピアノの基礎技能2 フレージング、レガート、スタッカートなどについて 第4回 グレード毎の課題曲の解説 及び個人レッスン 第5回 読譜のために 及び個人レッスン 第6回 拍子について 及び個人レッスン 第7回 リズムについて 及び個人レッスン 第8回 中間試験 及び個人レッスン 第9回 コードネームについて 及び個人レッスン 第10回 歌うこと1：発声法 及び個人レッスン 第11回 歌うこと2：子どもの歌唱教材 及び個人レッスン 第12回 調性1：長音階 及び個人レッスン 第13回 調性2：短音階 及び個人レッスン 第14回 楽典の確認テスト 及び個人レッスン 第15回 期末試験とまとめ						
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	日々のピアノ練習は必須です。授業で指摘された問題点は次回までに解決できるよう、積極的に取り組むこと。						
授業方法	演習						
評価基準と評価方法	毎回の授業における課題の到達度を平常点として評価する（40%） 楽典の確認テスト（30%）期末試験（30%） 出席回数が2/3未満である場合、また試験を受けなかった場合は評価の対象としない。						
履修上の注意	授業で指摘された問題点を、次回までに解決するため、各自の積極的な取り組みと十分な練習が必須である。						
教科書	「おんがくのしくみ」教育芸術社 ISBN978-4-87888-377-5 グレードごとの課題曲は、授業開始日に発表する。						
参考書							

科目区分	子ども発達学科専門教育科目						
科目名	音楽実技Ⅳ						
担当教員	奥村 正子					科目ナンバ	
学期	前期／1st semester	曜日・時限	火曜2	配当学年	4	単位数	1.0
授業のテーマ	実習及び採用試験に向けて、音楽表現力の向上とレパートリーの拡充を実現する。						
授業の概要	ピアノ演奏や歌唱、弾き歌いについて、これまで学んできたことを基に、「音楽表現活動のためのピアノ曲演奏」「発声」「ピアノと声の音量バランス」「歌う表情」など具体的に指導する。 採用試験対策として、学習指導要領や楽典についても指導する。						
到達目標	幼保の就職試験で課せられることの多い「弾き歌い」や「ピアノ曲」のレパートリーを増やす。 小学校希望の場合は共通歌唱教材24曲すべてについて、弾き歌いができる。 それぞれの曲でにおいて、曲の成り立ちや歌詞の意味を十分理解し、相応しい歌い方、発声ができる。 子どもの生活場面に即して、即興的な演奏ができる。						
授業計画	第1回 ガイダンス：授業の方法の説明 第2回 弾き歌いと子どもの歌唱教材 第3回 子どもの音楽表現活動を指導するためのピアノ曲 第4回 楽典の復習1：伴奏の簡略化 第5回 歌唱とピアノ伴奏1：明瞭な発音と発声法 第6回 歌唱とピアノ伴奏2：ピアノと声の音量バランス 第7回 学習指導要領1：各学年の共通教材 第8回 中間試験 第9回 楽典の復習2：移調の実習、およびピアノ曲演習 第10回 学習指導要領2：表現と鑑賞 第11回 指揮法1：基本の拍子、及びピアノ曲演習 第12回 連弾曲の解説 及びピアノ曲演習 第13回 楽器のアンサンブル 及びピアノ曲演習 第14回 指揮法2：弱起の曲、及び連弾の発表 第15回 まとめと期末試験						
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	各自の課題について、日々の練習を怠らないこと。 授業で取り上げた内容についての要点と重要箇所について復習すること。 (学習時間：4時間)						
授業方法	実習						
評価基準と評価方法	平常点70点（課題への取り組み、中間試験などを総合する） 期末試験 30点 10回以上の出席がない場合は評価の対象としない。						
履修上の注意	各自の目標に沿って個別指導も行います。それぞれが受験する都道府県や園の課題について、早期に情報を収集しておくこと。						
教科書	「音楽科指導法」と「保育内容（表現1）」を履修した際に使用したテキスト 課題曲の楽譜はそのつど配布する。						
参考書							

科目区分	子ども発達学科専門教育科目						
科目名	介護等体験						
担当教員	村岡 弘朗					科目ナンバー	K73610
学期	集中講義	曜日・時限	集中1	配当学年	3	単位数	2.0
授業のテーマ	介護体験実習を有意義なものにするための意識の変容と資質の向上を図る。						
授業の概要	介護等体験の意義、個人の尊厳や社会連帯の理念に対する理解を深めることをねらいとしている。社会福祉に関する知識と理解、障害者や高齢者の介護や援助、そして参加と連帯の精神を活かして実際の介護等体験を充実させる必要がある。そのためには、障害児や施設利用者への配慮、コミュニケーションの取り方、職員との接し方、施設での取り組みなどを理解していく。						
到達目標	介護等体験実習に向けて、それぞれの学校や施設及び利用者の現状や実態を把握し、実習上の心構えや態度などを養い、有意義な介護等体験実習をすることができる。						
授業計画	第1回：オリエンテーション：介護・介助等の意義と目的等についてノート整理（2時間） 第2回：特別支援学校の概要と実態についてノート整理（2時間） 第3回：特別支援学校での介護等体験に取り組む心構えをまとめる（2時間） 第4回：社会福祉施設での介護等体験に取り組む心構えをまとめる（2時間） 第5回：社会福祉施設の現状及び問題・課題 について考えをノートにまとめる（2時間） 第6回～第12回：学校および施設への訪問・介護等体験の記録と感想をまとめる（2時間×7回） 第13回：特別支援学校での介護等体験の振り返り、レポートにまとめる（2時間） 第14回：社会福祉施設での介護等体験の振り返り、レポートにまとめる（2時間） 第15回：体験修了者の体験発表を聞き、感想をまとめる（2時間）						
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	第1回：オリエンテーション：介護・介助等の意義と目的等 第2回：特別支援学校の概要と実態 第3回：特別支援学校での介護等体験に取り組む留意点と心構え 第4回：社会福祉施設での介護等体験に取り組む留意点と心構え 第5回：社会福祉施設の現状及び問題・課題 「ゲスト・スピーカー招聘予定」 第6回～第12回：学校および施設への訪問・介護等体験 第13回：特別支援学校での介護等体験の振り返り 第14回：社会福祉施設での介護等体験の振り返り 第15回：体験修了者の体験発表 ・授業前学習：2回生で受講した「子ども発達実習」での特別支援学校訪問のレポートを見直し、復習するとともに、訪問時のことを想起しておく。 ・授業後学習：事前・事後の授業及び現場で体験したことを整理しておき、教職現場に立った時に活用できるようにしておく。						
授業方法	・集中講義8回（事前指導5回、実習後の振り返りと発表3回） ・現場体験7回（特別支援学校2日間、社会福祉施設5日間）						
評価基準と評価方法	・平常点 40%（発表、ワークシート） ・体験レポート 40% ・体験先の評価の参考 20%						
履修上の注意	体験終了後、体験先から交付される「証明書」を提出しないと、実習を完了しても単位が与えられないことがあるので、注意すること。						
教科書	なし						
参考書	「教師を目指す人の介護等体験ハンドブック」（現代教師養成研究会編） 大修館書店						

科目区分	子ども発達学科専門教育科目							
科目名	家庭科研究							
担当教員	奥井 一幾					科目ナンバー	K73510	
学期	前期／1st semester		曜日・時限	金曜1	配当学年	3	単位数	2.0
授業のテーマ	家庭科における教育目標、育成を目指す資質・能力を理解し、学習指導要領に示された家庭科の学習内容について背景となる学問領域と関連させて理解を深める。							
授業の概要	まず、家庭科が教科として成立し、現在に至るまでの経緯を概観する。次に、現状の家庭生活における諸問題や、賢い消費者として身につけるべき基本的な知識と技能を確認する。その中で、家庭科が、小学校高学年の児童のいかなる面に働きかけ、いかなる力を伸ばすことを目指すのかを考える。 また、家庭科の各領域で用いられる教材を、実際に手で触れて、体験する学習活動を行うことで、よりよい教材研究のあり方を検討する。これらの活動を通じ、児童が「たのしみ・わかり・できる」指導を行うための基礎的知識を身につける。最終的には1時間分の学習指導案を作成する。							
到達目標	1) 学習指導要領における家庭科の目標及び主な内容並びに全体構造を理解している。【知識・理解】 2) ICT機器を活用した教材・題材開発ができる。【汎用的技能】 3) 家庭科の学習評価の考え方を理解している。【知識・理解】 4) 学びの成果を積極的に自らの生活改善に活用しようとしている。【態度・志向性】							
授業計画	第1回：オリエンテーション：家庭科を振り返る 第2回：家庭科の背景学問と教科変遷 第3回：世界の家庭科と様々な教材 第4回：学習指導要領の構成と教科目標 第5回：学習指導要領と学習指導案 第6回：本時の目標と観点別評価 第7回：中間試験と解説・質疑応答 第8回：生活自立と家庭科の学習内容 第9回：いのち・家族・保育と家庭科の学習内容 第10回：衣食住と家庭科の学習内容 第11回：消費生活・環境と家庭科の学習内容 第12回：アナログ教材と家庭科の学習内容 第13回：ICT教材と家庭科の学習内容 第14回：対話的・主体的で深い学びの実践例と評価 第15回：終講課題と解説・質疑応答							
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	各授業について、理解が不足している点を復習すること。(30分) 次時の授業に向けて、自分の身近な生活環境を振り返り、関連する事項を整理するなど、主体的な学習に臨むための準備を行うこと。(20分)							
授業方法	講義は主にパワーポイントにそって進めるので、配布するワークシートやノートに要点を整理すること。講義の最後には「本日の課題」と題したミニ記述課題を実施するので、各自、その時間の学びを総括すること。 さらに、視聴覚教材の学習や実際の家庭科教材を体験する学習活動も取り入れるので、積極的に参加することを期待する。							
評価基準と評価方法	平常点（授業時の小レポートなど）40%、中間試験30%、学習指導案の作成20%、生活改善レポート10%、履修カルテの評価は「意欲」「関心」「適性」の3観点とする。							
履修上の注意	・出席及び授業への参加度を重視する。 ・出席回数が開講日数の2/3に満たない者には、原則単位認定を行わない。 ・欠席する場合は、担当教員に連絡すること。 ・20分以上の遅刻は欠席とみなす。							
教科書	文部科学省『小学校学習指導要領解説（家庭編）』（2018年）							
参考書	中間美砂子編著『小学校家庭科の指導』建帛社 2015年							

科目区分	子ども発達学科専門教育科目						
科目名	家庭科指導法						
担当教員	奥井 一幾					科目ナンバー	K73400
学期	後期／2nd semester	曜日・時限	火曜5	配当学年	3	単位数	2.0
授業のテーマ	家庭科研究で学んだ知識を生かし、様々な学習指導理論を踏まえて具体的な授業場面を想定した授業設計を行い授業実践力を養う。						
授業の概要	小学校高学年という発達に応じた生活体験や生活状況に配慮した上で、児童の興味関心を引き出し、児童の内面での学習動機付けを喚起することが重要である。そのため、授業で用いる教材やテーマは、児童にとって具体的かつ、一般化しやすいものであるかどうか検討できるようにする。本講義では、児童が生活に関心を深め、自らの生活を変革する意識と実践力、およびICTを活用した効果的な学習への理解を身につけられるような指導方法を考える機会としたい。また、調理実習や被服実習に加え、主権者及び消費者教育の充実の観点から、スマートフォンを利用した契約の仕組みをテーマにした模擬授業の立案と実践などを取り入れる。						
到達目標	1) 子供の認識や思考、学力などの実態を視野に入れた授業設計の重要性を理解している。【知識・理解】 2) 家庭科の特性に応じた情報機器及び教材の効果的な活用法を理解し、授業設計に活用することができる。【知識・理解、汎用的技能】 3) 学習指導案に基づいた模擬授業実践ができる。【汎用的技能】 4) 模擬授業の実施とその振り返りを通して、授業改善の視点を身につけている。【汎用的技能、態度・志向性】						
授業計画	第1回：家庭科研究の振り返りと自己の課題 第2回：児童の生活実態と家庭科の指導 第3回：児童期の発達課題と家庭科の指導 第4回：年間指導計画と家庭科の指導 第5回：PDCAサイクルと家庭科の指導 第6回：ICT機器を活用した題材開発 第7回：対話的・主体的で深い学びと題材開発 第8回：学習指導案の作成と評価計画の作成 第9回：調理実習の指導計画の作成 第10回：調理実習（炊飯、みそ汁） 第11回：被服実習の指導計画の作成 第12回：被服実習（手縫いの小物づくり） 第13回：模擬授業実践と評価（家族、消費生活・環境領域） 第14回：模擬授業実践と評価（衣食住領域） 第15回：初等家庭科指導法の総括と終講課題（解説・質疑応答まで）						
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	各授業について、理解が不足している点を復習すること。(30分) 次時の授業に向けて、自分の身近な生活環境を振り返り、関連する事項を整理するなど、主体的な学習に臨むための準備を行うこと。(20分)						
授業方法	講義は主にパワーポイントにそって進めるので、配布するワークシートやノートに要点を整理すること。講義の最後には「本日の課題」と題したミニ記述課題を実施するので、各自、その時間の学びを総括すること。さらに、視聴覚教材の学習や実際の家庭科教材を体験する学習活動も取り入れるので、積極的に参加することを期待する。						
評価基準と評価方法	平常点（授業時の小レポートなど）30%、学習指導案の作成30%、模擬授業実践30%、授業改善レポート10%、履修カルテの評価は「意欲」「関心」「適性」の3観点とする。						
履修上の注意	・出席及び授業への参加度を重視する。 ・出席回数が開講日数の2/3に満たない者には、原則単位認定を行わない。 ・欠席する場合は、担当教員に連絡すること。 ・20分以上の遅刻は欠席とみなす。						
教科書	文部科学省『小学校学習指導要領解説（家庭編）』（2018年）						
参考書	中間美砂子編著『小学校家庭科の指導』建帛社 2015年						

科目区分	子ども発達学科専門教育科目						
科目名	家庭支援論／子ども心理Ⅱ（子育て支援）						
担当教員	山中 明世					科目ナンバー	K72170
学期	前期／1st semester	曜日・時限	火曜5	配当学年	2	単位数	2.0
授業のテーマ	子どもと家庭をとりまく環境と子育て支援の基本及びその実際を学ぶ						
授業の概要	子どもとその家庭をとりまく環境、親子関係、子どもの発達への理解を深め、それらにかかわる法制度や関係諸機関の役割、支援体制を整理し、そのうえで家庭や地域における子育て支援の視点とその実際について学ぶ						
到達目標	子どもの発達、親子関係、家庭をとりまく環境に対する関心をより具体的に意識することができる【態度・指向性】 子どもと家庭をとりまく環境と子育て支援について、他者にわかりやすく説明することができる【知識・理解】 子育て支援の実際について、具体的に述べるすることができる【汎用的技能】						
授業計画	第1回 家庭支援の対象と役割 第2回 子どもと家庭① 第3回 子どもと家庭② 第4回 保育者における家庭支援 第5回 家庭支援の方法としての保育相談支援 第6回 特別なニーズを有する家庭への支援 第7回 家庭への個別的な支援 第8回 在宅子育て家庭への支援 第9回 社会的養護を要する家庭への支援 第10回 家庭支援に関わる法・制度 第11回 子どもと家庭を支える機関や人 第12回 子どもと家庭を支援する事業 第13回 家庭支援や地域子育て支援の実際① 第14回 家庭支援や地域子育て支援の実際② 第15回 まとめとテスト						
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	授業前準備学習：次の授業テーマについて、授業中に紹介する参考文献やウェブサイトを用いて下調べをすること 授業後学習：授業で取り上げた内容について、要点を整理・確認する。						
授業方法	講義及びグループワーク						
評価基準と評価方法	平常点20点、小テスト（レポート）30点、テスト50点						
履修上の注意	授業回数の1/3以上欠席した人は、定期試験の受験資格を失うものとする						
教科書	プリントを配布する						
参考書	橋本真紀・山縣文治編「よくわかる家庭支援論」第2版 ミネルヴァ書房 2018.2.25（ISBN 978-4-623-07342-9）						

科目区分	子ども発達学科専門教育科目						
科目名	学校観察実習						
担当教員	村岡 弘朗					科目ナンバー	K72530
学期	集中講義	曜日・時限	集中1	配当学年	2	単位数	1.0
授業のテーマ	スクールサポーターとしての体験学習を通して、教職へのモチベーションを高める。						
授業の概要	小学校現場で週1回（半日）合計15回以上継続して、児童の学習支援や学校行事の手伝いを行う。ただし、ボランティア的活動とはいえ、児童に与える影響は大きいことから、十分な事前指導や説明、事後の集中講義を受ける必要がある。 実習では、教育の厳しさや喜びを体験でき、教職をめざす自覚も高められるだけでなく、人間理解を深め、自己啓発ができる機会も得られる。子どもにとってもスクールサポーターと接することで、自尊心や学ぶ意欲を高めることができるなどの得難い交流ができる。						
到達目標	小学校の教育現場の実態を知る。自己の適性を知り、教職への意欲を高める。サポート体験を通して、子ども理解に基づく支援について理解を深めることができる。						
授業計画	○実習前の講義等（4月～5月） 第1回 実習ガイダンス スクールサポーターに求められる資質・能力 第2回 小学校教育の現状と課題、主な活動内容 第3回 子ども理解と接し方、助言支援の方法 第4回 実習記録・活動報告書の書き方、挨拶・自己紹介の仕方 ○当該学校での観察実習 毎週1回（半日）以上、継続して実習を行う。活動状況報告書を書く。 スクールサポーター配置校を訪問し、学校での活動状況を把握し指導助言を行う。 ○実習後の抗議等（1月） 第5回 活動報告書のコメントから学ぶこと、実習記録の整理、レポートの作成 第6回 報告会① 経験したこと・学んだことをどう生かすか（グループ交流と全体発表内容の検討） 第7回 報告会② 経験したこと・学んだことをどう生かすか（全体交流） 第8回 講話のまとめ、教職を目指す学生に期待すること						
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	配置される学校の特色、教育目標や活動内容などについて情報を収集する。						
授業方法	講義と講話、学校での観察実習、グループ・全体討議						
評価基準と評価方法	事前指導・事後指導を受けること。週1回程度継続して学校観察実習を行い、実習記録や感想文、レポートを提出することを評価の条件とする。 ・実習回数は15回以上でなくてはならない。 ・当該学校の活動報告書、並びに事前・事後指導時におけるレポートの内容を加味して評価する。 実習校での学習意欲や態度、その活動報告書で40%、実習の記録と感想文で30%、事前・事後指導時のレポートで30%という割合で総合評価する。						
履修上の注意	本事業は神戸市教育委員会並びに当該学校と連携して行うものであり、事前指導や説明を受けたうえで、登録申し込みをする必要がある。教職を希望する者が対象である。 前期の実習希望者は原則として5月～9月末までに15回以上の実習を終えなくてはならない。 後期の実習希望者は原則として9月～1月末までに15回以上の実習を終えなくてはならない						
教科書	資料やプリントを配布する。						
参考書	講義時に紹介する。						

科目区分	子ども発達学科専門教育科目						
科目名	教育課程論						
担当教員	大下 卓司					科目ナンバー	K02110
学期	後期／2nd semester	曜日・時限	金曜1	配当学年	2	単位数	2.0
授業のテーマ	教育課程・カリキュラムに関する基礎的事項と考え方						
授業の概要	教育課程・カリキュラムに関する基礎的事項と考え方の習得を目指すために、次の3つを主たる目的として授業内容を構成する。 第1に、各学校段階（幼稚園・保育所なども含む）の教育課程・カリキュラムに関する基本的知識と特色を習得する。 第2に、授業実践や学力問題といったさまざまな視点からアプローチすることで、教育課程・カリキュラムと授業及び評価との関わりについて理解を深める。 第3に、教育課程・カリキュラム改革の歴史に関する知識を身につけることで、今日注目を浴びているカリキュラム開発の考え方の背景について理解を深め、これからの時代に求められる教育課程・カリキュラムのあり方について考察する。						
到達目標	・教育課程・カリキュラムに関する基本的知識を習得する ・教育課程・カリキュラムと授業・評価との関わりについて理解を深める ・教育課程・カリキュラム改革の歴史に関する知識を身につける ・今日注目を浴びているカリキュラム開発とカリキュラム評価の考え方の背景について理解を深める ・これからの時代に求められる教育課程・カリキュラムのあり方について考察を深める						
授業計画	第1回 オリエンテーション：授業概要の説明および、理想の時間割とは？ 第2回 「教育課程」と「カリキュラム」 第3回 幼稚園・保育所のカリキュラム：遊びと発達 第4回 小学校のカリキュラム 第5回 中学校・高校のカリキュラム 第6回 カリキュラムと授業づくり①：教科中心 第7回 カリキュラムと授業づくり②：活動（体験）中心 第8回 カリキュラムと評価①：学力問題を中心に 第9回 教育課程の歴史①：戦後民主主義と経験主義カリキュラム 第10回 教育課程の歴史②：戦後の経済的発展と系統主義・現代化カリキュラム 第11回 教育課程の歴史③：「荒れ」の時代と「ゆとり」 第12回 教育課程の歴史④：コンテンツベースからコンピテンシーベースへの転換 第13回 カリキュラムと評価②：パフォーマンス評価を中心に 第14回 アクティブラーニングと取り入れたカリキュラム開発とカリキュラムマネジメント 第15回 まとめと今後の課題・筆記試験						
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	授業前学習：授業中に指示した教科書の該当箇所や配布資料について予習をする（30分）。 授業後学習：授業で学んだことを整理し、ポイント等を教科書や参考書等で確認しながら復習し、理解を深める（60分）。						
授業方法	講義形態による授業に加えて、グループで課題に取り組むなどのアクティブラーニングを取り入れる。また、視聴覚教材を活用して、多様なアプローチによって授業内容に関する学生の理解を深めることを目指す。						
評価基準と評価方法	試験60%、授業毎の課題40% 履修カルテの評価は「意欲」「知識」「適性」の3観点で行なう。						
履修上の注意	1. これまで受けてきた教育経験（受けてきた授業などを中心に）を自分なりに振り返りながら受講すると、授業内容がより身近なものになって理解しやすいと思われる。 2. 5回以上欠席すると単位を認定しない。必修授業なので、単位を落とすと翌年度に再履修しなければならない。 3. 上記の授業計画は予定であり、受講人数や受講生の興味・関心、講義の進行具合などによって変更する可能性があることを了承されたい。						
教科書	田中耕治編著『よくわかる教育課程 第2版』ミネルヴァ書房、2018年。 ISBN-10: 4623082695 ISBN-13: 978-4623082698						
参考書	小学校学習指導要領、幼稚園教育要領						

科目区分	子ども発達学科専門教育科目						
科目名	教育経営論						
担当教員	根津 隆男					科目ナンバー	K02100
学期	後期／2nd semester	曜日・時限	金曜3	配当学年	2	単位数	2.0
授業のテーマ	教育法規や教育行政について学び、子どもたちが、共に学び、共に成長する学級・学校の在り方を明らかにする						
授業の概要	まず、学校教育の歴史を振り返り、1990年代以降の変化する社会状況の中で、現代の学校園教育は如何にあるべきか、教育基本法に立ち返り、学校教育の目的を再考し、教育行政や教育制度が現在の教育法規の基でどのようにになっているのかも学習する。その上で、学校教育が担う教育機能は、子どもたちに、知識・技能の習得をさせることだけでなく、心理社会的な発達を援助する側面を重視した学校経営論を構築していく。						
到達目標	現在の小学校や幼稚園・保育園の実態を把握して、子どもを中心に据えた学級・学校園経営を考える						
授業計画	第1回：オリエンテーション 第2回：学校教育の目的 第3回：教育法規 第4回：幼稚園教育要領と保育所保育指針 第5回：教育課程 第6回：子ども理解 第7回：保護者対応 第8回：教育行政と学校 第9回：教職員の組織 第10回：学校経営と心の教育 第11回：学習指導と生徒指導 第12回：育てる教育相談 第13回：海外の教育と比べて 第14回：地域の中の学校 第15回：今学校に求められるもの 定期試験 1990年代以降の子どもたち 教育基本法から探る公教育のねらいと学校に期待されるもの 学校教育法・学校教育法施行規則 子どもの指導の体系として カリキュラムの必要性和カリキュラムにないもの 子どもは自ら伸びようとする力を持っている 保護者は味方にも敵にもなる 教育行政と学校の関係について学ぶ…ゲストスピーカー招聘予定 リーダーシップとフォロアーシップ 鍵となるルールとリレーションをつくる 学習指導計画の大切さと生徒指導のプログラム化 集団の中で個を育てる 諸外国の幼児教育、初等教育との違いについて調べる 防災教育を核とした、地域へ発信する学校 学校教育の変わらぬ意義「人は 人によって 人になる」						
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	幼稚園や保育所に出かけ、子どもとふれあい、子どもや幼稚園・保育所の実態を把握しておく						
授業方法	講義・演習						
評価基準と評価方法	平常点（授業態度・レポート） 40% 演習点（興味関心度・表現力） 20% テスト点（子どもを中心に据えた経営論が、立てられているか） 40% 意欲（授業に関心を持ち、懸命に参加する） 知識（教育用語を十分理解している） 適性（教育に関する発言が的確にできる）						
履修上の注意	教職に対する理想と現実のギャップを縮める心構えで受講する 自分が目指している校種以外にも、興味・関心を持つ						
教科書							
参考書							

科目区分	子ども発達学科専門教育科目						
科目名	教育経営論						
担当教員	根津 隆男					科目ナンバ	K02100
学期	後期／2nd semester	曜日・時間	金曜5	配当学年	2	単位数	2.0
授業のテーマ	教育法規や教育行政について学び、子どもたちが、共に学び、共に成長する学級・学校の在り方を明らかにする						
授業の概要	まず、学校教育の歴史を振り返り、1990年代以降の変化する社会状況の中で、現代の学校園教育は如何にあるべきか、教育基本法に立ち返り、学校教育の目的を再考し、教育行政や教育制度が現在の教育法規の基でどのようなになっているのかも学習する。その上で、学校教育が担う教育機能は、子どもたちに、知識・技能の習得をさせることだけでなく、心理社会的な発達を援助する側面を重視した学校経営論を構築していく。						
到達目標	現在の小学校や幼稚園・保育園の実態を把握して、子どもを中心に据えた学級・学校園経営を考える						
授業計画	第1回：オリエンテーション 第2回：学校教育の目的 第3回：教育法規 第4回：幼稚園教育要領と保育所保育指針 第5回：教育課程 第6回：子ども理解 第7回：保護者対応 第8回：教育行政と学校 第9回：教職員の組織 第10回：学校経営と心の教育 第11回：学習指導と生徒指導 第12回：育てる教育相談 第13回：海外の教育と比べて 第14回：地域の中の学校 第15回：今学校に求められるもの 定期試験 1990年代以降の子どもたち 教育基本法から探る公教育のねらいと学校に期待されるもの 学校教育法・学校教育法施行規則 子どもの指導の体系として カリキュラムの必要性和カリキュラムにないもの 子どもは自ら伸びようとする力を持っている 保護者は味方にも敵にもなる 教育行政と学校の関係について学ぶ リーダーシップとフォロアーシップ 鍵となるルールとリレーションをつくる 学習指導計画の大切さと生徒指導のプログラム化 集団の中で個を育てる 諸外国の幼児教育、初等教育との違いについて調べる 防災教育を核とした、地域へ発信する学校 学校教育の変わらぬ意義「人は 人によって 人になる」						
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	幼稚園や保育所に出かけ、子どもとふれあい、子どもや幼稚園・保育所の実態を知る						
授業方法	講義・演習、グループワーク						
評価基準と評価方法	平常点（授業態度・レポート） 40% 演習点（興味関心度・表現力） 20% テスト点（子どもを中心に据えた経営論が、立てられているか） 40% 意欲（授業に関心を持ち、懸命に参加する） 知識（教育用語を十分理解している） 適性（教育に関する発言が的確にできる）						
履修上の注意	教職に対する理想と現実のギャップを縮める心構えで受講する 自分が目指している校種以外にも、興味・関心を持つ						
教科書							
参考書							

科目区分	子ども発達学科専門教育科目						
科目名	教育原理						
担当教員	松岡 靖					科目ナンバー	K01030
学期	後期／2nd semester	曜日・時限	月曜1	配当学年	1	単位数	2.0
授業のテーマ	教育の理念・歴史・思想を踏まえて現代日本の教育問題を考察する。						
授業の概要	本科目の内容と目標は次の三つに整理できる。第一に学生が教育の基本概念を修得し、教育を成り立たせる諸要因とその相互関係を理解することである。第二に学生が教育史の基礎的知識を修得し、それと多様な教育の理念との関わりを理解し、乳幼児教育から小学校・中学校・高校までの歴史的変遷を理解することである。第三に学生が教育に関する多様な思想と理念について修得し、それらと実際の教育や各学校教育段階との関わりを理解することである。具体的なキーワードは、学校系統図、近代公教育制度、学校化、業績原理、ジェンダー、臨床教育学、教育評価などである。						
到達目標	教育の基本的概念は何か、また教育の理念にはどのようなものがあり、教育の歴史や思想において、それらがどのように現れてきたかについて学生が学び、これまでの教育・学校の営みがどのように捉えられ、変遷してきたのかを学生が理解する。						
授業計画	第1回：オリエンテーション：教育の理念・歴史・思想 第2回：学校教育の理念(1)：人間の発達と教育段階の関連 第3回：学校教育の理念(2)：小学校就学と高校進学への歴史 第4回：学校教育の理念(3)：目的・内容・方法の多様性 第5回：学校化の歴史(1)：帰属原理から業績原理への移行 第6回：学校化の歴史(2)：教育にみるジェンダーの変遷 第7回：学校化の歴史(3)：三育主義から生涯学習の要請へ 第8回：臨床教育学の思想(1)：カウンセリングマインド 第9回：臨床教育学の思想(2)：子ども・学校・家庭の関係 第10回：教育評価にみる理念(1)：相対評価と絶対評価 第11回：教育評価にみる理念(2)：診断・形成・総括 第12回：教育の定義(1)：伝統的稽古から近代的教育へ 第13回：教育の定義(2)：世界と日本にみる教育思想史 第14回：成果の活用(1)：教育の理念・歴史・思想の発表 第15回：成果の活用(2)：授業のまとめと授業評価						
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	1. 参加者が授業内容を自分の体験に即して吟味する（学習時間：5時間）。 2. 時事問題に隠された教育原理上の課題を発見する（学習時間：5時間）。 3. 14回目のレポートを授業内容を踏まえて作成する（学習時間：10時間）。						
授業方法	1. 前半では教員が配付した資料の説明を中心に進める。 2. 中盤では視聴覚教材を活用して学生同士で議論する。 3. 後半では発表などのアクティブ・ラーニングを行う。						
評価基準と評価方法	1. 平常点40点（毎回のコメントカード、レポート発表など） 2. レポート60点（授業を踏まえて現代日本の教育問題を論じる）						
履修上の注意	1. 授業が理解できなければ遠慮せずに積極的に質問すること。 2. 私語等で受講者に迷惑をかけるならようなら欠席すること。 3. 原則として2/3以上の出席に満たなければ受験資格を失う。						
教科書	中内敏夫『教育学第一歩』岩波書店、ISBN4-00-000416-6						
参考書	必要に応じて配付と指示を行う。						

科目区分	子ども発達学科専門教育科目						
科目名	教育実習Ⅰ						
担当教員	井上 知子					科目ナンバー	K73630
学期	集中講義	曜日・時間	集中1	配当学年	3	単位数	4.0
授業のテーマ	効果的な教育実習を行う。						
授業の概要	幼稚園教育実習で直接幼児とかかわり、実習園の教員の指導を通して、幼児理解を深めながら教育の実際を体験する。 実習期間中は教育内容等を記録し、実習園の担当教員の指導を受ける。						
到達目標	幼稚園教育の現場で教育実習を体験することにより、幼稚園教諭としての仕事内容や役割、保育の楽しさを 知ることができる。 これまで学んできた教科の知識や技能を自分の立てた計画に沿ってに実践の場で使ってみる ことができる。						
授業計画	授業のほとんどは、実習園で行われる。授業内容は下記の通りである。 ・教育実習園訪問（実習園へのあいさつ、実習園でのオリエンテーション、担当クラス・教材等の確認） ・教育実習（見学、観察、参加実習、実習記録の記入等） ・責任実習（部分実習、研究実習、半日実習、全日実習等） ・責任実習の反省会（自己評価、実習園長・指導教員からの指導助言等） ・事後指導（自己評価、実習記録の整理と提出）						
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	授業前学習：目標に迫るための模擬保育や教材研究などを行う。 必要なピアノや歌の練習などを一回30分程度、週3回は行う。 授業後学習：課題解決に向けて、ボランティア等で積極的に保育現場とかかわる。						
授業方法	実習園における教育実習						
評価基準と評価方法	実習園における勤務状況、実習の成績評価等 50% 教育実習の記録等の評価 50% を総合して評価する。						
履修上の注意	教育実習期間中は、遅刻・欠席をしないことはもとより、実習園の指導教員の指示に従い、社会人としての責任・熱意・誠意をもち、意欲的な態度で実習に臨むこと。						
教科書	「実習の手引き」神戸松蔭女子学院大学 人間科学部 子ども発達学科 教育実習指導で配布したプリント						
参考書							

科目区分	子ども発達学科専門教育科目						
科目名	教育実習Ⅰ						
担当教員	根津 隆男					科目ナンバー	K73630
学期	集中講義	曜日・時限	集中1	配当学年	3～4	単位数	4.0
授業のテーマ	効果的な教育実習を行う						
授業の概要	小学校教育実習で、直接、児童と触れ合うことを通して、子ども理解を深め、実習校園の教師の指導の下で、教育の実践を体験する。実習期間中は教育内容等を記録して、実習校園の担当教員の指導を受ける。						
到達目標	幼稚園・小学校教育の現場で、教育実習を体験することにより、これまで学習してきた教科の知識・技能を、現実の小学校教諭としての仕事内容や役割など、実践を通して学び、児童理解をさらに深め、小学校教員としての教育観をもつ。						
授業計画	授業のほとんどは、実習校園で行われる。授業内容は、下記のとおりである。 ・教育実習校園訪問（実習校園へのあいさつ・実習校園でのオリエンテーション・担当クラス、教材等の確認） ・教育実習（見学、観察、参加実習、実習記録の記入等） ・研究授業（研究保育・代表授業等） ・研究事業の反省会（研究授業後の自己評価、実習校園長、指導教員等からの指導助言） ・事後指導（自己評価、実習記録の整理と提出）						
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	目標に迫るための模擬授業（保育）をする。 課題解決に向けて、学校園現場に積極的に関わる。						
授業方法	実習校園における実習						
評価基準と評価方法	実習校園における勤務状況、実習の成績評価 50% 教育実習の記録等の評価 50% を総合して評価する						
履修上の注意	教育実習期間中は、遅刻・欠席をしないことはもとより、実習校園の指導教員の指示に従い、責任・熱意・誠意を持って、意欲的な態度で実習に臨むこと。 オフィスアワー：金曜日14：50～16：20（2号館2階B室） 教員の連絡先： nedu[at]shoin.ac.jp ※[at]を@に置き換える。						
教科書							
参考書							

科目区分	子ども発達学科専門教育科目						
科目名	教育実習指導						
担当教員	井上 知子					科目ナンバー	K73620
学期	集中講義	曜日・時限	集中1	配当学年	3～4	単位数	1.0
授業のテーマ	幼稚園現場の実態把握と実践を通した幼児理解を的確に行える教育実習を目指す						
授業の概要	教育実習は、教職を目指す学生が、これまで学んできた専門的な理論や技能、教職科目・一般教育科目の理論や知識を教育現場で実践に結び付ける貴重な体験の場である。 教育実習の意義と目的を認識するとともに、教育者としての自覚と責任感をもち、教育実習に対する意欲と心構えをもって実習に必要な保育技術や指導計画作成の方法を習得する。 また、模擬保育をしたり見たりすることで、心に余裕をもって実践にあたる準備をする。						
到達目標	模擬保育を経験して、活動や教材に対する理解を深める。 教員として、また社会人としての態度などを身に付け、安定して教育実習に臨めるようにする。 教育実習に対する興味・関心・意欲を高める。						
授業計画	(事前指導) 第1回 オリエンテーション						

科目区分	子ども発達学科専門教育科目																																																			
科目名	教育実習指導																																																			
担当教員	井上 知子					科目ナンバー	K73620																																													
学期	集中講義	曜日・時限	集中1	配当学年	3～4	単位数	1.0																																													
授業のテーマ	幼稚園現場の実態把握と実践を通した幼児理解を的確に行える教育実習を目指す																																																			
授業の概要	教育実習は、教職を目指す学生が、これまで学んできた専門的な理論や技能、教職科目・一般教育科目の理論や知識を教育現場で実践に結び付ける貴重な体験の場である。 教育実習の意義と目的を認識するとともに、教育者としての自覚と責任感を持ち、教育実習に対する意欲と心構えをもって実習に必要な保育技術や指導計画作成の方法を習得する。 また、模擬保育をしたり見たりすることで、心に余裕をもって実践にあたる準備をする。																																																			
到達目標	模擬保育を経験して、活動や教材に対する理解を深める。 教員として、また社会人としての態度などを身に付け、安定して教育実習に臨めるようにする。 教育実習に対する興味・関心・意欲を高める。																																																			
授業計画	(事前指導) <table><tr><td>第1回</td><td>オリエンテーション</td><td>: 教育実習の概要 幼稚園のデイリープログラム</td></tr><tr><td>第2回</td><td>教育実習の意義と心得</td><td>: 幼稚園教育の基礎・基本 実習生としての自覚と心得</td></tr><tr><td>第3回</td><td>教育実習の心構え</td><td>: 教材研究と準備 保育指導案の書き方</td></tr><tr><td>第4回</td><td>保育指導(1)</td><td>: 模擬保育とディスカッション 保育指導案の修正</td></tr><tr><td>第5回</td><td>保育指導(2)</td><td>: 絵本の読み聞かせ (ゲストスピーカー招聘)</td></tr><tr><td>第6回</td><td>保育指導(3)</td><td>: 模擬保育とディスカッション 実習記録の書き方</td></tr><tr><td>第7回</td><td>保育指導(4)</td><td>: 模擬保育とディスカッション エピソード記録について</td></tr><tr><td>第8回</td><td>保育指導(5)</td><td>: 模擬保育とディスカッション 礼状の書き方</td></tr><tr><td>第9回</td><td>保育指導(6)</td><td>: 模擬保育とディスカッション 個別の対応と集団の指導</td></tr><tr><td>第10回</td><td>保育指導(7)</td><td>: 模擬保育とディスカッション 幼稚園における環境整備</td></tr></table> (事後指導) <table><tr><td>第11回</td><td>実習の振り返り(1)</td><td>: チェックリストに基づいての自己評価</td></tr><tr><td>第12回</td><td>実習の振り返り(2)</td><td>: 学習内容の整理 教育観を確認する</td></tr><tr><td>第13回</td><td>実習の振り返り(3)</td><td>: 今後の課題と課題解決に向けて</td></tr><tr><td>第14回</td><td>長期指導計画と指導案</td><td>: 「ねらい」と「内容」</td></tr><tr><td>第15回</td><td>保育指導(8)</td><td>: 模擬保育とディスカッション 遊びと学び</td></tr></table>							第1回	オリエンテーション	: 教育実習の概要 幼稚園のデイリープログラム	第2回	教育実習の意義と心得	: 幼稚園教育の基礎・基本 実習生としての自覚と心得	第3回	教育実習の心構え	: 教材研究と準備 保育指導案の書き方	第4回	保育指導(1)	: 模擬保育とディスカッション 保育指導案の修正	第5回	保育指導(2)	: 絵本の読み聞かせ (ゲストスピーカー招聘)	第6回	保育指導(3)	: 模擬保育とディスカッション 実習記録の書き方	第7回	保育指導(4)	: 模擬保育とディスカッション エピソード記録について	第8回	保育指導(5)	: 模擬保育とディスカッション 礼状の書き方	第9回	保育指導(6)	: 模擬保育とディスカッション 個別の対応と集団の指導	第10回	保育指導(7)	: 模擬保育とディスカッション 幼稚園における環境整備	第11回	実習の振り返り(1)	: チェックリストに基づいての自己評価	第12回	実習の振り返り(2)	: 学習内容の整理 教育観を確認する	第13回	実習の振り返り(3)	: 今後の課題と課題解決に向けて	第14回	長期指導計画と指導案	: 「ねらい」と「内容」	第15回	保育指導(8)	: 模擬保育とディスカッション 遊びと学び
第1回	オリエンテーション	: 教育実習の概要 幼稚園のデイリープログラム																																																		
第2回	教育実習の意義と心得	: 幼稚園教育の基礎・基本 実習生としての自覚と心得																																																		
第3回	教育実習の心構え	: 教材研究と準備 保育指導案の書き方																																																		
第4回	保育指導(1)	: 模擬保育とディスカッション 保育指導案の修正																																																		
第5回	保育指導(2)	: 絵本の読み聞かせ (ゲストスピーカー招聘)																																																		
第6回	保育指導(3)	: 模擬保育とディスカッション 実習記録の書き方																																																		
第7回	保育指導(4)	: 模擬保育とディスカッション エピソード記録について																																																		
第8回	保育指導(5)	: 模擬保育とディスカッション 礼状の書き方																																																		
第9回	保育指導(6)	: 模擬保育とディスカッション 個別の対応と集団の指導																																																		
第10回	保育指導(7)	: 模擬保育とディスカッション 幼稚園における環境整備																																																		
第11回	実習の振り返り(1)	: チェックリストに基づいての自己評価																																																		
第12回	実習の振り返り(2)	: 学習内容の整理 教育観を確認する																																																		
第13回	実習の振り返り(3)	: 今後の課題と課題解決に向けて																																																		
第14回	長期指導計画と指導案	: 「ねらい」と「内容」																																																		
第15回	保育指導(8)	: 模擬保育とディスカッション 遊びと学び																																																		
授業外における学習(準備学習の内容・時間)	・ 模擬保育指導案の作成に当たっては、グループ内で実際にやってみて、修正を重ねる。また、教材研究や必要であれば、ピアノや歌の練習をする。(週に1時間程度) ・ ボランティア等、幼稚園現場とのかかわりを積極的にもつ。																																																			
授業方法	講義 演習																																																			
評価基準と評価方法	授業態度(興味・関心 等) 50% 提出物 (実習に向けて、模擬保育指導案、実習報告 等) 50%を総合して評価する。																																																			
履修上の注意	自分なりの目標をもち、積極的な態度で授業に臨むこと。 第1回から第10回までが事前指導、第11回から第15回までが実習終了後の事後指導です。 10回以上の出席がないと、受講資格を失います。																																																			
教科書	「教育実習の手引き」(神戸松蔭女子学院大学作成版)																																																			
参考書	幼稚園教育要領解説 文部科学省																																																			

科目区分	子ども発達学科専門教育科目						
科目名	教育実習指導						
担当教員	根津 隆男					科目ナンバー	K73620
学期	集中講義	曜日・時限	集中1	配当学年	3～4	単位数	1.0
授業のテーマ	「学校園現場の実態把握を的確にする教育実習を目指す」						
授業の概要	教育実習は、教職を目指す学生がこれまでに学んできた専門的な理論や技術、教職科目・一般教育科目の理論や知識を、教育現場で実践に結び付ける貴重な体験の場である。 まず教育実習の意義と目的を認識し、教育者としての使命感と自覚を強く持ち、教育実習に対する心構えをしっかりと持つ。また、学校園・子どもたちの実態を把握し、理想と現実をより近いものにしていく。						
到達目標	模擬実習を経験して、子供・教職員へのあいさつの仕方や子供が主体となる授業・保育づくりなどを学び、教育実習に対する興味・関心、意欲を高める。						
授業計画	第1回：オリエンテーション：教育実習の概要 第2回：教育実習の意地：教育実習の目的 第3回：子どもたち・学校園の実態：最近の学校園、子どもたちの実態把握 第4回：教育実習に向けての心構え：記録の書き方 第5回：学校園の生活：1日の生活時程の把握 第6回：学習指導①：授業の基本・教材研究と指導計画の作成 第7回：学習指導②：学習指導案の作成・模擬授業 第8回：危機管理：生徒指導・保護者対応 第9回：模擬実習①：模擬授業・生徒指導とロールプレイ 第10回：模擬実習②：模擬授業・学習展開の実際 第11回：教育観①：友達の感想を知り、自己の教育観を再考する 第12回：教育観②：グループで実習後の教育観を交換し、全体で発表する 第13回：教育観③：今後の課題 第14回：教育観④：震災から学ぶ防災教育 第15回：まとめ：子どもの前に立って						
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	ボランティアなど、学校園現場とのかかわりを積極的にもつ						
授業方法	講義・演習						
評価基準と評価方法	授業態度（興味・関心度等） 50％ 提出物（実習計画・実習反省・指導案等） 50％						
履修上の注意	目標をしっかりと持ち、積極的な態度で授業に臨むこと						
教科書	教育実習の手引き（神戸松蔭女子学院大学作成）						
参考書	小学校学習指導要領解説総則編（平成29年版）						

科目区分	子ども発達学科専門教育科目						
科目名	教育相談						
担当教員	根津 隆男					科目ナンバー	K03130
学期	前期／1st semester	曜日・時限	金曜4	配当学年	3	単位数	2.0
授業のテーマ	学級経営・生徒指導上の問題対応できる予防的開発的教育相談						
授業の概要	学校教育現場においては、児童個人に対して、治療的教育相談だけでなく、学級経営上・生徒指導上の対応できる予防的開発的教育相談の必要性が高まっている。本講義では、教師として身につけたい教育相談の知識と手法について知り、事例研究やグループワーク・ロールプレイを通して児童支援の実践を理解していく。						
到達目標	個々の児童の治療的な教育相談だけでなく、学級経営・生徒指導上の問題について理解し、集団を対象として予防的開発的教育相談について知識の理解と手法の獲得を通して、教師としての児童理解の姿勢とスキルを身につけると同時に、生徒指導との関連で考えることが出来るようにする。						
授業計画	第1回：オリエンテーション 構成的グループエンカウンターを通して、対人関係上の問題について理解を図る 第2回：現代の子どもの問題 教師に必要な学校教育相談（「生徒指導提要」から） 第3回：ピアヘルピングと青年期の課題 第4回：教育相談の理論と方法（1）精神分析療法、来談者中心療法、 第5回：教育相談の理論と方法（2）認知行動療法、論理療法 第6回：教育相談の理論と方法（3）折衷主義 コーヒーカップ方式、ブリーフセラピー 第7回：教育相談の個別支援（1）不登校といじめ 第8回：教育相談の個別支援（2）保護者対応と問題への対処法 第9回：仲間同士の教育相談…ピアヘルピングとカウンセリングの違い 第10回：カウンセリングスキル（1）言語的技法について 第11回：カウンセリングスキル（2）非言語的技法と対話上の諸問題への対処法 第12回：予防的開発的教育相談（1）構成的グループエンカウンター 第13回：予防的開発的教育相談（2）社会的スキル教育 第14回：予防的開発的教育相談（3）アサーショントレーニングとアンガーマネジメント 第15回：まとめとテスト						
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	事例研究やグループワーク・ロールプレイを中心に授業を進めるので、積極的な参加する姿勢を望む						
授業方法	講義と事例研究やグループワーク・ロールプレイなど参加型のプログラムを実施していく						
評価基準と評価方法	平常点 30% レポート30% 試験 40%						
履修上の注意	教科書は2回目までに用意しておくこと 積極的にグループワークに参加する姿勢と静かに傾聴する姿勢のメリハリある態度をつけること						
教科書	ピアヘルパーハンドブック 図書文化 ピアヘルパーワークブック 図書文化						
参考書	文部科学省（2010）「生徒指導提要」教育図書 國分康孝監修（1999）「構成的グループエンカウンターで子どもが変わるショートエクササイズ集」図書文化 國分康孝監修 小林正幸・相川充編（1999）「ソーシャルスキル教育で子どもが変わる」図書文化 中村豊（2013）「子どもの基礎的人間力養成のための積極的生徒指導 児童生徒における社会性の育ちそびれの考察」学事出版						

科目区分	子ども発達学科専門教育科目							
科目名	教育の方法と技術							
担当教員	大下 卓司					科目ナンバ－	K01050	
学期	前期／1st semester		曜日・時限	金曜4	配当学年	1	単位数	2.0
授業のテーマ	教育の方法と指導技術を学び、ICTも用いながら授業として実践する。							
授業の概要	これからの社会を担う子供たちに求められる資質・能力を育成するために必要な、教育・保育の方法、技術、情報機器および教材の活用、学習評価の理論に関する基礎的な知識・技能を身につける科目である。資質・能力を育成するために主体的・対話的で深い学びの実現等をいかに授業や保育において実現するか、その指導技術を理解し、身につける。具体的には、学級、子ども、教員、教室、教材など子どもの学びを構成する基礎的な要件を理解するとともに、幼児教育・初等教育・中等教育における発達に応じた基礎的な学習指導理論を踏まえて、目標・内容、教材・教具、授業・保育展開、学習形態、評価規準等の視点を含めた学習指導案を作成する。これをマイクロティーチングとして実践することを通して、話法や板書はもちろん、ICTの効果的な利用、評価の役割について体験的に学ぶ。							
到達目標	以下3点を目標とする。これからの社会を担う子供たちに求められる資質・能力を育成するために必要な教育の方法を理解する。そのために、教育の目的に適した指導技術を理解し身に付ける。また、情報機器（ICT）を活用した効果的な授業や適切な教材の作成・活用に関する基礎的な能力を身に付ける。							
授業計画	第1回 オリエンテーション：授業とは何か 第2回 学習指導案・保育指導案の検討：授業保育の基本要素（教室・板書・指導言）を学ぶ。 第3回 教材教具を工夫した授業実践・保育：授業ビデオの視聴 第4回 アクティブ・ラーニングとは何か：ディベートの実践を見る 第5回 アクティブ・ラーニングの視点と学び：多様な教授・学習形態と学び 第6回 授業・保育づくりと実践に情報機器を活用する 第7回 ICTを活用する学習・保育：佐賀県高雄市の反転学習とICTの活用 第8回 評価とは何か：基礎的な理論と育みたい資質・能力を見通した指導 第9回 学習指導案・保育指導案の作成①：教材観・子ども観・指導観・評価基準 第10回 学習指導案を作成する②：単元計画・保育計画を立てる 第11回 学習指導案を作成する③：保育・学習展開と評価の視点 第12回 授業・保育としての実践①：マイクロティーチング（クラスの半数） 第13回 授業・保育としての実践②：マイクロティーチング（クラスの残り半数） 第14回 授業を振り返り、授業評価をする：PDCAサイクルとは何か？ 第15回 講義全体の振り返りと授業改善に取り組む							
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	授業前に前の授業で配布した資料の該当箇所を読み、理解できなかったことをメモしておくこと。授業で配布した資料や自分の記録を読み返し、理解を深めること（30分）。 学習指導案作成による模擬授業の計画・実施を通じて、体験的に学習を深めること。学習指導案はPCで作成し、保育や教育の実践では、授業外での学習や準備が必要となる（60分）。							
授業方法	講義や視聴覚教材を通じて、授業の方法について理解を深めた後、履修者数に応じて、グループで模擬授業を行うことを主体的な学びを促す。							
評価基準と評価方法	平常点10％（授業時の小レポートなど）、指導案の作成20％、模擬授業の実施40％、授業改善レポート30％。							
履修上の注意	1. 積極的に授業に参加し、優れた教師になることをめざすこと 2. 上記の授業計画は予定であり、受講人数や受講生の興味・関心、講義の進行具合などによって変更する可能性があることを了承されたい。 3. 2／3以上の出席を単位認定の基準とする。							
教科書	文部科学省 幼稚園教育要領（平成29年3月） 厚生労働省 保育所保育指針（平成29年3月） 内閣府 幼保連携型認定こども園 教育・保育要領（平成29年3月） 文部科学省 小学校学習指導要領（平成29年3月） 文部科学省 中学校学習指導要領（平成29年3月）							
参考書	田中耕治『よくわかる授業』ミネルヴァ書房、2017年。 田中耕治他『新しい時代の教育方法』有斐閣アルマ、2012年。							

科目区分	子ども発達学科専門教育科目						
科目名	教育発達演習A						
担当教員	内田 祐貴					科目ナンバー	K0312A
学期	前期／1st semester	曜日・時限	火曜3	配当学年	3	単位数	2.0
授業のテーマ	小学校における理科教育について、知識技術を深め、理科の得意な教員を目指す。						
授業の概要	理科指導法をうけ、さらに各学年の理科で扱うそれぞれの内容に対して、具体的な授業案や教材を作成できるための準備として、より深く、理科教育法について学ぶ。						
到達目標	(1) 小学校理科の授業、特に実験授業の指導をできる【汎用的技能】 (2) 教材作成のための、資料準備や資料活用をできる【汎用的技能】 (3) 将来小学校教員として、理科が得意だとアピールできる【態度・志向性】						
授業計画	第01回 オリエンテーション 第02回 生物の育成観察について 第03回 3年生「物と重さ」学習内容と実験 第04回 3年生「物と重さ」模擬授業 第05回 3年生「風やゴムの働き」学習内容と実験 第06回 3年生「風やゴムの働き」模擬授業 第07回 博物館、科学館教育について 第08回 3年生「磁石の性質」学習内容と実験 第09回 3年生「磁石の性質」模擬授業 第10回 3年生「電気の通り道」学習内容と実験 第11回 3年生「電気の通り道」模擬授業 第12回 4年生「空気と水の性質」学習内容と実験 第13回 4年生「空気と水の性質」模擬授業 第14回 4年生「金属、水、空気と温度」学習内容と実験 第15回 4年生「金属、水、空気と温度」模擬授業 デジタル教材の使い方や、アクティブラーニング、先行事例研究などもこれらの具体的な単元を使いながら行っていきます。						
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	授業前準備学習：各回で取り扱う単元を教科書などで予習し、ポイントになる点についてまとめておく（学習時間2時間） 授業後学習：松蔭manabaコースコンテンツを利用して、授業で扱った内容の確認、復習、改善方法を考察する（学習時間2時間）						
授業方法	講義と演習：各単元のポイントについて講義後、ペアやグループで実験を行い、模擬授業を行う。模擬授業終了後、ディスカッションを行い振り返りをする。ICT機器を利用し、学生教員間、学生間で成果や情報の共有を行う。						
評価基準と評価方法	提出物：60% 指導案やリアクションペーパーなど授業での成果物と、授業後学習での改善した指導案の内容で評価する 到達目標(1)(2)に関する到達度の確認 授業態度：40% 模擬授業への取り組み、ディスカッションでの発言などを評価する 到達目標(1)(3)に関する到達度の確認						
履修上の注意	2年時に履修した理科研究、理科指導法の内容を確認復習しておくこと。						
教科書	なし						
参考書							

科目区分	子ども発達学科専門教育科目						
科目名	教育発達演習A						
担当教員	大下 卓司					科目ナンバー	K0312A
学期	前期／1st semester	曜日・時限	水曜4	配当学年	3	単位数	2.0
授業のテーマ	関心を持った教育実践や教育問題に沿って各自が内容を掘り下げる						
授業の概要	学生が、各自の興味・関心に応じて文献（教育方法学の理論書、実践記録など）を選び、毎回の授業で交代で発表し、発表内容について学生全員で議論する。教員も議論に加わり、補足説明や論点の提示を適宜行う。授業の進め方は、「教育発達演習A」の延長ではあるが、4年次の「卒業研究」に向けての準備とすべく、追求したい問題の立て方、そのための文献の選び方、そこからの論点の取り出し方などについて指導する。また、問いと追求と答えという三要素を備えたレポートも作成できることをめざす。						
到達目標	・4年次の「卒業研究」に向けての準備とすべく、追求したい問題の立て方、そのための文献の選び方、そこからの論点の取り出し方などを身につける ・問いと追求と答えという三要素を備えたレポートも作成できるようになる。						
授業計画	第1回 レポート返却およびコメント 第2回 テキストの内容と使用方法に関する説明、より伝わるレポートの書き方の指導 第3回 「教育発達演習A」のレポートの調査を深め、報告を行い、相互に検討する 第4回 「教育発達演習A」のレポートの調査を深め、報告を行い、相互に検討する 第5回 「教育発達演習A」のレポートの調査を深め、報告を行い、相互に検討する 第6回 テキスト発表とディスカッション 第7回 テキスト発表とディスカッション 第8回 テキスト発表とディスカッション 第9回 テキスト発表とディスカッション 第10回 テキスト発表のまとめ 第11回 自由テーマによる発表とディスカッション 第12回 自由テーマによる発表とディスカッション 第13回 自由テーマによる発表とディスカッション 第14回 自由テーマによる発表とディスカッション 第15回 総括討論						
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	・授業で出された課題について予習をする（45分）発表を行う回では自分のテーマについて事前に調べる（75分）。 ・授業での議論について整理するとともに、理解できなかったところを調べる（45分）。発表を行った際には、議論を踏まえて復習をする（15分）。						
授業方法	レジュメの作成・発表と全体討論。議論の深まりに応じて、学外の社会教育施設や小学校等による公開研究会で学ぶ。						
評価基準と評価方法	授業毎の50%とレポート課題50%で評価する。						
履修上の注意	出席を特に重視する。						
教科書	授業中に適宜指示をする。						
参考書							

科目区分	子ども発達学科専門教育科目						
科目名	教育発達演習A						
担当教員	奥村 正子					科目ナンバ－	K0312A
学期	前期／1st semester	曜日・時限	火曜3	配当学年	3	単位数	2.0
授業のテーマ	音楽と子どもの関わりを知る。						
授業の概要	音楽教育の変遷について解説し、その中で各自が興味を持った問題を中心に討論を行う。並行して、子どものための音楽劇などを、実際に演奏する。						
到達目標	幼児期・児童期の音楽教育に関する問題意識を自分なりに持つことができるようになる。						
授業計画	第1回 オリエンテーション 第2回 音楽と子ども 第3回 文献探索の方法（図書館の利用、データベース検索、学会誌検索など）について 第4回 音楽教育の変遷 1 第5回 音楽教育の変遷 2 第6回 音楽と乳幼児の関わり 第7回 声や楽器による乳幼児のコミュニケーションの実際 第8回 まとめとレポートの提出 第9回 文献購読 1 第10回 文献購読 2 第11回 文献購読 3 第12回 テーマ発見に向けて 第13回 発表 1 第14回 発表 2 第15回 まとめと文献リストの提出						
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	各自がテーマの発見に向けて、図書館の活用をはじめ、興味・関心を広げるために行動しよう。（学習時間：3時間）						
授業方法	演習						
評価基準と評価方法	平常点（授業への取り組み）40％、レポート30％ 発表30％ 出席回数が授業全体の3分の2に満たない場合、評価の対象としない。						
履修上の注意	学外に見学、研修などに出かけて、交通費その他の費用が発生する場合には自己負担となる。						
教科書	・「乳幼児の音楽表現」日本赤ちゃん学会 監修、小西行郎 他 編著、中央法規出版 ISBN978-4-8058-5448-8						
参考書	そのつど紹介する。						

科目区分	子ども発達学科専門教育科目						
科目名	教育発達演習A						
担当教員	郭 暁博					科目ナンバー	K0312A
学期	前期／1st semester	曜日・時限	水曜4	配当学年	3	単位数	2.0
授業のテーマ	教育政策に関わる近年の改革動向について、現状把握を行い、課題意識を深める。						
授業の概要	レポートや論文の書き方、研究テーマの選び方、文献の調べ方等の基礎について、学習する。その後、参加者が興味・関心のある教育政策学等の基本学術論文・文献を、各自で調べて議論を重ねて、レポートを作成する。						
到達目標	教育行政・教育政策等の諸課題について理解を深めるとともに、自ら関心のあるテーマと関連させて自分の意見を述べるようになる。文献の調べ方や発表のしかたを身につけ、他の参加者と議論することができるようになる。4年次の「卒業研究」に向けて、課題設定と考察を備えたレポートを作成することもできるようになる。						
授業計画	第1回 オリエンテーション 第2回 レポート・論文の書き方やプレゼンの技法等に関する説明 第3回 文献調査の方法に関する説明 第4回 テキスト発表とディスカッション 第5回 テキスト発表とディスカッション 第6回 テキスト発表とディスカッション 第7回 テキスト発表とディスカッション 第8回 テキスト発表とディスカッション 第9回 テキスト発表のまとめと質疑応答 第10回 自由テーマによる発表とディスカッション 第11回 自由テーマによる発表とディスカッション 第12回 自由テーマによる発表とディスカッション 第13回 自由テーマによる発表とディスカッション 第14回 自由テーマによる発表とディスカッション 第15回 全体のまとめ						
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	授業前準備学習：自分が報告を担当する回では事前に資料を準備する。報告にあたっては、自分が疑問に思ったことについて、主体的に調べて盛り込むこと。また、授業で扱うテーマについて、参考書籍などによって予習すること。（学習時間：2時間） 授業後学習：授業内で受けたコメント・意見をもとに、報告文を修正する。また、授業で取り上げた内容の要点と重要箇所を確認・整理すること。（学習時間：2時間）						
授業方法	レジュメの作成・発表 全体討論						
評価基準と評価方法	平常点20%（コメントカードや授業での発言など） 発表点30% 期末レポート50%（自分のテーマ）						
履修上の注意	主として授業担当者による解説と受講者による報告・討論を中心に進める。各回の順序は固定したものではなく、受講登録や理解の状況に応じて受講者と相談の上、授業担当者による適切に調整が行われる場合がある。 ※出席：毎回出席すること、積極的に発言することが求められる。（6回以上欠席した場合、原則不可とする） ※発表内容：十分な準備をしているか、発表内容が緻密に検討されているか等が評価の対象となる。						
教科書	授業中に適宜指示をする						
参考書							

科目区分	子ども発達学科専門教育科目							
科目名	教育発達演習A							
担当教員	金丸 彰寿					科目ナンバー	K0312A	
学期	前期／1st semester		曜日・時限	水曜4	配当学年	3	単位数	2.0
授業のテーマ	特別支援教育について学び、自分自身の問題意識（問い）を立てる。							
授業の概要	学生と教員で特別支援教育にかんする文献（書籍や論文など）を購読し議論を行うことを通して、自分自身の問いを明らかにして深めていく。教員は、適宜解説や補足説明を行う。授業を通して、文献の探索・収集の方法や読み解き方、問いの立て方、検証・論証の進め方を学生相互で学び、レポートとしてまとめていく。							
到達目標	(1) 特別支援教育にかんするテーマの中から、自分自身の問いを立て深めることができる【態度・志向性】。 (2) テーマにもとづいて、発表と質疑応答を行い、議論する方法を身につけることができる【態度・志向性】 【汎用的技能】。 (3) 自分自身で問いを立て、論証し、その問いについての答えを論理的に示すレポートを作成できる【態度・志向性】 【汎用的技能】。							
授業計画	第1回 オリエンテーション（授業の進め方の説明、問題関心の共有） 第2回 議論やレポートの作成（問い、論証、答えの視点を学ぶ） 第3回 文献探索・収集の方法（図書館の利用、データベース検索、文献リストの作成） 第4回 文献購読と議論1 第5回 文献購読と議論2 第6回 文献購読と議論3 第7回 文献購読と議論4 第8回 文献購読と議論5 第9回 中間報告とレポート作成に向けて 第10回 学生が選んだテーマでの発表と議論1 第11回 学生が選んだテーマでの発表と議論2 第12回 学生が選んだテーマでの発表と議論3 第13回 学生が選んだテーマでの発表と議論4 第14回 学生が選んだテーマでの発表と議論5 第15回 総括							
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	授業前準備学習：各回授業で扱う文献を予習する。図書館なども活用する。分からなかったところや疑問点を整理して、議論に備える。発表担当者は、レジュメを作成し、発表の練習を行う。加えて、後半（第10回～第14回）については、自分のテーマについて事前に調べておく必要がある。（学習時間：2時間） 授業後学習：発表や議論で出た論点や意見を復習し、自分の問いを立て深める上での参考とする。（学習時間：2時間）							
授業方法	演習：適宜、文献以外にも視聴覚教材も用いて、学生相互の議論を行う。発表分担は授業内に決める。発表、レジュメやレポートの作成などについては、授業内外で教員と相談しながら進める。							
評価基準と評価方法	1. 平常点50点（授業での発言や発表・質疑応答）。到達目標（1）および（2）に関する到達度の確認。 2. レポート課題50点（学生が設定したテーマに即して、問いを立て、論証し、その問いについての答えを論理的に示しているかについて評価する）。到達目標（3）に関する到達度の確認。							
履修上の注意	・議論を通じて多様な意見のやりとりを楽しみ、ときには悩みながら学びましょう。 ・授業での議論が中心になるので、出席は重視します。 ・必要に応じて、学外に研修・見学に行く場合があります。その場合にかかる交通費その他費用について自己負担となります。							
教科書	授業中に適宜指示する。							
参考書								

科目区分	子ども発達学科専門教育科目						
科目名	教育発達演習A						
担当教員	倉 真智子					科目ナンバー	K0312A
学期	前期／1st semester	曜日・時限	火曜3	配当学年	3	単位数	2.0
授業のテーマ	論文講読と研究テーマの設定						
授業の概要	子どもを取り巻くさまざまな環境からくる健康問題について、教育現場や地域、家庭教育といった視点から考え、教職につく立場として理解を深めることを目的とする。 子どもの体力・運動能力、生活習慣、遊び文化などについて、テキストや文献、先行研究をもとに考え討議し、それらから各自のテーマを見つける。						
到達目標	(1) 子どもを取り巻く環境について、身近なところから問題点を探ることができる。 (2) 問題点を見つけ、ファシリテーターとしてグループディスカッションができる。 (3) 卒業研究のテーマに基づき、文献を収集し、内容をまとめて発表することができる。						
授業計画	第1回 オリエンテーション 第2回 各自のテーマ設定と発表についての説明 第3回 問題提起とディスカッションの方法 第4回 問題提起と文献研究 第5回 発表およびディスカッション ―幼児の運動に焦点をあてる― 第6回 発表およびディスカッション ―小学生の体育に焦点をあてる― 第7回 発表およびディスカッション ―保護者に焦点をあてる― 第8回 発表およびディスカッション ―保育者に焦点をあてる― 第9回 文献検索の方法について 第10回 各自テーマについて文献収集 第11回 文献購読 ―幼児期の運動遊びに関して― 第12回 文献購読 ―児童期の運動に関して― 第13回 文献購読 ―保護者に関して― 第14回 文献購読 ―保育者に関して― 第15回 まとめ						
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	授業前準備学習：ディスカッションのテーマを設定するためのキーワードや話題を新聞やニュース等で調べておく。（学習時間2時間） 授業後学習：ディスカッションで議論した内容をまとめ、さらに設定テーマに基づき、論文等で調べたものをレポートにする。（学習時間：3時間）						
授業方法	講義：幼児を取り巻く諸要因について説明するとともに、テーマ設定の方法を行う。 演習：各自がテーマを設定し、ディスカッションが行えるよう進行する。 最後にまとめとして意見を述べる。						
評価基準と評価方法	ファシリテーターとしての評価（40％）到達目標（1）および（2） ディスカッションへの取組（30％）到達目標：（1）、 リアクションペーパー（30％）：授業で取り上げたテーマのまとめと感想。到達目標（2）および（3）						
履修上の注意	卒業研究につなげるための授業であるため、問題意識をもって臨むこと。						
教科書	「子どもの未来を育む保育・教育の実践知―保育者・教育者を目指すあなたに―」北大路書房 ISBN 978-4-7628-3009-9						
参考書	テーマによって適宜、紹介する。さらにプリントを配布する。						

科目区分	子ども発達学科専門教育科目						
科目名	教育発達演習A						
担当教員	寺見 陽子					科目ナンバー	K0312A
学期	前期／1st semester	曜日・時限	水曜4	配当学年	3	単位数	2.0
授業のテーマ	乳幼児の発達理解と育児・保育に関する理論と実践の研究						
授業の概要	概要：乳幼児の保育・教育の在り方について考えます。内容は、乳幼児期の発達、乳幼児の育ちにおける生活や遊びの意義、発達環境としての親子関係や家庭環境、養育者・保育者の役割、幼稚園・保育所における保育環境や保育の内容等について、文献や先行研究をもとに考えていきます。また、保護者に対する子育て支援のあり方や地域・家庭の教育力を高める支援のあり方について、従来の調査研究やフィールド研究をもとに考えていきます。						
到達目標	(1) 自己課題の設定し、その課題に関連した理論と自己課題への取組の目的・方法・考察について、自分なりに説明することができる。 (2) 自己課題を探究する方法（文献検索やレポート作成）を学び、自分の課題レポートを作成したりプレゼンテーションする技術を身に付けることができる。 (3) 自己の課題に対する興味・関心をたかめ、研究することへの意欲を高める。						
授業計画	第1回 オリエンテーション 第2回 養育・保育における今日的課題および保育現場の動向と課題 第3回 乳幼児期の発達とその理論について 第4回 乳幼児期の発達と環境について 第5回 乳幼児期の発達と遊びについて 第6回 乳幼児期の発達と養育・親子関係、家庭教育について 第7回 乳幼児期の発達と幼児教育・保育について 第8回 乳幼児期の発達環境と養育・保育について 第9回 グループ編成・グループ研究（研究方法についてのディスカッション） 第10回 グループ研究―課題設定〔課題設定のプレゼンテーション〕 第11回 グループ研究―論文購読（先行研究のプレゼンテーション） 第12回 グループ研究―フィールド研究（保育現場や子育て支援現場の観察） 第13回 プレゼンテーション（自己課題に向けた取り組みとその結果のプレゼンテーション） 第14回 個別レポート作成 第15回 まとめ						
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	文献検索・文献輪読・レジメ作成・フィールドワーク・プレゼンテーション						
授業方法	グループワーク及びディスカッションを中心とする。						
評価基準と評価方法	2/3以上の出席　小レポートとプレゼンテーション　50点　最終レポート　50点						
履修上の注意	卒業論文につながる基盤ワークになるので、自己課題を明確にし、積極的に取り組むことを望みます。						
教科書	神戸松蔭女子学院大学人間科学部子ども発達学科編　2018　「子どもの未来を育む保育・教育の実践知―保育者・教師を目指すあなたに」北大路書房　ISBN 978-4-7628-3009-9						
参考書	必要に応じて示します。						

科目区分	子ども発達学科専門教育科目							
科目名	教育発達演習A							
担当教員	松岡 靖						科目ナンバー	K0312A
学期	前期／1st semester		曜日・時限	水曜4	配当学年	3	単位数	2.0
授業のテーマ	自分の興味・問題を保育・教育の理論につなげよう。							
授業の概要	1. 保育・教育の基本文献を指定し、学生がそれぞれ担当部分を報告する。 2. 多様な視点から学生同士が質疑応答して、教員はその背景を解説する。 3. やや専門的な文献の読み方、プレゼンの技法、意見の理解力を伸ばす。							
到達目標	1. やや専門的な文献を理解して、それについて学生が議論を深められる【汎用的技能】。 2. 今の日本の教育問題を発見し、その中身について合理的に探求できる【態度・志向性】。 3. 問い→追及→答えの構成、論理とデータのあるレポートを発表できる【汎用的技能】。							
授業計画	第1回 皆さんの動機と目標は？ 第2回 発表・質疑・レポートの説明 第3回 図書館での論文ガイダンス 第4回 教育の意義はどこにある？ 第5回 幼児教育の特徴とは何か？ 第6回 教育思想の歴史を辿ると？ 第7回 現代日本の教育問題とは？ 第8回 保・幼・小による連携は？ 第9回 大学教育から生涯学習へ？ 第10回 学生による中間報告(1)：テーマを作る 第11回 学生による中間報告(2)：資料を探す 第12回 学生による中間報告(3)：構成を考える 第13回 学生による中間報告(4)：文章を整える 第14回 学生による発表と質疑 第15回 成績の説明と授業の批評							
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	1. 複数回にわたる各自の発表をしっかりと準備する（学習時間：6時間）。 2. 文献の内容を社会の現実と結び付けて理解する（学習時間：6時間）。 3. 学期末レポートを自分の関心に沿って作成する（学習時間：6時間）。							
授業方法	1. 序盤では保育・教育の基本文献を指定し、学生がそれぞれ担当部分を報告する。 2. 中盤では多様な視点から学生同士が質疑応答して、教員はその背景を解説する。 3. 終盤ではやや専門的な文献の読み方、プレゼンの技法、意見の理解力を伸ばす。							
評価基準と評価方法	1. 平常点30点（コメントカードや授業での発言など） 2. 発表点20点（担当したプレゼンと質疑応答による） 3. レポート50点（自分のテーマで学期末に提出する）							
履修上の注意	1. 学生は教科書と自分のテーマで何度か発表する。 2. 毎回の授業で学生全員に質疑応答を義務づける。 3. 原則として欠席が5回を超えた場合不可とする。							
教科書	『教育原理』、倉戸直実監修、聖公会出版、978-4-88274-196-1。							
参考書	図書館での論文ガイダンスを活用し、自分の興味・問題に沿って検索してください。							

科目区分	子ども発達学科専門教育科目						
科目名	教育発達演習B						
担当教員	内田 祐貴					科目ナンバー	K0312B
学期	後期／2nd semester	曜日・時限	水曜4	配当学年	3	単位数	2.0
授業のテーマ	小学校における理科教育について、知識技術を深め、理科の得意な教員を目指す。						
授業の概要	発達教育演習Aをうけ、さらに各学年の理科で扱うそれぞれの内容に対して、具体的な授業案や教材を作成をする。また、理科教育について必要な統計処理や、新しい教育方法であるアクティブラーニング的手法を学ぶ。						
到達目標	(1) 小学校理科の授業、特に実験授業の指導をできる【汎用的技能】 (2) 教材作成のための、資料準備や資料活用をできる【汎用的技能】 (3) 将来小学校教員として、理科が得意だとアピールできる【態度・志向性】						
授業計画	第01回 指導案と評価 第02回 4年生「電気の働き」学習内容と実験 第03回 4年生「電気の働き」模擬授業 第04回 教材作成演習1 第05回 教材作成演習2 第06回 4年生「天気の様子」学習内容と実験 第07回 4年生「天気の様子」模擬授業 第08回 博物館科学館実習計画の作成 第09回 5年生「物の溶け方」学習内容と実験 第10回 5年生「物の溶け方」模擬授業 第11回 5年生「振り子の運動」学習内容と実験 第12回 5年生「振り子の運動」模擬授業 第13回 5年生「電流の働き」学習内容と実験 第14回 5年生「電流の働き」模擬授業 第15回 論文の構成と書き方 デジタル教材の使い方や、アクティブラーニング、先行事例研究などもこれらの具体的な単元を使いながら行っていきます。						
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	授業前準備学習：各回で取り扱う単元を教科書などで予習し、ポイントになる点についてまとめておく（学習時間2時間） 授業後学習：松蔭manabaコースコンテンツを利用して、授業で扱った内容の確認、復習、改善方法を考察する（学習時間2時間）						
授業方法	講義と演習：各単元のポイントについて講義後、ペアやグループで実験を行い、模擬授業を行う。模擬授業終了後、ディスカッションを行い振り返りをする。ICT機器を利用し、学生教員間、学生間で成果や情報の共有を行う。						
評価基準と評価方法	提出物：60% 指導案やリアクションペーパーなど授業での成果物と、授業後学習での改善した指導案の内容で評価する 到達目標(1)(2)に関する到達度の確認 授業態度：40% 模擬授業への取り組み、ディスカッションでの発言などを評価する 到達目標(1)(3)に関する到達度の確認						
履修上の注意	2年時に履修した理科研究、理科指導法の内容を確認復習しておくこと。						
教科書	なし						
参考書							

科目区分	子ども発達学科専門教育科目						
科目名	教育発達演習B						
担当教員	大下 卓司					科目ナンバー	K0312B
学期	後期／2nd semester	曜日・時限	水曜4	配当学年	3	単位数	2.0
授業のテーマ	関心を持った教育実践や教育問題に沿って各自が内容を掘り下げる						
授業の概要	学生が、各自の興味・関心に応じて文献（教育方法学の理論書、実践記録など）を選び、毎回の授業で交代で発表し、発表内容について学生全員で議論する。教員も議論に加わり、補足説明や論点の提示を適宜行う。授業の進め方は、「教育発達演習A」の延長ではあるが、4年次の「卒業研究」に向けての準備とすべく、追求したい問題の立て方、そのための文献の選び方、そこからの論点の取り出し方などについて指導する。また、問いと追求と答えという三要素を備えたレポートも作成できることをめざす。						
到達目標	・4年次の「卒業研究」に向けての準備とすべく、追求したい問題の立て方、そのための文献の選び方、そこからの論点の取り出し方などを身につける ・問いと追求と答えという三要素を備えたレポートも作成できるようになる。						
授業計画	第1回 レポート返却およびコメント 第2回 テキストの内容と使用方法に関する説明、より伝わるレポートの書き方の指導 第3回 「教育発達演習A」のレポートの調査を深め、報告を行い、相互に検討する 第4回 「教育発達演習A」のレポートの調査を深め、報告を行い、相互に検討する 第5回 「教育発達演習A」のレポートの調査を深め、報告を行い、相互に検討する 第6回 テキスト発表とディスカッション 第7回 テキスト発表とディスカッション 第8回 テキスト発表とディスカッション 第9回 テキスト発表とディスカッション 第10回 自分が志望する仕事と発表内容を関連付ける 第11回 自由テーマによる発表とディスカッション 第12回 自由テーマによる発表とディスカッション 第13回 自由テーマによる発表とディスカッション 第14回 自由テーマによる発表とディスカッション 第15回 総括討論						
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	・授業で出された課題について予習をする（45分）発表を行う回では自分のテーマについて事前に調べる（75分）。 ・授業での議論について整理するとともに、理解できなかったところを調べる（45分）。発表を行った際には、議論を踏まえて復習をする（15分）。						
授業方法	レジュメの作成・発表と全体討論。議論の深まりに応じて、学外の社会教育施設や小学校等による公開研究会で学ぶ。						
評価基準と評価方法	授業中への出席と積極的な参加を前提としながら、平常点50%とレポート課題50%で評価する。						
履修上の注意	出席を特に重視する。						
教科書	授業中に適宜指示をする						
参考書							

科目区分	子ども発達学科専門教育科目						
科目名	教育発達演習B						
担当教員	奥村 正子					科目ナンバー	K0312B
学期	後期／2nd semester	曜日・時限	水曜2	配当学年	3	単位数	2.0
授業のテーマ	子どもと音楽の関わりについて、自分の問題意識を明らかにする。						
授業の概要	幼児期・児童期の音楽教育に関する研究論文を講読する。各自の問題意識に関連した文献を収集し、その内容を全員で議論し、教員が解説する。授業の進め方は「教育発達演習A」の延長であるが、最終回には、研究計画と文献リストを提出する。						
到達目標	音楽教育に関する問題意識を持つことができ、卒業研究のテーマを設定できる。						
授業計画	第1回 テーマ設定に向けて 第2回 文献探索の方法について 第3回 特色ある音楽教育1 第4回 特色ある音楽教育2 第5回 特色ある音楽教育3 第6回 研究手法について 第7回 文献講読1 第8回 文献講読2 第9回 文献講読3 第10回 文献講読4 第11回 レポートの提出とまとめ 第12回 発表1 第13回 発表2 第14回 発表3 第15回 研究計画と文献リストの提出						
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	図書館の活用、文献収集をはじめ、テーマ設定のために積極的に行動しよう。 授業で取り上げた内容について、要点と重要箇所を確認・整理する。 （学習時間：3時間）						
授業方法	演習						
評価基準と評価方法	平常点（授業への取り組み）40％、レポート30％ 発表30％ 出席回数が授業全体の3分の2に満たない場合、評価の対象としない。						
履修上の注意	学外に見学、研修などに出かけて、交通費その他の費用が発生する場合には自己負担となる。						
教科書	・「乳幼児の音楽表現」日本赤ちゃん学会 監修、小西行郎 他 編著、中央法規出版 ISBN978-4-8058-5448-8						
参考書	そのつど紹介する。						

科目区分	子ども発達学科専門教育科目						
科目名	教育発達演習B						
担当教員	郭 暁博					科目ナンバー	K0312B
学期	後期／2nd semester	曜日・時限	水曜2	配当学年	3	単位数	2.0
授業のテーマ	教育政策に関わる近年の改革動向について、現状把握を行い、課題意識を深める。						
授業の概要	レポートや論文の書き方、研究テーマの選び方、文献の調べ方等の基礎について、学習する。その後、参加者が興味・関心のある教育政策学等の基本学術論文・文献を、各自で調べて議論を重ねて、レポートを作成する。						
到達目標	教育行政・教育政策等の諸課題について理解を深めるとともに、自ら関心のあるテーマと関連させて自分の意見を述べるようになる。文献の調べ方や発表のしかたを身につけ、他の参加者と議論することができるようになる。4年次の「卒業研究」に向けて、課題設定と考察を備えたレポートを作成することもできるようになる。						
授業計画	第1回 前期の振り返りと後期の目標設定 第2回 参加者の興味・関心のある教育政策学等の基本的学術論文・文献の解題 第3回 文献調査と課題設定の方法に関する説明 第4回 テキスト発表とディスカッション 第5回 テキスト発表とディスカッション 第6回 テキスト発表とディスカッション 第7回 テキスト発表とディスカッション 第8回 テキスト発表とディスカッション 第9回 テキスト発表のまとめと質疑応答 第10回 自由テーマによる発表とディスカッション 第11回 自由テーマによる発表とディスカッション 第12回 自由テーマによる発表とディスカッション 第13回 自由テーマによる発表とディスカッション 第14回 自由テーマによる発表とディスカッション 第15回 全体のまとめと「卒業研究」に向けての課題						
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	授業前準備学習：自分が報告を担当する回では事前に資料を準備する。報告にあたっては、自分が疑問に思ったことについて、主体的に調べて盛り込むこと。また、授業で扱うテーマについて、参考書籍などによって予習すること。（学習時間：2時間） 授業後学習：授業内で受けたコメント・意見をもとに、報告文を修正する。また、授業で取り上げた内容の要点と重要箇所を確認・整理すること。（学習時間：2時間）						
授業方法	レジュメの作成・発表 全体討論						
評価基準と評価方法	平常点20%（コメントカードや授業での発言など） 発表点30% 期末レポート50%（自分のテーマ）						
履修上の注意	主として授業担当者による解説と受講者による報告・討論を中心に進める。各回の順序は固定したものではなく、受講登録や理解の状況に応じて受講者と相談の上、授業担当者による適切に調整が行われる場合がある。 ※出席：毎回出席すること、積極的に発言することが求められる。（6回以上欠席した場合、原則不可とする） ※発表内容：十分な準備をしているか、発表内容が緻密に検討されているか等が評価の対象となる。						
教科書	授業中に適宜指示をする						
参考書							

科目区分	子ども発達学科専門教育科目							
科目名	教育発達演習B							
担当教員	金丸 彰寿					科目ナンバー	K0312B	
学期	後期／2nd semester		曜日・時限	水曜2	配当学年	3	単位数	2.0
授業のテーマ	特別支援教育について学び、自分自身の問題意識（問い）を深める。							
授業の概要	学生と教員で特別支援教育にかんする文献（書籍や論文など）を購読し議論を行うことを通して、自分自身の問いを明らかにして深めていく。教員は、適宜解説や補足説明を行う。授業の進め方は、「教育発達演習B」の延長であるが、4年時の「卒業研究」に向けた準備とするために、文献の探索・収集の方法や読み解き方、問いの立て方や深め方、検証・論証の進め方を学生相互で学び、レポートとしてまとめていく。							
到達目標	(1) 4年時の「卒業研究」の準備とするために、特別支援教育にかんするテーマの中から、自分自身の問いを立て深めることができる。【態度・志向性】 (2) テーマにもとづいて、発表と質疑応答を行い、議論する方法を身につけることができる。【態度・志向性】 【汎用的技能】 (3) 自分自身で問いを立て、論証し、その問いについての答えを論理的に示すレポートを作成できる。【態度・志向性】 【汎用的技能】							
授業計画	第1回 オリエンテーションと「教育発達演習A」のレポート返却及びコメント 第2回 議論の方法やレポートの作成（問い、論証、答えの視点を学ぶ） 第3回 「教育発達演習A」のレポートテーマ・内容をさらに深めて報告・検討を行う1 第4回 「教育発達演習A」のレポートテーマ・内容をさらに深めて報告・検討を行う2 第5回 「教育発達演習A」のレポートテーマ・内容をさらに深めて報告・検討を行う3 第6回 文献購読と議論1 第7回 文献購読と議論2 第8回 文献購読と議論3 第9回 中間報告とレポート作成に向けて 第10回 学生が選んだテーマでの発表と議論1 第11回 学生が選んだテーマでの発表と議論2 第12回 学生が選んだテーマでの発表と議論3 第13回 学生が選んだテーマでの発表と議論4 第14回 学生が選んだテーマでの発表と議論5 第15回 総括							
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	授業前準備学習：各回授業で扱う文献を予習する。図書館なども活用する。分からなかったところや疑問点を整理して、議論に備える。発表担当者は、レジュメを作成し、発表の練習を行う。加えて、後半（第10回～第14回）については、自分のテーマについて事前に調べておく必要がある。（学習時間：2時間） 授業後学習：発表や議論で出た論点や意見を復習し、自分の問いを立て深める上での参考とする。（学習時間：2時間）							
授業方法	演習：適宜、文献以外にも視聴覚教材も用いて、学生相互の議論を行う。発表分担は授業内に決める。発表、レジュメやレポートの作成などについては、授業内外で教員と相談しながら進める。							
評価基準と評価方法	1. 平常点50点（授業での発言や発表・質疑応答）。到達目標（1）および（2）に関する到達度の確認。 2. レポート課題50点（学生が設定したテーマに即して、問いを立て、論証し、その問いについての答えを論理的に示しているかについて評価する）。到達目標（3）に関する到達度の確認。							
履修上の注意	・議論を通じて多様な意見のやりとりを楽しみ、ときには悩みながら学びましょう。 ・授業での議論が中心になるので、出席は重視します。 ・必要に応じて、学外に研修・見学に行く場合があります。その場合にかかる交通費その他費用について自己負担となります。							
教科書	授業中に適宜指示する。							
参考書								

科目区分	子ども発達学科専門教育科目						
科目名	教育発達演習B						
担当教員	倉 真智子					科目ナンバー	K0312B
学期	後期／2nd semester	曜日・時限	水曜2	配当学年	3	単位数	2.0
授業のテーマ	研究課題の精選と課題検討						
授業の概要	子どもを取り巻くさまざまな環境からくる健康問題について、教育現場や地域、家庭教育といった視点から考え、教職につく立場として理解を深めることを目的とする。 子どもの体力・運動能力、生活習慣、遊び文化などについて、テキストや文献、先行研究をもとに考え討議し、それらから卒業研究のテーマに向け進めていく。						
到達目標	(1) 自分の卒業研究のテーマを精選することができる。 (2) より多くの文献を収集し、テーマと関連づけることができる。 (3) 文献の中から、研究テーマに即した論文をまとめ、発表し、意見を述べ合うことができる。						
授業計画	第1回 オリエンテーション 第2回 各自のテーマ設定と文献収集についての説明 第3回 文献の収集 第4回 文献リスト作成 第5回 レジューメの作成法と発表方法 第6回 先行研究から学ぶ論文の書き方 第7回 講読発表 ー幼児・児童に関する文献ー 第8回 講読発表 ー運動に関する文献からー 第9回 講読発表 ー子どもの健康に関する文献からー 第10回 講読発表 ー生活習慣に関する文献からー 第11回 講読発表 ー保護者に関する文献からー 第12回 講読発表 ー保育者に関する文献からー 第13回 プロポーザル 第14回 プロポーザルの検討 第15回 まとめと卒業研究に向けての課題						
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	授業前準備学習：テーマに関する話題や文献収集を行う（学習時間2時間） 授業後学習：発表をふりかえり、研究テーマに関する文献を収集する（学習時間2時間）						
授業方法	講義：文献収集の方法と講読発表の内容について説明を行う。 演習：各自講読発表を行い、その後ディスカッションをし、さらに課題を見つける。						
評価基準と評価方法	文献収集と講読発表（50％）到達目標（1）（2）（3） 発表レポート（50％）到達目標（3）						
履修上の注意	1. 卒業研究につなげるための授業であるため、課題意識をもって臨むこと。 2. 授業は必ず出席をすること。やむを得ず休んだ場合は課題を提出する。						
教科書	「子どもの未来を育む保育・教育の実践知ー保育者・教育者を目指すあなたにー」北大路書房 ISBN 978-4-7628-3009-9						
参考書	「よくわかる卒論の書き方」白井利明・高橋一郎 ミネルヴァ書房 ISBN978-4-623-05111-3 「レポート・論文のまとめ方と書き方」宮内克男 川内書店						

科目区分	子ども発達学科専門教育科目						
科目名	教育発達演習B						
担当教員	寺見 陽子					科目ナンバー	K0312B
学期	後期／2nd semester	曜日・時限	水曜4	配当学年	3	単位数	2.0
授業のテーマ	乳幼児の発達研究と養育・保育の場における理論と実践に関する研究						
授業の概要	概要：ここでは「教育発達演習A」での研究をもとに、自己研究課題を焦点化させ、文献や研究論文を購読するとともに、乳幼児の発達研究や保育実践研究の方法論について学びます。自分でプロポーザルを作成し、その流れに沿って、研究・実験・調査・観察等の実施計画や結果をまとめ、考察していきます。						
到達目標	(1) 自己課題に関連した文献購読を通して、その基盤となる理論を学び、自己目標を説明することができる。 (2) 自己課題の明確化し、それに関連した専門知識の獲得と研究方法を学ぶことができる。 (3) 課題研究に取り組む意義と自分自らの取り組み方法を見出すことができる。						
授業計画	第1回 オリエンテーション 第2回 自己課題の設定と研究法について 第3回 文献輪読・グループディスカッション(1)ー自己課題に関連した論文の検索結果の報告 第4回 文献輪読・グループディスカッション(2)ー自己課題に関連した論文購読・レジメ作成・発表(1) 第5回 文献輪読・グループディスカッション(3)ー自己課題に関連した論文購読・レジメ作成・発表(2) 第6回 文献輪読・グループディスカッション(4)ー自己課題に関連した論文購読・レジメ作成・発表(3) 第7回 文献輪読・グループディスカッション(5)ー自己課題に関連した研究論文購読・レジメ作成・発表(4) 第8回 中間報告ー先行研究のまとめの作成と発表 第9回 文献購読・プロポーザルの作成(1) 第10回 グループ・サーベイ(1)ー調査計画(自己課題を明らかにするための研究計画の検討) 第11回 グループ・サーベイ(2)ー調査方法(自己課題を明らかにするための研究方法の検討) 第12回 グループ・サーベイ(3)ー調査等(自己課題に基づき調査・観察等のモデル実施) 第13回 調査結果の報告 第14回 自己課題に基づくレポートの作成 第15回 総括と卒業研究に向けた方針の設定						
授業外における学習(準備学習の内容・時間)	文献検索・文献輪読・グループ研究とフィールドサーベイ						
授業方法	グループワークを中心とします。						
評価基準と評価方法	2/3以上の出席 小レポート(30)・プレゼンテーション(20)・報告書(50)						
履修上の注意	個別指導を中心とするので、主体的に取り組むように望みます。						
教科書	神戸松蔭女子学院大学人間科学部子ども発達学科編 2018「子供の未来を育む保育・教育の実践知ー保育者・教師を目指すあなたにー」北大路書房 ISBN 978-4-7628-3009-9						
参考書	必要に応じて示します。						

科目区分	子ども発達学科専門教育科目						
科目名	教育発達演習B						
担当教員	松岡 靖					科目ナンバ	K0312B
学期	後期／2nd semester	曜日・時限	水曜2	配当学年	3	単位数	2.0
授業のテーマ	働くことへの希望をもって自分なりに進路を模索しよう。						
授業の概要	1. 保育・教育に必要な「希望」に関する文献で、学生がそれぞれ担当部分を報告する。 2. 日本の保育・教育の論点について、学生が質疑応答し、教員がその背景を解説する。 3. 卒業研究に向けてテーマを探しながら、資料の収集や問いの立て方などを練習する。						
到達目標	1. 保育・教育をめぐる基礎知識を増やし、進路選択に向けて情報を収集する【態度・志向性】。 2. 問い→追求→答えの構成、論理とデータをのあるレポート作成に習熟する【汎用的技能】。						
授業計画	第1回 前期の振り返りと後期の見通し 第2回 図書館での論文ガイダンス 第3回 教科書(1)：そもそも希望とは何か？ 第4回 教科書(2)：もう希望は失われたか？ 第5回 教科書(3)：なぜ希望は失われたか？ 第6回 教科書(4)：希望をめぐる物語とは？ 第7回 教科書(5)：努力は無駄に終わるか？ 第8回 教科書(6)：希望を取り戻すために？ 第9回 教科書(7)：キャリア教育の役割は？ 第10回 学生による中間報告(1)：テーマを作る 第11回 学生による中間報告(2)：飼料を探す 第12回 学生による中間報告(3)：構成を考える 第13回 学生による発表と質疑 第14回 4年生の卒業研究を聴く 第15回 成績の説明と授業の批評						
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	1. 複数回ある各自による発表をしっかりと準備する（学習時間：6時間）。 2. 文献の内容を自分の体験と結び付けて理解する（学習時間：6時間）。 3. 学期末レポートを自分の関心に沿って作成する（学習時間：6時間）。						
授業方法	1. 序盤では教科書を使った報告と教員の解説を主に進める。 2. 中盤では学生の発表と学生同士の質疑応答を中心とする。 3. 終盤では全員が卒業研究に向けてのレポートを発表する。						
評価基準と評価方法	1. 平常点30点（コメントカードや授業での発言など） 2. 発表点20点（担当したプレゼンと質疑応答による） 3. レポート50点（自分のテーマで学期末に提出する）						
履修上の注意	1. 学生は教科書と自分のテーマで何度か発表する。 2. 毎回の授業で学生全員に質疑応答を義務づける。 3. 原則として欠席が5回を超えた場合不可とする。						
教科書	『希望のつくり方』、玄田有史、岩波書店、978-4-00-431270-3。						
参考書	図書館での論文ガイダンスを活用して、自分の興味・問題に沿って検索してください。						

科目区分	子ども発達学科専門教育科目						
科目名	教職基本演習						
担当教員	秋山 麗子					科目ナンバー	K74750
学期	前期／1st semester	曜日・時限	木曜4	配当学年	4	単位数	2.0
授業のテーマ	教職についての専門的な知識と実践的な指導力の育成						
授業の概要	本授業では、学生がこれまでの教職課程に関する履修や教職課程外での様々な活動を通じて、教員としての資質や能力が有機的に統合されながら形成されてきているかを、自己点検し確認する。また、教員になるために自分に不足している知識や技能・技術、能力や態度等を補い、教員として必要な資質と実践的指導力の向上を図るようにする。						
到達目標	学習指導について、教材研究や学習指導案の作成、模擬授業等の実施により、教職における専門的な知識や実践的な授業力を高める。また、学級経営や生徒指導について、事例研究、グループによる演習、ロールプレイなどにより教師としての資質・能力や実践的な指導力を養う。						
授業計画	第1回 オリエンテーション：本授業のねらいと授業の概要 第2回 教員としての自分の点検・確認、自己の課題の把握 第3回 授業における基本的な展開や教師の役割（ユニバーサルデザインの授業の展開） 第4回 グループに分かれて学習指導案の作成 第5回 模擬授業の実施とその授業評価・授業修正（1） 第6回 模擬授業の実施とその授業評価・授業修正（2） 第7回 小学校教員の仕事内容（校務分掌と学校経営） 第8回 小学校の学級担任の仕事内容（1）：学級経営と学級づくり 第9回 小学校の学級担任の仕事内容（2）：学級事務、成績評価、懇談会等 第10回 小学校の学級担任の仕事内容（3）：集団指導と個別指導 第11回 生徒指導上の課題とその対応についての事例検討（1）：いじめ・不登校 第12回 生徒指導上の課題とその対応についての事例検討（2）：怠学、暴力行為、虞犯行為 第13回 児童理解の今日的課題と保護者との連携の在り方 第14回 ロールプレイによる保護者対応の在り方の実践と検討 第15回 まとめ：教員としての資質・能力についての自己評価および今後の課題						
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	・授業前学習：各回の授業で行う内容について、事前に指定する内容やキーワードについて、指定した図書や参考資料などで下調べをしたり、発表資料を作成したりする（学習時間2時間）。 ・授業後学習：授業で学んだことを復習し、次の授業や実習、就職した際に活かせるように、要点をまとめて報告文を作成し、松蔭manabaコースコンテンツに投稿する（学習時間2時間）						
授業方法	参加型の授業を中心に、グループで指導案を作成したり模擬授業を実施したり、事例の検索をして発表したりする。 また、模擬授業や事例発表に対する相互評価を行ったり、全体やグループでディスカッションしたりする。						
評価基準と評価方法	・平常点60%（授業やグループ発表での内容や態度、小テスト、授業のワークシートや意見・感想などによる） ・学期末レポート40%（教員として必要な資質や能力に関すること）						
履修上の注意	1. 資料の配布は、各回の出席者のみ配布する。（欠席の時は、翌週授業時に限り配布） 2. 20分以上の遅刻の場合は欠席とする。						
教科書	なし						
参考書	『小四教育技術 8月号増刊「対話」にあふれ「深い学び」を生み出す4年の学級経営』、小学館、2017.7 『小六教育技術 8月号増刊「対話」にあふれ「深い学び」を生み出す6年の学級経営』、小学館、2017.7						

科目区分	子ども発達学科専門教育科目							
科目名	教職実践演習（幼・小）							
担当教員	松岡 靖・秋山 麗子					科目ナンバー	K74650	
学期	後期／2nd semester		曜日・時限	金曜1	配当学年	4	単位数	2.0
授業のテーマ	教職課程履修カルテと教育・保育実習記録などを用いて実践的な事例研究を行う。事例研究のテーマは、(1)教職・保育者に必要な使命感・責任感・愛情、(2)職務上の社会性や対人関係能力、(3)行き届いた子ども理解や学級経営、(4)教科教育・保育内容の十分な指導力とする。							
授業の概要	教職・保育士養成課程の完成教育として、教職科目と小学校教科と幼稚園領域の担当教員がオムニバスで担当する。大学での講義・討論、模擬授業・保育による事例研究とともに、教育・保育の現場へのフィールドワークを行う。この授業を通じて学生が現場での実践的な対応力を伸ばす準備とする。							
到達目標	1. 教職・保育士養成課程の履修全体を、学生が実習経験を踏まえつつ総括できる【態度・志向性】。 2. 教育者・保育者に必要な資質・能力に照らし、学生が自らの課題を省察できる【汎用的技能】。 3. 実践的指導力を高めることで、学生が教育者・保育者として順調に出発できる【態度・志向性】。							
授業計画	第1回 教職課程履修カルテ：教育者としての資質・能力（担当：松岡・秋山） 第2回 教育のPDCAサイクル：実習記録での評価と課題は？（担当：松岡） 第3回 教育のポートフォリオ：教職課程における役割は？（担当：松岡） 第4回 実践事例研究(1)：実践でのPDCAサイクルの具体化（担当：秋山） 第5回 フィールドワークの事前指導（担当：秋山） 第6回 フィールドワーク(1)：教育・保育の現場の参観（担当：秋山） 第7回 フィールドワーク(2)：教育・保育の現場の参観（担当：秋山） 補講1 フィールドワークの事後指導（担当：松岡） 補講2 教育実習による欠席分の補講（担当：松岡） 第8回 実践事例研究(2)：教育者として必要な資質・能力（担当：秋山） 第9回 実践事例研究(3)：教育・保育現場における組織論（担当：秋山） 第10回 実践事例研究(4)：子ども理解から学級経営まで（担当：秋山） 第11回 模擬授業・保育(1)：指導計画と授業・保育の計画（担当：秋山） 第12回 模擬授業・保育(2)：略案作成と授業・保育の準備（担当：秋山） 第13回 模擬授業・保育(3)：模擬授業・保育の実施と検討（担当：秋山） 第14回 模擬授業・保育(4)：模擬授業・保育のPDCAサイクル（担当：秋山） 第15回 履修カルテのまとめ：教育者としての決意の発表（担当：秋山）							
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	1. 初回までに松蔭manabaによる履修カルテを完成させること（学習時間：6時間）。 2. 自らの保育・教育の実習記録を読み直し反省を深めること（学習時間：6時間）。 2. 事例研究を通じて模擬授業・保育の指導案を準備すること（学習時間：6時間）。							
授業方法	1. 第1～3回と補講は松岡が担当する。 2. 第4～15回は秋山が担当する。							
評価基準と評価方法	1. 教育者としての資質・能力を担当教員が連携して評価する。 2. 授業での提出課題50%、模擬授業・保育での発表内容50%。							
履修上の注意	1. 初回到松蔭manabaから履修カルテを印刷して持参すること。 2. 10～11月のフィールドワークの日時と場所に注意すること。 3. 12月の土曜午前に行う予定の2コマの補講に注意すること。 4. 原則として2/3以上の出席に満たなければ受験資格を失う。							
教科書	とくに指定せず履修カルテや実習記録などを活用する。							
参考書	なし。							

科目区分	子ども発達学科専門教育科目							
科目名	教職実践演習（幼・小）							
担当教員	松岡靖・井上知子・山村けい子					科目ナンバー	K74650	
学期	後期／2nd semester		曜日・時限	金曜1	配当学年	4	単位数	2.0
授業のテーマ	教職課程履修カルテと教育・保育実習記録などを用いて実践的な事例研究を行う。事例研究のテーマは、(1)教職・保育者に必要な使命感・責任感・愛情、(2)職務上の社会性や対人関係能力、(3)行き届いた子ども理解や学級経営、(4)教科教育・保育内容の十分な指導力とする。							
授業の概要	教職・保育士養成課程の完成教育として、教職科目と小学校教科と幼稚園領域の担当教員がオムニバスで担当する。大学での講義・討論・模擬授業・保育による事例研究とともに、教育・保育の現場へのフィールドワークを行う。この授業を通じて学生が現場での実践的な対応力を伸ばす準備とする。							
到達目標	1. 教職・保育士養成課程の履修全体を、学生が実習経験を踏まえつつ総括できる【態度・志向性】。 2. 教育者・保育者に必要な資質・能力に照らし、学生が自らの課題を省察できる【汎用的技能】。 3. 実践的指導力を高めることで、学生が教育者・保育者として順調に出発できる【態度・志向性】。							
授業計画	第1回 教職課程履修カルテ：教育者としての資質・能力（担当：松岡・井上） 第2回 教育のPDCAサイクル：実習記録での評価と課題は？（担当：松岡） 第3回 教育のポートフォリオ：教職課程における役割は？（担当：松岡） 第4回 実践事例研究(1)：実践でのPDCAサイクルの具体化（担当：井上） 第5回 フィールドワークの事前指導（担当：井上） 第6回 フィールドワーク(1)：教育・保育の現場の参観（担当：井上） 第7回 フィールドワーク(2)：教育・保育の現場の参観（担当：井上） 補講 フィールドワークの事後指導（担当：松岡） 補講 教育実習による欠席分の補講（担当：松岡） 第8回 実践事例研究(2)：教育者として必要な資質・能力（担当：井上） 第9回 実践事例研究(3)：教育・保育現場における組織論（担当：井上） 第10回 実践事例研究(4)：子ども理解から学級経営まで（担当：山村） 第11回 模擬授業・保育(1)：指導計画と授業・保育の計画（担当：山村） 第12回 模擬授業・保育(2)：略案作成と授業・保育の準備（担当：山村） 第13回 模擬授業・保育(3)：模擬授業・保育の実施と検討（担当：山村） 第14回 模擬授業・保育(4)：模擬授業・保育のPDCAサイクル（担当：山村） 第15回 履修カルテのまとめ：教育者としての決意の発表（担当：山村）							
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	1. 初回までに松蔭manabaによる履修カルテを完成させること（学習時間：6時間）。 2. 自らの保育・教育の実習記録を読み直し反省を深めること（学習時間：6時間）。 2. 事例研究を通じて模擬授業・保育の指導案を準備すること（学習時間：6時間）。							
授業方法	1. 第1～3回と補講は松岡が担当する。 2. 第4～9回は井上が担当する。 3. 第10～15回は山村が担当する。							
評価基準と評価方法	1. 教育者としての資質・能力を担当教員が連携して評価する。 2. 授業での提出課題50%、模擬授業・保育での発表内容50%。							
履修上の注意	1. 初回到松蔭manabaから履修カルテを印刷して持参すること。 2. 10～11月のフィールドワークの日時と場所に注意すること。 3. 12月の土曜午前に行う予定の2コマの補講に注意すること。 4. 第10～15回は12～2月の土曜または補講日に実施する予定。 5. 原則として2/3以上の出席に満たなければ受験資格を失う。							
教科書	とくに指定せず履修カルテや実習記録などを活用する。							
参考書	なし。							

科目区分	子ども発達学科専門教育科目							
科目名	教職実践演習（幼・小）							
担当教員	松岡靖・井上知子・山村けい子					科目ナンバー	K74650	
学期	後期／2nd semester		曜日・時限	金曜2	配当学年	4	単位数	2.0
授業のテーマ	教職課程履修カルテと教育・保育実習記録などを用いて実践的な事例研究を行う。事例研究のテーマは、(1)教職・保育者に必要な使命感・責任感・愛情、(2)職務上の社会性や対人関係能力、(3)行き届いた子ども理解や学級経営、(4)教科教育・保育内容の十分な指導力とする。							
授業の概要	教職・保育士養成課程の完成教育として、教職科目と小学校教科と幼稚園領域の担当教員がオムニバスで担当する。大学での講義・討論・模擬授業・保育による事例研究とともに、教育・保育の現場へのフィールドワークを行う。この授業を通じて学生が現場での実践的な対応力を伸ばす準備とする。							
到達目標	1. 教職・保育士養成課程の履修全体を、学生が実習経験を踏まえつつ総括できる【態度・志向性】。 2. 教育者・保育者に必要な資質・能力に照らし、学生が自らの課題を省察できる【汎用的技能】。 3. 実践的指導力を高めることで、学生が教育者・保育者として順調に出発できる【態度・志向性】。							
授業計画	第1回 教職課程履修カルテ：教育者としての資質・能力（担当：松岡・井上） 第2回 教育のPDCAサイクル：実習記録での評価と課題は？（担当：松岡） 第3回 教育のポートフォリオ：教職課程における役割は？（担当：松岡） 第4回 実践事例研究(1)：実践でのPDCAサイクルの具体化（担当：井上） 第5回 フィールドワークの事前指導（担当：井上） 第6回 フィールドワーク(1)：教育・保育の現場の参観（担当：井上） 第7回 フィールドワーク(2)：教育・保育の現場の参観（担当：井上） 補講 フィールドワークの事後指導（担当：松岡） 補講 教育実習による欠席分の補講（担当：松岡） 第8回 実践事例研究(2)：教育者として必要な資質・能力（担当：井上） 第9回 実践事例研究(3)：教育・保育現場における組織論（担当：井上） 第10回 実践事例研究(4)：子ども理解から学級経営まで（担当：山村） 第11回 模擬授業・保育(1)：指導計画と授業・保育の計画（担当：山村） 第12回 模擬授業・保育(2)：略案作成と授業・保育の準備（担当：山村） 第13回 模擬授業・保育(3)：模擬授業・保育の実施と検討（担当：山村） 第14回 模擬授業・保育(4)：模擬授業・保育のPDCAサイクル（担当：山村） 第15回 履修カルテのまとめ：教育者としての決意の発表（担当：山村）							
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	1. 初回までに松蔭manabaによる履修カルテを完成させること（学習時間：6時間）。 2. 自らの保育・教育の実習記録を読み直し反省を深めること（学習時間：6時間）。 2. 事例研究を通じて模擬授業・保育の指導案を準備すること（学習時間：6時間）。							
授業方法	1. 第1～3回と補講は松岡が担当する。 2. 第4～9回は井上が担当する。 3. 第10～15回は山村が担当する。							
評価基準と評価方法	1. 教育者としての資質・能力を担当教員が連携して評価する。 2. 授業での提出課題50%、模擬授業・保育での発表内容50%。							
履修上の注意	1. 初回到松蔭manabaから履修カルテを印刷して持参すること。 2. 10～11月のフィールドワークの日時と場所に注意すること。 3. 12月の土曜午前に行う予定の2コマの補講に注意すること。 4. 第10～15回は12～2月の土曜または補講日に実施する予定。 5. 原則として2/3以上の出席に満たなければ受験資格を失う。							
教科書	とくに指定せず履修カルテや実習記録などを活用する。							
参考書	なし。							

科目区分	子ども発達学科専門教育科目						
科目名	基礎演習B						
担当教員	松岡・大下・郭・内田・柏本・金丸					科目ナンバー	K0101B
学期	後期／2nd semester	曜日・時限	金曜3	配当学年	1	単位数	2.0
授業のテーマ	自分の意見を明確に伝えられるようにプレゼンテーション能力やコミュニケーション能力を高めて、自身の教育者としての素養を深める。						
授業の概要	概要) この科目では基礎演習Aで学んだ内容に基づいて、複数の教員が少人数クラスをオムニバス方式でより発展的な学習を行う。各教員が専門分野をベースに演習形式で学生に説明してから、学生がそれぞれのトピックに関するプレゼンテーションを行う。最終授業では1年次での学びを学生が自己評価できるよう指導する。(オムニバス方式／全15回) (6 柏本 吉章・15 大下 卓司・18 松岡 靖・20 内田 裕貴・22 郭 暁博・23 金丸 彰寿／3回) (共同) 多様な情報の収集・分析の手法について解説してから、前期に引き続いて学生による討議とプレゼンテーションの進め方を指導し、最後に学生の学びの自己評価を発表する。 (6 柏本 吉章／2回) 子どもに英語教育をするさいの重要な論点について講義してから、学生がグループごとに英語教育のあり方について討議して、その結果を順番にプレゼンテーションする。 (15 大下 卓司／2回) 各学校段階での教師像について学び、それに向けての大学での学びを計画し、学生がグループごとにそれらについて討議して、その結果を順番にプレゼンテーションする。 (18 松岡 靖／2回) 現代日本にみられる重要な教育問題をいくつか取り上げて講義してから、学生がグループごとそれらの論点について討議して、その結果を順番にプレゼンテーションする。 (20 内田 裕貴／2回) 子どもに科学教育をするさいの重要な論点について講義してから、学生がグループごとに科学教育のあり方について討議して、その結果を順番にプレゼンテーションする。 (22 郭 暁博／2回) 外国の事例を含む学校教育システムの重要な論点を講義してから、学生がグループごとに教育制度のあり方について討議して、その結果を順番にプレゼンテーションする。 (23 金丸 彰寿／2回) 障害に関わる教育上の重要な論点について講義してから、学生がグループごとに障害と教育のあり方について討議して、その結果を順番にプレゼンテーションする。						
到達目標	(1) 教育に関わる多様な情報の収集・分析の手法について理解し、実践し授業に臨むことができる。【知識・理解】 (2) 教育に関わるトピックを自分で設定し、他者に分かりやすくプレゼンテーションすることができる。【知識・理解】 (3) 教育者を目指すにあたり、教育への興味関心を具体的なものとして意識することができる。【態度・志向性】						
授業計画	<全体指導> 第01回 プレゼンテーションの方法 (1) 情報の収集・分析の手法 第02回 プレゼンテーションの方法 (2) プレゼンテーションの方法 (柏本担当) 第03回 世界のなかの英語の位置づけを知る 第04回 異文化を理解する、多文化共生について考える (大下担当) 第01回 評価の仕組みを知り、教師・保育士の仕事への理解を深める 第02回 評価方法を実践し、教師・保育士への志望を明確にする (松岡担当) 第07回 現代日本の教育時事問題について解説する 第08回 学生のグループ討論とプレゼンテーション (内田担当) 第09回 子どもと科学教育 1：論理的な文章 第10回 子どもと科学教育 2：論理的なまとめ方 (郭担当) 第11回 教育の境界を探検する (教育制度の国際比較) 第12回 世界の教育事情：数字から見た日本 (金丸担当) 第13回 障害はどこにあるのか？：人間と社会 (環境) との関係から考える 第14回 特別支援教育＝障害児教育？：共に生きる社会に向かう教育のあり方について考える <全体指導> 第15回 学生の自己評価：大学での一年間を振り返る						
授業外における学習 (準備学習の内容・時間)	授業前準備学習：各回で扱う内容について、キーワードを中心に教育時事などを調べる (学習時間6時間) 授業後学習：授業で扱った内容を確認整理する。既習事項との関連について調べ、自分の考えをまとめる (学習時間6時間)						

授業方法	演習：基本事項の解説ののち、各テーマについてグループワークやグループディスカッションを行う。結果をグループごとに、ICT機器を用いて効果的にプレゼンテーションを行ったり、レポートにしたりし、全体でディスカッションしまとめる。最後に、大学での1年間を振り返り、学びの成果を自己評価し、2年次以降の学びに活かす。
評価基準と評価方法	授業態度：40% ワーク、ディスカッションへの参加度、グループ発表、リアクションペーパーの内容により総合的に評価する。 到達目標(1)(3)に関する到達度の確認 レポート、提出物：60% 作成したレポートや授業成果の提出物に対し、教育の基礎事項に対する理解度、教育に対する興味関心の具体性について評価する。 到達目標(1)(2)(3)に関する到達度の確認
履修上の注意	学科必修の演習であり、必ず履修し、大学での勉強の基礎を身に付けること。
教科書	(内田担当分)「子どもの未来を育む保育・教育の実践知——保育者・教師を目指すあなたに」、神戸松蔭女子学院大学子ども発達学科、北大路書房、ISBN 978-4-7628-3009-9
参考書	とくに指定せずに授業で紹介する。

科目区分	子ども発達学科専門教育科目						
科目名	キリスト教保育						
担当教員	奥村 正子					科目ナンバー	K73740
学期	後期／2nd semester	曜日・時限	火曜4	配当学年	3	単位数	2.0
授業のテーマ	キリスト教における子ども観を知る。 キリスト教保育で必要とされる「こどもさんびか」や「子どもと礼拝の音楽」について知る。						
授業の概要	教会暦、キリスト教と子どもについて学ぶ。賛美歌やこどもさんびかなどのキリスト教音楽を知る。キリスト教保育においてクリスマスの期間に上演される「聖誕劇」について理解を深める。						
到達目標	キリスト教における「こども観」について知識のない人にも説明できるようになる。 クリスマスの意味について理解を深め、授業の中で「聖誕劇」を体験することで、子どもたちに「聖誕劇」を指導するための知識、実践力をつける。						
授業計画	第1回 ガイダンス：授業の方法の説明 第2回 キリスト教と子ども：こどもさんびか 1 第3回 生活のうた：こどもさんびか 2 第4回 自然と子ども：こどもさんびか 3 第5回 聖誕劇について 1：クリスマスの物語 第7回 聖誕劇について 2：登場する人々 第8回 聖誕劇について 3：台詞と音楽 第9回 聖誕劇について 4：声と楽器のアンサンブル 第10回 ミュージック・ベルの奏法とクリスマスの楽曲 第11回 「聖誕劇」のまとめとディスカッション 第12回 保育シミュレーションとディスカッション、及び ピアノによる礼拝曲（教会暦） 第13回 保育シミュレーションとディスカッション、及び ピアノによる礼拝曲（祈り） 第14回 保育シミュレーションとディスカッション、及び ピアノによる礼拝曲（賛美） 第15回 まとめと期末試験						
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	こどもさんびか等、楽曲の課題は、充分に練習を行うこと。 授業で取り上げた内容の要点と重要箇所について、配布する資料や参考図書を活用して確認・整理する。 （学習時間：2時間）						
授業方法	講義と演習						
評価基準と評価方法	授業における積極的な取り組み、小テストなど平常点の評価が70%、期末試験が30%。 出席回数が10回に満たない場合は評価の対象としない。						
履修上の注意	授業は動きやすい服装で受講すること。 教員の連絡先：okumura[at]shoin.ac.jp ※ [at]を@に置き換える。 オフィスアワー：木曜日12：10～13：10 （2号館2階の研究室）						
教科書	楽譜等、資料はそのつど配布する。						
参考書	・「新キリスト教保育指針」キリスト教保育連盟 発行 ・「こどもさんびか」日本基督教団 発行 その他は授業で紹介する。						

科目区分	子ども発達学科専門教育科目						
科目名	国語科研究						
担当教員	大石 正廣					科目ナンバー	K72450
学期	前期／1st semester	曜日・時限	金曜1	配当学年	2	単位数	2.0
授業のテーマ	確かで豊かな言語力を育てる国語科の教科専門力をつける						
授業の概要	国語科教育の役割と課題、国語科の全体構造、国語科で育てる学力の系統、言葉の機能、子どもの言語発達と言語環境といった国語力を養うために必要な知識や、国語科の2領域「知識・技能」（言葉の特徴や使い方に關する事項、伝統的な言語文化）と「思考力・判断力・表現力」（書くこと、話すこと・聞くこと、読むこと）について理解する。これらの知識や内容の理解は、教材をもとに考察することで一層深められるので、現行教科書を取り上げながらその指導の留意点や着眼点について学び理解を深める。						
到達目標	(1)小学校国語科における目標、育成をめざす資質・能力について理解したことを説明できる。【知識・理解】、 (2)小学校国語科の特性を理解し、学習内容や指導上の留意点についてポイントを論述できる。【汎用的能力】、 (3)国語科への興味・関心をより具体的なものとして意識でき、より理解を深めようとする。【態度・指向性】						
授業計画	授業計画 第1回 オリエンテーション：求められる国語力（資質・能力） 第2回 学習指導要領からみた国語科教育の変遷と学習指導要領「国語科」 第3回 学習指導要領「国語科」の目標、領域、学習内容 第4回 「読むこと」の指導：文学教材の授業研究法（学習指導案） 第5回 文学的文章の指導1：低学年の授業分析、指導上の留意点 第6回 文学的文章の指導2：高学年の授業分析、指導上の留意点 第7回 「読むこと」の指導：説明文教材の授業研究法（学習指導案） 第8回 説明的文章の指導1：低学年の授業分析、指導上の留意点 第9回 説明的文章の指導2：高学年の授業分析、指導上の留意点 第10回 音声言語教育の内容と系統、指導上の留意点 第11回 書くことの指導内容と系統 第12回 語彙・漢字指導、書写の指導内容と留意点 第13回 伝統的な言語文化：指導内容の系統、指導上の留意点 第14回 国語科における学習評価 第15回 言語力の向上、言語活動・言語生活の充実、期末試験						
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	授業前準備学習：各回授業で扱う内容について、配付テキストの当該箇所を予習する。教材や資料を事前に読み予習課題についてまとめておく。（2時間） 授業後学習：配付レジュメをもとに、授業で取り上げた内容の要点と重要箇所を確認・整理する。また、学べたこと、考えたこと、さらに学びたいことなどを書きまとめておく。（2時間）						
授業方法	講義形式、演習形式、対話形式の授業など様々な形態の授業を組み合わせで行う。 グループ（ペア）ワークによるディスカッションや演習を行う。グループ（ペア）ワークの報告をふまえ、重要なポイントについて解説・講義を行う。						
評価基準と評価方法	授業での態度（グループワーク、演習）10%、授業での提出物50%、期末試験40% 授業での態度：グループワーク、演習での積極的参加度（発表力、内容やグループでのコミュニケーション） 授業内での提出物：各回提出のリアクションペーパー（講義内容について学べたこと、考えたこと、質問等）、課題に関するワークや小レポートの内容・記述の的確さを評価する。到達目標に関する到達度の確認。 期末試験：到達目標に関する到達度の確認をする。 課題に対するフィードバックの方法 リアクションペーパーのコメント・質問等について翌週の授業で紹介・解説する。						
履修上の注意	1. 授業での資料は、各回の出席者のみに配布する（欠席の時は、翌週授業時に限り再配布） 2. 出席が10回以上でないと期末試験の受験資格を失うものとする。						
教科書	プリントを毎回テキストとして配付する。 小学校国語教科書（授業で使用するが、個人で所有する必要はない）						
参考書	1. 『小学校学習指導要領（平成29年）解説 国語科』 文部科学省 東洋館出版 2. 『小学校国語科質の高い言語活動パーフェクトガイド5・6年』 水戸部修治編著 明治図書出版 3. 『小学校国語科質の高い言語活動パーフェクトガイド3・4年』 水戸部修治編著 明治図書出版 4. 『小学校国語科質の高い言語活動パーフェクトガイド1・2年』 水戸部修治編著 明治図書出版						

科目区分	子ども発達学科専門教育科目						
科目名	国語科研究						
担当教員	大石 正廣					科目ナンバー	K72450
学期	前期／1st semester	曜日・時限	金曜2	配当学年	2	単位数	2.0
授業のテーマ	確かで豊かな言語力を育てる国語科の教科専門力をつける						
授業の概要	国語科教育の役割と課題、国語科の全体構造、国語科で育てる学力の系統、言葉の機能、子どもの言語発達と言語環境といった国語力を養うために必要な知識や、国語科の2領域「知識・技能」（言葉の特徴や使い方に關する事項、伝統的な言語文化）と「思考力・判断力・表現力」（書くこと、話すこと・聞くこと、読むこと）について理解する。これらの知識や内容の理解は、教材をもとに考察することで一層深められるので、現行教科書を取り上げながらその指導の留意点や着眼点について学び理解を深める。						
到達目標	(1)小学校国語科における目標、育成をめざす資質・能力について理解したことを説明できる。【知識・理解】、 (2)小学校国語科の特性を理解し、学習内容や指導上の留意点についてポイントを論述できる。【汎用的能力】、 (3)国語科への興味・関心をより具体的なものとして意識でき、より理解を深めようとする。【態度・指向性】						
授業計画	授業計画 第1回 オリエンテーション：求められる国語力（資質・能力） 第2回 学習指導要領からみた国語科教育の変遷と学習指導要領「国語科」 第3回 学習指導要領「国語科」の目標、領域、学習内容 第4回 「読むこと」の指導：文学教材の授業研究法（学習指導案） 第5回 文学的文章の指導1：低学年の授業分析、指導上の留意点 第6回 文学的文章の指導2：高学年の授業分析、指導上の留意点 第7回 「読むこと」の指導：説明文教材の授業研究法（学習指導案） 第8回 説明的文章の指導1：低学年の授業分析、指導上の留意点 第9回 説明的文章の指導2：高学年の授業分析、指導上の留意点 第10回 音声言語教育の内容と系統、指導上の留意点 第11回 書くことの指導内容と系統 第12回 語彙・漢字指導、書写の指導内容と留意点 第13回 伝統的な言語文化：指導内容の系統、指導上の留意点 第14回 国語科における学習評価 第15回 言語力の向上、言語活動・言語生活の充実、期末試験						
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	授業前準備学習：各回授業で扱う内容について、配付テキストの当該箇所を予習する。教材や資料を事前に読み予習課題についてまとめておく。（2時間） 授業後学習：配付レジュメをもとに、授業で取り上げた内容の要点と重要箇所を確認・整理する。また、学べたこと、考えたこと、さらに学びたいことなどを書きまとめておく。（2時間）						
授業方法	講義形式、演習形式、対話形式の授業など様々な形態の授業を組み合わせで行う。 グループ（ペア）ワークによるディスカッションや演習を行う。グループ（ペア）ワークの報告をふまえ、重要なポイントについて解説・講義を行う。						
評価基準と評価方法	授業での態度（グループワーク、演習）10%、授業での提出物50%、期末試験40% 授業での態度：グループワーク、演習での積極的参加度（発表力、内容やグループでのコミュニケーション） 授業内での提出物：各回提出のリアクションペーパー（講義内容について学べたこと、考えたこと、質問等）、課題に関するワークや小レポートの内容・記述の的確さを評価する。到達目標に関する到達度の確認。 期末試験：到達目標に関する到達度の確認をする。 課題に対するフィードバックの方法 リアクションペーパーのコメント・質問等について翌週の授業で紹介・解説する。						
履修上の注意	1. 授業での資料は、各回の出席者のみに配布する（欠席の時は、翌週授業時に限り再配布） 2. 出席が10回以上でないと期末試験の受験資格を失うものとする。						
教科書	プリントを毎回テキストとして配付する。 小学校国語教科書（授業で使用するが、個人で所有する必要はない）						
参考書	1. 『小学校学習指導要領（平成29年）解説 国語科』 文部科学省 東洋館出版 2. 『小学校国語科質の高い言語活動パーフェクトガイド5・6年』 水戸部修治編著 明治図書出版 3. 『小学校国語科質の高い言語活動パーフェクトガイド3・4年』 水戸部修治編著 明治図書出版 4. 『小学校国語科質の高い言語活動パーフェクトガイド1・2年』 水戸部修治編著 明治図書出版						

科目区分	子ども発達学科専門教育科目							
科目名	国語科指導法							
担当教員	大石 正廣					科目ナンバー	K72310	
学期	後期／2nd semester		曜日・時限	火曜4	配当学年	2	単位数	2.0
授業のテーマ	確かで豊かな言語力を育てる国語科の教科専門力をつける							
授業の概要	国語科研究で学んだことを前提として、模擬授業を行う。学習指導要領に示された国語科の目標、学習内容、授業のあり方や指導のポイント、教材研究、効果的なICTの活用について検討し、分かりやすく力のつく授業づくりについての理解を深める。こうした学習を前提として、教科書から選んだ内容について、グループで教材研究を行い指導案を作成する。これに基づいて模擬授業を行う。模擬授業を行った後、相互評価を通じて改善点を明らかにし、授業改善の方法について学ぶ。							
到達目標	学習指導要領に示された国語科で育成をめざす言語力について理解し、指導案の学習内容として具体化することができる。〔知識・理解〕 様々な学習指導理論を踏まえて具体的な授業場면을想定した授業設計を行う方法を身に付ける。〔汎用的技能〕 模擬授業を通して、授業づくりの工夫をより具体的なものとして意識することができる。〔態度・指向性〕							
授業計画	第1回 オリエンテーション：国語科における小学校新学習指導要領のポイントを理解する。 第2回 国語科学習指導案の作成について 第3回 話すこと・聞くことの指導の実際・対話力を養う指導法 第4回 読むことの授業づくり1「かさこじぞう」を中心とした低学年の教材研究、主発問・補助発問づくり 第5回 「かさこじぞう」の模擬授業 第6回 読むことの授業づくり2「ごんぎつね」を中心とした高学年の教材研究、主発問・補助発問づくり 第7回 「ごんぎつね」を中心とした模擬授業 第8回 読むことの授業づくり3 詩の教材分析、主発問、補助発問づくり 第9回 詩の指導の実際 模擬授業 第10回 読むことの授業づくり4 説明文「盲導犬の訓練」を中心とした低学年の教材研究、主発問、補助発問づくり 第11回 「盲導犬の訓練」を中心とした模擬授業 第12回 読むことの授業づくり5 説明文「未来に生かす自然のエネルギー」を中心とした高学年の教材研究、主発問、補助発問 第13回 「未来に生かす自然のエネルギー」を中心とした模擬授業 第14回 書くことの指導の実際、指導のポイント、実践研究の動向 第15回 書写指導についてのポイント、期末試験							
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	授業前準備学習：学習指導要領に示されている内容を把握しておくこと。取り扱う教材を熟読し、授業者として模擬授業の指導案を作成をしたり、学習者として、事前に課題について予習学習をしたりする。（2時間） 授業後学習：模擬授業をふり返り、授業の改善を考慮した指導案を作成する（2時間）							
授業方法	講義形式、演習形式、模擬授業形式の授業など様々な形態を組み合わせで行う。講義での課題や模擬授業について、グループまたペアによるディスカッションを行う。グループ（ペア）ワークの報告を踏まえ、重要事項について、解説・講義を行う。							
評価基準と評価方法	授業での態度（グループワーク、演習）10%、授業での提出物50%、期末試験40% 授業での態度：グループワーク、演習での積極的参加度（発表力、内容やグループでのコミュニケーション） 授業内での提出物：各回提出のリアクションペーパー（講義内容について学べたこと、考えたこと、質問等）、課題に関するワークや小レポートの内容・記述の的確さを評価する。到達目標に関する到達度の確認。 期末試験：到達目標に関する到達度の確認をする。 課題に対するフィードバックの方法 リアクションペーパーのコメント・質問等について翌週の授業で紹介・解説する。							
履修上の注意	1. 授業での資料は、各回の出席者のみ配布する（欠席の時は、翌週授業時に限り再配布） 2. 出席が10回以上でないと期末試験の受験資格を失うものとする。							
教科書	プリントを毎回テキストとして配付する。 小学校国語科教科書（授業で使用するが、個人で所有する必要はない）							
参考書	1. 桂聖 『「which型課題」の国語授業』 東洋館出版社 ISBN978-44910358551 2. 高橋達哉・三浦剛 『国語教師のための読解ツール10&24の指導アイデア』 明治図書 ISBN978-4180655274 3. 鶴田清司・河野順子 『国語科における対話型学びの授業をつくる』 明治図書 ISBN978-4180104338 4. 『小学校国語科学習指導（2017年告示）解説 国語科』 文部科学省 東洋館出版							

科目区分	子ども発達学科専門教育科目						
科目名	子どもアートプロジェクト						
担当教員	奥 美佐子・奥村 正子					科目ナンバー	
学期	集中講義	曜日・時限	集中1	配当学年	4	単位数	1.0
授業のテーマ	アートの力をひろげよう						
授業の概要	授業の概要：音楽・美術・身体・言語による表現をイメージ・構想し、表現することはこれまでの授業で行われてきている。それぞれの教科・領域の中で培ってきたものをさらに深く専門的な表現を体験することで、感性やそれぞれの表現力を高め、総合的な表現の理解を深めていくことが重要である。この授業では音楽と美術の分野で授業計画に示した経験を通じてアートの力を広げていく。						
到達目標	1. 美術館教育を体験し、美術館にあるオブジェクトについて興味をもってより深く理解することができる。 2. 音楽を聴き、演奏し、リズムを感じて共振することを体験することによって、人とリズムの関わりを理解し、さらに身体が人にとって重要な楽器であることを理解することができる。 3. アート経験から広げた力を用い、子どもたちとアートの力を共有する方法を考案できる。						
授業計画	1. 子どもアートプロジェクトガイダンス（奥・奥村） 2. 音楽によるコミュニケーションとは（奥村） 3. 色々なリズムを体験しよう（1）メヌエットなど（奥村） 4. 色々なリズムを体験しよう（2）ロック など（奥村） 5. 色々なリズムを体験しよう（3）フラメンコなど（奥村） 6. ダルクローズのリトミック（1）体の全てで感じとる音楽（奥村） 7. ダルクローズのリトミック（2）子どもと音楽について考える（奥村） 8. 美術館・博物館・子ども美術館とオブジェクト（奥） 9. 美術館へ行こう（1）美術館のオブジェクトを知る（奥） 10. 美術館へ行こう（2）美術館教育プログラムと出会う（奥） 11. 美術館のオブジェクトを追体験する（1）オブジェクトを造る（奥） 12. 美術館のオブジェクトを追体験する（2）プレゼンテーション（奥） 13. 子ども美術館へ行こう（1）美術館体験（奥） 14. 子ども美術館へ行こう（2）子どもと美術について考える（奥） 15. まとめのプレゼンテーション（奥・奥村）						
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	授業前学習：各回専門的な内容や用語を理解しておくことが重要となることから、次回の授業内容についての解説に基づいて、各回の表現領域におけるワードについて参考図書やwebで調べておく。 各回の表現やプレゼンテーションに使用できるようにすること。（学習時間2時間） 授業後学習：授業体験記録の作成。学外での学習や実践的内容で構成されているため、授業回ごとに記録にとどめ、検討資料とすることが必要である。（学習時間2時間）						
授業方法	演習						
評価基準と評価方法	音楽パート25%、美術パート25%、最終レポート50%の評価とする。						
履修上の注意	学外での授業が組み込まれているため、交通費や入館料が必要になる。 教科の性質上時間割が土日などに設定されることがある。授業内で連絡するので注意すること。 指定された授業での準備物は必ず持参すること。						
教科書	使用しない。						
参考書	必要に応じて授業内で紹介する。						

科目区分	子ども発達学科専門教育科目						
科目名	子どもの食と栄養／子ども発達Ⅰ（食育）						
担当教員	西川 央江					科目ナンバー	K71110
学期	前期／1st semester	曜日・時限	水曜5	配当学年	1	単位数	2.0
授業のテーマ	子どもが健やかに成長・発達するために必要な栄養や食生活について基礎的な知識を学ぶ。また、食育についての理解を深め、正しい食習慣の確立を含めて、子どもの食生活を豊かにすることについて学ぶ。						
授業の概要	この授業では幼稚園教育要領と保育所保育指針に示された食育に関わる下記の5点について学ぶ。 ①健康な食生活と生活リズムの意義と栄養に関する基本的知識を学ぶ。②子どもの発育・発達に応じた調理形態や食生活について理解を深める。③食育の基本と内容および食育のための環境と地域社会との連携について理解する。④家庭や児童福祉施設における食生活の現状と課題について学ぶ。⑤特別な配慮を要する子どもの食と栄養について理解する。						
到達目標	1. 健康な生活の基本としての食生活の意義や栄養に関する基本的知識を習得する。【知識・理解】 2. 子どもの発育・発達と食生活の関連について理解する。【知識・理解】 3. 養護及び教育の一体性を踏まえた保育における食育の意義・目的、基本的考え方、その内容等について理解する。【知識・理解】 4. 家庭や児童福祉施設における食生活の現状と課題について理解する。【知識・理解・汎用的技能】 5. 関連するガイドライン（※）や近年のデータ等を踏まえ、特別な配慮を要する子どもの食と栄養について理解する。【知識・理解・汎用的技能】 ※「保育所におけるアレルギー対応ガイドライン」（平成23年3月、厚生労働省）、 「保育所における食事の提供ガイドライン」（平成24年3月、厚生労働省）等						
授業計画	第1回 子どもの健康と食生活の意義（子どもの心身の健康と食生活および子どもの食生活の現状と課題） 第2回 栄養に関する基本的知識（1）栄養の基本的概念と栄養素の種類と機能 第3回 栄養に関する基礎知識（2）食事摂取基準と献立作成・調理の基本 第4回 子どもの発育・発達と食生活（1）乳児期の授乳・離乳の意義と食生活 第5回 子どもの発育・発達と食生活（2）調乳と離乳食調理に関する演習（レポート作成） 第6回 子どもの発育・発達と食生活（3）幼児期の心身の発達と食生活 第7回 子どもの発育・発達と食生活（4）学童期の心身の発達と食生活、生涯発達と食生活 第8回 食育の基本と内容（1）保育における食育の意義・目的と基本的考え方、食育の内容と計画及び評価 第9回 食育の基本と内容（2）食育のための環境、地域の関係機関や職員間の連携 第10回 食育の基本と内容（3）食生活指導及び食を通じた保護者への支援、家庭や児童福祉施設における食事と栄養 第11回 特別な配慮を要する子どもの食と栄養（1）疾病及び体調不良の子どもへの対応 第12回 特別な配慮を要する子どもの食と栄養（2）食物アレルギーのある子どもへの対応 第13回 特別な配慮を要する子どもの食と栄養（3）障害のある子どもへの対応 第14回 特別な配慮を要する子どもの食と栄養（4）災害時の食物アレルギーのある子どもへの対応 まとめ試験 第15回 講義全体の内容の総復習						
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	授業前学習：各回授業で扱う教科書の当該箇所を予習し、授業内容に関する情報を集める（学習時間2時間） 授業後学習：授業で取り上げた内容の要点をまとめ、重要箇所を確認する。課題レポートがある場合は作成する。（学習時間2時間）						
授業方法	講義：テーマごとに重要事項を講義・解説する。 演習：調乳と離乳食の調理を実施し、実施時の留意点をレポートにまとめる。						
評価基準と評価方法	まとめ試験60％ 提出物（リアクションペーパー）30％ 課題レポート10％ まとめ試験：授業で扱った子どもの食と栄養についての理解度を評価する。授業無い柄まとめ試験の結果の講評を行う。到達目標（1）（2）（3）（4）（5）に関する到達度の確認。 授業内での提出物：各回提出のリアクションペーパー（講義についてのコメント・質問・課題への自分の考え）の内容・記述的確さを評価する。質問には翌週の授業で開設する。到達目標（1）（2）（3）（4）（5）に関する到達度の確認。 課題レポート：実施した演習の留意点を的確にレポートできているかを評価する。レポートの評価後は、コメントして返却し各自にフィードバックする。到達目標（4）（5）に関する到達度の確認。						
履修上の注意	単位認定は出席3分の2以上で行います。20分以上の遅刻は欠席として扱います。子どもの食事、栄養、食育に関する報道に関心を持ち情報を集めてください。						
教科書	「最新 子どもの食と栄養 食生活の基礎を築くために」飯塚美和子・他編集 学建書院 ISBN978-4-7624-5841-5						
参考書	講義内で適宜紹介します						

科目区分	子ども発達学科専門教育科目						
科目名	子どもの保健ⅠA／小児保健A						
担当教員	垂髪 あかり					科目ナンバ－	K7324A
学期	前期／1st semester	曜日・時限	木曜2	配当学年	3	単位数	2.0
授業のテーマ	我が国の母子保健政策の現状と課題について理解し、子どもの発育・発達のみちすじ、特別な配慮の必要な子どもへの支援等について学び、保育者としての対応についての実践的な力を身につける。						
授業の概要	人格や健康の基礎を形成する小児期において、心身の健康を守り、より積極的な健康を目指すことの重要性を認識し、小児保健・母子保健の意義と母子保健行政の役割について学ぶ。また、胎児期、新生児期、乳児期、幼児期を経て学童・思春期に至る各時期の子どもの身体発育や生理機能、運動機能並びに精神機能の発達の特長を理解する。さらに、特別な配慮の必要な子ども（障がいのある子ども、病気の子ども、施設等で生活する子ども、子どもの虐待の防止）への支援についても学修する。						
到達目標	1. 子どもを一人の尊厳ある人間として理解し、常に発育・発達しつつあり、身体的にも精神的にも未熟な存在であるという特徴について具体的事象をもって説明できる（知識・理解／汎用性技能）。 2. 我が国の母子保健政策および子どもを取りまく環境についての現状と課題について説明できる（知識・理解／汎用性技能）。 3. 胎児期、新生児期から学童に至るまでの各時期の子どもの身体発育や生理機能、運動機能、精神機能の発達の過程と特徴を理解し、説明できる（知識・理解／汎用性技能）。 4. 特別な配慮・支援の必要な子どもの支援について保育者の視点から提案できる（知識・理解／態度・志向性）。						
授業計画	第1回：子どもの健康と保健①「健康の概念と子どもをめぐる環境の変化」 第2回：子どもの健康と保健②「母子保健および小児保健統計」 第3回：子どもの発育・発達のみちすじ①「胎児期の発達」 第4回：子どもの発育・発達のみちすじ②「乳児期前半の発達」 第5回：子どもの発育・発達のみちすじ③「乳児期後半の発達」 第6回：子どもの発育・発達のみちすじ④「幼児期（1歳半～2歳後半）の発達」 第7回：子どもの発育・発達のみちすじ⑤「幼児期（3歳前半～4歳後半）の発達」 第8回：子どもの発育・発達のみちすじ⑥「幼児期（5歳前半～6歳後半）の発達」 第9回：子どもの発育・発達のみちすじ⑦「学童期の発達」（レポートA作成） 第10回：特別な配慮の必要な子どもたち①「障害のある子どもの発達と支援」 第11回：特別な配慮の必要な子どもたち②「病気の子どもたちの発達と支援」 第12回：特別な配慮の必要な子どもたち③「施設等で育つ子どもたち」 第13回：保育、教育的支援と発達の共感（レポートB作成） 第14回：世界の子どもの成長・発達とそれを阻害する状況 第15回：まとめ、グループ発表						
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	授業前準備学習：各回授業で扱う教科書の該当箇所、事前に配布する資料、事前に指定するキーワードについて、指定された参考図書等で下調べをする（学習時間2時間） 授業後学習：授業内で指示したテーマ・課題について報告文を作成し、松蔭manabaコースコンテンツに投稿する（学習時間2時間）						
授業方法	講義：毎回、テーマについてグループまたはペアによるディスカッションを行う。グループ（ペア）ワークの報告を踏まえ、重要事項について解説・講義を行う。第15回では、全講義を通してグループごとに関心のあるテーマを選び、プレゼンテーションを行う。 授業の事後学習には、松蔭manabaを利用してレポートを実施する。						
評価基準と評価方法	学生に対する評価 ①定期試験50％ ②レポート20％ ③授業各回のリアクションペーパーへの取り組み状況20％ ④グループワーク、発表でのパフォーマンス10％ ①定期試験：授業で扱った健康の概念や母子保健、小児保健統計に関する知識、子どもの成長・発達に関する理解度について評価する。到達目標（1）（2）（3）（4）に関する到達度の確認。 ②レポート：子どもの成長・発達過程についての理解度、「発達」に対する自らの興味・関心の明確性・具体性について評価する。到達目標（3）（4）に関する到達度の確認。 ③授業各回のリアクションペーパーへの取り組み状況：各テーマに関する自らの興味・関心の明確性・具体性について評価する。到達目標（1）（2）（3）（4）に関する到達度の確認。 ④グループワーク、発表でのパフォーマンス：各テーマに関する自らの興味・関心の明確性・具体性、グループワークや発表における積極性、協働性について評価する。到達目標（1）（2）（3）（4）に関する到達度の確認。 課題に対するフィードバックの方法 優秀レポートやリアクションペーパーのコメント・質問等について翌週授業で紹介・解説する。期末試験結果の講評を松蔭manabaで告知する。						

履修上の注意	1. 積極的に授業に参加する学生の受講を期待する。 2. 2/3 以上の出席に満たない者は、受験資格を失う。 3. 遅刻、早退、途中退席等は、止む終えない場合を除き、認めない。
教科書	『発達の扉』上下，初版，白石正久，かもがわ出版， 978-4876991440， 978-4876992645
参考書	・『子どもの発達と診断』シリーズ，田中昌人・田中杉江，大月書店 ・『教育と保育のための発達診断』，初版，白石正久・白石恵理子，全障研出版部，978-4881347744 ・『これだけはおさえたい！保育者のための子どもの保健Ⅰ』，初版，鈴木美枝子編著，978-4794480712

科目区分	子ども発達学科専門教育科目						
科目名	子どもの保健IB／小児保健B						
担当教員	垂髪 あかり					科目ナンバー	K7324B
学期	後期／2nd semester	曜日・時限	火曜2	配当学年	3	単位数	2.0
授業のテーマ	我が国の母子保健政策の現状と課題について理解した上で、子どもにとって望ましい保育環境について検討する。また、子どもがかかりやすい病気について学び、保育者としての対応について実践的な力を身につける。						
授業の概要	「子どもの保健IA」で学んだことを基礎として、我が国の母子保健施策、現代の子どもを取り巻く状況と望ましい保育環境、子どもの心身の健康状態とその把握の方法、子どもが罹患しやすい一般的な疾患の特徴やその予防、応急処置方法や対応方法についても学び、保育中に体調不良になった子どもに対し、迅速にかつ的確に看護や対応ができるように学生相互が授業の中で模擬的に実践しながら学習する。						
到達目標	1. 我が国の母子保健政策の現状と課題について説明できる。（知識・理解） 2. 現代の子どもを取りまく環境について理解し、望ましい保育環境について説明できる。（知識・理解／汎用性技能） 3. 子どもが罹患しやすい代表的な疾患の特徴と予防について理解し、応急処置方法や保育場面での対応方法について自らが保育場面にたったときをイメージして具体的に検討できる。（知識・理解／態度・志向性／汎用的技能）						
授業計画	第1回：子どもの発達過程についての復習と保育者としてあるべき視点 第2回：我が国の母子保健政策 第3回：望ましい保育環境①「保育現場における衛生管理」 第4回：望ましい保育環境②「子どもの事故」 第5回：望ましい保育環境③「保育現場における安全対策」 第6回：子どもの病気と保育①「子どもの健康状態の把握」 第7回：子どもの病気と保育②「子どものかかりやすい病気1-感染症」 第8回：子どもの病気と保育③「子どものかかりやすい病気2-耳・鼻・のどの病気、消化器系の病気」 第9回：子どもの病気と保育④「子どものかかりやすい病気3-皮膚の病気、泌尿器系の病気、脳神経の病気」 第10回：子どもの病気と保育⑤「子どものかかりやすい病気4-アレルギー疾患」 第11回：子どもの病気と保育⑥「先天異常とその他の病気」 第12回：子どもの病気と保育⑦「病気の子どもと遊びの必要性」 第13回：子どもの病気と保育⑧「感染症と予防接種」 第14回：子どもの病気と保育⑨「応急処置」 第15回：まとめ、グループ発表						
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	授業前準備学習：既に学修を終えた「子どもの保健IA」の内容について復習しておくこと。 各回授業で扱う教科書の該当箇所、事前に配布する資料、事前に指定するキーワードについて、指定された参考図書等で下調べをする（学習時間2時間） 授業後学習：授業内で指示したテーマ・課題について報告文を作成し、松蔭manabaコースコンテンツに投稿する（学習時間2時間）						
授業方法	講義：毎回、テーマについてグループまたはペアワーク、ロールプレイを行う。グループ（ペア）ワーク、ロールプレイを通して重要事項について解説・講義を行う。第15回では、全講義を通してグループごとに関心のあるテーマを選び、ロールプレイおよびプレゼンテーションを行う。 授業の事後学習には、松蔭manabaを利用してリアクションペーパーの提出を実施する。						
評価基準と評価方法	①グループワーク、ペアワーク、発表でのパフォーマンス、30％ ②定期試験60％ ③授業各回のリアクションペーパーへの取り組み状況10％ ①グループワークでのパフォーマンス：各テーマに関する自らの興味・関心の明確性・具体性、グループワーク、ペアワークや発表における積極性、協働性について評価する。到達目標（2）（3）に関する到達度の確認。 ②定期試験：授業で扱った健康の概念や母子保健、小児保健統計に関する知識、子どもの成長・発達に関する理解度、子どものかかりやすい病気についての知識・理解度について評価する。到達目標（1）（2）に関する到達度の確認。 ③授業各回のリアクションペーパーへの取り組み状況：各テーマに関する自らの興味・関心の明確性・具体性について評価する。到達目標（1）（2）（3）に関する到達度の確認。 課題に対するフィードバックの方法 優秀レポートやリアクションペーパーのコメント・質問等について翌週授業で紹介・解説する。期末試験結果の講評を松蔭manabaで告知する。						
履修上の注意	・積極的に授業に参加する学生の受講を期待する。 ・2/3以上の出席に満たない者は、受験資格を失う。 ・遅刻、早退、途中退席等は、止む終えない場合を除き、認めない。						

教科書	『保育者のための わかりやすい 子どもの保健』，初版，飯島一誠監修，稲垣由子，本田順子，八木麻理子，978-4-88924-264-5
参考書	参考書・参考資料等 ・『これだけはおさえたい！保育者のための子どもの保健Ⅰ』，初版，鈴木美枝子編著，978-4794480712』 ・『よくある子どもの病気・ケガまずの対応マニュアル：よくある症状への具体的な寄り添い方から保護者への伝え方まで（ハッピー保育アドバイス）』，新谷まさこ，初版，ひかりのくに，978-4564608520 ・『0～5歳児ケガと病気の予防・救急まるわかり安心BOOK』，金澤治，初版，ナツメ社，978-4816351884

科目区分	子ども発達学科専門教育科目						
科目名	子どもの保健Ⅱ／小児保健演習						
担当教員	垂髪 あかり					科目ナンバー	K74280
学期	前期／1st semester	曜日・時限	水曜1	配当学年	4	単位数	2.0
授業のテーマ	保育者として子どもの心とからだの健康づくりを担うという自覚を持ち、子どもの心身の健康を保持・増進するための保健的知識や技術・方法を実践的に身につける。						
授業の概要	この科目では保育所保育指針を参照しつつ、保育者として小児の基本的な保健知識を学ぶことで、小児の健康を保持・増進していくための実践力を身につける。子どもの発達段階と心身の健康状態に応じた支援の仕方を理解するため、講義と演習を取り入れて授業を展開する。演習では、現場の事例や実践などを取り入れながら学びを深めていく。さらに保育者として小児を取り巻く過程、地域、学校との連携推進を率先できる力を身につけられるよう図る。						
到達目標	1. 「子どもの保健Ⅰ」で学んだ理論・知識を実践できるための態度や技術・方法を身につける。（知識・理解／態度・志向性／汎用的技能） 2. 子どもの発育・発達の観察と評価、健康観察と健康管理が適切にできる。（知識・理解／態度・志向性／汎用的技能） 3. 子どもの養護、体調不良への対応、応急手当が適切にできる。（知識・理解／態度・志向性／汎用的技能） 4. 屋内外における望ましい保育環境と安全対策について説明できる。（知識・理解／汎用的技能） 5. 子どもの心とからだの健康づくりを、保育者として組織することができる。（知識・理解／態度・志向性／汎用的技能）						
授業計画	第1回：導入および子どもの発育・発達の観察と評価① 「演習の意義と心構え、乳児・幼児の計測法とその評価」 第2回：子どもの発育・発達の観察と評価②「乳児・幼児の計測の実際-演習」（レポートA） 第3回：子どもの発育・発達の観察と評価③「乳児・幼児の計測の評価」 第4回：子どもの健康観察と健康管理①「日常の保育における健康観察」 第5回：子どもの健康観察と健康管理②「健康診断と健康管理」（レポートB） 第6回：子どもの養護と教育①「子どもの養護-だっこ、おんぶ、おむつ、衣類」 第7回：子どもの養護と教育②「子どもの養護-沐浴、シャワー浴、清拭」 第8回：子どもの養護と教育③ 「子どもの養護-調乳と授乳、離乳食の与え方、清潔と感染予防、日常生活のケア」 第9回：子どもの養護と教育④「子どもの養護-演習」 第10回：子どもの体調不良への対応①「子どもの主な症状への対応」 第11回：子どもの体調不良への対応②「感染症の予防と対策、子どもと薬」 第12回：子どもの健康観察と健康管理③「個別の配慮を必要とする子どもへの支援」（レポートC） 第13回：保育における応急手当①「応急手当-講義と演習」 第14回：保育における応急手当①「一次救命-講義と演習」 第15回：望ましい保育環境と安全対策「屋内外の保育環境と災害への対策、危機管理」						
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	授業前準備学習：これまでの学修を終えた「子どもの保健ⅠA」「子どもの保健ⅠB」の内容を復習しておくこと。 演習の前には事前に行った講義の内容該当箇所を必ず復習し、スムーズに演習に挑めるように準備しておくこと（学習時間2時間） 授業後学習：講義の後は、次回の演習に備えて必ず復習・確認しておくこと。（学習時間2時間）						
授業方法	講義：毎回、テーマについてグループまたはペアによるディスカッションやロールプレイを行う。グループ（ペア）ワークの報告を踏まえ、重要事項について解説・講義を行う。 演習：講義で学修した実技項目についてグループまたはペアによる演習を行う。グループ（ペア）ワークの報告を踏まえ、重要事項について解説・講義を行う。 授業の事後学習には、松蔭manabaを利用してレポートを実施する。						
評価基準と評価方法	①演習、実技講習でのパフォーマンス40% ②レポート25% ③グループワークでのパフォーマンス35% 上記を総合的に評価するが、積極的に授業に参加する等の態度面を重視する。 ①演習、実技講習でのパフォーマンス：各テーマに関する知識の定着度合い、興味・関心の明確性・具体性、演習への取り組みの積極性、協働性について評価する。到達目標（1）（2）（3）（4）に関する到達度の確認 ②レポートA、B、C：子どもの発育・発達の評価、健康観察と健康管理、子どもの養護と教育、子どもの体調不良への対応、保育における応急手当、望ましい保育環境と安全対策についての理解度、それぞれのテーマに対する自らの興味・関心の明確性・具体性について評価する。到達目標（2）（3）（5）に関する到達度の確認 ③グループワーク、ペアワークでのパフォーマンス：各テーマに関する自らの興味・関心の明確性・具体性、グループワーク、ペアワークや発表における知識の定着度合い、積極性、協働性について評価する。到達目標（1）（2）（3）（4）（5）に関する到達度の確認。 課題に対するフィードバックの方法 優秀レポートについて翌週授業で紹介・解説する。						

評価基準と 評価方法	
履修上の注意	・ 演習中心の講義であるので、積極的に演習に参加する学生の受講を期待する。 ・ 2/3 以上の出席に満たない者は、単位認定を行わない。 ・ 遅刻、早退、途中退席等は、止む終えない場合を除き、認めない（20分以上の遅刻は欠席とみなす）。 ・ 演習を実施するのにふさわしい身だしなみや態度に注意すること。 ・ 欠席等でその項目の演習が出来ない場合は、別途日程を設定し、演習を行う。
教科書	『保育者のための わかりやすい 子どもの保健』，初版，飯島一誠監修，稲垣由子，本田順子，八木麻理子，978-4-88924-264-5
参考書	・ 『これだけはおさえたい！保育者のための子どもの保健Ⅱ』，初版，鈴木美枝子編著，978-4794480576 ・ 『平成29年告示幼稚園教育要領 保育所保育指針 幼保連携型認定こども園・保育要領 原本』内閣府，文部科学省，チャイルド本社，978-4805402580 ・ 『よくある子どもの病気・ケガまずの対応マニュアル：よくある症状への具体的な寄り添い方から保護者への伝え方まで（ハッピー保育アドバイス）』，新谷まさこ，初版，ひかりのくに，978-4564608520 ・ 『0～5歳児ケガと病気の予防・救急まるわかり安心BOOK』，金澤治，初版，ナツメ社，978-4816351884

科目区分	子ども発達学科専門教育科目						
科目名	子どもの保健Ⅱ／小児保健演習						
担当教員	垂髪 あかり					科目ナンバー	K74280
学期	前期／1st semester	曜日・時限	水曜2	配当学年	4	単位数	2.0
授業のテーマ	保育者として子どもの心とからだの健康づくりを担うという自覚を持ち、子どもの心身の健康を保持・増進するための保健的知識や技術・方法を実践的に身につける。						
授業の概要	この科目では保育所保育指針を参照しつつ、保育者として小児の基本的な保健知識を学ぶことで、小児の健康を保持・増進していくための実践力を身につける。子どもの発達段階と心身の健康状態に応じた支援の仕方を理解するため、講義と演習を取り入れて授業を展開する。演習では、現場の事例や実践などを取り入れながら学びを深めていく。さらに保育者として小児を取り巻く過程、地域、学校との連携推進を率先できる力を身につけられるよう図る。						
到達目標	1. 「子どもの保健Ⅰ」で学んだ理論・知識を実践できるための態度や技術・方法を身につける。（知識・理解／態度・志向性／汎用的技能） 2. 子どもの発育・発達の観察と評価、健康観察と健康管理が適切にできる。（知識・理解／態度・志向性／汎用的技能） 3. 子どもの養護、体調不良への対応、応急手当が適切にできる。（知識・理解／態度・志向性／汎用的技能） 4. 屋内外における望ましい保育環境と安全対策について説明できる。（知識・理解／汎用的技能） 5. 子どもの心とからだの健康づくりを、保育者として組織することができる。（知識・理解／態度・志向性／汎用的技能）						
授業計画	第1回：導入および子どもの発育・発達の観察と評価① 「演習の意義と心構え、乳児・幼児の計測法とその評価」 第2回：子どもの発育・発達の観察と評価②「乳児・幼児の計測の実践-演習」（レポートA） 第3回：子どもの発育・発達の観察と評価③「乳児・幼児の計測の評価」 第4回：子どもの健康観察と健康管理①「日常の保育における健康観察」 第5回：子どもの健康観察と健康管理②「健康診断と健康管理」（レポートB） 第6回：子どもの養護と教育①「子どもの養護-だっこ、おんぶ、おむつ、衣類」 第7回：子どもの養護と教育②「子どもの養護-沐浴、シャワー浴、清拭」 第8回：子どもの養護と教育③ 「子どもの養護-調乳と授乳、離乳食の与え方、清潔と感染予防、日常生活のケア」 第9回：子どもの養護と教育④「子どもの養護-演習」 第10回：子どもの体調不良への対応①「子どもの主な症状への対応」 第11回：子どもの体調不良への対応②「感染症の予防と対策、子どもと薬」 第12回：子どもの体調不良への対応③「個別の配慮を必要とする子どもへの支援」（レポートC） 第13回：保育における応急手当①「応急手当-講義と演習」 第14回：保育における応急手当②「一次救命-講義と演習」 第15回：望ましい保育環境と安全対策「屋内外の保育環境と災害への対策、危機管理」						
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	授業前準備学習：これまでの学修を終えた「子どもの保健ⅠA」「子どもの保健ⅠB」の内容を復習しておくこと。 演習の前には事前に行った講義の内容該当箇所を必ず復習し、スムーズに演習に挑めるように準備しておくこと（学習時間2時間） 授業後学習：講義の後には、次の演習に備えて必ず復習・確認しておくこと。（学習時間2時間）						
授業方法	講義：毎回、テーマについてグループまたはペアによるディスカッションやロールプレイを行う。グループ（ペア）ワークの報告を踏まえ、重要事項について解説・講義を行う。 演習：講義で学修した実技項目についてグループまたはペアによる演習を行う。グループ（ペア）ワークの報告を踏まえ、重要事項について解説・講義を行う。 授業の事後学習には、松蔭manabaを利用してレポートを実施する。						
評価基準と評価方法	①演習、実技講習でのパフォーマンス40% ②レポート25% ③グループワークでのパフォーマンス35% 上記を総合的に評価するが、積極的に授業に参加する等の態度面を重視する。 ①演習、実技講習でのパフォーマンス：各テーマに関する知識の定着度合い、興味・関心の明確性・具体性、演習への取り組みの積極性、協働性について評価する。到達目標（1）（2）（3）（4）に関する到達度の確認。 ②レポートA、B、C：子どもの発育・発達の評価、健康観察と健康管理、子どもの養護と教育、子どもの体調不良への対応、保育における応急手当、望ましい保育環境と安全対策についての理解度、それぞれのテーマに対する自らの興味・関心の明確性・具体性について評価する。到達目標（2）（3）（5）に関する到達度の確認。 ③グループワーク、ペアワークでのパフォーマンス：各テーマに関する自らの興味・関心の明確性・具体性、グループワーク、ペアワークや発表における知識の定着度合い、積極性、協働性について評価する。到達目標（1）（2）（3）（4）（5）に関する到達度の確認。 課題に対するフィードバックの方法 優秀レポートについて翌週授業で紹介・解説する。						

履修上の注意	・ 演習中心の講義であるので、積極的に演習に参加する学生の受講を期待する。 ・ 2/3 以上の出席に満たない者は、単位認定を行わない。 ・ 遅刻、早退、途中退席等は、止む終えない場合を除き、認めない（20分以上の遅刻は欠席とみなす）。 ・ 演習を実施するのにふさわしい身だしなみや態度に注意すること。 ・ 欠席等でその項目の演習が出来ない場合は、別途日程を設定し、演習を行う。
教科書	『保育者のための わかりやすい 子どもの保健』，初版，飯島一誠監修，稲垣由子，本田順子，八木麻理子，978-4-88924-264-5
参考書	・ 『これだけはおさえたい！保育者のための子どもの保健Ⅱ』，初版，鈴木美枝子編著，978-4794480576 ・ 『平成29年告示幼稚園教育要領 保育所保育指針 幼保連携型認定こども園・保育要領 原本』内閣府，文部科学省，チャイルド本社，978-4805402580 ・ 『よくある子どもの病気・ケガまずの対応マニュアル：よくある症状への具体的な寄り添い方から保護者への伝え方まで（ハッピー保育アドバイス）』，新谷まさこ，初版，ひかりのくに，978-4564608520 ・ 『0～5歳児ケガと病気の予防・救急まるわかり安心BOOK』，金澤治，初版，ナツメ社，978-4816351884

科目区分	子ども発達学科専門教育科目							
科目名	子ども発達実習							
担当教員	井上・根津・寺見・郭・水田・金丸					科目ナンバー	K01090	
学期	後期／2nd semester		曜日・時限	木曜2	配当学年	1	単位数	1.0
授業のテーマ	学校・保育・子育て支援現場での実地学習を行う。							
授業の概要	保育所、幼稚園、小学校、中学校、高等学校、特別支援施設の実際を見学する。見学の事前指導・事後指導では、全体指導や訪問時グループ別の指導など保育実習・教育実習といった将来の学びを見据えて、現場でのマナーはもちろん、実践を見る際の視点、子どもを観察する際の視点、観察記録の書き方などを学ぶ。複数の訪問先に応じて複数の教員が引率を行ったり、1単位時間の授業でも、前半は、各学校園・施設について教員を中心とした全体への指導を行い、後半は、各クラスに分かれて、訪問に関する指導を小グループで行うなど、教員が共同することで多様に学習形態を変えながら授業を進める。							
到達目標	①乳幼児・児童・生徒期の子どもの育ちと教育についてレポートにまとめることができる。 ②乳幼児・児童・生徒を援助するための保育・教育についてレポートにまとめることができる。 ③授業全体を通じて、教師や保育者の仕事について説明することができる。							
授業計画	保育所（代表：寺見）、幼稚園（代表：井上）、小学校（代表：根津）、中学校（代表：郭）、高等学校（代表：水田）、特別支援施設（代表：金丸）を中心に、見学と実地体験を行う。具体的な訪問順、および訪問先は授業開始までに確定する。 第1回 オリエンテーション 授業の進め方・レポートに関する説明（郭・金丸）、訪問上の注意（寺見、井上、根津、郭、水田、金丸） 第2回 事前指導（寺見、井上、根津、郭、水田、金丸）、および訪問に関する諸連絡（全教員） 第3回 現場見学と実地体験（1）：引率（全教員） 第4回 事後指導（寺見、井上、根津、郭、水田、金丸）とレポート作成（郭・金丸） 第5回 事前指導（寺見、井上、根津、郭、水田、金丸）、および訪問に関する諸連絡（全教員） 第6回 現場見学と実施体験（2）：引率（全教員） 第7回 事後指導（寺見、井上、根津、郭、水田、金丸）とレポート作成（郭・金丸） 第8回 事前指導（寺見、井上、根津、郭、水田、金丸）、および訪問に関する諸連絡（全教員） 第9回 現場見学と実施体験（3）：引率（全教員） 第10回 事後指導（寺見、井上、根津、郭、水田、金丸）とレポート作成（郭・金丸） 第11回 事前指導（寺見、井上、根津、郭、水田、金丸）、および訪問に関する諸連絡（全教員） 第12回 現場見学と実地体験（4）：引率（全教員） 第13回 事後指導（寺見、井上、根津、郭、水田、金丸）とレポート作成（郭・金丸） 第14回 全体に関するディスカッション（全教員） 第15回 まとめ（全教員）							
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	授業前準備学習：各訪問校種の事前学習で行う内容の予習（学習時間90分） 授業後学習：各訪問校種の事後学習の内容の確認・整理（学習時間90分）							
授業方法	講義およびグループディスカッション、実習見学							
評価基準と評価方法	学外実習レポート：80% 総括レポート：20%							
履修上の注意	学外見学が中心のため、出席および無遅刻で参加すること。提出物については、期限を厳守すること。							
教科書	無し。							
参考書	必要に応じて示す。							

科目区分	子ども発達学科専門教育科目						
科目名	子ども文化論						
担当教員	奥 美佐子					科目ナンバー	K72680
学期	後期／2nd semester	曜日・時限	火曜2	配当学年	2	単位数	2.0
授業のテーマ	子どもと想像の世界を共有する						
授業の概要	子ども文化の一つとして、紙芝居や人形劇は子どもたちに魅力ある環境を創造するものである。紙芝居は小さな劇場として物語を提供し、人形劇は子どもたちは命を吹き込まれた人形に心を開き、人形との応答を通して自己を表現する。教育的効果を踏まえて保育・教育に役立つように、この授業ではパペットやマリオネットで個々の表現を、グループの人形劇では台本作成、人形制作、演出、上演、相互評価を行う。また、人形劇作成のプロセスを通じてグループワークによる学生のコミュニケーション能力や表現力の育成を目指す。						
到達目標	(1) 絵本、紙芝居、人形劇の教育的効果を解説することができる。 (2) 絵本を基に人形劇の台本を作り、グループで人形劇を上演することができる。 (3) 自己評価、相互評価票を作成して、課題を具体的に述べるができる。						
授業計画	第1回 子ども文化論の概要 第2回 子ども文化と保育：紙芝居、人形劇を中心に ○人形と出会う 人形の種類、演じ方を知る 第3回 人形を作る：制作 第4回 即興で演じる 第5回 ○人形劇の発生と歴史、物語ることについて 絵本から台本を創る 第6回 人形劇鑑賞と人形劇の基本の講義（ゲストスピーカー招聘予定 人形劇団アニモさんの人形劇を鑑賞） 第7回 人形劇を創る：人形劇の構想 第8回 人形劇を創る：物語、話の展開と場面の絵コンテ、人形のデザイン 第9回 人形劇を創る：人形作成 第10回 人形劇を創る：人形作成 第11回 人形劇を創る：音声・背景などの製作 第12回 人形劇を創る：順次リハーサル 第13回 上演：前半グループの上演 第14回 上演：後半グループの上演 第15回 ○まとめと相互評価						
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	授業前学習：個人での学習回は、予告した次回の内容を指定した参考図書等で調べておくこと。（学習時間2時間） グループワークが中心の回は、グループごとの話し合いを十分にし、必要な検討項目について調べをし、材料・用具等の準備をすること。（学習時間：2時間） 授業後学習：個人での学習回は、授業で発生した各自の課題および振り返りをまとめ、次回提出に備えること。（学習時間2時間） グループワークの回は、全体の計画と照らしながら上演に向かって進め、リハーサルなどに充てること。（学習時間2時間）						
授業方法	演習						
評価基準と評価方法	個人の実演30%、台本作成・上演70%、相互評価レポートを加味して評価する。						
履修上の注意	制作するものによって個別に材料費が必要になる。美術教材として購入したもの。（1年次の図工実技Ⅰで購入した美術教材を、4年間におかれている美術系の授業で使用する）						
教科書	使用しない。適宜プリントを配布する。						
参考書	・紙芝居「おおきくおおきくおおきくなあれ」「だんごむしのころちゃん」など、子ども参加、自然、行事、昔話などのジャンルのもの。図書館に收藏。 ・「紙芝居－共感のよろこび」まついのりこ著 ISBN4-494-02235-7 他、必要に応じて授業内で紹介する。						

科目区分	子ども発達学科専門教育科目							
科目名	算数科研究							
担当教員	尾上 昭・大下 卓司					科目ナンバー	K71430	
学期	後期／2nd semester		曜日・時限	水曜3	配当学年	1	単位数	2.0
授業のテーマ	算数の楽しさを自ら体験する							
授業の概要	学習者が算数的・数学的な見方・考え方を働かせ、数学的に考えることができるように日常生活で用いる算数の基礎的事項をわかりなおす。こうした過程で、教師として指導する際のポイントを確認する。学生自らの算数数学の学びを土台に数の不思議さや面白さ、図形の美しさ、学習内容の系統性や移行・発展性の内容などを、数と計算・図形・測定・変化と関係・データの活用という小学校学習指導要領における各領域から考察し、理解していく。これにより、日常の事象を数理的に捉え、データに基づいて論理的・客観的に思考し、図や式、言葉として、簡潔・明瞭・的確に表す力を育成する。この科目はオムニバス方式とし、以下のように開講する。 (オムニバス方式／全15回) (尾上 昭／12回) 計算のポイント、測定のポイント、関数関係のポイント、グラフやデータの活用のポイントについて数学と関連付けながら学ぶ。日常生活と算数のかかわりについて学び、大人として必要な数理的な思考について学ぶ。また、誤って理解されることが多い内包量と概念などをトピックに、算数数学をわかりなおす過程を通じて、子どもが算数を学ぶ過程を考察する。 (大下 卓司／3回) 図形の性質とポイント、面積と体積の関係などについて理解しなおす。							
到達目標	算数の基本的な内容を理解するとともに、算数科教育の研究手法や楽しさを体得する。							
授業計画	第1回 オリエンテーション：授業内容説明。算数科の目標・内容。(担当：尾上) 第2回 小数や分数とは何か？その意味と計算のポイント(担当：尾上) 第3回 ことばと演算(加減乗除)の関係。(担当：尾上) 第4回 数の世界と量の世界(担当：尾上) 第5回 測定とは何か？測定のポイント(担当：尾上) 第6回 内包量とは何か？①パーセントを理解する(担当：尾上) 第7回 内包量とは何か？②速度や密度を使いこなす(担当：尾上) 第8回 関数とは何か？比例、反比例、一次関数を中心に(担当：尾上) 第9回 グラフやデータの活用のポイント(担当：尾上) 第10回 子どもの認知発達と算数数学(担当：尾上) 第11回 幼稚園児の遊びと算数の関係(4領域や算数的活動)を考える。(担当：尾上) 第12回 図形の性質とポイント(担当：大下) 第13回 図形と面積(担当：大下) 第14回 算数・数学教育研究の歴史(担当：大下) 第15回 試験と授業全体の振り返り(担当：尾上)							
授業外における学習(準備学習の内容・時間)	授業前準備学習：授業で扱う教科書の該当箇所を予習し、事前に指定するキーワードについて、指定した参考書等で下調べをする。(学習時間2時間) 授業後学習：授業で取り上げた内容の要点と重要箇所を確認・整理してレポートを作成し、松蔭manabaに投稿する。(学習時間2時間)							
授業方法	講義：授業テーマに基づき、グループまたはペアによる課題解決型のディスカッションを行う。グループワークやペアワークの結果発表やプレゼンテーションを踏まえて、重要事項について講義・解説を行う。							
評価基準と評価方法	授業毎の課題20% 試験80%							
履修上の注意	・ 関心や意欲を高め、自分なりの意見を持って授業に臨むこと。 ・ 2／3以上の出席に満たない者は、受験資格を失う。							
教科書	文部科学省 小学校学習指導要領 (平成29年3月)							

参考書	文部科学省 小学校学習指導要領解説 算数編 (平成29年7月)
-----	---------------------------------

科目区分	子ども発達学科専門教育科目						
科目名	算数科指導法						
担当教員	尾上 昭					科目ナンバー	K72320
学期	後期／2nd semester	曜日・時限	木曜5	配当学年	2	単位数	2.0
授業のテーマ	主体的・対話的で深い学びを目指した算数科授業を創る						
授業の概要	算数科における教材研究、個に応じたきめ細かな指導、指導と評価の一体化等をふまえ、グループやペアで「数と計算」「図形」「測定」「変化と関係」「データの活用」の5領域の指導計画や学習指導案を作成するとともに、学習指導案に基づいた模擬授業を行い、よりよい授業のありかた等について検討していく。						
到達目標	教材研究、指導計画、評価等について、算数科の基礎的な知識を習得できる。〔知識・理解〕 作成した学習指導案をもとに授業を行い、それを的確に分析・考察できる。〔汎用的技能〕 算数科学習に関心を持ち、よりよい授業実践に向けて主体的に考えようとする。〔態度・志向性〕						
授業計画	第1回 授業概要の説明、算数科における教材研究のありかたについて理解する。 第2回 算数科の系統性と指導計画、評価について考える。 第3回 新学習指導要領に基づいた算数科学習指導案作成のポイントについて考える。 第4回 主体的・対話的で深い学びと、問題解決型授業について考える①（理論） 第5回 小学校の授業のビデオを視聴し、算数科学習のありかたを理解する。 第6回 学習指導案の作成①：素案 グループごとに教材研究を行い、単元計画を立てる。 第7回 学習指導案の作成②：原案 グループごとに模擬授業で行う本時の展開と板書計画を立てる。 第8回 学習指導案の作成③：本案 グループごとに詳細に検討を深め、学習指導案を完成させる。 第9回 模擬授業①：グループごとに模擬授業を実施し、簡単な事後検討会を行う。 第10回 模擬授業②：グループごとに模擬授業を実施し、簡単な事後検討会を行う。 第11回 模擬授業③：グループごとに模擬授業を実施し、簡単な事後検討会を行う。 第12回 模擬授業を振り返り、質の高い単元構成に向けて議論する。 第13回 主体的・対話的で深い学びと、問題解決型授業について考える②（実践） 第14回 学習指導案を修正し、アクティブラーニングの観点に基づいた単元構成を計画する。 第15回 望ましい算数科学習のあり方と教師の役割についてレポートを作成する。						
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	授業前準備学習：授業計画からその講義内容を自分なりに予測し、興味・関心・意欲を持って、指定した参考書等で下調べをする。（学習時間2時間） 授業後学習：授業で取り上げた内容の要点と重要箇所を確認・整理してレポートを作成し、松蔭manabaに投稿する。（学習時間2時間）						
授業方法	授業テーマや授業計画に基づき、グループまたはペアによる課題解決型のディスカッションを行うとともに、学習指導案を作成する。グループワークやペアワークの結果発表や模擬授業を踏まえて、重要事項について講義・解説を行う。						
評価基準と評価方法	意欲 30% 授業中の態度やグループディスカッションでの取り組み状況等 知識 50% 学習指導案及びレポート等の作成状況等 適正 20% 模擬授業等の実践状況等						
履修上の注意	関心や意欲を持って学習指導案を作成し模擬授業に臨むこと。 2／3以上の出席に満たない者は、単位を認めない。						
教科書	文部科学省『小学校学習指導要領解説 算数編』日本文教出版						
参考書	文部科学省検定教科書『小学校算数』（6社） 「活用力・思考力・表現力を育てる 365日の算数学習指導案」清水廣監修 明治図書						

科目区分	子ども発達学科専門教育科目						
科目名	社会科研究						
担当教員	村岡 弘朗					科目ナンバー	K72490
学期	後期／2nd semester	曜日・時限	木曜4	配当学年	2	単位数	2.0
授業のテーマ	小学校社会科の理念と歴史的な変遷						
授業の概要	1. 小学校社会科の誕生から現在に至るまでの流れと学習指導要領の変遷、改訂の趣旨をもとに講義し、小学校社会科教育の理念を理解する。 2. 子どもが興味を持てる社会科の授業はどうあるべきか、教材研究を通して考える。						
到達目標	1. 社会科がめざす理念や目標を理解する。 2. 小学校社会科の各学年の学習内容について理解する。 3. 子どもが興味をもって授業に取り組めることができる教材の開発に取り組むことができる。						
授業計画	第1回 オリエンテーション 第2回 社会科のめざすもの（社会科の誕生～現在） 第3回 学習指導要領変遷における社会科（生活科・総合的な学習の誕生） 第4回 小学校社会科第3学年の目標と内容 第5回 小学校社会科第4学年の目標と内容 第6回 小学校社会科第5学年の目標と内容 第7回 小学校社会科第6学年の目標と内容 第8回 社会科で育成すべき資質・能力（指導と評価） 第9回 主体的で対話的な深い学び 第10回 社会科の教材研究（教科書・地図帳、手作り教材） 第11回 社会科の教材研究（地域教材、見学や調査活動） 第12回 社会科の教材研究（人物や文化遺産に着目した教材） 第13回 社会科の教材研究（政治単元から） 第14回 作成教材のプレゼンテーション 第15回 学習内容のまとめ、テスト						
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	・各授業後には、ノート整理や復習をする。（30時間） ・学習指導要領を熟読し、ノート等に各学年の目標や内容についてまとめる。（12時間） ・教材研究について、文献やニュース、身近な社会的事象から教材として価値のあるものを探し、教材化する。（12時間） ・テスト対策の学習（6時間）						
授業方法	講義、演習、グループ活動や討議、プレゼンテーション						
評価基準と評価方法	[基準] ・社会科の理念や歴史的な変遷、現行の学習指導要領で示されている社会科の目標や内容を理解できている。 ・各学年の目標と内容をふまえ、問題解決的な学習が出来るような教材を開発することができる。 [方法] ・授業中の学習課題に対して取り組む態度や発表。演習や授業のまとめ等の記述物。提出物（60%） ・テスト（40%）						
履修上の注意	授業回数の3分の1以上欠席した人は定期試験の受験資格を失う。						
教科書	・文部科学省「小学校学習指導要領解説 社会編」（平成29年告示） ・「楽しく学ぶ小学生の地図帳」 帝国書院						
参考書	・評価基準の作成、評価方法等の工夫改善のための参考資料（国立教育政策研究所教育課程研究センター著）						

科目区分	子ども発達学科専門教育科目						
科目名	社会科指導法						
担当教員	根津 隆男					科目ナンバー	K73360
学期	前期／1st semester	曜日・時限	木曜5	配当学年	3	単位数	2.0
授業のテーマ	「楽しく学べる社会科学学習のあり方を追求する」						
授業の概要	社会科を得意とする子供は多い、しかし社会科を苦手とする子供も少なくない。社会科はそれほど好き嫌いが極端な教科である。教師の中にも社会科の指導を苦手としているものが少なくない。それは社会が嫌いというよりは地域の特性などで教科書をそのままを使うことができないことなど、社会科の授業の進め方が分からないということに起因していると考えられる。そこで、覚えたり調べたりするだけの学習ではなく、驚きと疑問を解決していく「楽しく学べる社会学習」の指導法を、実際の模擬授業を通して目標に迫っていく。						
到達目標	「楽しい社会科授業づくり」の理論を構築し、子どもたちが満足して学習を終える授業づくりを、学習指導を案を作成したり、模擬授業を試みたりする体験的・実践的な学びを進める。						
授業計画	第1回：オリエンテーション：「社会科が好き」な子どもたちを目指して 第2回：学習指導要領：教育課程のよりどころとしての学習指導要領 第3回：社会科の指導について：問題解決学習と系統学習の関係について 第4回：社会科の目標と内容①：第3・4学年 第5回：社会科の目標と内容②：地図帳の活用について ゲストスピーカー招聘予定 第6回：地域学習、産業学習：身近な素材の教材化 第7回：歴史学習：人物中心の学習 第8回：社会科指導案の作成：目標、単元について、指導計画、評価計画の書き方 第9回：指導略案の作成①：子どもたちの驚きを「学習問題」に高めることを意識して 第10回：模擬授業①：3・4年生の地域学習「教科書の資料」の活用を中心に 第11回：指導略案の作成：板書の工夫を中心に 第12回：模擬授業②：5年生の産業学習「庄内平野の米づくり」 第13回：学習指導案の作成：単元の目標の確認と「単元について」の作成 第14回：模擬授業③：6年生の歴史学習「室町時代の政治と文化」 第15回：主体的対話的で深い学びを実現する授業とは？についてまとめる テスト						
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	小学校時代に使用した地図帳・教科書に目を通しておくこと						
授業方法	講義・演習						
評価基準と評価方法	平常点（授業への参加度・提出物） 30％ 演習（模擬授業・学習指導案） 30％ テスト点 40％ 履修カルテの評価は「意欲」「知識」「適性」の三つの観点で行う。						
履修上の注意	参加型の授業をするので、出席を大事にしてほしい 学習指導案などの提出物は、必ず提出すること						
教科書	小学校学習指導要領解説社会編（平成29年3月） 文部科学省 楽しく学ぶ小学生の地図帳 帝国書院						
参考書	小学校社会科教師の専門性育成 教育出版 東京学芸大学社会科教育研究室編 授業実践ナビ 社会 文溪堂 安野功著						

科目区分	子ども発達学科専門教育科目						
科目名	社会科指導法						
担当教員	根津 隆男					科目ナンバー	K73360
学期	前期／1st semester	曜日・時限	金曜3	配当学年	3	単位数	2.0
授業のテーマ	「楽しく学べる社会科学学習のあり方を追求する」						
授業の概要	社会科を得意とする子供は多い、しかし社会科を苦手とする子供も少なくない。社会科はそれほど好き嫌いが極端な教科である。教師の中にも社会科の指導を苦手としているものが少なくない。それは社会が嫌いというよりは地域の特性などで教科書をそのままを使うことができないことなど、社会科の授業の進め方が分からないということに起因していると考えられる。そこで、覚えたり調べたりするだけの学習ではなく、驚きと疑問を解決していく「楽しく学べる社会学習」の指導法を、実際の模擬授業を通して目標に迫っていく。						
到達目標	「楽しい社会科授業づくり」の理論を構築し、子どもたちが満足して学習を終える授業づくりを、学習指導を案を作成したり、模擬授業を試みたりする体験的・実践的な学びを進める。						
授業計画	第1回：オリエンテーション：「社会科が好き」な子どもたちを目指して 第2回：学習指導要領：教育課程のよりどころとしての学習指導要領 第3回：社会科の指導について：問題解決学習と系統学習の関係について 第4回：社会科の目標と内容①：第3・4学年 第5回：社会科の目標と内容②：地図帳の活用について ゲストスピーカー招聘予定 第6回：地域学習、産業学習：身近な素材の教材化 第7回：歴史学習：人物中心の学習 第8回：社会科指導案の作成：目標、単元について、指導計画、評価計画の書き方 第9回：指導略案の作成①：子どもたちの驚きを「学習問題」に高めることを意識して 第10回：模擬授業①：3・4年生の地域学習「教科書の資料」の活用を中心に 第11回：指導略案の作成：板書の工夫を中心に 第12回：模擬授業②：5年生の産業学習「庄内平野の米づくり」 第13回：学習指導案の作成：単元の目標の確認と「単元について」の作成 第14回：模擬授業③：6年生の歴史学習「室町時代の政治と文化」 第15回：主体的対話的で深い学びを実現する授業とは？についてまとめる テスト						
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	小学校時代に使用した地図帳・教科書に目を通しておくこと						
授業方法	講義・演習						
評価基準と評価方法	平常点（授業への参加度・提出物） 30％ 演習（模擬授業・学習指導案） 30％ テスト点 40％ 履修カルテの評価は「意欲」「知識」「適性」の三つの観点で行う。						
履修上の注意	参加型の授業をするので、出席を大事にしてほしい 学習指導案などの提出物は、必ず提出すること						
教科書	小学校学習指導要領解説社会編（平成29年3月） 文部科学省 楽しく学ぶ小学生の地図帳 帝国書院						
参考書	小学校社会科教師の専門性育成 教育出版 東京学芸大学社会科教育研究室編 授業実践ナビ 社会 文溪堂 安野功著						

--	--

科目区分	子ども発達学科専門教育科目							
科目名	社会的養護内容／養護内容演習							
担当教員	塚元 重範					科目ナンバー	K72220	
学期	後期 前半		曜日・時限	木曜1	配当学年	2	単位数	1.0
授業のテーマ	社会的養護を必要とする子どもの現状と援助の実際を通して、施設養護の専門性と子どもの理解、専門的なかわり方を学ぶ。							
授業の概要	児童福祉施設の役割や援助の実際を知り、施設に入所している子どもやその保護者、家族のこころの理解や基本的な応対を学ぶとともに適切な対応方法や対応の留意点を考える。							
到達目標	児童福祉施設の役割と援助の実際を理解し、基本的な役割を説明できる。 児童福祉施設に入所している子どもやその家族の心を理解し、施設職員としての役割や技術を理解し、基本的な援助の方法や指導の方法が説明できる。							
授業計画	第1回：オリエンテーション、児童の社会的養護の現状と施設入所の意義 第2回：施設養護と里親 第3回：養護内容の実践領域1（健康、食事、排泄等） 第4回：養護内容の実践領域2（衣服の着脱、清潔、睡眠等） 第5回：児童養護施設の子どもの特徴と子どもの心の理解 第6回：子どもの問題行動とその対応（他職種との連携） 第6回：発達課題と子どもへの指導の留意点 第7回：援助指針と支援計画、親・家族への関わりと支援 第8回：まとめと試験							
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	授業前準備学習：授業後に提示する課題に対し、児童養護や児童福祉施設に関連する新聞記事や社会的養護の教科書・参考書等を読んで、問題点などを考えるようにすること（1時間） 授業後学習：授業内でディスカッションした内容のまとめと解説・講義の中での内容のまとめについて報告文を作成し、次回提出すること（1時間）							
授業方法	講義とグループ討議 演習							
評価基準と評価方法	平常点 20％ 小レポート 30％ 試験 50％							
履修上の注意	授業に用いる資料、プリントは授業参加者に配布する							
教科書	随時、資料を配布							
参考書	基本保育シリーズ18 「社会的養護内容」 監修 公益財団法人児童育成協会 中央法規 児童の福祉を支える 演習「社会的養護内容」 編著 吉田眞理 萌文書林							

科目区分	子ども発達学科専門教育科目							
科目名	社会的養護内容／養護内容演習							
担当教員	塚元 重範					科目ナンバ－	K72220	
学期	後期 前半		曜日・時限	木曜2	配当学年	2	単位数	1.0
授業のテーマ	社会的養護を必要とする子どもの現状と援助の実際を通して、施設養護の専門性と子どもの理解、専門的なかわり方を学ぶ。							
授業の概要	児童福祉施設の役割や援助の実際を知り、施設に入所している子どもやその保護者、家族のこころの理解や基本的な応対を学ぶとともに適切な対応方法や対応の留意点を考える。							
到達目標	児童福祉施設の役割と援助の実際を理解し、基本的な役割を説明できる。 児童福祉施設に入所している子どもやその家族の心を理解し、施設職員としての役割や技術を理解し、基本的な援助の方法や指導の方法が説明できる。							
授業計画	第1回：オリエンテーション、児童の社会的養護の現状と施設入所の意義 第2回：施設養護と里親 第3回：養護内容の実践領域1（健康、食事、排泄等） 第4回：養護内容の実践領域2（衣服の着脱、清潔、睡眠等） 第5回：児童養護施設の子どもの特徴と子どもの心の理解 第6回：子どもの問題行動とその対応（他職種との連携） 第6回：発達課題と子どもへの指導の留意点 第7回：援助指針と支援計画、親・家族への関わりと支援 第8回：まとめと試験							
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	授業前準備学習：授業後に提示する課題に対し、児童養護や児童福祉施設に関連する新聞記事や社会的養護の教科書・参考書等を読んで、問題点などを考えるようにすること（1時間） 授業後学習：授業内でディスカッションした内容のまとめと解説・講義の中での内容のまとめについて報告文を作成し、次回提出すること（1時間）							
授業方法	講義とグループ討議 演習							
評価基準と評価方法	平常点 20％ 小レポート 30％ 試験 50％							
履修上の注意	授業に用いる資料、プリントは授業参加者に配布する							
教科書	随時、資料を配布							
参考書	基本保育シリーズ18 「社会的養護内容」 監修 公益財団法人児童育成協会 中央法規 児童の福祉を支える 演習「社会的養護内容」 編著 吉田眞理 萌文書林							

科目区分	子ども発達学科専門教育科目						
科目名	社会福祉／子ども発達Ⅳ（人権と福祉）						
担当教員	谷川 弘治					科目ナンバー	K73230
学期	前期／1st semester	曜日・時限	月曜5	配当学年	3	単位数	2.0
授業のテーマ	社会福祉の基礎を学ぶ						
授業の概要	子どもの健やかな成長・発達、安定した暮らしを基盤として、年齢に応じた社会参加を通じて促進されていく。しかし、人々が安定した暮らしを確保し、社会参加を進めていく過程で、さまざまな困難と向き合わざるをえないときがある。社会福祉はこのような状況にある人々が困難を解決していくことを支える制度と実践といえる。本授業では、社会福祉の理念と歴史、社会福祉の制度と実施体系、社会福祉における相談援助の概要、権利擁護と苦情解決・評価制度、社会福祉の現状と課題について学びを深めていく。						
到達目標	(1) 現代社会における社会福祉の意義と歴史の変遷を説明できる。 (2) 社会福祉の制度と実施体系を説明できる。 (3) 社会福祉における相談援助の概要を説明できる。 (4) 社会福祉における利用者保護の仕組みを説明できる。 (5) 社会福祉における子ども家庭支援の視点を説明できる。 (6) 社会福祉の動向と今日的課題を説明できる。						
授業計画	第1回 オリエンテーション／社会福祉の理念と歴史①社会福祉の理念と概要 第2回 社会福祉の理念と歴史②社会福祉の歴史の変遷 第3回 社会福祉の理念と歴史③基本的人権と社会福祉 第4回 社会福祉の制度と実施体系①社会福祉の法体系と制度（社会保険、公的扶助を含む） 第5回 社会福祉の制度と実施体系②社会福祉の行財政と計画（社会保険、公的扶助を含む） 第6回 社会福祉の制度と実施体系③社会福祉の実施機関 第7回 社会福祉の制度と実施体系④社会福祉事業と社会福祉施設 第8回 社会福祉の制度と実施体系⑤社会福祉専門職・実施者 第9回 小テスト／社会福祉における相談援助の概要 第10回 権利擁護と苦情解決・評価制度 第11回 社会福祉の現状と課題①孤立や貧困と地域ネットワークの構築 第12回 社会福祉の現状と課題②高齢・多死社会の到来 第13回 社会福祉の現状と課題③子ども・子育て支援の総合政策 第14回 社会福祉の現状と課題④ノーマライゼーションの現状と課題 第15回 社会福祉の現状と課題⑤国際化と多様性支援の現状と課題 期末テスト						
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	授業前準備学習： 事前にプレパレーションペーパーを配布し課題を提示するので、テキストの該当箇所、その他資料を用いて取り組み授業に参加する。授業計画はテキストの章立てと合わせてある。（学習時間30分程度） 授業後学習： 後ほどリアクションペーパーに対する解説を配付するので目を通し、他者（他の受講生）の視点に学ぶことが望ましい。（学習時間5分程度）						
授業方法	講義、プレパレーションペーパーの発表、ペアあるいはグループワーク、リアクションペーパーの解説などを組み合わせる。						
評価基準と評価方法	点数の配分 ・プレパレーションペーパー及びリアクションペーパー：30% ・小テスト：20% ・期末テスト 50% 採点基準 ・基本を押さえているが不十分である：6割前後 ・基本を押さえている：7割から8割まで ・発展性・独自性が認められる：8割から10割						
履修上の注意	プレパレーションペーパー、リアクションペーパー、資料類は適宜、出席者に配付する（第1回のプレパレーションペーパーは当日配布となる）。欠席者は谷川に連絡して入手すること。授業回数の3分の1以上を欠席したものは期末テストの受験資格を失うものとする。						
教科書	『社会福祉概論』、立花直樹・波多埜英治（編著）、ミネルヴァ書房、978-4623080847						
参考書	『はじめての社会保障 福祉を学ぶ人に』、棕野美智子・田中耕太郎、有斐閣、978-4641221123 『社会福祉概論 その基礎の学習のために』、西村昇・日開野博・山下正國、中央法規、978-4805854747 『社会福祉』、宇山勝義・小林理（編著）、光生館、978-4-332-60102-9 『相談援助』、倉石哲也・大竹智（編著）、ミネルヴァ書房、978-4-623-07928-5						

科目区分	子ども発達学科専門教育科目						
科目名	障害児保育／子ども発達III（障害児と環境）						
担当教員	谷川 弘治					科目ナンバー	K72210
学期	後期／2nd semester	曜日・時限	水曜3	配当学年	2	単位数	2.0
授業のテーマ	障害のある子どもと家族が、安定した生活の中で成長・発達していけるような保育を構成していくための考え方と方法を学ぶ。						
授業の概要	障害のある子どもの保育は、子どもの状態に応じた保育によって生活に適応し、発達が促進されるよう個別のかわりを含めた取り組みが必要となる。また、一緒に生活する子どもたちと共に発達していけるような配慮が必要となる。そのため、家族や専門機関との連携を行っていく必要がある。本講義では、これら障害児保育の基本課題を踏まえ、保育所において出会うことのある代表的な障害の基本的理解と合理的配慮を深めると共に、日々の保育実践の展開の方法を学ぶことから始める。その上で、保護者の支援、きょうだいの支援に保育士としてどのようにかかわるかについて、検討を進めていきたい。						
到達目標	(1) 障害のある子どもと家族が抱えがちな生活のし辛さを理解し、どのような配慮が求められるかについて説明できる。【知識・理解】 (2) 個々の子どもと家族の状況を把握し、特別な支援を含む適切な保育を保護者や関係者と共に構成し、展開していく方法を説明できる。【汎用的技能】 (3) 障害のある子どもの保護者は、保育士にとって共に子どもの生活を支え、発達を促進するパートナーであると共に、支えられるべき存在でもあることを理解し、保護者が子育てに自信をもつことができるような支援の進め方を説明できる。【知識・理解】 (4) 障害のある子どものきょうだいの支援について関心をもち、保育士としてできることを検討できる。【知識・理解】						
授業計画	第1回：障害のある子どもと保育 第2回：発達の個人差と偏り 第3回：障害のある子どもと家族の生活のし辛さとニーズを理解する①視覚障害、聴覚障害、肢体不自由 第4回：障害のある子どもと家族の生活のし辛さとニーズを理解する②知的障害、発達障害 第5回：障害のある子どもと家族の生活のし辛さとニーズを理解する③病弱・身体虚弱 第6回：支援方法を理解する①「心の支援」 第7回：支援方法を理解する②「発達論による支援」 第8回：支援方法を理解する③「行動への支援」 第9回：支援方法を理解する④「環境調整による支援」 第10回：支援方法を理解する⑤「家族及び周囲の人の連携による支援」 第11回：保護者の支援 第12回：きょうだいの支援 第13回：医療、福祉との連携 第14回：個別的教育支援計画 第15回：ケーススタディ 期末テスト						
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	授業前準備学習： 2回目以降のプレパレーションペーパーはあらかじめ配付するので、テキスト（あるいは配付資料）の指定箇所、その他文献・資料を参照して完成させ授業に参加する（学習時間30分程度）。 テキストの該当箇所は下記の通りである。 第1回 テキストlesson1 第2回 テキストlesson2, 3 第3回 テキストlesson4 第4回 テキストlesson4, lesson5 第5回 テキストlesson4 第6回 テキストlesson6 第7回 テキストlesson7 第8回 テキストlesson8 第9回 テキストlesson9 第10回 テキストlesson10 第11回 テキストlesson14 第12回 別途配付資料 第13回 別途配付資料 第14回 テキストlesson11, 12 第15回 テキストlesson13 授業後学習： リアクションペーパーに対する解説を配付するので目を通し、他者（他の受講生）の視点に学ぶことが望ましい（学習時間5分程度）。						
授業方法	講義、プレパレーションペーパーの発表、ペアあるいはグループワーク、リアクションペーパーの解説などを組み合わせる。						
評価基準と評価方法	定期試験50％、レポート35％、発表・提出物15％ 発表・提出物は、グループワークの成果物やリアクションペーパーをさす。						

履修上の注意	プレパレーションペーパー、リアクションペーパー、その他資料は適宜、出席者に配付する。 (第1回のプレパレーションペーパーは当日配布となる)。欠席者は谷川に連絡して入手すること。 授業回数の3分の1以上を欠席したものは期末試験の受験資格を失うものとする。
教科書	『障害児保育ワークブック』、星山麻木(編)、萌文書林、978-4-89347-250-2
参考書	・『障害のある子の支援計画作成事例集 発達を支える障がい児支援利用計画と個別支援計画』、日本相談支援専門員協会(編)、中央法規、978-4-8058-5292-7 ・『基礎から学ぶ障害児保育』、小川英彦(編)、ミネルヴァ書房、978-4-623-07991-9 ・『障害児保育』、第2版、鯨岡峻(編)、ミネルヴァ書房、978-4-623-06549-3 ・『保育者のためのテキスト 障害児保育』、近藤直子・白石正久・中村尚子(編)、全障研出版部、978-4-88134-125-4 ・『医療保育セミナー』、日本医療保育学会(編)、健帛社、978-4-7679-5033-4

科目区分	子ども発達学科専門教育科目						
科目名	障害児保育／子ども発達III（障害児と環境）						
担当教員	谷川 弘治					科目ナンバー	K72210
学期	後期／2nd semester	曜日・時限	水曜4	配当学年	2	単位数	2.0
授業のテーマ	障害のある子どもと家族が、安定した生活の中で成長・発達していけるような保育を構成していくための考え方と方法を学ぶ。						
授業の概要	障害のある子どもの保育は、子どもの状態に応じた保育によって生活に適応し、発達が促進されるよう個別のかわりを含めた取り組みが必要となる。また、一緒に生活する子どもたちと共に発達していけるような配慮が必要となる。そのため、家族や専門機関との連携を行っていく必要がある。本講義では、これら障害児保育の基本課題を踏まえ、保育所において出会うことのある代表的な障害の基本的理解と合理的配慮を深めると共に、日々の保育実践の展開の方法を学ぶことから始める。その上で、保護者の支援、きょうだいの支援に保育士としてどのようにかかわるかについて、検討を進めていきたい。						
到達目標	(1) 障害のある子どもと家族が抱えがちな生活のし辛さを理解し、どのような配慮が求められるかについて説明できる。【知識・理解】 (2) 個々の子どもと家族の状況を把握し、特別な支援を含む適切な保育を保護者や関係者と共に構成し、展開していく方法を説明できる。【汎用的技能】 (3) 障害のある子どもの保護者は、保育士にとって共に子どもの生活を支え、発達を促進するパートナーであると共に、支えられるべき存在でもあることを理解し、保護者が子育てに自信をもつことができるような支援の進め方を説明できる。【知識・理解】 (4) 障害のある子どものきょうだいの支援について関心をもち、保育士としてできることを検討できる。【知識・理解】						
授業計画	第1回：障害のある子どもと保育 第2回：発達の個人差と偏り 第3回：障害のある子どもと家族の生活のし辛さとニーズを理解する①視覚障害、聴覚障害、肢体不自由 第4回：障害のある子どもと家族の生活のし辛さとニーズを理解する②知的障害、発達障害 第5回：障害のある子どもと家族の生活のし辛さとニーズを理解する③病弱・身体虚弱 第6回：支援方法を理解する①「心の支援」 第7回：支援方法を理解する②「発達論による支援」 第8回：支援方法を理解する③「行動への支援」 第9回：支援方法を理解する④「環境調整による支援」 第10回：支援方法を理解する⑤「家族及び周囲の人の連携による支援」 第11回：保護者の支援 第12回：きょうだいの支援 第13回：医療、福祉との連携 第14回：個別的教育支援計画 第15回：ケーススタディ 期末テスト						
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	授業前準備学習： 2回目以降のプレパレーションペーパーはあらかじめ配付するので、テキスト（あるいは配付資料）の指定箇所、その他文献・資料を参照して完成させ授業に参加する（学習時間30分程度）。 テキストの該当箇所は下記の通りである。 第1回 テキストlesson1 第2回 テキストlesson2, 3 第3回 テキストlesson4 第4回 テキストlesson4, lesson5 第5回 テキストlesson4 第6回 テキストlesson6 第7回 テキストlesson7 第8回 テキストlesson8 第9回 テキストlesson9 第10回 テキストlesson10 第11回 テキストlesson14 第12回 別途配付資料 第13回 別途配付資料 第14回 テキストlesson11, 12 第15回 テキストlesson13 授業後学習： リアクションペーパーに対する解説を配付するので目を通し、他者（他の受講生）の視点に学ぶことが望ましい（学習時間5分程度）。						
授業方法	講義、プレパレーションペーパーの発表、ペアあるいはグループワーク、リアクションペーパーの解説などを組み合わせる。						
評価基準と評価方法	定期試験50％、レポート35％、発表・提出物15％ 発表・提出物は、グループワークの成果物やリアクションペーパーをさす。						

履修上の注意	プレパレーションペーパー、リアクションペーパー、その他資料は適宜、出席者に配付する。 (第1回のプレパレーションペーパーは当日配布となる)。欠席者は谷川に連絡して入手すること。 授業回数の3分の1以上を欠席したものは期末試験の受験資格を失うものとする。
教科書	『障害児保育ワークブック』、星山麻木(編)、萌文書林、978-4-89347-250-2
参考書	・『障害のある子の支援計画作成事例集 発達を支える障がい児支援利用計画と個別支援計画』、日本相談支援専門員協会(編)、中央法規、978-4-8058-5292-7 ・『基礎から学ぶ障害児保育』、小川英彦(編)、ミネルヴァ書房、978-4-623-07991-9 ・『障害児保育』、第2版、鯨岡峻(編)、ミネルヴァ書房、978-4-623-06549-3 ・『保育者のためのテキスト 障害児保育』、近藤直子・白石正久・中村尚子(編)、全障研出版部、978-4-88134-125-4 ・『医療保育セミナー』、日本医療保育学会(編)、健帛社、978-4-7679-5033-4

科目区分	子ども発達学科専門教育科目						
科目名	児童家庭福祉／子ども発達Ⅱ（児童福祉）						
担当教員	塚元 重範					科目ナンバー	K72150
学期	前期／1st semester	曜日・時限	木曜5	配当学年	2	単位数	2.0
授業のテーマ	児童家庭福祉の意義と役割						
授業の概要	子どもの捉え方を歴史的経緯の中で理解し、現代社会における子どもや家庭の問題とそれに対応する児童家庭福祉の理念、制度、仕組みについて学ぶ。						
到達目標	児童家庭福祉の理念、仕組み、法律、制度を理解し、主たる法律、制度を列举できる。 現代の子どもと家庭を取り巻く環境について考え、児童問題とそれに対応する児童家庭福祉制度やサービスについて理解し、活用の仕方について説明できる。 児童家庭福祉の現状と課題を理解し、今後の展望について考えることができる。						
授業計画	第1回：オリエンテーション、児童家庭福祉の考え方 第2回：児童家庭福祉を取り巻く状況 第3回：子どもの人権 第4回：児童家庭福祉の歴史（外国） 第5回：児童家庭福祉の歴史（日本） 第6回：児童家庭福祉の法体系 第7回：児童家庭福祉の行政、機関、施設 第8回：保育サービス 第9回：ひとり親家庭への福祉サービス 第10回：子ども虐待の防止とその対応 第11回：社会的養護を必要とする子どもへの福祉施策 第12回：障害がある子どもへの福祉施策 第13回：非行問題を抱える子どもへの支援 第14回：児童家庭福祉の専門職と連携 第15回：まとめと試験						
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	授業前準備学習：毎回、授業を受ける前に必ず教科書の該当箇所を読んで下調べをしておくこと（学習時間：1時間） 授業後学習：授業内で指示した課題について報告文を作成し、次回提出すること（学習時間：1時間） また、日頃から児童問題に関心を持ち、新聞などで児童問題に関する記事が出たら何が問題なのか自分なりに考えるようにしておくこと。						
授業方法	講義：各回当日の講義内容のテーマに関する課題に対し、グループもしくはペアによるディスカッションを行い、その内容を代表が発表する						
評価基準と評価方法	平常点 30％ 小レポート 20％ 試験 50％						
履修上の注意	資料の配布は各回の出席者のみ配布する。						
教科書	みらい×子どもの福祉ブックス 「児童家庭福祉」 喜多一憲 監修 堀場純矢 編集 みらい ISBN978-4-86015-419-6 C3036						
参考書							

科目区分	子ども発達学科専門教育科目						
科目名	図工科研究						
担当教員	奥 美佐子					科目ナンバー	K72480
学期	前期／1st semester	曜日・時限	水曜2	配当学年	2	単位数	2.0
授業のテーマ	美術教育（造形表現・図画工作・美術）の意義について考える						
授業の概要	美術教育は保育所・幼稚園では造形表現、小学校では図画工作という名称になっている。この授業では美術教育を具体的なイメージを持って理解し、子どもの造形・図画工作の意味と意義について検証するために、美術教育の理念、美術教育史、教育要領・学習指導要領、子どもの造形表現の発達と表現形式について基本的な知識を得るとともに、表現と鑑賞の関係、児童の理解と教師の役割について考える。造形表現・図画工作科の基本的な考えを、理論・事例研究・実技を通して学ぶ。						
到達目標	(1) 美術教育の歴史や教育要領・学習指導要領を説明することができる。 (2) 子どもの美術表現の特質を示し、事例を通じて解説することができる。 (3) 表現と鑑賞の関係を学び、子どもの作品及び自分の作品を評価することができる。						
授業計画	第1回 子どもの表現と美的経験 第2回 幼児造形教育・図工科教育の理念と目標 第3回 美術教育の潮流(1)：美術教育の変遷 第4回 美術教育の潮流(2)：現代の潮流…美術教育史から見た課題 第5回 子どもの表現の事例研究(1)：造形表現の発達との関連を見る・低学年 第6回 子どもの表現の事例研究(2)：造形表現の発達との関連を見る・中、高学年 第7回 教育要領・学習指導要領概説、図画工作科の指導計画 第8回 子どもの活動の研究(1)：造形遊びの実践 第9回 子どもの活動の研究(2)：実践の考察と相互評価 第10回 子どもの活動の研究(3)：絵に表す実践 第11回 子どもの活動の研究(4)：実践の考察と相互評価 第12回 子どもの活動の研究(5)：立体に表す 第13回 子どもの活動の研究(6)：実践の考察と相互評価 第14回 鑑賞教育：鑑賞と表現の関係について考える 第15回 図工科教育の課題：グループディスカッション及び講評						
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	授業前学習：授業計画に従って授業毎に必要な次回の課題を提示する。課題のキーワードを参考図書等で調べておくこと。材料用具が必要な場合は、それらの教材研究を各回ごとにし、次回授業の理解に役立つようにしておくこと。（学習時間2時間） 授業後学習：授業回ごとに小課題を課す。各回の内容を系統的にまとめ、ファイルに蓄積しておくこと。最終的にファイルは提出する。（学習時間2時間）						
授業方法	講義・演習						
評価基準と評価方法	課題に取り組む姿勢及び活動に関わるレポート等の提出物60%、作品40%で評価する。						
履修上の注意	履修者は基本的な美術教材（1年次の図工実技Ⅰで購入し、4年間の美術系科目共通で使用する）を全員購入しておくこと。各回に必要な教材については随時伝達するので、各自必ず準備すること。						
教科書	山口善雄・佐藤昌彦・奥村高明編著『小学校図画工作科教育法』建帛社 ISBN978-4-7679-2113-6 C3037 文部科学省『小学校学習指導要領図画工作編』日本文教出版 ISBN978-4-536-59011-2 C3037 文部科学省『幼稚園教育要領』フレーベル館 ISBN978-4-577-81240-2 C3037						
参考書	『ニュー・ベーシック・アート・シリーズ』 TASCHEN：70人以上の芸術家の作品等が紹介されている その他必要に応じて授業内で紹介する。						

科目区分	子ども発達学科専門教育科目						
科目名	図工科研究						
担当教員	奥 美佐子					科目ナンバー	K72480
学期	前期／1st semester	曜日・時限	水曜3	配当学年	2	単位数	2.0
授業のテーマ	美術教育（造形表現・図画工作・美術）の意義について考える						
授業の概要	美術教育は保育所・幼稚園では造形表現、小学校では図画工作という名称になっている。この授業では美術教育を具体的なイメージを持って理解し、子どもの造形・図画工作の意味と意義について検証するために、美術教育の理念、美術教育史、教育要領・学習指導要領、子どもの造形表現の発達と表現形式について基本的な知識を得るとともに、表現と鑑賞の関係、児童の理解と教師の役割について考える。造形表現・図画工作科の基本的な考えを、理論・事例研究・実技を通して学ぶ。						
到達目標	(1) 美術教育の歴史や教育要領・学習指導要領を説明することができる。 (2) 子どもの美術表現の特質を示し、事例を通じて解説することができる。 (3) 表現と鑑賞の関係を学び、子どもの作品及び自分の作品を評価することができる。						
授業計画	第1回 子どもの表現と美的経験 第2回 幼児造形教育・図工科教育の理念と目標 第3回 美術教育の潮流(1)：美術教育の変遷 第4回 美術教育の潮流(2)：現代の潮流…美術教育史から見た課題 第5回 子どもの表現の事例研究(1)：造形表現の発達との関連を見る・低学年 第6回 子どもの表現の事例研究(2)：造形表現の発達との関連を見る・中、高学年 第7回 教育要領・学習指導要領概説、図画工作科の指導計画 第8回 子どもの活動の研究(1)：造形遊びの実践 第9回 子どもの活動の研究(2)：実践の考察と相互評価 第10回 子どもの活動の研究(3)：絵に表す実践 第11回 子どもの活動の研究(4)：実践の考察と相互評価 第12回 子どもの活動の研究(5)：立体に表す 第13回 子どもの活動の研究(6)：実践の考察と相互評価 第14回 鑑賞教育：鑑賞と表現の関係について考える 第15回 図工科教育の課題：グループディスカッション及び講評						
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	授業前学習：授業計画に従って授業毎に必要な次回の課題を提示する。課題のキーワードを参考図書等で調べておくこと。材料用具が必要な場合は、それらの教材研究を各回ごとにし、次回授業の理解に役立つようにしておくこと。（学習時間2時間） 授業後学習：授業回ごとに小課題を課す。各回の内容を系統的にまとめ、ファイルに蓄積しておくこと。最終的にファイルは提出する。（学習時間2時間）						
授業方法	講義・演習						
評価基準と評価方法	課題に取り組む姿勢及び活動に関わるレポート等の提出物60%、作品40%で評価する。						
履修上の注意	履修者は基本的な美術教材（1年次の図工実技Ⅰで購入し、4年間の美術系科目共通で使用する）を全員購入しておくこと。各回に必要な教材については随時伝達するので、各自必ず準備すること。						
教科書	山口善雄・佐藤昌彦・奥村高明編著『小学校図画工作科教育法』建帛社 ISBN978-4-7679-2113-6 C3037 文部科学省『小学校学習指導要領図画工作編』日本文教出版 ISBN978-4-536-59011-2 C3037 文部科学省『幼稚園教育要領』フレーベル館 ISBN978-4-577-81240-2 C3037						
参考書	『ニュー・ベーシック・アート・シリーズ』 TASCHEN：70人以上の芸術家の作品等が紹介されている その他必要に応じて授業内で紹介する。						

科目区分	子ども発達学科専門教育科目						
科目名	図工科指導法						
担当教員	奥 美佐子					科目ナンバー	K73390
学期	後期／2nd semester	曜日・時限	火曜3	配当学年	3	単位数	2.0
授業のテーマ	「図画工作」の授業を構想し実践する						
授業の概要	柔軟な発想で児童の表現を捉えることができるように、多様な授業場面や児童の表現を実践例を通して学ぶ。図画工作科の教育内容を理解し、図工科研究で学んだ図工科の基本理念を反映して、授業の計画立案、実施、評価を実践的に行う。指導案を作成しそれに基づいて制作した作品をプレゼンテーションすることを含めた模擬授業を行う。						
到達目標	(1) 学習指導要領の目標と内容を解説することができる。 (2) 題材、材料・用具、表現方法などを対象に合わせて選択し、指導案を作成することができる。 (3) 作例を制作し、指導案に沿って模擬授業を行うことができる。						
授業計画	第1回 学習指導要領における教科の位置付け 第2回 「楽しい造形活動・造形遊び」の指導と評価 (1) : 低学年～中学年の学年別目標を見据えて 第3回 「楽しい造形活動・造形遊び」の指導と評価 (2) : 高学年の学年別目標を見据えて 第4回 「絵に表す」の指導と評価 (1) : 低学年の学年別目標を見据えて 第5回 「絵に表す」の指導と評価 (2) : 中学年～高学年の学年別目標を見据えて (指導の実際: ゲストスピーカーの講義を中心に) 第6回 「立体や工作に表す」の指導と評価 第7回 「鑑賞」の指導と評価 第8回 指導案の作成と授業の準備 (1) 指導案作成 第9回 指導案の作成と授業の準備 (2) 授業案に基づく授業の準備 第10回 学生グループによる模擬授業 (1) 例 : 立体 第11回 学生グループによる模擬授業 (2) : 造形遊び 第12回 学生グループによる模擬授業 (3) : 絵画 第13回 学生グループによる模擬授業 (4) : 工作 第14回 学生グループによる模擬授業 (5) : 鑑賞 第15回 まとめ: 図画工作科における教師の役割・指導と評価						
授業外における学習 (準備学習の内容・時間)	授業前学習: 授業計画に従って授業毎に必要な次の課題を提示する。各回のシラバスのタイトルにあるワードを参考図書等で調べて理解しておくこと。(学習時間2時間) 授業後学習: 授業ごとに事後学習用の小課題を課す。各自学習し次回提出する。(学習時間2時間) グループワークの場合は、事後にグループ毎の話し合いをし、問題解決しなかったことについては次回授業で検討する。(学習時間2時間)						
授業方法	演習						
評価基準と評価方法	模擬授業関連の作品・活動に関わるレポート、発表、模擬授業等80%、日常の提出物、参加態度等20%で評価する。						
履修上の注意	履修者は基本的な美術教材 (1年次の図工実技 I で購入し、4年間の美術系科目共通で使用する。) を全員購入すること。 各回に必要な教材については随時伝達するので、各自準備すること。						
教科書	小学校図工科教育法』山口善雄・佐藤昌彦・奥村高明編著、建帛社 ISBN 978-4-7679-2113-6 C3037 文部科学省『小学校学習指導要領図画工作編』日本文教出版 ISBN978-4-536-59011- 2C3037						
参考書	図画工作教科書: 日本文教出版 1、2年 (上下)、3、4年 (上下)、5、6年 (上下) 開隆堂 1、2年 (上下)、3、4年 (上下)、5、6年 (上下) その他、適宜紹介する。						

科目区分	子ども発達学科専門教育科目						
科目名	生活科研究						
担当教員	秋山 麗子					科目ナンバー	K72460
学期	前期／1st semester	曜日・時限	金曜3	配当学年	2	単位数	2.0
授業のテーマ	生活科の創設の背景や意図、ねらいや内容及びその変遷について理解する。						
授業の概要	生活科は、児童の生活圏を学習の対象や場とし、具体的な活動や体験の中で得た気付きから、自立の基礎を養うことを目的としている。本講義では、小学校の第1、2学年における生活科教育の在り方や、幼児期の教育と連携や接続を意識したスタートカリキュラムの在り方などを学ぶことを目的とする。						
到達目標	(1) 生活科の創設の背景や趣旨、ねらい、特徴等について理解する。 (2) カリキュラムマネジメントの視点からスタートカリキュラムについて理解する。 (3) 自分なりに生活科の授業観・学習観をもつことができる。						
授業計画	第1回 オリエンテーション：授業概要とアイスブレイキング 第2回 生活科学習の想起と特徴 第3回 戦後の教育の主な流れ：学習指導要領の変遷 第4回 生活科の創設：その背景や意図、ねらい 第5回 生活科の特徴：教科学習や合科的な学習、総合的な学習の時間との違い 第6回 新学習指導要領のめざすこと：「主体的で対話的な深い学び」 第7回 生活科改訂の要点：具体的な活動や体験を通して育成する資質・能力 第8回 生活科の目標：生活科が目指す児童の姿 第9回 生活科の内容：第1、第2学年における内容構成・留意事項 第10回 生活科の学習：具体的な授業の流れ及び学習の実際 第11回 生活科における教師の役割：学習場面における教師の働きかけ 第12回 生活科のカリキュラム構成：単元や年間指導計画の作成 第13回 生活科におけるカリキュラムマネジメント：幼児期教育や中学年の教科等との接続 第14回 生活科の評価：目標に向けた指導と評価の一体化 第15回 まとめ：望ましい生活科教育の在り方の総括及びレポート提出						
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	授業前学習：授業計画にそって、資料や教科書の該当する箇所を読み、授業内容に対して自分なりの考えをもって授業に臨む（学習時間2時間）。 授業後学習：授業に使ったワークシートや資料を読み返し、要点をまとめたり覚えたりしておくとともに、各回の授業のキーワードについて文章にまとめるなどして理解を確かにする（学習時間2時間）。						
授業方法	生活科創設及び改訂の背景や意図、ねらい等についての授業、グループワークや発表、ディスカッション						
評価基準と評価方法	・平常点 60%（授業やグループ発表における意欲・関心・態度、小テスト、授業のワークシートや意見・感想等） ・レポート 40%（生活科研究に関する内容、グループ研究等）						
履修上の注意	1. 資料は、各回の出席者のみに配布する。（欠席の時は、翌週の授業時に限り再配布する） 2. 20分以上遅刻の場合は欠席とする。						
教科書	田村学『平成29年度版 小学校新学習指導要領の展開』明治図書出版（2017年） ISBN978-4-18-328214-9						
参考書	『小学校学習指導要領解説 生活編』文部科学省 平成29年6月						

科目区分	子ども発達学科専門教育科目						
科目名	生活科研究						
担当教員	秋山 麗子					科目ナンバー	K72460
学期	前期／1st semester	曜日・時限	金曜4	配当学年	2	単位数	2.0
授業のテーマ	生活科の創設の背景や意図、ねらいや内容及びその変遷について理解する。						
授業の概要	生活科は、児童の生活圏を学習の対象や場とし、具体的な活動や体験の中で得た気付きから、自立の基礎を養うことを目的としている。本講義では、小学校の第1、2学年における生活科教育の在り方や、幼児期の教育と連携や接続を意識したスタートカリキュラムの在り方などを学ぶことを目的とする。						
到達目標	(1) 生活科の創設の背景や趣旨、ねらい、特徴等について理解する。 (2) カリキュラムマネジメントの視点からスタートカリキュラムについて理解する。 (3) 自分なりに生活科の授業観・学習観をもつことができる。						
授業計画	第1回 オリエンテーション：授業概要とアイスブレイキング 第2回 生活科学習の想起と特徴 第3回 戦後の教育の主な流れ：学習指導要領の変遷 第4回 生活科の創設：その背景や意図、ねらい 第5回 生活科の特徴：教科学習や合科的な学習、総合的な学習の時間との違い 第6回 新学習指導要領のめざすこと：「主体的で対話的な深い学び」 第7回 生活科改訂の要点：具体的な活動や体験を通して育成する資質・能力 第8回 生活科の目標：生活科が目指す児童の姿 第9回 生活科の内容：第1、第2学年における内容構成・留意事項 第10回 生活科の学習：具体的な授業の流れ及び学習の実際 第11回 生活科における教師の役割：学習場面における教師の働きかけ 第12回 生活科のカリキュラム構成：単元や年間指導計画の作成 第13回 生活科におけるカリキュラムマネジメント：幼児期教育や中学年の教科等との接続 第14回 生活科の評価：目標に向けた指導と評価の一体化 第15回 まとめ：望ましい生活科教育の在り方の総括及びレポート提出						
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	授業前学習：授業計画にそって、資料や教科書の該当する箇所を読み、授業内容に対して自分なりの考えをもって授業に臨む（学習時間2時間）。 授業後学習：授業に使ったワークシートや資料を読み返し、要点をまとめたり覚えたりしておくとともに、各回の授業のキーワードについて文章にまとめるなどして理解を確かにする（学習時間2時間）。						
授業方法	生活科創設及び改訂の背景や意図、ねらい等についての授業、グループワークや発表、ディスカッション						
評価基準と評価方法	・平常点 60%（授業やグループ発表における意欲・関心・態度、小テスト、授業のワークシートや意見・感想等） ・レポート 40%（生活科研究に関する内容、グループ研究等）						
履修上の注意	1. 資料は、各回の出席者のみに配布する。（欠席の時は、翌週の授業時に限り再配布する） 2. 20分以上遅刻の場合は欠席とする。						
教科書	田村学『平成29年度版 小学校新学習指導要領の展開』明治図書出版（2017年） ISBN978-4-18-328214-9						
参考書	『小学校学習指導要領解説 生活編』文部科学省 平成29年6月						

科目区分	子ども発達学科専門教育科目						
科目名	生活科指導法						
担当教員	秋山 麗子					科目ナンバー	K72340
学期	後期／2nd semester	曜日・時限	金曜2	配当学年	2	単位数	2.0
授業のテーマ	生活科における望ましい授業実践の在り方や方法の追求						
授業の概要	生活科の目標や内容、方法などから、他教科との違いや特徴を理解し、それらを活かした教材研究や学習指導案の作成及び模擬授業などを行う。そして、授業に行ける学習形態や指導・支援の在り方並びに教師の働きかけなども学びながら、より望ましい生活科の授業構想や学習指導方法・技術を探求する。						
到達目標	生活科における具体的な教材研究を通して、生活科のカリキュラム構成や学習指導案の作成及び授業実践などの力を身に付けることができる。						
授業計画	第1回：オリエンテーション：授業概要とアイス・ブレーキング 第2回：生活科の内容の全体構成の理解 第3回：生活科学学習指導案作成に当たって：単元目標、児童観、教材観、指導観等 第4回：生活科の授業で扱う教材や学習素材について 第5回：生活科学学習素材についての調査研究、発表準備 第6回：調査研究のグループ発表 ① 第7回：調査研究のグループ発表 ② 第8回：生活科指導案及び略案の作成のしかた 第9回：生活科の略案作成の実際 第10回：模擬授業の計画(略案の作成、準備、練習) 第11回：模擬授業(栽培活動)の実施及び討議、指導案の修正 第12回：模擬授業(観察活動)の実施及び討議、指導案の修正 第13回：模擬授業(探検活動)の実施及び討議、指導案の修正 第14回：模擬授業(スタートカリキュラム)の実施及び討議、指導案の修正 第15回：まとめ：生活科学学習における教師の役割について、学期末テスト						
授業外における学習(準備学習の内容・時間)	・授業前学習：授業計画にそって授業までに内容を予想し、自分の考えをもって当日の授業に臨む。また、授業に必要なレポートなどを期日までに作成する(学習時間2時間)。 ・授業後学習：毎回の授業のワークシートや資料を読み返して要点をまとめたり、模擬授業について振り返り修正点を検討するなど、生活科の授業実践力をつける(学習時間2時間)。						
授業方法	基礎的・基本的な知識や技能の獲得に向けた講義内容と共に、k調剤研究や学習指導案の作成及び模擬授業の実施などをグループで行い、全体に発表したり討議をしたりする。						
評価基準と評価方法	・平常点 40%(授業での意欲・関心・態度及び授業の感想や意見、模擬授業やグループ発表等に取り組む姿勢、教材や指導案作成時の取り組み状況等) ・作成した提出物 30%(作成した学習指導案や教材等) ・学期末テスト、レポート 30%(望ましい生活科学学習に向けた単元構成や展開案、生活科学学習についての基本的な知識理解のテスト等)						
履修上の注意	1. 資料等は、各回の出席者のみに配布する。(欠席者は、翌週の授業時にのみ配布する) 2. 20分以上の遅刻は欠席とする。						
教科書	『平成29年度版 小学校新学習指導要領の展開 生活編』田村学著 明治図書出版 2017 ISBN978-4-328214-9						
参考書	生活科の教科書(啓林館、東京書籍など) 『小学校学習指導要領解説 生活編』文部科学省 平成29年6月						

科目区分	子ども発達学科専門教育科目						
科目名	生徒指導論						
担当教員	根津 隆男					科目ナンバー	K73420
学期	後期／2nd semester	曜日・時限	木曜5	配当学年	3	単位数	2.0
授業のテーマ	個別的な問題行動に対する対処ばかりでなく、全ての児童生徒の人格を高める積極的な生徒指導の在り方を考える						
授業の概要	教職に就くものとして、生徒指導を単なる問題行動の対応ではなく、学級経営を含めた児童の健全育成に資する開発促進的な広義なものとして捉え、教員のなるための資質向上を図る。						
到達目標	・ 生徒指導の意義や原理について理解し、全ての学級・学年・学校における生徒指導の進め方について検討し、考察できる。 ・ 児童生徒の生徒指導上の課題を把握し、チームとしての学校を確立し、外部の関係機関との連携を含めた生徒指導の在り方を検討し、考察できる。						
授業計画	第1回 オリエンテーション積極的生徒指導の意義と原理 第2回 生徒指導と各教科、道徳、総合的な学習の時間、特別活動との関連について 第3回 学校における生徒指導体制と教育相談や特別支援教育校内支援体制と連携及びその違いについて 第4回 全体指導と個別指導に対応できる柔軟な対応策について 第5回 学校における問題行動の現状と課題 第6回 いじめについて具体的な対応策の検討（事例研究） 第7回 不登校について、家庭訪問を含めた対応策を検討する（事例研究） 第8回 児童虐待について、児童相談所や警察との連携を通じた対応策について（事例研究） 第9回 発達障害の児童生徒への理解と学級づくりについて 第10回 校種間連携の現状と課題（講義と事例研究） 第11回 青少年の学校外の生活と生徒指導について －児童生徒の問題行動（インターネットや性的問題等）をめぐる学校・家庭・地域・関係機関との連携の現状と課題－ 第12回 生徒指導と学級・学校経営について 第13回 問題行動に対する懲戒と関連法規について 第14回 キャリアカウンセリングと今日的な生徒指導の在り方 第15回 積極的生徒指導のまとめとテスト						
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	生徒指導提要の内容、とりわけ第4章教育相談を中心に講義を進めていくため、指摘した箇所について、予習、復習をすること						
授業方法	講義とグループワーク、演習						
評価基準と評価方法	演習の態度30%、レポート30%、テスト40%						
履修上の注意	・ グループワークを中心に授業を進めていくので、積極的に話し合いに参加すること ・ グループワーク中の退席は認めません ・ オフィスアワーは、金曜日14：50～16：20です。						
教科書	文部科学省「生徒指導提要」平成22年3月 教育図書						
参考書	中村豊「子どもの社会性を育む積極的生徒指導」学事出版						

科目区分	子ども発達学科専門教育科目							
科目名	相談援助／社会福祉援助技術							
担当教員	谷川 弘治					科目ナンバー	K73260	
学期	後期／2nd semester		曜日・時限	金曜2	配当学年	3	単位数	2.0
授業のテーマ	保育士に求められる相談援助の知識と技術を学ぶ。							
授業の概要	人々はライフコースの中で自分らしくありたいと願い、安定した暮らしを確保し、それぞれの社会参加を進めていこうとする。その過程は、いつも順調とは限らず、さまざまな困難に直面し対処しなければならないときがあるが、個人のもてる対処法や資源では対処できなくなることがある。重い病気や障害を抱えたり、孤立していたりすると、対処力はさらに低下しがちである。相談援助は、このような状況にある人が困難に対処し、自分らしく暮らすことを支える専門的な支援といえる。それは、困難を抱える個人や家族に対する支援だけでなく、地域や制度に働きかける支援なども含む。本講義では保育士に求められる相談援助の知識と技術について、演習を通して学びを深めていく。							
到達目標	(1) 相談援助の概要について説明できる。【知識・理解】 (2) 相談援助の方法と技術について説明できる。【知識・理解】 (3) 相談援助の具体的展開について説明できる。【汎用的技能】 (4) 保育におけるソーシャルワークの事例を通して対象理解を深めることができる。【汎用的技能】							
授業計画	第1回 オリエンテーション／相談援助とは何か①相談援助の意義 第2回 相談援助とは何か②相談援助の理論 第3回 相談援助とは何か③相談援助の機能 第4回 相談援助とは何か④相談援助とソーシャルワーク 第5回 相談援助とは何か⑤保育とソーシャルワーク 第6回 相談援助の方法と技術①相談援助の対象 第7回 相談援助の方法と技術②相談援助の展開過程 第8回 相談援助の方法と技術③相談援助の技術・アプローチ 第9回 相談援助の具体的展開①相談援助の計画・記録・評価 第10回 相談援助の具体的展開②関係機関との協働 第11回 相談援助の具体的展開③多様な専門職との連携 第12回 相談援助の具体的展開④社会資源の活用、調整、開発 第13回 事例の検討①虐待・ネグレクトへの支援 第14回 事例の検討②発達に課題がある子どもとその保護者への支援 第15回 事例の検討③ロールプレイ、フィールドワークによる事例の理解							
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	授業前準備学習： 2回目以降のプレパレーションペーパーはあらかじめ配付するので、テキストの該当箇所、その他文献・資料等を参照して完成させ、授業に参加する。（学習時間40分程度） 授業後学習： リアクションペーパーに対する解説に目を通し、他者（他の受講生）の視点に学ぶことで視野を広げることが望ましい。（学習時間10分程度）							
授業方法	プレゼンテーション、グループワーク、リアクションペーパーへの解説などを組み合わせる。							
評価基準と評価方法	点数の配分 ・プレパレーションペーパー、プレゼンテーション及びグループワークの実施：30% ・リアクションペーパー：30% ・レポート：40% 採点基準 ・基本の押さえが不十分である：6割前後 ・基本を押さええている：7割から8割まで ・発展性・独自性が認められる：8割から10割							
履修上の注意	事前課題、リアクションペーパー、その他資料は適宜、出席者に配付する。 演習であるので出席して取り組んだことを重視して評価する。 欠席した場合、プレパレーションペーパー及びその回の授業で取り組んだ課題に関する考察をA4判、1枚程度にまとめて提出する。 授業回数の3分の1以上を欠席したものは期末試験の受験資格を失うものとする。							
教科書	『相談援助』 倉石哲也・大竹智（編）、ミネルヴァ書房、978- 4623079285							
参考書	『ソーシャルワーク論』、空閑浩人、ミネルヴァ書房、978-4623075553 『社会福祉概論 その基礎学習のために』 西村昇ほか（編著）、中央法規、978-4-8058-5474-7 『ダイレクト・ソーシャルワーク ハンドブック』 ジョアン・ラーセン、明石書房、978-4750341712							

科目区分	子ども発達学科専門教育科目						
科目名	相談援助／社会福祉援助技術						
担当教員	谷川 弘治					科目ナンバー	K73260
学期	後期／2nd semester	曜日・時限	金曜3	配当学年	3	単位数	2.0
授業のテーマ	保育士に求められる相談援助の知識と技術を学ぶ。						
授業の概要	人々はライフコースの中で自分らしくありたいと願い、安定した暮らしを確保し、それぞれの社会参加を進めていこうとする。その過程は、いつも順調とは限らず、さまざまな困難に直面し対処しなければならないときがあるが、個人のもてる対処法や資源では対処できなくなることがある。重い病気や障害を抱えたり、孤立していたりすると、対処力はさらに低下しがちである。相談援助は、このような状況にある人が困難に対処し、自分らしく暮らすことを支える専門的な支援といえる。それは、困難を抱える個人や家族に対する支援だけでなく、地域や制度に働きかける支援なども含む。本講義では保育士に求められる相談援助の知識と技術について、演習を通して学びを深めていく。						
到達目標	(1) 相談援助の概要について説明できる。【知識・理解】 (2) 相談援助の方法と技術について説明できる。【知識・理解】 (3) 相談援助の具体的展開について説明できる。【汎用的技能】 (4) 保育におけるソーシャルワークの事例を通して対象理解を深めることができる。【汎用的技能】						
授業計画	第1回 オリエンテーション／相談援助とは何か①相談援助の意義 第2回 相談援助とは何か②相談援助の理論 第3回 相談援助とは何か③相談援助の機能 第4回 相談援助とは何か④相談援助とソーシャルワーク 第5回 相談援助とは何か⑤保育とソーシャルワーク 第6回 相談援助の方法と技術①相談援助の対象 第7回 相談援助の方法と技術②相談援助の展開過程 第8回 相談援助の方法と技術③相談援助の技術・アプローチ 第9回 相談援助の具体的展開①相談援助の計画・記録・評価 第10回 相談援助の具体的展開②関係機関との協働 第11回 相談援助の具体的展開③多様な専門職との連携 第12回 相談援助の具体的展開④社会資源の活用、調整、開発 第13回 事例の検討①虐待・ネグレクトへの支援 第14回 事例の検討②発達に課題がある子どもとその保護者への支援 第15回 事例の検討③ロールプレイ、フィールドワークによる事例の理解						
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	授業前準備学習： 2回目以降のプレパレーションペーパーはあらかじめ配付するので、テキストの該当箇所、その他文献・資料等を参照して完成させ、授業に参加する。（学習時間40分程度） 授業後学習： リアクションペーパーに対する解説に目を通し、他者（他の受講生）の視点に学ぶことで視野を広げることが望ましい。（学習時間10分程度）						
授業方法	プレゼンテーション、グループワーク、リアクションペーパーへの解説などを組み合わせる。						
評価基準と評価方法	点数の配分 ・プレパレーションペーパー、プレゼンテーション及びグループワークの実施：30% ・リアクションペーパー：30% ・レポート：40% 採点基準 ・基本の押さえが不十分である：6割前後 ・基本を押さええている：7割から8割まで ・発展性・独自性が認められる：8割から10割						
履修上の注意	事前課題、リアクションペーパー、その他資料は適宜、出席者に配付する。 演習であるので出席して取り組んだことを重視して評価する。 欠席した場合、プレパレーションペーパー及びその回の授業で取り組んだ課題に関する考察をA4判、1枚程度にまとめて提出する。 授業回数の3分の1以上を欠席したものは期末試験の受験資格を失うものとする。						
教科書	『相談援助』 倉石哲也・大竹智（編）、ミネルヴァ書房、978-4623079285						
参考書	『ソーシャルワーク論』、空閑浩人、ミネルヴァ書房、978-4623075553 『社会福祉概論 その基礎学習のために』 西村昇ほか（編著）、中央法規、978-4-8058-5474-7 『ダイレクト・ソーシャルワーク ハンドブック』 ジョアン・ラーセン、明石書房、978-4750341712						

科目区分	子ども発達学科専門教育科目						
科目名	卒業研究						
担当教員	内田 祐貴					科目ナンバー	K04140
学期	通年／Full Year	曜日・時限	水曜3	配当学年	4	単位数	4.0
授業のテーマ	小学校で理科を自信を持って教えられるための、基礎知識基本技能を習得する。						
授業の概要	現場で求められている、理科を教えられる小学校の教員となるため、理科教育の知識や技能を興味深く修得し、また具体的な調査研究をしながらその方法を身に付けることを内容とする。3回生のゼミ内容を引き継いで更に内容を深め、理科への興味関心が高まる教材開発を目指す。						
到達目標	(1) 小学校で理科の授業を行える知識技術を身に付け、模擬授業などで発揮できる。【知識・理解】 (2) 学習指導要領を基に現場に応じた教材を作成できる。【知識・理解】 (3) 自分の将来を見据え、それに向かって必要なことを計画、実行することができる。【汎用的技能う】						
授業計画	第01回 ガイダンス 第02回 5年生「植物の発芽、成長、結実」学習内容と実験 第03回 5年生「植物の発芽、成長、結実」模擬授業 第04回 5年生「流水の働き」学習内容と実験 第05回 学校外施設を利用した理科教育 第06回 5年生「流水の働き」模擬授業 第07回 6年生「燃焼の仕組み」学習内容と実験 第08回 6年生「燃焼の仕組み」模擬授業 第09回 6年生「水溶液の性質」学習内容と実験 第10回 6年生「水溶液の性質」模擬授業 第11回 6年生「てこの規則性」学習内容と実験 第12回 6年生「てこの規則性」模擬授業 第13回 研究テーマの設定（1） 第14回 研究テーマの設定（2） 第15回 中間まとめ 第16回 6年生「電気の利用」学習内容と実験 第17回 6年生「電気の利用」模擬授業 第18回 先行事例研究、輪読1（小学校3年理科） 第19回 先行事例研究、輪読2（小学校4年理科） 第20回 先行事例研究、輪読3（小学校5年理科） 第21回 先行事例研究、輪読4（小学校6年理科） 第22回 中間発表 第23回 教材研究開発1 第24回 教材研究開発2 第25回 教材研究開発3 第26回 教材研究開発4 第27回 発表、指導1 第28回 発表、指導2 第29回 発表、指導3 第30回 まとめ（小学校理科を教えるには）						
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	授業前準備学習：各回で取り扱う単元の予習、先行研究調査、文献検索、データ収集などを行う（学習時間2時間） 授業後学習：松蔭manabaを利用して、授業で扱った内容の確認、復習、改善方法を考察する（学習時間2時間）						
授業方法	講義と演習：各単元のポイントについて講義後、ペアやグループで実験を行い、模擬授業を行う。模擬授業終了後、ディスカッションを行い振り返りをする。ICT機器を利用し、学生教員間、学生間で成果や情報の共有を行う。						
評価基準と評価方法	提出物：60% 指導案やリアクションペーパーなど授業での成果物と、授業後学習での改善した指導案の内容で評価する 到達目標(1)(2)に関する到達度の確認 授業態度：40% 模擬授業への取り組み、ディスカッションでの発言などを評価する 到達目標(1)(3)に関する到達度の確認						
履修上の注意	理科研究、理科指導法、教育発達演習ABの内容を確認復習しておくこと。						

教科書	『子どもの未来を育む保育・教育の実践知：保育者・教師を目指すあなたに』 神戸松蔭女子学院大学子ども発達学科、北大路書房 ISBN:978-4762830099
参考書	

科目区分	子ども発達学科専門教育科目							
科目名	卒業研究							
担当教員	大下 卓司					科目ナンバー	K04140	
学期	通年／Full Year		曜日・時限	水曜3	配当学年	4	単位数	4.0
授業のテーマ	教育方法学の領域で、各学生がテーマを設定し、論文執筆に向けての作業を行う。							
授業の概要	1. 毎回の授業では、各学生が、自分のテーマの基本文献を素材にした発表や、論文の構想の発表を交代で行い、発表内容について学生全員で議論する。教員も議論に加わり、テーマの深め方や論文のまとめ方に関する指導を適宜行う。 2. 「卒業研究」の成果を論文にまとめるために、論文に書き方についても詳細に指導する。学期末には成果を発表する場を設け、学生による相互評価と教員による成績評価を行う。							
到達目標	1. 学生自身のよりよい保育・教育実践の糧となるような研究を行う。 2. 学術論文に必要な調査・思考を実際に体験し、学士としてふさわしい卒業論文を執筆する							
授業計画	第1回 オリエンテーションおよびレポートをコメントをつけて返却する。 第2回 3年生最終時に決めた卒業論文のテーマについてもう一度整理し発表する。 第3回 3年生最終時に決めた卒業論文のテーマについてもう一度整理し発表する。 第4回 3年生最終時に決めた卒業論文のテーマについてもう一度整理し発表する。 第5回 3年生最終時に決めた卒業論文のテーマについてもう一度整理し発表する。 第6回 テーマに関する先行研究、関連図書の収集・読解について指導する。 第7回 テーマに関する先行研究、関連図書の収集・読解について指導する。 第8回 テーマに関する先行研究、関連図書の収集・読解について指導する。 第9回 テーマに関する先行研究、関連図書の収集・読解について指導する。 第10回 テーマに関する先行研究、関連図書の収集・読解について指導する。 第11回 卒業論文の構想発表 第12回 卒業論文の構想発表 第13回 卒業論文の構想発表 第14回 卒業論文の構想発表 第15回 論文のまとめ方・書き方について指導する。 第16回 卒業論文の進捗報告 第17回 卒業論文の進捗報告 第18回 卒業論文の進捗報告 第19回 卒業論文の進捗報告 第20回 論文執筆と個別指導 第21回 論文執筆と個別指導 第22回 論文執筆と個別指導 第23回 論文執筆と個別指導 第24回 論文執筆と個別指導 第25回 卒業論文の初校の発表と検討 第26回 卒業論文の初校の発表と検討 第27回 卒業論文の初校の発表と検討 第28回 卒業論文の報告会と相互評価 第29回 卒業論文の報告会と相互評価 第30回 まとめ：研究成果を自分の進路にいかにかに生かすか議論する							
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	1. 卒業論文執筆に向けて、各自図書館で文献を探すなど、自覚的に取り組むこと 2. 学年末には相互評価を行うため、批判的な読み方、作文指導の素養を、自らの研究の過程で習得するよう励むこと							
授業方法	1. 前半は、先行研究を整理し、各自のテーマにおける学術的な論点を模索する 2. 後半は、発見した論点について、様々な角度から迫る文献を読み、必要に応じてインタビューなどの手法を取り入れて、説得力のある文章を書き、論文を仕上げる。							
評価基準と評価方法	1. 授業毎の課題および発表：50点 2. 卒業論文：50点							
履修上の注意	1. 全員が自分のテーマで、複数回発表する。 2. 毎回の授業で、他の学生の報告について、コメントを必ず行う。							
教科書	各自のテーマに応じて、適宜アドバイスをを行う。							

参考書	各自のテーマに応じて、適宜アドバイスを行う。
-----	------------------------

科目区分	子ども発達学科専門教育科目						
科目名	卒業研究						
担当教員	奥 美佐子					科目ナンバー	K04140
学期	通年／Full Year	曜日・時限	水曜4	配当学年	4	単位数	4.0
授業のテーマ	造形教育・美術教育の研究						
授業の概要	子どもの造形、美術教育にかかわる分野から設定した各自のテーマをもとに発表し、それに基づいた討論に補説を加えるという、学生主体の形式で進める。各自のテーマ、課題へのアプローチの仕方、研究内容、分析方法、探究度などについても具体的に検討する。自己のテーマを追求し、論文作成へと展開する中で、問題意識をもち、課題解決に向かう方法や分析力、プレゼンテーション力を身につける。						
到達目標	(1) テーマに沿って研究を進め、卒論を完成する。 (2) シラバス、パワーポイントによる発表資料を作成し、プレゼンテーションすることができる。						
授業計画	第1回 卒論について：テーマ設定、論文作成法 第2回 研究計画作成 第3回 研究計画作成 第4回 計画に従って、文献研究、調査研究等開始 第5回 研究計画に基づく研究 第6回 研究計画に基づく研究 第7回 研究計画に基づく研究 第8回 報告会 第9回 研究計画に基づく研究 第10回 研究計画に基づく研究 第11回 研究計画に基づく研究 第12回 研究計画に基づく研究 第13回 中間発表準備 第14回 中間発表 1 第15回 中間発表2 第16回 論文骨子の確認 第17回 論文作成 第18回 論文作成 第19回 論文作成 第20回 論文作成 第21回 論文作成 第22回 報告会 第23回 論文作成 第24回 論文作成 第25回 論文作成 第26回 発表準備 第27回 発表準備 第28回 卒論発表 第29回 卒論発表 第30回 卒論発表とまとめ						
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	授業前学習：発表などに備えて、各回の配布資料を十分に検討し、討議できるようにしておくこと。（学習時間2時間） 授業後学習：検討した課題について要点をまとめ、疑問があれば次回に質問や提案ができるようにする。（学習時間2時間）						
授業方法	演習						
評価基準と評価方法	平常点（参加態度等）20%、論文と発表80%で評価する。						
履修上の注意	論文作成のプロセスで、学外に資料収集や研究で赴くことがあり、日程の変更や交通費などの費用が発生することがあるので留意すること。						

教科書	使用しない。 研究計画作成の方法、フィールドワークの方法など、必要に応じて資料を提供する。
参考書	各学生の研究に沿った文献を必要に応じて紹介する。

科目区分	子ども発達学科専門教育科目						
科目名	卒業研究						
担当教員	奥村 正子					科目ナンバー	K04140
学期	通年／Full Year	曜日・時限	火曜1	配当学年	4	単位数	4.0
授業のテーマ	音楽教育について、自らの問題意識に沿って、卒業研究としてまとめる。						
授業の概要	それぞれの課題について、レポートの作成、発表、全員での討論を交えて授業を進める。						
到達目標	現代に求められる音楽教育のあり方について、自身の問題意識に沿って卒業研究をまとめることができる。 研究内容について、発表会でプレゼンテーションを行うことができる。						
授業計画	第1回 ガイダンス 第2回 3年次に進めてきた研究テーマについての確認。 第3回 3年次に進めてきた研究テーマについての確認。 第4回 テーマに関する先行研究や関連図書の収集。 第5回 テーマに関する先行研究や関連図書の収集。 第6回 文献の解説について指導する。各自の研究を進める。 第7回 文献の解説について指導する。各自の研究を進める。 第8回 文献の解説について指導する。各自の研究を進める。 第9回 研究の進捗状況を発表。 第11回 発表と討論1 第12回 発表と討論2 第13回 個別指導。 第14回 個別指導。全員での討論の時間を設ける。 第15回 レポート提出 第16回 夏季休暇中の進捗状況について報告する。 第17回 研究報告について全体への指導。 第18回 個別指導。全員での討論の時間を設ける。 第19回 これまでの研究成果の中間発表。 第20回 中間発表に対する指導。方向性の確認。 第21回 個別指導。全員での討論の時間を設ける。 第22回 個別指導。 第23回 論文の構成の確認。 第24回 個別指導。 第25回 個別指導。全員での討論の時間を設ける。 第26回 個別指導。全員での討論の時間を設ける。 第27回 卒業研究の仮提出 第28回 卒業研究の提出 第29回 卒業研究発表についての指導 第30回 卒業研究の成果発表						
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	それぞれの研究を進める。授業では、進捗状況の確認と修正を行う。 （学習時間：4時間）						
授業方法	演習 個別指導						
評価基準と評価方法	課題への取り組みとゼミ活動への積極的な参加 50% 中間発表 20% 最終発表30% 卒業研究論文の提出は必須。						
履修上の注意	レポート等提出物の期日、発表の期日を厳守すること。 学外に見学、研修などに出かけて、交通費その他の費用が発生する場合には自己負担となる。 教員の連絡先：okumura[at]shoin.ac.jp ※[at]を@に置き換える。 オフィスアワー：木曜日12：10～13：10 （2号館2階の研究室）						
教科書							

参考書	そのつど紹介する。
-----	-----------

科目区分	子ども発達学科専門教育科目						
科目名	卒業研究						
担当教員	倉 真智子					科目ナンバー	K04140
学期	通年／Full Year	曜日・時限	水曜5	配当学年	4	単位数	4.0
授業のテーマ	子どもの健康分野についての論文作成						
授業の概要	子どもの健康教育を主とした内容で、「教育発達演習A・B」での学習をもとに、それぞれの研究テーマに沿って進めていく。 研究方法は調査研究、文献研究とし、先行研究を熟読したうえで卒業研究の作成に取り組む。 3年次の研究計画に基づき、計画的に進め、研究目的から結果が得られるよう完成させる。						
到達目標	(1) 卒業研究に関する文献を収集し課題を意識し講読することができる（知識・理解） (2) テーマに沿った文献を講読発表し、他者に説明できる（汎用的技能） (3) 先行研究を熟読したうえで、構成に基づき論文を仕上げる（態度・志向性）						
授業計画	1. オリエンテーション 卒業研究作成に向けて 2. 研究テーマの検討 3. 研究テーマ設定 4. 研究テーマについてディスカッション 5. プロポーザルについて 6. プロポーザル発表 ー子どもに関してー 7. プロポーザル発表 ー保護者・保育者に関してー 8. 論文の書き方 ー構成についてー 9. 論文の書き方 ー引用方法ー 10. 文献検索 11. 先行研究の検討 12. 中間発表に向けて 13. 中間発表 ー子どもに関してー 14. 中間発表 ー保護者・保育者に関してー 15. 論文作成 16. 論文作成 ー考察のまとめ方ー 17. 論文作成 18～27 個別指導 28. 卒研発表に向けて 29～30 卒業研究発表会						
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	授業前準備学習：研究テーマの沿った先行研究、新聞等文献の収集（学習時間3時間） 授業後学習：卒研発表に向け、論文の見直しやパワーポイント等の発表準備（学習時間3時間）						
授業方法	全体指導と個別指導 講義では、テーマの設定、論文の構成の考え方、引用文献の用い方を説明する。 個別指導では、構成に沿って論文を書きながら課題を見つけ完成させる。						
評価基準と評価方法	論文に対する積極的な発表や質問。到達目標（1）（2） 20% 論文作成。到達目標（3） 60% 卒研発表。到達目標（2） 20%						
履修上の注意	研究テーマに基づき意欲的に進める。特に就活や実習と時期が重なることがあるので計画を立て臨むこと。						
教科書	「子どもの未来を育む保育・教育の実践知ー保育者・教育者をめざすあなたにー」北大路書房 ISBN 978-4-7628-3009-9						
参考書	「よくわかる論文の書き方」 白井利明・高橋一郎 ミネルヴァ書房 「spssで学ぶ統計分析入門」 馬場浩也 東洋経済新報社						

科目区分	子ども発達学科専門教育科目						
科目名	卒業研究						
担当教員	寺見 陽子					科目ナンバー	K04140
学期	通年／Full Year	曜日・時限	水曜3	配当学年	4	単位数	4.0
授業のテーマ	乳幼児の発達研究と養育・保育の場における理論と実践に関する研究 卒業研究への取り組み						
授業の概要	概要：ここでは「教育発達演習A・B」での研究をもとに、卒業研究に取り組みます。自己の研究課題をもとに、先行研究を購読し、研究目的および仮説設定を行い、プロポーザルを完成させるとともに、それに基づいた実験・調査・観察等を本格的に実施し、そこから得た結果をまとめ、考察して卒業論文を作成します。						
到達目標	(1) 自己課題の明確化し、それに関連したや論文の購読を通して専門的な知識や理論を学び、それらに基づいて自己の考えをまとめることができる。 (2) 自己の考えを文章化し、プレゼンテーションすることができる。 (3) 自己お考えを明確化し、文章化したりプレゼンテーションした利することを通して、自己表現することができるようになる。						
授業計画	第1回 オリエンテーション 第2回 自己課題の設定と研究法について 第3回 文献輪読・グループディスカッション(1) 第4回 文献輪読・グループディスカッション(2) 第5回 文献輪読・グループディスカッション(3) 第6回 文献輪読・グループディスカッション(4) 第7回 文献輪読・グループディスカッション(5) 第8回 中間報告 第9回 文献購読・プロポーザルの作成(1) 第10回 実験・調査計画 第11回 実験・調査方法 第12回 実験・調査の実施 第13回 実験・調査の結果のまとめ 第14回 中間レポートの作成 第15回 中間報告プレゼンテーション 第16回 研究の目的について 第17回 先行研究の整理とまとめ 第18回 研究目的と研究方法 第19回 研究方法と結果 第20回 結果のまとめ方(1) 第21回 結果のまとめ方(2) 第22回 結果のまとめ方(3) 第23回 結果と考察(1) 第25回 結果と考察(2) 第26回 結果と考察(3) 第27回 文献整理 第28回 要約と発表レジメの作成 第29回 プレゼンテーション準備 第30回 プレゼンテーション						
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	文献検索・文献輪読・グループ研究あるいは実験・調査						
授業方法	グループワークあるいは個人研究を中心とします。						
評価基準と評価方法	2/3以上の出席 小レポート（30）・プレゼンテーション（20）・報告書（50）						
履修上の注意	個別指導を中心とするので、主体的に取り組むことを望みます。						
教科書	必要に応じて示します。						

参考書	必要に応じて示す。
-----	-----------

科目区分	子ども発達学科専門教育科目						
科目名	卒業研究						
担当教員	藤本 浩一					科目ナンバー	K04140
学期	通年／Full Year	曜日・時限	月曜4	配当学年	4	単位数	4.0
授業のテーマ	生涯発達の心理と支援						
授業の概要	教育心理学・発達心理学を中心とした調査・実験・観察研究を計画立案・実施し、統計処理を行い、論文にまとめる。実験や調査が行えない種類のテーマについては文献研究もあり得る。従来の心理学研究を丹念に調べる一方で、各自の関心を高めて両者を結びつける作業を行う。個別相談を順に行うので指定した時間帯に出席が必要。論文評価は出席に加えて継続的努力・工夫・論理的つながり・着眼点・整った方法等から行う。教育実習や採用試験があるので、夏休みまでにデータ収集し、早い目には書きあげる。						
到達目標	個人の興味関心を卒業論文の形に仕上げるができる。						
授業計画	1. 卒論の文体と作成の心得、卒論執筆の目安 2. テーマ候補紹介と選定 3. テーマ毎の方法論の検討 4. 論文検索状況報告 5. 文献のまとめ方習熟 6. 実証データの収集法 7. 実験計画と実施 8. データ収集 9. 結果の整理 10. 結果における統計手法 11. 統計処理のいろいろ 12. 卒論チェックポイント 13. 中間発表 14. 中間発表その2 15. わかりやすい文章 16. 章立ての工夫 17. 個別指導1) 文章チェック 18. 個別指導2) 考察の吟味 19. 個別指導3) 目的の明確化 20. 個別指導4) 文献整備 21. 個別指導5) 構文 22. 第2期中間発表 23. 個別指導6) 節ごとのつながりの整合性 24. 個別指導7) リサーチクエスション確認 25. 個別指導8) 修正対照表作成法 26. 個別指導9) 最終チェック 27. 個別指導10) 提出の体裁 28. 卒論発表会 29. 卒論発表会その2 30. 反省会						
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	①授業前に各回授業内容について参考書やインターネット検索により予習して文章にまとめ、②授業後には授業中に示した課題について報告文を作成し、①と②を合わせてA4紙1枚の3/4以上に記載して、授業開始時に教室にて提出する。学習時間①2時間、②2時間						
授業方法	研究室での個別指導と教室にて全体発表の授業						
評価基準と評価方法	平常点30%と卒業論文（努力、論理的つながり、方法論、独創性など）70%により行う。						
履修上の注意	卒論作成には継続的に時間を要するので就職活動やアルバイトとうまく折り合いをつけて計画的に行うこと。提出条件、提出日など確実に把握しておく。						

教科書	統計処理法など、適宜プリントを配布します。
参考書	授業中に案内します。

科目区分	子ども発達学科専門教育科目						
科目名	卒業研究						
担当教員	松岡 靖					科目ナンバー	K04140
学期	通年／Full Year	曜日・時限	水曜3	配当学年	4	単位数	4.0
授業のテーマ	保育・教育の質的研究を深めて卒業論文にまとめよう。						
授業の概要	1. 保育・教育を扱う教科書について学生が報告する。 2. 学生の関心に応じた調査と発表を教員が支援する。 3. 卒業研究の中間報告と論文作成を教員が指導する。						
到達目標	1. 保育・教育の専門家としての知識・思考の水準を引き上げる【知識・理解】。 2. 問い→追及→答え、論理とデータを兼ね備えた文章を書ける【汎用的技能】。 3. 発表と執筆を繰り返しつつ学士号に価する研究を完成させる【態度・志向性】。						
授業計画	第1回 卒業研究オリエンテーション(1) 第2回 図書館での論文ガイダンス(1) 第3回 教科書(1)：幼児教育の意義はどこにあるか？ 第4回 教科書(2)：現代の日本の子どもの特徴とは？ 第5回 教科書(3)：幼児教育のための内容と方法は？ 第6回 教科書(4)：保幼小の連携をいかに進めるか？ 第7回 教科書(5)：労働・社会保障としての教育は？ 第8回 教科書(6)：投資部門と職業希望への道筋は？ 第9回 学生による中間報告(1)：テーマを作る 第10回 学生による中間報告(2)：資料を探す 第11回 学生による中間報告(3)：構成を考える 第12回 学生による中間報告(4)：文章を整える 第13回 学生による発表と質疑(1) 第14回 学生による発表と質疑(2) 第15回 前期の振り返りと後期の見通し 第16回 卒業研究オリエンテーション(2) 第17回 図書館での論文ガイダンス(2) 第18回 学生による中間報告(6)：テーマを調整する 第19回 学生による中間報告(7)：テーマを調整する 第20回 学生による中間報告(8)：資料を探す 第21回 学生による中間報告(9)：資料を探す 第22回 学生による中間報告(10)：構成を考える 第23回 学生による中間報告(11)：構成を考える 第24回 学生による中間報告(12)：文章を整える 第25回 学生による中間報告(13)：文章を整える 第26回 学生による発表と質疑(1) 第27回 学生による発表と質疑(2) 第28回 学生による発表と質疑(3) 第29回 3年生向けの卒研発表会 第30回 4年間の振り返りと進路の報告						
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	1. 教科書の分担した部分の発表を準備すること（学習時間：5時間）。 2. 自分のテーマで卒業研究報告を準備すること（学習時間：30時間）。 3. 3年生向けに卒業研究の発表を準備すること（学習時間：5時間）。						
授業方法	1. 前半は教科書を使った報告と質疑を中心とする。 2. 中盤は各自の卒業研究の中間報告を中心とする。 3. 後半は卒業研究の発表と質疑応答を中心とする。						
評価基準と評価方法	1. 平常点30点（コメントカードや授業中の発言など） 2. 発表点20点（担当したプレゼンと質疑応答による） 3. 卒業論文50点（各自のテーマで12月中に仕上げる）						
履修上の注意	1. 全員が教科書と自分のテーマで何度か発表する。 2. 毎回の授業で学生全員に質疑応答を義務づける。 3. 原則として欠席が10回を超えた場合不可とする。						
教科書	『希望をつむぎだす幼児教育』、髙橋久美子・石川昭義、あいり出版、978-4-901903-79-0。						

参考書	図書館での論文ガイダンスを活用し、自分の興味・問題に沿って検索すること。
-----	--------------------------------------

科目区分	子ども発達学科専門教育科目						
科目名	体育科指導法						
担当教員	倉 真智子					科目ナンバー	K73370
学期	前期／1st semester	曜日・時限	火曜4	配当学年	3	単位数	2.0
授業のテーマ	小学校「体育科」の指導法について学ぶ						
授業の概要	小学校体育における教科と学年における各領域について理解し、その指導方法を習得することにある。児童生徒が自ら意欲的に楽しく、かつ安全に取り組めるよう教師として授業方法の工夫を考える必要がある。教師としての理念、専門的な知識について学ぶ。また、近年問題になっている児童の保健に関する授業の在り方を考えていく。						
到達目標	(1) 各学年における目標と運動領域を十分に理解している【知識・理解】 (2) 運動や保健領域における各学年の目標と内容を理解し、指導案を作成することができる【汎用的技能】 (3) 各学年と領域から、単元を設定し指導案に基づいて授業が展開できる【態度・志向性】						
授業計画	第1回 授業概要と小学校体育の役割 第2回 幼児期から小学校体育へのつながり 第3回 新体力テストの実施概要 第4回 中学年における器械運動（マット） 第5回 高学年における器械運動（マット） 第6回 中学年・高学年における器械運動（跳び箱） 第7回 体づくり運動 第8回 走・挑の運動 第9回 陸上運動 第10回 ボール運動（ゴール型・ベースボール型） 第11回 ボール運動（ネット型） 第12回 運動会における問題点・組体操を考える 第13回 保健－毎日の生活と健康－ 第14回 保健－育ちゆく体とわたし 第15回 到達目標の確認とまとめ						
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	授業前学習：小学校学習要領「体育編」を熟読し、体育科研究で学んだ内容を振り返り、学年の理解を深めておくこと。（学習時間2時間） 授業後学習：模擬授業終了後、各自、反省を踏まえ新たに指導案を作成する（授業時間2時間）						
授業方法	講義：小学校学習指導要領「体育編」から、教科の目標および内容について講義する。 各学年の運動・保健領域を理解し指導案を立案する。 演習：指導案に基づき、模擬授業を行う。その後、発表者、受講者の振り返りをする。						
評価基準と評価方法	授業内での提出：指導案30%、発表者についてのリアクションペーパー30%。到達目標（1）（2） 模擬授業 40%、到達目標（3）						
履修上の注意	(1) 小学校教諭になることをイメージして、基本的な服装、態度、言葉に留意すること。 (2) 意欲的に授業に臨み、自己評価や他者評価が積極的にできるよう受講する。 (3) 授業回数の3分の1以上の欠席は認めない。						
教科書	小学校学習指導要領解説 体育編 文部科学省 東洋館出版 ISBN978-4-491-02375-5C3037						
参考書	全単元・全時間の授業のすべて 藤崎敬 東洋館出版 （1年から6年） 1年 ISBN978-4-491-02655-8 2年 978-4-491-02656-5 3年 978-4-491-02657-2 4年 978-4-491-02658-9 5年 978-449102659-6 6年978-4-491-02660-2						

科目区分	子ども発達学科専門教育科目							
科目名	特別活動論							
担当教員	大石 正廣					科目ナンバー	K72350	
学期	後期／2nd semester		曜日・時限	火曜5	配当学年	2	単位数	2.0
授業のテーマ	人間力を高める特別活動の実践的指導力の育成							
授業の概要	特別活動は、望ましい集団活動を通して自己の生き方を主体的に考え、自己の実現を図ることができる人間を育成するという使命をもつ。そのためには、学級活動、児童会活動やクラブ活動、及び、学校行事等を通じて、児童の企画力や実行力を引き出し、主体性や積極性を育てるように指導することが大事である。そうすることで自立した個と集団が育成できる。 講義では現学習指導要領に即して特別活動の意義や内容、具体的な活動や実践方法について解説する。学生諸君は過去の経験を呼び起こしながら、どうすれば有効な指導ができるのか、体験的な集団づくりの手法について研究し、グループ討議や協働しての活動案づくり、模擬授業を行うことを通して、ねらいに応じる特別活動を展開していくために必要な組織的な動きやかかわりができる力を身につけることをねらいとする。							
到達目標	(1)特別活動の意義を学習指導要領の目的や内容を用いて説明することができる。〔知識・理解〕 (2)活動や行事の立案能力、実際に指導・実践できる方策を身につけることができる。〔汎用的能力〕 (3)特別活動の意義を知り、特別活動の教育課程での役割をより具体的なものとして意識することができる。〔態度・指向性〕							
授業計画	第1回 ガイダンス 特別活動の教育課程上の位置づけ その意義と役割 第2回 特別活動の理念・方針の変更 第3回 学習指導要領に示されている特別活動の目標と内容 第4回 学級活動1 自主的・実践的な態度を育てる学級づくりをしよう 第5回 学級活動2 発想法を鍛えよりよい学級づくりに参画させよう 第6回 学級活動3 いじめを生まない集団作りをしよう 第7回 児童会活動・クラブ活動 子どもの企画力や実行力を育てよう 第8回 学校行事1 儀式的行事・文化的行事 子どもに充実感や充足感を味わわせよう 第9回 学校行事2 健康安全・体育的行事 子どもに充実感や充足感を味わわせよう 第10回 学校の行事3 ①遠足・集団的行事1 子どもに豊かな経験や体験をさせる計画を立てよう 第11回 ②遠足・集団宿泊の行事2 計画案の検討の交流を図り、より充実した経験や体験をさせよう。 第12回 学校行事4 勤労生産・奉仕的行事 社会奉仕の精神を養う経験や体験をさせよう 第13回 特別活動と道德教育との関連 子どもの人間関係調整能力を高めよう 第14回 特別活動の全体計画と年間指導計画 第15回 特別活動の諸課題とその解決方策（地域の特徴を生かした体験活動、食の指導等）							
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	授業前準備活動：毎回の講義内容に関連する、小学校で行っている特別活動についてインターネットなどで調べる。また、どうすれば有効な指導ができるのかグループで協働して模擬授業等の計画・準備をする。（3時間） 授業後学習：模擬授業をふり返り、模擬授業の改善案を作成する。（1時間）							
授業方法	講義形式、演習形式、模擬授業形式の授業など様々な形態を組み合わせで行う。講義での課題や模擬授業について、グループまたはペアによるディスカッションを行う。グループ（ペア）ワークの報告を踏まえ、重要事項について、解説・講義を行う。							
評価基準と評価方法	授業での態度（グループワーク、演習）10%、授業での提出物50%、期末試験40% 授業での態度：グループワーク、演習での積極的参加度（発表力、内容やグループでのコミュニケーション） 授業内での提出物：各回提出のリアクションペーパー（講義内容について学べたこと、考えたこと、質問等）、課題に関するワークや小レポートの内容・記述の的確さを評価する。到達目標に関する到達度の確認。 期末試験：到達目標に関する到達度の確認。 課題に対するフィードバックの方法 リアクションペーパーのコメント・質問等について翌週の授業で紹介・解説する。							
履修上の注意	1. 授業での資料は、各回の出席者のみ配付する。（欠席の時は、翌週授業時に限り再配付） 2. 出席が10回以上でないと期末試験の受験資格を失うものとする。							
教科書	プリントを毎回テキストとして配付する。							

参考書	1. 『小学校 新学習指導要領の授業 特別活動 実践資料集 全学年』宮川八岐 石塚忠夫他編著 小学館 2. 『自分を鍛え、集団を創る！ 特別活動の技術』杉田洋著 小学館 3. 『ボランティアを楽しむアイデア&指導案』原田正樹 柳久美子編著 学事出版 4. 『小学校学習指導要領（平成29年告示）解説 特別活動』文部科学省 東洋館出版
-----	---

科目区分	子ども発達学科専門教育科目							
科目名	道徳教育指導法							
担当教員	松岡 靖					科目ナンバー	K72300	
学期	前期／1st semester		曜日・時限	月曜2	配当学年	2	単位数	2.0
授業のテーマ	道徳教育の指導案を倫理学で組み立てよう。							
授業の概要	本科目の内容と目標は次の三つに整理できる。第一に教育基本法などの方針に基づき、主体的かつ自立した人間として、他者と共生する基盤となる道徳性について、学生が理解を深めることである。第二に道徳の意義や原理を踏まえて、学校での道徳教育の目標と内容を、学生が修得することである。第三に道徳教育が学校の教育活動全体を通じて行われることを理解した上で、その要となる道徳化の指導方針と指導方法を、学生が修得することである。具体的には授業序盤は講義を中心とし、中盤で倫理学の視点で指導案を検討・作成し、終盤で学生が模擬授業を実施する。							
到達目標	道徳の意義や原理などを踏まえ、学校の教育活動全体を通じて行う道徳教育と、その要となる道徳科の目標・内容・指導計画等を学生が理解し【知識・理解】、教材研究・学習指導案の作成・模擬授業の実践などを通じて、学生が実践的な指導力を身に付ける【汎用的技能】。							
授業計画	第1回 オリエンテーション：私語の倫理学をめぐって 第2回 体験した道徳教育：グループで発表する 第3回 指導要領にみる道徳科(1)：学校教育の役割 第4回 指導要領にみる道徳科(2)：他教科との関係 第5回 道徳科の教材研究(1)：自己との関わり 第6回 道徳科の教材研究(2)：他者との関わり 第7回 道徳科の教材研究(3)：集団・社会との関わり 第8回 道徳科の教材研究(4)：生命・自然との関わり 第9回 倫理学から道徳科をみる：身体の内面は本当か？ 第10回 模擬授業の実践(1)：自己との関わり 第11回 模擬授業の実践(2)：他者との関わり 第12回 模擬授業の実践(3)：集団・社会との関わり 第13回 模擬授業の実践(4)：生命・自然との関わり 第14回 模擬授業の実践(5)：その他との関わり 第15回 まとめ：相互評価・レポート返却・成績説明など							
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	1. 前半では学習指導要領などの文書を各自で読み込む（学習時間：6時間）。 2. 中盤ではグループごとに指導案を作成して改善する（学習時間：6時間）。 3. 後半では各グループで模擬授業の練習を積んでおく（学習時間：6時間）。							
授業方法	1. 前半では教員が配付した資料の説明を中心に進める。 2. 中盤では具体的な指導案を使って授業研究を深める。 3. 後半では各グループが模擬授業を実施し質疑を行う。							
評価基準と評価方法	1. 平常点30点（コメントカードや授業での発言などによる） 2. 模擬授業40点（教員だけでなく学生の相互評価も含む） 3. 学期末レポート30点（模擬授業と質疑応答を題材とする）							
履修上の注意	1. 授業が理解できなければ遠慮せずに積極的に質問すること。 2. 模擬授業の実践と学期末レポートの提出は必須とする。 3. 原則として2/3以上の出席に満たなければ受験資格を失う。							
教科書	『道徳教育はホントに道徳的か？』松下良平、日本図書センター、978-4-284-30447-4。							
参考書	『中学校学習指導要領解説 特別の教科 道徳編』							

科目区分	子ども発達学科専門教育科目						
科目名	乳児保育／乳児保育演習						
担当教員	垂髪 あかり					科目ナンバー	K72200
学期	前期／1st semester	曜日・時限	火曜1	配当学年	2	単位数	2.0
授業のテーマ	乳児期の子どもの豊かな発達について理解し、子どもが主体性を発揮できるような乳児保育の在り方について検討する。						
授業の概要	乳児期は人としての基礎を培う大切な時期と言われている。この科目では、0,1,2歳児の発達の特徴について学ぶことでどのような保育が必要かを理解できるようにする。また、障害のある乳児の理解と支援についても学ぶ。さらに、保護者との連携のもとでより質の高い保育を目指すことができるよう、具体的な事例を紹介しつつ、乳児保育を担当する保育者の役割についても理解を図っていく。						
到達目標	1. 子どもが主体的であるためにはどのような乳児保育が必要であることを理解し、説明できる。（知識・理解／汎用性技能） 2. 人としての基礎を培う乳児期の体と心の発達について理解し、説明できる。（知識・理解／汎用性技能） 3. 乳児期の豊かな発達を支える生活リズムやおとなの配慮等について、保育現場に立ったときをイメージして具体的に説明できる。（知識・理解／態度・志向性／汎用的技能） 4. 乳児のための適切な保育環境について考え、説明や提示ができる。（知識・理解／汎用的技能）						
授業計画	第1回：導入「子どもが主体的に育つための乳児保育とは」 第2回：0歳児への保育①「0～3ヵ月児への保育」 第3回：0歳児への保育②「4～6ヵ月児への保育」 第4回：0歳児への保育③「7～9ヵ月児への保育」 第5回：0歳児への保育④「10～12ヵ月児への保育」 第6回：0歳児への保育⑤「0歳児クラスの日課、遊びの空間と道具の整備」（レポートA） 第7回：1歳児への保育①「13～15ヵ月児への保育」 第8回：1歳児への保育②「16～24ヵ月児への保育」 第9回：1歳児への保育③「1歳児クラスの日課、遊びの空間と道具の整備」（レポートB） 第10回：2歳児への保育①「25～36ヵ月児への保育」 第11回：2歳児への保育③「2歳児クラスの日課、遊びの空間と道具の整備」 第12回：保護者との連携、在宅保育支援 第13回：特別な配慮の必要な乳児への保育（レポートC） 第14回：子どもの発達に応じた環境づくり①「乳児の発達に応じた空間と道具の整備」 第15回：子どもの発達に応じた環境づくり②とまとめ（プレゼンテーション）						
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	授業前準備学習：各回授業で扱う教科書の該当箇所、事前に配布する資料、事前に指定するキーワードについて、指定された参考図書等で下調べをする（学習時間2時間） 授業後学習：授業内で指示したテーマ・課題について報告文を作成し、松蔭manabaコースコンテンツに投稿する（学習時間2時間）						
授業方法	講義：毎回、テーマについてグループまたはペアによるディスカッションを行う。グループ（ペア）ワークの報告を踏まえ、重要事項について解説・講義を行う。第14～15回では、全講義を通しての学修を踏まえて、グループまたはペアで手作りおもちゃを作成し、プレゼンテーションを行う。 授業の事後学習には、松蔭manabaを利用してレポートを実施する。						
評価基準と評価方法	①定期試験 50％ ②レポート 45％ ③グループワーク、ペアワーク、発表でのパフォーマンス 5％ ①定期試験：授業で扱った乳児保育の意義、乳児の発達過程、乳児への望ましい保育環境等に関する理解度について評価する。到達目標（1）（2）（3）（4）に関する到達度の確認。 ②レポートA、B、C：0歳児、1歳児、2歳児それぞれの発達過程とそれに対する保育の在り方についての理解度、「発達」に対する自らの興味・関心の明確性・具体性について評価する。到達目標（2）（3）に関する到達度の確認。 ③グループワーク、ペアワーク、発表でのパフォーマンス：各テーマに関する自らの興味・関心の明確性・具体性、グループワークや発表における積極性、協働性について評価する。到達目標（1）（2）（3）に関する到達度の確認。 課題に対するフィードバックの方法 優秀レポートやリアクションペーパーのコメント・質問等について翌週授業で紹介・解説する。期末試験結果の講評を松蔭manabaで告知する。						
履修上の注意	・積極的に授業に参加する学生の受講を期待する。 ・2/3以上の出席に満たない者は、受験資格を失う。 ・遅刻、早退、途中退席等は、止む終えない場合を除き、認めない。						

教科書	『乳児保育 一人ひとりが大切に育てられるために』, 吉本和子, 第6版, エイデル出版社, 978-4871683432
参考書	参考書・参考資料等 ・『睡眠・食事・生活の基本（赤ちゃん学で理解する乳児の発達と保育 第1巻）』, 三池輝久, 上野有理, 小西行郎他, 初版, 中央法規出版, 978-4805854181 ・『運動・遊び・音楽（赤ちゃん学で理解する乳児の発達と保育 第2巻）』, 小西行郎, 小西薫, 志村洋子, 日本赤ちゃん学協会編, 初版, 中央法規出版, 978-4805854198 ・『乳児の発達と保育-遊びと育児』, 園と家庭を結ぶ「げんき」編集部, 初版, エイデル研究所, 978-4871684927 ・『抱っこを育てる乳児保育-育児担当者がめざすもの』樋口正春, 初版, 解放出版社, 978-4759222630

科目区分	子ども発達学科専門教育科目						
科目名	乳児保育／乳児保育演習						
担当教員	垂髪 あかり					科目ナンバー	K72200
学期	前期／1st semester	曜日・時限	火曜2	配当学年	2	単位数	2.0
授業のテーマ	乳児期の子どもの豊かな発達について理解し、子どもが主体性を発揮できるような乳児保育の在り方について検討する。						
授業の概要	乳児期は人としての基礎を培う大切な時期と言われている。この科目では、0,1,2歳児の発達の特徴について学ぶことでどのような保育が必要かを理解できるようにする。また、障害のある乳児の理解と支援についても学ぶ。さらに、保護者との連携のもとでより質の高い保育を目指すことができるよう、具体的な事例を紹介しつつ、乳児保育を担当する保育者の役割についても理解を図っていく。						
到達目標	1. 子どもが主体的であるためにはどのような乳児保育が必要であることを理解し、説明できる。（知識・理解／汎用性技能） 2. 人としての基礎を培う乳児期の体と心の発達について理解し、説明できる。（知識・理解／汎用性技能） 3. 乳児期の豊かな発達を支える生活リズムやおとなの配慮等について、保育現場に立ったときをイメージして具体的に説明できる。（知識・理解／態度・志向性／汎用的技能） 4. 乳児のための適切な保育環境について考え、説明や提示ができる。（知識・理解／汎用的技能）						
授業計画	第1回：導入「子どもが主体的に育つための乳児保育とは」 第2回：0歳児への保育①「0～3カ月児への保育」 第3回：0歳児への保育②「4～6カ月児への保育」 第4回：0歳児への保育③「7～9カ月児への保育」 第5回：0歳児への保育④「10～12カ月児への保育」 第6回：0歳児への保育⑤「0歳児クラスの日課、遊びの空間と道具の整備」（レポートA） 第7回：1歳児への保育①「13～15カ月児への保育」 第8回：1歳児への保育②「16～24カ月児への保育」 第9回：1歳児への保育③「1歳児クラスの日課、遊びの空間と道具の整備」（レポートB） 第10回：2歳児への保育①「25～36カ月児への保育」 第11回：2歳児への保育②「2歳児クラスの日課、遊びの空間と道具の整備」 第12回：保護者との連携、在宅保育支援 第13回：特別な配慮の必要な乳児への保育（レポートC） 第14回：子どもの発達に応じた環境づくり①「乳児の発達に応じた空間と道具の整備」 第15回：子どもの発達に応じた環境づくり②とまとめ（プレゼンテーション）						
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	授業前準備学習：各回授業で扱う教科書の該当箇所、事前に配布する資料、事前に指定するキーワードについて、指定された参考図書等で下調べをする（学習時間2時間） 授業後学習：授業内で指示したテーマ・課題について報告文を作成し、松蔭manabaコースコンテンツに投稿する（学習時間2時間）						
授業方法	講義：毎回、テーマについてグループまたはペアによるディスカッションを行う。グループ（ペア）ワークの報告を踏まえ、重要事項について解説・講義を行う。第14～15回では、全講義を通しての学修を踏まえて、グループまたはペアで手作りおもちゃを作成し、プレゼンテーションを行う。 授業の事後学習には、松蔭manabaを利用してレポートを実施する。						
評価基準と評価方法	①定期試験 50％ ②レポート 45％ ③グループワーク、ペアワーク、発表でのパフォーマンス 5％ ①定期試験：授業で扱った乳児保育の意義、乳児の発達過程、乳児への望ましい保育環境等に関する理解度について評価する。到達目標（1）（2）（3）（4）に関する到達度の確認。 ②レポートA、B、C：0歳児、1歳児、2歳児それぞれの発達過程とそれに対する保育の在り方についての理解度、「発達」に対する自らの興味・関心の明確性・具体性について評価する。到達目標（2）（3）に関する到達度の確認。 ③グループワーク、ペアワーク、発表でのパフォーマンス：各テーマに関する自らの興味・関心の明確性・具体性、グループワークや発表における積極性、協働性について評価する。（1）（2）（3）に関する到達度の確認。 課題に対するフィードバックの方法 優秀レポートやリアクションペーパーのコメント・質問等について翌週授業で紹介・解説する。期末試験結果の講評を松蔭manabaで告知する。						
履修上の注意	・積極的に授業に参加する学生の受講を期待する。 ・2/3以上の出席に満たない者は、受験資格を失う。 ・遅刻、早退、途中退席等は、止む終えない場合を除き、認めない。						
教科書	『乳児保育 一人ひとりが大切に育てられるために』、吉本和子、第6版、エイデル出版社、978-4871683432						

参考書	・『睡眠・食事・生活の基本（赤ちゃん学で理解する乳児の発達と保育 第1巻）』，三池輝久，上野有理，小西行郎他，初版，中央法規出版，978-4805854181 ・『運動・遊び・音楽（赤ちゃん学で理解する乳児の発達と保育 第2巻）』，小西行郎，小西薫，志村洋子，日本赤ちゃん学協会編，初版，中央法規出版，978-4805854198 ・『乳児の発達と保育-遊びと育児』，園と家庭を結ぶ「げんき」編集部，初版，エイデル研究所，978-4871684927 ・『抱っこを育てる乳児保育-育児担当者がめざすもの』樋口正春，初版，解放出版社，978-4759222630
-----	--

科目区分	子ども発達学科専門教育科目						
科目名	発達障害の理解／子ども心理Ⅳ（発達障害）						
担当教員	藤本 浩一					科目ナンバー	K73700
学期	前期／1st semester	曜日・時限	月曜3	配当学年	3	単位数	2.0
授業のテーマ	発達のアンバランスの理解と支援						
授業の概要	近年の教育・保育現場で注目されている発達アンバランス（発達障害）について正しい理解を持ち、適切な支援策を講じることができるような知識基盤を得ることを目的とする。 LD、ADHD、自閉症スペクトラムなどについて概説し、発達障害児の特性を十分知った上で、学校や日常生活場面での彼らに対する適切な教育・訓練や対応の仕方を学ぶ。障害を持つ人が社会で誇りと満足を持って生きていくにはどうすればいいかを考えるきっかけとしたい。受講人数次第では論文講読・グループ発表を行う。						
到達目標	発達アンバランスについての知識を得て、各種の障害を区別できる。将来の職場でスムーズに対処できるように支援の方法を説明できる。						
授業計画	1. LD 特徴、ワーキングメモリー 2. LD 事例、支援 3. ADHD 特徴、査定 4. ADHD 事例、支援、大人のADHD 5. ASD／PDD 特徴、原因 6. ASD／PDD 事例、訓練 7. ASD／PDD 支援の取り組み 8. 知的遅滞 特徴、心理査定、支援の事例 9. ダウン症 特徴 10. 認知訓練の実際 中間テスト 11. 論文講読① 「発達障害の特徴」 12. 論文講読② 「自閉症について」 13. 論文講読③ 「園での発達障害児の支援の方法」 14. 論文講読④ 「学校での発達障害児の支援の方法」 15. 論文講読⑤ 「発達障害者の社会参加」						
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	①授業前に各回授業内容について参考書やインターネット検索により予習して文章にまとめ、②授業後には授業中に示した課題について報告文を作成し、①と②を合わせてA4紙1枚の3/4以上に記載して、授業開始時に教室にて提出する。学習時間①2時間、②2時間						
授業方法	講義、視聴覚教材、討論、論文講読と発表						
評価基準と評価方法	中間テストにて発達障害に関する知識を問う（30％）。他に、発表のわかりやすさ・本人理解（30％）、筆記試験（40％）などにより総合的に評価を行う。						
履修上の注意	発表の日に欠席しないように。						
教科書	プリント教材を配ります。						
参考書	授業中に案内します。						

科目区分	子ども発達学科専門教育科目						
科目名	美術実技／図工実技Ⅱ						
担当教員	奥 美佐子					科目ナンバー	K73250
学期	前期／1st semester	曜日・時限	月曜2	配当学年	3	単位数	1.0
授業のテーマ	表現の展開に挑む						
授業の概要	多様な表現方法に向かい表現技術を高め、制作過程および完成作品を相互評価することを通して、表現、鑑賞、評価の力を養う。図工実技Ⅱでは、自分が表現したい内容に沿ってメディアを選択し、造形要素からの表現、コラージュ、版表現、立体や半立体による制作など、新たな表現技術に挑戦することにより自己表現を深める自由制作にも挑戦する。						
到達目標	(1) 新しい表現技術を使って作品を制作することができる。 (2) 自分のイメージに沿って材料を選択し、造形作品として具体化することができる。 (3) 造形言語を使って自分の作品を言語化できる。						
授業計画	第1回 材料と表現について：授業概要、評価の方法の説明を含む 第2回 紙の立体：ペーパークラフト(1)：基本形、紙の操作 第3回 ：ペーパークラフト(2)：ポップアップのしくみを知る 第4回 ：ペーパークラフト(3)：ポップアップカード制作 第5回 ：ペーパークラフト(4)：ポップアップカード制作・完成 第6回 立体：発砲球(1)：動く原理 第7回 ：発砲球(2)：デザイン 第8回 ：発砲球(3)：評価 第9回 版：版画(1)：版による表現 第10回 ：版画(2)：制作及び刷り 第11回 ：版画(3)：刷り及び評価 第12回 自由制作・課題制作(選択) (1) 構想および制作 第13回 (2) 制作 第14回 (3) 完成・展示 第15回 合評会とまとめ						
授業外における学習(準備学習の内容・時間)	事前学習：授業回ごとにシラバスのテーマにあるワードを調べ、材料研究しておくこと。その際の専門用語を使用できるように課題要旨にあげてくること。(学習時間2時間) 授業後学習：制作過程や作品制作のコンセプトを確認し、美術的行為を言語化できるようにする。そのた自作を自己評価し、造形言語を使用した自作の解説文を書き、提出する。(学習時間2時間)						
授業方法	演習						
評価基準と評価方法	表現履歴等の提出による評価20%、課題レポート及び課題作品の提出による評価80%。						
履修上の注意	履修者は基本的な美術教材(1年次の図工実技Ⅰで購入し、4年間の美術系科目共通で使用する)を全員購入しておくこと。 各回に必要な教材については随時伝達するので、各自準備すること。						
教科書	テキストは使用しない。プリントを配布する。						
参考書	『折り紙建築』茶谷正洋著 彰国社 他、折り紙建築シリーズ その他、適宜紹介する。						

科目区分	子ども発達学科専門教育科目						
科目名	美術実技／図工実技Ⅱ						
担当教員	奥 美佐子					科目ナンバー	K73250
学期	前期／1st semester	曜日・時限	月曜4	配当学年	3	単位数	1.0
授業のテーマ	表現の展開に挑む						
授業の概要	多様な表現方法に向かい表現技術を高め、制作過程および完成作品を相互評価することを通して、表現、鑑賞、評価の力を養う。図工実技Ⅱでは、自分が表現したい内容に沿ってメディアを選択し、造形要素からの表現、コラージュ、版表現、立体や半立体による制作など、新たな表現技術に挑戦することにより自己表現を深める自由制作にも挑戦する。						
到達目標	(1) 新しい表現技術を使って作品を制作することができる。 (2) 自分のイメージに沿って材料を選択し、造形作品として具体化することができる。 (3) 造形言語を使って自分の作品を言語化できる。						
授業計画	第1回 材料と表現について：授業概要、評価の方法の説明を含む 第2回 紙の立体：ペーパークラフト(1)：基本形、紙の操作 第3回 ：ペーパークラフト(2)：ポップアップのしくみを知る 第4回 ：ペーパークラフト(3)：ポップアップカード制作 第5回 ：ペーパークラフト(4)：ポップアップカード制作・完成 第6回 立体：発砲球(1)：動く原理 第7回 ：発砲球(2)：デザイン 第8回 ：発砲球(3)：評価 第9回 版：版画(1)：版による表現 第10回 ：版画(2)：制作及び刷り 第11回 ：版画(3)：刷り及び評価 第12回 自由制作・課題制作(選択) (1) 構想および制作 第13回 (2) 制作 第14回 (3) 完成・展示 第15回 合評会とまとめ						
授業外における学習(準備学習の内容・時間)	事前学習：授業回ごとにシラバスのテーマにあるワードを調べ、材料研究しておくこと。その際の専門用語を使用できるように課題要旨にあげてくること。(学習時間2時間) 授業後学習：制作過程や作品制作のコンセプトを確認し、美術的行為を言語化できるようにする。そのた自作を自己評価し、造形言語を使用した自作の解説文を書き、提出する。(学習時間2時間)						
授業方法	演習						
評価基準と評価方法	表現履歴等の提出による評価20%、課題レポート及び課題作品の提出による評価80%。						
履修上の注意	履修者は基本的な美術教材(1年次の図工実技Ⅰで購入し、4年間の美術系科目共通で使用する)を全員購入しておくこと。 各回に必要な教材については随時伝達するので、各自準備すること。						
教科書	テキストは使用しない。プリントを配布する。						
参考書	『折り紙建築』茶谷正洋著 彰国社 他、折り紙建築シリーズ その他、適宜紹介する。						

科目区分	子ども発達学科専門教育科目						
科目名	美術表現						
担当教員	奥 美佐子					科目ナンバー	K01160
学期	後期／2nd semester	曜日・時限	月曜3	配当学年	1	単位数	2.0
授業のテーマ	表現の体感と理解						
授業の概要	美術表現では造形とは何か、造形表現は子どもにとってどのような意味を持つのかなど、幼児造形教育の意味と意義について理論と実技の学びを通して理解する。造形理論の学習により造形表現の基礎基本を理解すると共に、教育現場で使われている材料研究を通して造形素材の特質や扱いを会得し、造形操作や技法の習得と表現への展開法、幅広いメディアによるイメージ表現の試行を経験する。学んだ造形表現の基本的な考えと表現技法を、造形表現の指導援助に生かせるようにする。						
到達目標	1. 子どもの造形活動や表現を理解し、造形理論や造形言語を用いて活動や作品を解説することができる。 2. 表現技法をファイリングし、技法の特徴や方法を説明することができる。 3. 造形要素や表現技法を有効に使用し、オリジナルの表現を生成することができる。						
授業計画	第1回：子どもと美術ー領域表現と子どもの美術（造形）ー 第2回：美術表現の成り立ち（1）子どもの表現が生まれる道筋 第3回：美術表現の成り立ち（2）造形理論の理解と子どもの表現の見方 第4回：材料と表現 第5回：形と色の表現 第6回：五感と表現（1）五感で感じ形や色で表す（個人・共同） 第7回：五感と表現（2）他者の表現を鑑賞し、分析する 第8回：子どもが楽しむ表現技法の研究（1）パス・コンテの遊び 第9回：子どもが楽しむ表現技法の研究（2）絵の具の遊び 第10回：子どもが楽しむ表現技法の研究（3）版遊び 第11回：子どもが楽しむ表現技法の研究（4）いろいろな材料・用具の使用 第12回：子どもが楽しむ表現技法の研究（5）ファイリング 第13回：表現技法を生かす（1）構想・表現 第14回：表現技法を生かす（2）表現・完成 第15回：鑑賞を愉しむーまとめとして：PG、OHC等を使ったプレゼンテーション						
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	授業前準備学習：予告した各回の授業内容に沿って紹介した参考図書あるいは資料で事前学習しておくこと。実技を含む授業回に当たっては、材料用具の選定に留意すること。 授業後学習：特に実技を含む授業の事後に当たっては、授業時間内に終了しなかったものを次週、または指定の期日までに完成させておくこと。						
授業方法	演習：造形理論及び感性にかかわる内容の回は、グループワークやでディスカッションを取り入れ、学生相互の理解を深める。授業全体を通じて幼児造形の特質や美術表現の理解を実技的体験を通じて理論的背景を把握できるようにする。						
評価基準と評価方法	課題レポート及び課題作品提出による評価80%、プレゼンテーション等の評価20%						
履修上の注意	授業で必要な教材は履修者全員購入する（卒業年次までの美術系授業で使用する）。実技を伴う授業回の場合、必要な準備物の予告をするので必携。 指定された提出物がすべて提出されていること、授業回数の2/3以上出席していることが評価対象の条件。						
教科書	適宜配布する。						
参考書	文部科学省 幼稚園教育要領（平成29年3月） 文部科学省 幼稚園教育要領解説（平成30年2月） 厚生労働省 保育所保育指針（平成29年3月） 厚生労働省 保育所保育指針解説（平成30年2月） 内閣府 幼保連携型認定こども園 教育・保育要領（平成29年3月） 内閣府 幼保連携型認定こども園 教育・保育要領解説（平成30年3月）						

科目区分	子ども発達学科専門教育科目						
科目名	美術表現						
担当教員	奥 美佐子					科目ナンバー	K01160
学期	後期／2nd semester	曜日・時限	月曜4	配当学年	1	単位数	2.0
授業のテーマ	表現の体感と理解						
授業の概要	美術表現では造形とは何か、造形表現は子どもにとってどのような意味を持つのかなど、幼児造形教育の意味と意義について理論と実技の学びを通して理解する。造形理論の学習により造形表現の基礎基本を理解すると共に、教育現場で使われている材料研究を通して造形素材の特質や扱いを会得し、造形操作や技法の習得と表現への展開法、幅広いメディアによるイメージ表現の試行を経験する。学んだ造形表現の基本的な考えと表現技法を、造形表現の指導援助に生かせるようにする。						
到達目標	1. 子どもの造形活動や表現を理解し、造形理論や造形言語を用いて活動や作品を解説することができる。 2. 表現技法をファイリングし、技法の特徴や方法を説明することができる。 3. 造形要素や表現技法を有効に使用し、オリジナルの表現を生成することができる。						
授業計画	第1回：子どもと美術ー領域表現と子どもの美術（造形）ー 第2回：美術表現の成り立ち（1）子どもの表現が生まれる道筋 第3回：美術表現の成り立ち（2）造形理論の理解と子どもの表現の見方 第4回：材料と表現 第5回：形と色の表現 第6回：五感と表現（1）五感で感じ形や色で表す（個人・共同） 第7回：五感と表現（2）他者の表現を鑑賞し、分析する 第8回：子どもが楽しむ表現技法の研究（1）パス・コンテの遊び 第9回：子どもが楽しむ表現技法の研究（2）絵の具の遊び 第10回：子どもが楽しむ表現技法の研究（3）版遊び 第11回：子どもが楽しむ表現技法の研究（4）いろいろな材料・用具の使用 第12回：子どもが楽しむ表現技法の研究（5）ファイリング 第13回：表現技法を生かす（1）構想・表現 第14回：表現技法を生かす（2）表現・完成 第15回：鑑賞を愉しむーまとめとして：PG、OHC等を使ったプレゼンテーション						
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	授業前準備学習：予告した各回の授業内容に沿って紹介した参考図書あるいは資料で事前学習しておくこと。実技を含む授業回に当たっては、材料用具の選定に留意すること。 授業後学習：特に実技を含む授業の事後に当たっては、授業時間内に終了しなかったものを次週、または指定の期日までに完成させておくこと。						
授業方法	演習：造形理論及び感性にかかわる内容の回は、グループワークやでディスカッションを取り入れ、学生相互の理解を深める。授業全体を通じて幼児造形の特質や美術表現の理解を実技的体験を通じて理論的背景を把握できるようにする。						
評価基準と評価方法	課題レポート及び課題作品提出による評価80%、プレゼンテーション等の評価20%						
履修上の注意	授業に必要な教材は履修者全員購入する（卒業年次までの美術系授業で使用する）。実技を伴う授業回の場合、必要な準備物の予告をするので必携。 指定された提出物がすべて提出されていること、授業回数の2/3以上出席していることが評価対象の条件。						
教科書	適宜配布する。						
参考書	文部科学省 幼稚園教育要領（平成29年3月） 文部科学省 幼稚園教育要領解説（平成30年2月） 厚生労働省 保育所保育指針（平成29年3月） 厚生労働省 保育所保育指針解説（平成30年2月） 内閣府 幼保連携型認定こども園 教育・保育要領（平成29年3月） 内閣府 幼保連携型認定こども園 教育・保育要領解説（平成30年3月）						

科目区分	子ども発達学科専門教育科目						
科目名	保育基本演習						
担当教員	井上 知子					科目ナンバー	K72720
学期	前期／1st semester	曜日・時限	木曜4	配当学年	2	単位数	2.0
授業のテーマ	保育実践力を培う						
授業の概要	第一に、乳幼児の行動やその捉え方について具体的事例を通して理解を深める。 第二に、保育教材を収集したり作成したりする過程で、教材のもつ意味や生かし方を学び、模擬保育の中で活用して確認する。 第三に、上記の目に見える保育を指導計画や指導案ではどのように表し、どのように評価していくかなど保育実務の仕組みを理解する。						
到達目標	実際の保育を想定した模擬保育では、保育者役と子ども役になり、双方の立場から保育を体験できる。指導計画の役割を知り、その意義について述べることができる。 幼児期の教育の様々な領域における幼児の発達について、自作教材を通して考える。						
授業計画	第1回 オリエンテーション : 授業概要と課題 第2回 指導計画の考え方と立て方(1) : 絵本の読み聞かせを想定した保育指導案の作成 第3回 指導計画の考え方と立て方(2) : 折り紙を想定した保育指導案の作成 第4回 自作教材の作成(1) : 素材を使った遊び 第5回 自作教材の作成(2) : 楽器を使った遊び 第6回 模擬保育とディスカッション(1) : 人間関係に関する保育 第7回 模擬保育とディスカッション(2) : 規範意識の芽生えに関する保育 第8回 模擬保育とディスカッション(3) : 自然や環境に関する保育 第9回 模擬保育とディスカッション(4) : 言葉による伝え合いに関する保育 第10回 模擬保育とディスカッション(5) : 「ねらい」「内容」の考え方 第11回 自作教材の作成(3) : 豊かな感性と表現に関する保育教材作成 第12回 自作教材の作成(4) : 数量・図形等への関心・感覚を育てる保育教材案の作成 第13回 保育計画の考え方と立て方(3) : 「環境の構成」の考え方と実際 第14回 保育評価と記録 : 保育における記録の意義と方法 第15回 まとめと授業評価 : 保育者の使命						
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	授業前学習：自作教材を作成したり、模擬保育を行ったりするための資料集めをしておくこと。 指導案作成に当たっては、事例集などを事前に読んでおくなど、流れが想定できるように学習する。 （週1時間程度） 授業後学習：課題解決に向けて、授業内容を整理する。（30分程度）						
授業方法	演習および模擬保育とディスカッションを中心に行います。						
評価基準と評価方法	授業参加態度(意欲・関心 など) 30% 提出物(自作教材、指導案を含むレポート など) 50% 模擬保育の内容やディスカッションでの発言 20% などを総合して評価する。						
履修上の注意	自作教材作成のための用具や材料など、指示されたものを忘れず持参すること。 10回以上の出席がないと、受講資格を失います。また、提出物は期限を厳守すること。						
教科書	適宜プリントを配布します。						
参考書							

科目区分	子ども発達学科専門教育科目						
科目名	保育原理						
担当教員	寺見 陽子					科目ナンバー	K71120
学期	後期／2nd semester	曜日・時限	月曜4	配当学年	1	単位数	2.0
授業のテーマ	保育所・認定こども園の役割と社会責務、保育の基本と方法、保育の環境構成、保育のPDCA、実践の在り方、保育者の役割						
授業の概要	保育所や認定こども園の意義と社会的役割を理解するとともに、乳幼児期の保育の基本について学ぶ。保育の特性、保育の目的ならびに目標、保育の内容と方法、子どもの理解と援助、保育の質の向上に向けた取り組み、実践における計画の作成や保育の環境構成、保護者との連携・支援、保育者の役割等、子どもの順調な育ちを促す保育の在り方について理解を深める。理論だけでなく具体的な理解を促すために、保育所や認定こども園、子育て支援現場の見学や、実際の活動への参加を通して、実践的に学ぶ。						
到達目標	(1) 保育所・認定こども園の役割と社会的責務、保育の特性・意義・基本、保育の展開の在り方、保育者の役割について理解することができる。 (2) 子どもの存在を理解し、子どもとの関わりと援助方法・技術を学ぶことができる。 (3) 子どもの保育の展開について、具体的にイメージし、保育者のあり方を自分なりに模索することができる。						
授業計画	第1回 現代社会と保育—子ども子育て新制度を巡って 第2回 保育所と認定こども園における保育の意義と基底 第3回 保育所・認定こども園における保育の方針と概要 第4回 保育所および認定こども園における保育の特性 第5回 保育所および認定こども園における保育の基本 第6回 保育の原理と方法（1）—養護と教育、環境を通して行う保育 第7回 保育の原理と方法（2）—保育の環境 第8回 保育の計画および評価—保育の全体計画とPDCA 第9回 育みたい資質・能力と幼児期に育ってほしい姿 第10回 保育の環境構成と保育者の内容—乳児、3歳未満児 第11回 保育の環境構成と保育者の内容—3歳以上児 第12回 健康および安全 第13回 子育て支援—まっぼくく実習（子育て支援現場で参加実習と観察記録の作成、ディスカッション） 第14回 保育者の専門性と資質の向上 第15回 まとめとテスト						
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	ボランティア等で、保育現場での子どもの生活や遊びにかかわる経験をもつようにしてほしい。						
授業方法	講義と実習、ディスカッション						
評価基準と評価方法	2/3以上の出席 実習レポート20点、小レポート20点、テスト60点						
履修上の注意	主体的な取り組みが望まれます。 松徳利における参加実習は必修です。これに参加しなかった場合は、単位を取ることができません。						
教科書	保育所保育指針 幼保連携型認定こども園教育・保育要領						
参考書	必要に応じて示します。						

科目区分	子ども発達学科専門教育科目						
科目名	保育原理						
担当教員	寺見 陽子					科目ナンバー	K71120
学期	後期／2nd semester	曜日・時限	水曜1	配当学年	1	単位数	2.0
授業のテーマ	保育所・認定こども園の役割と社会責務、保育の基本と方法、保育の環境構成、保育のPDCA、実践の在り方、保育者の役割						
授業の概要	保育所や認定こども園の意義と社会的役割を理解するとともに、乳幼児期の保育の基本について学ぶ。保育の特性、保育の目的ならびに目標、保育の内容と方法、子どもの理解と援助、保育の質の向上に向けた取り組み、実践における計画の作成や保育の環境構成、保護者との連携・支援、保育者の役割等、子どもの順調な育ちを促す保育の在り方について理解を深める。理論だけでなく具体的な理解を促すために、保育所や認定こども園、子育て支援現場の見学や、実際の活動への参加を通して、実践的に学ぶ。						
到達目標	(1) 保育所・認定こども園の役割と社会的責務、保育の特性・意義・基本、保育の展開の在り方、保育者の役割について理解することができる。 (2) 子どもの存在を理解し、子どもとの関わりと援助方法・技術を学ぶことができる。 (3) 子どもの保育の展開について、具体的にイメージし、保育者のあり方を自分なりに模索することができる。						
授業計画	第1回 現代社会と保育—子ども子育て新制度を巡って 第2回 保育所と認定こども園における保育の意義と基底 第3回 保育所・認定こども園における保育の方針と概要 第4回 保育所および認定こども園における保育の特性 第5回 保育所および認定こども園における保育の基本 第6回 保育の原理と方法（1）—養護と教育、環境を通して行う保育 第7回 保育の原理と方法（2）—保育の環境 第8回 保育の計画および評価—保育の全体計画とPDCA 第9回 育みたい資質・能力と幼児期に育ってほしい姿 第10回 保育の環境構成と保育者の内容—乳児、3歳未満児 第11回 保育の環境構成と保育者の内容—3歳以上児 第12回 健康および安全 第13回 子育て支援—まっぼく実習（子育て支援現場で参加実習と観察記録の作成、ディスカッション） 第14回 保育者の専門性と資質の向上 第15回 まとめとテスト						
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	ボランティア等で、保育現場での子どもの生活や遊びにかかわる経験をもつようにしてほしい。						
授業方法	講義と実習、ディスカッション						
評価基準と評価方法	2/3以上の出席 実習レポート20点、小レポート20点、テスト60点						
履修上の注意	主体的な取り組みが望まれます。 松徳利における参加実習は必修です。これに参加しなかった場合は、単位を取ることができません。						
教科書	保育所保育指針 幼保連携型認定こども園教育・保育要領						
参考書	必要に応じて示します。						

科目区分	子ども発達学科専門教育科目						
科目名	保育者論						
担当教員	松島 京					科目ナンバー	K72160
学期	前期／1st semester	曜日・時限	月曜4	配当学年	2	単位数	2.0
授業のテーマ	保育者に求められる専門性とは何か						
授業の概要	近年、保育所、幼稚園、認定こども園等保育施設およびそこで働く保育者の役割は、社会的に重視されている。 本授業では、保育者に求められる役割や倫理および職務内容について学ぶとともに、それらの特性や重要性を理解する。また、保育者として成長していくため、今日的な課題についても考えながら、専門性を身につけるために必要な基本的な知識を習得する。						
到達目標	(1) 保育者の役割と倫理について理解することができる【汎用的技能】 (2) 保育者の専門性と協働について理解することができる【汎用的技能】 (3) 保育者の専門職的成長について理解することができる【態度・志向性】						
授業計画	01. はじめに：授業の到達目標、進め方、成績評価方法について 保育者とは 02. 保育者の役割と倫理 (1) 保育者の役割 03. 保育者の役割と倫理 (2) 保育者の倫理 04. 保育者の職務内容 (1) 保育者の制度的位置づけ 05. 保育者の職務内容 (2) 保育者の責任と義務 06. 保育者の専門性 (1) 子どもとともに生きる 07. 保育者の専門性 (2) 保護者支援・家庭支援 08. 保育者の専門性 (3) 知識・技術及び判断 09. 保育者の専門性 (4) 保育課程による保育の展開と自己評価 10. 保育者の協働 (1)：保育者同士の協働 11. 保育者の協働 (2)：保護者及び地域社会との協働 12. 保育者の協働 (3)：専門職間及び専門機関との連携 13. 保育者の専門職的成長 (1)：専門性の発達 14. 保育者の専門職的成長 (2)：生涯発達とキャリア形成 15. おわりに：まとめ、到達度の確認						
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	・授業計画に沿って事前に読んでおく（予習時間2時間） ・教科書の該当箇所およびレジュメやノートを見直し復習する（復習時間2時間） ・日頃から子どもと関わる機会を多く持ち、積極的に子どもを知ろうとすること ・日頃から子どもに関連するニュースに対して、積極的に興味・関心を持っておくこと						
授業方法	・講義：授業内容の説明に基づいたグループワークやディスカッションも組み込む ・レポート課題は、授業時間外に取り組みむものと授業時間内に取り組みむものがある ・松陰manabaを活用する（授業資料の配布やレポート課題の提出等）						
評価基準と評価方法	[評価基準と評価方法] 定期試験およびレポート課題により、総合的に評価する評価の割合は、定期試験70%、レポート課題30%とする。 [定期試験] 講義内容について総合的に理解し自分なりの考えを持つことができているか、論理的に記述しているか、を評価する。到達目標 (1) (2) (3) と関連する。 [レポート課題] 授業の進行に沿って提示する。授業内容を理解することができるか、自分のことばで表現することができるか、を評価する。到達目標 (1) (2) (3) と関連する。 [フィードバック] 定期試験およびレポート課題の総評を松陰manabaで告知する。						
履修上の注意	・出席回数が3分の2（10回）以上に満たない場合は、定期試験の受験資格を失うものとする ・30分以上の遅刻は欠席とし、30分未満の遅刻は3回で1回の欠席とする ・専門職（プロフェッショナル）になるという自覚を持って、受講すること。特に、開始時間や課題提出時のルールは厳守すること。時間やルールを守ることは、他者との信頼関係を築くにあたって重要なことである。						
教科書	『保育所保育指針解説（平成30年3月）』（厚生労働省、フレーベル館、ISBN978-4-577-81448-2） （他の授業等で既に購入していればそれを持参すること）						
参考書	『幼稚園教育要領解説（平成30年3月）』（文部科学省、フレーベル館、ISBN978-4-577-81447-5） 『幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説（平成30年3月）』（内閣府・文部科学省・厚生労働省、フレーベル館、ISBN978-4-577-81449-9） （他の授業等で既に購入していればそれを持参すること）						

科目区分	子ども発達学科専門教育科目						
科目名	保育者論						
担当教員	松島 京					科目ナンバー	K72160
学期	前期／1st semester	曜日・時限	月曜5	配当学年	2	単位数	2.0
授業のテーマ	保育者に求められる専門性とは何か						
授業の概要	近年、保育所、幼稚園、認定こども園等保育施設およびそこで働く保育者の役割は、社会的に重視されている。 。本授業では、保育者に求められる役割や倫理および職務内容について学ぶとともに、それらの特性や重要性を理解する。また、保育者として成長していくため、今日的な課題についても考えながら、専門性を身につけるために必要な基本的な知識を習得する。						
到達目標	(1) 保育者の役割と倫理について理解することができる【汎用的技能】 (2) 保育者の専門性と協働について理解することができる【汎用的技能】 (3) 保育者の専門職的成長について理解することができる【態度・志向性】						
授業計画	01. はじめに：授業の到達目標、進め方、成績評価方法について 保育者とは 02. 保育者の役割と倫理 (1) 保育者の役割 03. 保育者の役割と倫理 (2) 保育者の倫理 04. 保育者の職務内容 (1) 保育者の制度的位置づけ 05. 保育者の職務内容 (2) 保育者の責任と義務 06. 保育者の専門性 (1) 子どもとともに生きる 07. 保育者の専門性 (2) 保護者支援・家庭支援 08. 保育者の専門性 (3) 知識・技術及び判断 09. 保育者の専門性 (4) 保育課程による保育の展開と自己評価 10. 保育者の協働 (1)：保育者同士の協働 11. 保育者の協働 (2)：保護者及び地域社会との協働 12. 保育者の協働 (3)：専門職間及び専門機関との連携 13. 保育者の専門職的成長 (1)：専門性の発達 14. 保育者の専門職的成長 (2)：生涯発達とキャリア形成 15. おわりに：まとめ、到達度の確認						
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	・ 授業計画に沿って事前に教科書（該当部分）を読んでおく（予習時間2時間） ・ 教科書の該当箇所およびレジュメやノートを見直し復習する（復習時間2時間） ・ 日頃から子どもと関わる機会を多く持ち、積極的に子どもを知ろうとすること ・ 日頃から子どもに関連するニュースに対して、積極的に興味・関心を持っておくこと						
授業方法	・ 講義：授業内容の説明に基づいたグループワークやディスカッションも組み込む ・ レポート課題は、授業時間外に取り組むものと授業時間内に取り組むものがある ・ 松陰manabaを活用する（授業資料の配布やレポート課題の提出等）						
評価基準と評価方法	[評価基準と評価方法] 定期試験およびレポート課題により、総合的に評価する評価の割合は、定期試験70%、レポート課題30%とする。 [定期試験] 講義内容について総合的に理解し自分なりの考えを持つことができているか、論理的に記述しているか、を評価する。到達目標(1)(2)(3)と関連する。 [レポート課題] 授業の進行に沿って提示する。授業内容を理解することができるか、自分のことばで表現することができるか、を評価する。到達目標(1)(2)(3)と関連する。 [フィードバック] 定期試験およびレポート課題の総評を松陰manabaで告知する。						
履修上の注意	・ 出席回数が3分の2（10回）以上に満たない場合は、定期試験の受験資格を失うものとする ・ 30分以上の遅刻は欠席とし、30分未満の遅刻は3回で1回の欠席とする ・ 専門職（プロフェッショナル）になるという自覚を持って、受講すること。特に、開始時間や課題提出時のルールは厳守すること。時間やルールを守るとは、他者との信頼関係を築くにあたって重要なことである。						
教科書	『保育所保育指針解説（平成30年3月）』（厚生労働省、フレーベル館、ISBN978-4-577-81448-2） （他の授業等で既に購入していればそれを持参すること）						
参考書	幼稚園教育要領解説（平成30年3月）』（文部科学省、フレーベル館、ISBN978-4-577-81447-5） 『幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説（平成30年3月）』（内閣府・文部科学省・厚生労働省、フレーベル館、ISBN978-4-577-81449-9） （他の授業等で既に購入していればそれを持参すること）						

科目区分	子ども発達学科専門教育科目							
科目名	保育指導法							
担当教員	井上 知子						科目ナンバ－	K74090
学期	前期／1st semester		曜日・時限	水曜1	配当学年	3	単位数	2.0
授業のテーマ	子どもを主体とした保育指導法							
授業の概要	幼児期は、遊びを中心とした生活の中で生涯に渡って重要な人格の基礎を培う。遊びとは、幼児が自ら主体となって展開するものであり、その中で大切な学びを得る。そのためには、保育者が高い専門性をもち、役割を自覚することが重要である。							
到達目標	・ 幼児期の「遊び」や「学び」の意味や重要性を理解し、その意義について述べることができる。 ・ 幼児期の発達の特性を理解し、育ちを支える保育者の役割や実践するための様々な方法を知る。							
授業計画	第1回 オリエンテーション : 授業概要 「主体性」について考える 第2回 幼児期にふさわしい生活 : 主体的な遊びが生まれる環境 第3回 環境の構成と保育の展開 : 「環境を通して行う教育」とは 第4回 「遊び」の指導 : 「遊び」の中にある「学び」 第5回 「生活」の指導 : 「生活」の中にある「経験」 第6回 学び合い育ち合うクラスづくり : 個と集団の関係 第7回 園内外の環境を生かした保育 : 地域とのかかわり、園外保育 第8回 保育活動と行事 : 環境としての行事 第9回 指導計画の立て方 : 「ねらい」と「内容」の立て方 第10回 幼稚園・保育所・小学校の連携 : 学びの連続性を考える 幼児期に育てたい10項目 第11回 事例研究 : DVD視聴とディスカッション 保育者の姿勢 第12回 危機管理 : 安全管理と主体性 第13回 家庭との連携 : 保護者対応と情報発信 第14回 保育者としての資質向上 : 園内研修や記録の活用 筆記試験 第15回 まとめと授業評価(レポート提出)							
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	授業前学習：目標に迫るための模擬保育が行えるよう、教材研究などを行う。（週30分程度） 教科書の該当ページを読んでおく（週30分程度） 授業後学習：学習した内容を教科書で確認する。 課題解決に向けて、ボランティア等で積極的に保育現場とかかわる。							
授業方法	講義 事例やDVD視聴後にグループでディスカッションし、感想や考えを出し合う。正解を求めるのではなく、考えを言語化する経験を大切にしたい。							
評価基準と評価方法	筆記試験による評価 50% 授業態度(意欲・関心・発言)、レポート等の提出物による評価 50% を総合して評価します。							
履修上の注意	意欲的に授業に参加してください。提出物の期限は厳守すること。 単位認定には、全授業数2/3以上の出席が必要です。							
教科書	幼稚園教育要領解説 文部科学省 2018年 フレーベル館							
参考書	保育所保育指針 厚生労働省							

--	--

--	--

科目区分	子ども発達学科専門教育科目							
科目名	保育指導法							
担当教員	井上 知子						科目ナンバー	K74090
学期	前期／1st semester		曜日・時限	木曜5	配当学年	4	単位数	2.0
授業のテーマ	子どもを主体とした保育指導法							
授業の概要	幼児期は、遊びを中心とした生活の中で生涯に渡って重要な人格の基礎を培う。遊びとは、幼児が自ら主体となって展開するものであり、その中で大切な学びを得る。そのためには、保育者が高い専門性をもち、役割を自覚することが重要である。							
到達目標	・ 幼児期の「遊び」や「学び」の意味や重要性を理解し、その意義について述べることができる。 ・ 幼児期の発達の特性を理解し、育ちを支える保育者の役割や実践するための様々な方法を知る。							
授業計画	第1回 オリエンテーション : 授業概要 「主体性」について考える 第2回 幼児期にふさわしい生活 : 主体的な遊びが生まれる環境 第3回 環境の構成と保育の展開 : 「環境を通して行う教育」とは 第4回 「遊び」の指導 : 「遊び」の中にある「学び」 第5回 「生活」の指導 : 「生活」の中にある「経験」 第6回 学び合い育ち合うクラスづくり : 個と集団の関係 第7回 園内外の環境を生かした保育 : 地域とのかかわり、園外保育 第8回 保育活動と行事 : 環境としての行事 第9回 指導計画の立て方 : 「ねらい」と「内容」の立て方 第10回 幼稚園・保育所・小学校の連携 : 学びの連続性を考える 幼児期に育てたい10項目 第11回 事例研究 : DVD視聴とディスカッション 保育者の姿勢 第12回 危機管理 : 安全管理と主体性 第13回 家庭との連携 : 保護者対応と情報発信 第14回 保育者としての資質向上 : 園内研修や記録の活用 筆記試験 第15回 まとめと授業評価(レポート提出)							
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	授業前学習: 目標に迫るための模擬保育が行えるよう、教材研究などを行う。（週30分程度） 教科書の該当ページを読んでおく（週30分程度） 授業後学習: 学習した内容を教科書で確認する。 課題解決に向けて、ボランティア等で積極的に保育現場とかかわる。							
授業方法	講義 事例やDVD視聴後にグループでディスカッションし、感想や考えを出し合う。正解を求めるのではなく、考えを言語化する経験を大切にしたい。							
評価基準と評価方法	筆記試験による評価 50% 授業態度(意欲・関心・発言)、レポート等の提出物による評価 50% を総合して評価します。							
履修上の注意	意欲的に授業に参加してください。提出物の期限は厳守すること。 単位認定には、全授業数2/3以上の出席が必要です。							
教科書	幼稚園教育要領解説 文部科学省 2018年 フレーベル館							
参考書	保育所保育指針 厚生労働省							

科目区分	子ども発達学科専門教育科目						
科目名	保育実習Ⅰ（施設）						
担当教員	塚元 重範					科目ナンバ－	K73560
学期	集中講義	曜日・時限	集中1	配当学年	3	単位数	2.0

授業のテーマ	児童福祉施設の保育士のあるべき姿を学ぶ								
授業の概要	児童福祉施設で実際に子どもや利用者と生活を共にする中で、子どもや利用者の理解、施設で働く保育士の職務、職員間の連携や施設の役割・責任などの理解、家庭環境の理解などを実践的に学ぶ								
到達目標	施設で過ごす子どもや利用者との関わりを体験し、子どもや利用者に対し適切な対応や共感的な対応ができる。 施設の役割や保育士の基本的な役割を説明できる。								
授業計画	授業は実習先である児童福祉施設において行われる。１０日間にわたる概要は次の通りであるが、実習先の事情により内容が多少変わる場合もある。 ○実習前段階として * 学内での事前指導（実習の心得、諸注意、実習意義・目的・内容・方法、それぞれの施設の対象児・者の理解・かかわり方、児童福祉施設に関係する制度・法律・社会背景などの理解を深める） ○第1段階（１～７日目） 観察実習（実習施設の組織・種類・特性の理解、職員の職種（専門家）の働きと役割・連携の取り方、子どもや利用者のニーズ、施設の一日の流れなどを理解する） ○第2段階（８～１０日目） 観察に加え、部分的な参加を伴う参加実習（子どもや利用者へのサポートやかかわりを実際に保育士の補助をしながら体験する。また、環境整備や教材準備等を補助する。援助計画を理解する） ○実習事後段階として * 事後指導（自己評価・反省、感想・レポートの提出、実習報告会への出席、実習記録の提出、自己課題の達成度確認等） * 実習全期間を通して実習の記録をする								
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	児童福祉施設の見学、施設でのボランティアを体験する。 現代の子どもたちがおかれている社会や家庭の状況、子どもたちの育ちの様子等に関する情報をまとめる。 児童福祉施設に関する法令、規則、基本となる指針等にふれる。								
授業方法	児童福祉施設における実習、教員による巡回訪問指導								
評価基準と評価方法	<table border="0"> <tr> <td>実習目的や方法等に関する理解度（レポートによる）</td><td>２０％</td></tr> <tr> <td>実習記録の内容</td><td>２０％</td></tr> <tr> <td>諸手続きへの取り組み</td><td>１０％</td></tr> <tr> <td>施設先の実習評価（出席を含め）</td><td>５０％</td></tr> </table>	実習目的や方法等に関する理解度（レポートによる）	２０％	実習記録の内容	２０％	諸手続きへの取り組み	１０％	施設先の実習評価（出席を含め）	５０％
実習目的や方法等に関する理解度（レポートによる）	２０％								
実習記録の内容	２０％								
諸手続きへの取り組み	１０％								
施設先の実習評価（出席を含め）	５０％								
履修上の注意	遅刻・欠勤がないことはもとより、積極的に、誠実に実習に臨む。 施設の特徴を踏まえ、特に守秘義務の遵守、倫理観の基づく態度を持って実習に臨む。 指導者の助言を真摯に受け止め、子どもや利用者の立場を理解して共感的な態度で臨む。								
教科書	実習の手引き、事前授業で配布したプリント								
参考書									

科目区分	子ども発達学科専門教育科目						
科目名	保育実習Ⅰ（保育所）						
担当教員	松岡 靖					科目ナンバー	K73550
学期	集中講義	曜日・時限	集中1	配当学年	3	単位数	2.0
授業のテーマ	保育所における実習への参加						
授業の概要	保育所における実習に参加し、保育所生活の特性、子どもの発達過程を踏まえた子どもへの支援、保育士の業務への補助を通して【汎用的技能】、保育士に求められる基礎的な専門的知識・技能を習得する【態度・志向性】。						
到達目標	・保育所の社会的機能を具体的に理解する。 ・保育所生活の特性を理解する。 ・子どもの発達過程を理解する。 ・子どもの個人差を踏まえた個別的・集団的な支援ができる。 ・保育士の職務の具体的内容を体得する。						
授業計画	実習Ⅰ（10日間）の、標準的な内容は以下のとおりである。 ・事前学習：保育所でのオリエンテーション(学外オリエンテーション)を受ける ・見学・観察実習 ・参加(部分)実習 ・実習記録(日誌)の作成 ・事後学習：各自の取り組みを自己評価したうえで、レポートを作成する						
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	・保育所等でのボランティア活動へ積極的に参加する。 ・実習中に必要とされる保育技能(手遊び、歌、絵本、紙芝居等)を、日頃から習得する。 ・保育所という社会との出会いに備えて、社会人としての基礎的なマナー、常識を体得する。						
授業方法	実習						
評価基準と評価方法	・実習完了の基礎点 40% ・実習園の評価 40% ・実習記録・レポート 20%						
履修上の注意	・実習中の無断での欠席、遅刻、早退は厳禁する。 ・実習時間の確保には、各自で十分に留意する。 ・実習園の園の方針を理解し、それに応じた実習姿勢をとる。						
教科書	・『実習の手引き』						
参考書	・『月刊保育とカリキュラム』 ひかりのくに						

科目区分	子ども発達学科専門教育科目						
科目名	保育実習Ⅱ（保育所）						
担当教員	林 悠子					科目ナンバ	K73580
学期	集中講義	曜日・時限	集中1	配当学年	3	単位数	2.0
授業のテーマ	保育所における実習への参加						
授業の概要	・保育所における実習に参加し、保育所生活の特性、子どもの発達過程を踏まえた子どもへの支援、保育士の業務への補助を通して、保育士に求められる応用的な専門的知識・技能を習得する。 ・実習記録への記載方法を習得し、記録を作成する。 ・実習指導案の作成方法を理解し、実際に指導案を作成し、自ら保育を実施する。						
到達目標	・保育所の社会的機能を具体的に理解する。 ・保育所生活の特性を理解する。 ・子どもの発達過程を理解する。 ・子どもの個人差を踏まえた個別的・集団的な支援ができる。 ・保育士の職務の具体的内容を体得する。						
授業計画	実習Ⅱ（10日間）の、標準的な内容は以下のとおりである ・事前学習：保育所でのオリエンテーション（学外オリエンテーション）を受ける ・参加（部分）実習：数回の参加実習を、指導案を作成したうえで実施する ・責任実習：1～2回の責任実習を、指導案を作成したうえで実施する ・保育所の保護者に対する子育て支援への参加 ・実習記録（日誌）の作成 ・事後学習：各自の取り組みを自己評価したうえで、レポートを作成する						
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	・保育実習Ⅰの内容の反省をする。 ・保育所等でのボランティア活動へ積極的に参加する。 ・実習中に必要とされる保育技能（手遊び、歌、絵本、紙芝居等）を、日頃から習得する。 ・保育所という社会との出会いに備えて、社会人としての基礎的なマナー、常識を体得する。						
授業方法	実習						
評価基準と評価方法	・実習完了の基礎点 40% ・実習園の評価 40% ・実習記録・レポート 20%						
履修上の注意	・実習中の無断での欠席、遅刻、早退は厳禁する。 ・実習時間の確保には、各自で十分に留意する。 ・実習園の方針を理解し、それに応じた実習姿勢をとる。						
教科書	なし						
参考書	なし						

科目区分	子ども発達学科専門教育科目						
科目名	保育実習ⅢⅢ（施設）						
担当教員	塚元 重範					科目ナンバー	K73600
学期	集中講義	曜日・時限	集中1	配当学年	3	単位数	2.0
授業のテーマ	保育実習Ⅰ（施設）の経験を踏まえ、総合的に学習する。						
授業の概要	療育・養育のあり方や地域の中での施設の役割を理解する。保育士やその他の専門職員の働きの実態に触れ、連携や専門性の重要性について理解する。援助計画や支援計画を立案し指導する。子どもや利用者、保護者とのかわりを通して理解を深める。						
到達目標	児童福祉施設で保育士の職務を理解し、施設保育士とともに基本的な職務を果たすことができる 子どもの課題を理解し、短期的な援助計画を立てることができる						
授業計画	授業は施設での実習の形で進められる。１０日間にわたる概要は次の通りであるが、実習先の事情により内容が多少変わる場合もある。 ○実習前段階 オリエンテーション（諸注意、心得、実習施設の概要・理念、運営方針・指導方針、援助計画の確認、指導者との打ち合わせ等）を受ける。 ○実習中 ①主体性を持って養護、療育に参加し、子どもや利用者とかかわる ②施設の組織、職員のチームワーク力、環境への留意などの観察を行う ③日々の目標又は自立支援計画に基づいて実践し、実践の評価反省をする ④施設が実施する地域におけるイベント、事業などに参加する ⑤研究的な視点を持って子どもや利用者とかかわる ⑥職員のかかわりの意図を理解し、記録する ○実習後段階 全体を通じた自己評価・反省・レポートの提出、実習の振り返り、「実習記録」の提出、施設で働くことをイメージし、今後の学習への課題の明確化等						
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	実習前、施設でのボランティア活動をする						
授業方法	施設における実習、教員による訪問指導						
評価基準と評価方法	施設の評価 実習記録の内容 レポート 50% 30% 20%						
履修上の注意	遅刻、欠勤がないことはもとより、積極的かつ誠実に実習に臨む。 守秘義務の遵守、倫理観に基づく態度でもって実習に臨む。 指導者の助言を真摯に受け止め、向上心を持って臨む。						
教科書	「実習の手引き」事前授業で配布したプリント						
参考書							

科目区分	子ども発達学科専門教育科目						
科目名	保育実習指導Ⅰ						
担当教員	林 悠子・塚元 重範					科目ナンバ	K72540
学期	集中講義	曜日・時限	集中1	配当学年	2	単位数	2.0
授業のテーマ	保育実習(保育所・児童福祉施設)に必要なとされる知識・技能						
授業の概要	児童福祉施設での実習に臨むにあたって、実習の意義、目的、内容、方法に関して概説する。 ①保育所・児童福祉施設の理解 ②既習科目で習得した知識・技能の再確認 ③子どもへの援助に必要な態度、技能 ④実習記録の記載方法 ⑤各自の実習課題の明確化						
到達目標	・実習の意義、目的、方法などを理解できる。 ・自己の実習課題・目標を明確化できる。 ・実習に必要なとされる書類の作成、手続きを誤りなく行える。 ・子どもの発達の特性、子どもの最善の利益と人権の擁護について理解できる。 ・実習生としての倫理を自らのものとして内面化できる。 ・子ども・利用者の生活援助に関する基本的な技能を使いこなすことが出来る。 ・事後指導においては、実習内容の反省を行ない、次なる実習に向けた課題と自己目標を意識化できる。						
授業計画	【保育所】 第1回 保育所実習の意義・目的・方法を知る。保育所の社会的機能、保育士の役割についての復習 第2回 保育所実習の流れを理解する。保育記録の作成①(時系列記録) 第3回 保育記録の作成②(場面記録) 第4回 指導案作成①(指導案作成の目的、留意点) 第5回 指導案作成②(指導案の発表) 第6回 実習課題の設定①(問題意識・課題の共有) 第7回 実習課題の設定②(各自の実習課題作成) 第8回 守秘義務、留意事項 【施設】 第1回 施設実習の意義・目的・内容・方法 第2回 障害系施設の概要と保育士の職務内容 第3回 養護系施設の概要と保育士の職務内容 第4回 施設実習の実際(映像教材) 第5回 施設実習における子どもの理解と保育士の支援方法、倫理 第6回 施設実習における実習記録の作成方法 第7回 施設実習の課題の明確化、関連書類の作成、学内オリエンテーション 第8回 事後指導						
授業外における学習(準備学習の内容・時間)	・保育所・児童福祉施設に関するニュースや情報を収集する。 ・保育所・児童福祉施設におけるボランティア等に積極的に参加する。						
授業方法	講義及び演習						
評価基準と評価方法	・レポート、ワークシート等の提出物 50% ・授業への取り組み(小テスト含む) 50%						
履修上の注意	・保育実習指導Ⅰの単位を取得しないと、保育実習Ⅰには参加できない。 ・全ての回への出席が求められる。無断での欠席、遅刻、早退を固く禁ずる。 ・学外実習へ向けた内容のため、保育者としての責務の自覚に基づいた、積極的な参加が強く求められる。						
教科書	・神戸松蔭女子学院大学『実習の手引き』 ・神戸松蔭女子学院大学教職支援センター『保育実習参加のための手続きガイド』						
参考書							

科目区分	子ども発達学科専門教育科目						
科目名	保育実習指導Ⅰ						
担当教員	林 悠子・塚元 重範					科目ナンバー	K72540
学期	集中講義	曜日・時限	集中1	配当学年	2	単位数	2.0
授業のテーマ	保育実習(保育所・児童福祉施設)に必要なとされる知識・技能						
授業の概要	児童福祉施設での実習に臨むにあたって、実習の意義、目的、内容、方法に関して概説する。 ①保育所・児童福祉施設を理解 ②既習科目で習得した知識・技能の再確認 ③子どもへの援助に必要な態度、技能 ④実習記録の記載方法 ⑤各自の実習課題の明確化						
到達目標	・実習の意義、目的、方法などを理解できる。 ・自己の実習課題・目標を明確化できる。 ・実習に必要なとされる書類の作成、手続きを誤りなく行える。 ・子どもの発達の特性、子どもの最善の利益と人権の擁護について理解できる。 ・実習生としての倫理を自らのものとして内面化できる。 ・子ども・利用者の生活援助に関する基本的な技能を使いこなすことができる。 ・事後指導においては、実習内容の反省を行ない、次なる実習に向けた課題と自己目標を意識化できる。						
授業計画	【保育所】 第1回 保育所実習の意義・目的・方法を知る。保育所の社会的機能、保育士の役割についての復習 第2回 保育所実習の流れを理解する。保育記録の作成①(時系列記録) 第3回 保育記録の作成②(場面記録) 第4回 指導案作成①(指導案作成の目的、留意点) 第5回 指導案作成②(指導案の発表) 第6回 実習課題の設定①(問題意識・課題の共有) 第7回 実習課題の設定②(各自の実習課題作成) 第8回 守秘義務、留意事項 【施設】 第1回 施設実習の意義・目的・内容・方法 第2回 障害系施設の概要と保育士の職務内容 第3回 養護系施設の概要と保育士の職務内容 第4回 施設実習の実際(映像教材) 第5回 施設実習における子どもの理解と保育士の支援方法、倫理 第6回 施設実習における実習記録の作成方法 第7回 施設実習の課題の明確化、関連書類の作成、学内オリエンテーション 第8回 事後指導						
授業外における学習(準備学習の内容・時間)	・保育所・児童福祉施設に関するニュースや情報を収集する。 ・保育所・児童福祉施設におけるボランティア等に積極的に参加する。						
授業方法	講義及び演習						
評価基準と評価方法	・レポート、ワークシート等の提出物 50% ・授業への取り組み(小テスト含む) 50%						
履修上の注意	・保育実習指導Ⅰの単位を取得しないと、保育実習Ⅰには参加できない。 ・全ての回への出席が求められる。無断での欠席、遅刻、早退を固く禁ずる。 ・学外実習へ向けた内容のため、保育者としての責務の自覚に基づいた、積極的な参加が強く求められる。						
教科書	・神戸松蔭女子学院大学『実習の手引き』 ・神戸松蔭女子学院大学教職支援センター『保育実習参加のための手続きガイド』						
参考書							

科目区分	子ども発達学科専門教育科目						
科目名	保育実習指導Ⅱ						
担当教員	林 悠子					科目ナンバー	K73570
学期	集中講義	曜日・時限	集中1	配当学年	3	単位数	1.0
授業のテーマ	保育実習Ⅱへの取り組み方法の理解						
授業の概要	保育実習Ⅱに臨むにあたって必要な以下の事項を共同的に学習し、理解する。 ①保育所の社会的機能 ②保育者のキャリアアップにおける実習の位置づけ ③実習に必要とされる知識・技能 ④実習生の倫理と義務 ⑤保育記録(実習日誌)の記載方法 ⑥実習指導計画(指導案)の作成方法						
到達目標	・保育実習Ⅰの取り組みを反省し、実習Ⅱへ向けての各自の課題を明確にできる。 ・実習に必要な知識・技能を習得し、自家薬籠中の物とすることができる。						
授業計画	第1回 保育実習Ⅰ(保育所)の振り返り 第2回 保育実習Ⅰ(保育所)の振り返りの共有 第3回 保育実習Ⅱの課題設定と共有 第4回 指導案作成 第5回 指導案発表 第6回 保育記録(場面記録) 第7回 事後指導(実習簿に基づくふりかえり) 第8回 事後指導(実習先の評価に基づくふりかえり)						
授業外における学習(準備学習の内容・時間)	以下の事項への積極的な参加が求められる。 ・保育現場への参加(ボランティア等) ・保育雑誌、書籍からの資料の収集 ・地域子育て支援コミュニティルーム「まつぼっくり」への参加						
授業方法	講義および演習形式(グループワークも取り入れます)						
評価基準と評価方法	・実習課題の明確化(レポートの作成、発表) 40% ・指導案の作成(プレゼンテーション含む) 40% ・提出課題 20%						
履修上の注意	・保育実習Ⅰ(保育所)の実習簿を持参してください。 ・8回の授業すべてに出席すること。1回でも欠席の場合は評価対象外となります。						
教科書	・神戸松蔭女子学院大学『実習の手引き』 ・神戸松蔭女子学院大学教職支援センター『保育実習参加のための手続きガイド』						
参考書	・『月刊保育とカリキュラム』ひかりのくに						

科目区分	子ども発達学科専門教育科目						
科目名	保育実習指導Ⅲ						
担当教員	塚元 重範					科目ナンバー	K73590
学期	集中講義	曜日・時限	集中1	配当学年	3	単位数	1.0
授業のテーマ	保育実習Ⅰ（施設）の経験を踏まえ、総合的に学習する						
授業の概要	実習に臨むにあたって、より深く児童福祉施設に求められている役割と機能、保育士に求められている専門的な知識や技術等に関する指導を行う。 実習の計画と具体的な準備をさせる。						
到達目標	問題行動を有する子どもとのかかわり方、保護者支援や家庭支援のための知識・技術を養い、子どもの問題行動への適切な対応ができる。 実習課題を明確にし、具体的な実習内容を計画できる						
授業計画	第1回 オリエンテーション 第2回 実習1の振り返り（問題行動への対応） 第3回 実習1の振り返り（甘え、トラブル、生活指導） 第4回 各施設における施設実習を深めるために（施設等の理解） 第5回 各施設における施設実習を深めるために（子どもの理解と対応、職員の役割等の理解） 第6回 自立支援計画作成の視点、他の専門職種や関係機関との連携 第7回 親・家族への対応と支援、課題の明確化 第8回 事後指導						
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	施設でのボランティア活動を行う						
授業方法	講義とグループ討議、演習						
評価基準と評価方法	実習目的の理解や子どもや親への適切な対応等の理解（小テスト、レポート等） 50% 実習課題の明確化 30% 平常点 20%						
履修上の注意	授業前準備：実習1で学んだり、経験したことを振り返り整理すること 授業後の学習：毎回授業で取り上げた内容について確認整理すること						
教科書	実習の手引き、その他プリントを配布						
参考書							

科目区分	子ども発達学科専門教育科目						
科目名	保育相談支援						
担当教員	永井 マリア					科目ナンバー	K74290
学期	前期／1st semester	曜日・時限	月曜2	配当学年	4	単位数	1.0
授業のテーマ	保育の専門的な知識や技術を生かした、保育相談支援の在り方を理解する。						
授業の概要	保護者に対する、子育てに関する相談や助言について、事例を通して具体的に考える。						
到達目標	(1) 保育支援の意義と原則について説明できる。【知識・理解】 (2) 保育の専門性を生かした保育指導や技術、支援方法を学び、実践に生かすことができる。【知識・理解】 【汎用的技能】 (3) 個人情報取り扱いを理解し、配慮ができる。【知識・理解】 【態度・志向性】						
授業計画	1：ガイダンス、保育相談支援の意義 2：保育相談支援の意義 3：保育相談支援の基本Ⅰ－子どもの最善の利益－ 4：保育相談支援の基本Ⅱ－保護者理解－ 5：保育相談支援の基本Ⅲ－退陣援助技術－ 6：保育相談支援の基本Ⅳ－社会的資源の活用－ 7：保育相談支援の実践Ⅰ－保護者支援の在り方について考える－ 8：保育相談支援の実践Ⅱ－保護者支援の内容－ 9：保育相談支援の実践Ⅲ－保護者支援の方法と技術－ 10：保育相談支援の実践Ⅳ－保育相談支援の計画、記録、評価、カンファレンス－ 11：保育相談支援の実践Ⅰ－配慮を要する家庭への支援－ 12：保育相談支援の実践Ⅱ－発達に気がかりな点がある子どもと家庭への支援－ 13：児童福祉施設における保育相談支援－要保護児童家庭への保育相談支援－ 14：児童福祉施設における保育相談支援－障害児施設における保育相談支援－ 15：保育士に求められる保育相談支援とは						
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	・実習やその他の活動を通して、保護者のことや気がかりな親子について考える機会をもつようにして下さい。 ・テキストに沿って授業を行います。事前に各回に対応するチャプター（第一回目はチャプター1）に目を通してから授業に参加して下さい（学習時間1時間）。						
授業方法	授業の前半では講義を行い、授業の後半では個別ワークやグループまたはペアによるディスカッションを行う。質問はワークまたはディスカッション中に個別に受付けますので、自分なりに理解し、説明できるように積極的に質問してください。						
評価基準と評価方法	授業内での提出物 40％ 期末試験 60％ [授業内での提出物] 各回提出の生レポートの内容・記述の的確さ[問われている内容を把握し、自分の言葉で端的かつ分かりやすくまとめられているか]等を評価する。到達目標(1)(2)(3)の到達度の確認。 [期末試験] 保育相談支援に関する理解度、実践につながり技術や支援方法に関する明確性・具体性について評価する。到達目標(1)(2)(3)の到達度の確認。						
履修上の注意	・授業回数の2/3以上の出席者に限り、期末試験を受験することができます。 ・20分以上の遅刻は、欠席扱いになります。 ・自身の受講時限に参加して下さい。どうしても難しい場合は、事前に連絡をください。 ・プリントは各回の出席者にもみ配布します(欠席の場合は翌週に限り、再配布)。 ・席は、見えやすい、聞こえやすい位置に着席してください。						
教科書	大嶋恭二・金子恵美(編著)2011「保育相談支援」建帛社 (ISBN: 978-4-7679-3290-3)						
参考書	太田光洋(編著)2016「保育教育相談支援－子育てを支える」建帛社 (ISBN: 978-4-7679-5034-1) その他、必要に応じ、随時示します。						

科目区分	子ども発達学科専門教育科目						
科目名	保育相談支援						
担当教員	永井 マリア					科目ナンバー	K74290
学期	前期／1st semester	曜日・時限	月曜3	配当学年	4	単位数	1.0
授業のテーマ	保育の専門的な知識や技術を生かした、保育相談支援の在り方を理解する。						
授業の概要	保護者に対する、子育てに関する相談や助言について、事例を通して具体的に考える。						
到達目標	(1) 保育支援の意義と原則について説明できる。【知識・理解】 (2) 保育の専門性を生かした保育指導や技術、支援方法を学び、実践に生かすことができる。【知識・理解】 【汎用的技能】 (3) 個人情報取り扱いを理解し、配慮ができる。【知識・理解】 【態度・志向性】						
授業計画	1：ガイダンス、保育相談支援の意義 2：保育相談支援の意義 3：保育相談支援の基本Ⅰ－子どもの最善の利益－ 4：保育相談支援の基本Ⅱ－保護者理解－ 5：保育相談支援の基本Ⅲ－退陣援助技術－ 6：保育相談支援の基本Ⅳ－社会的資源の活用－ 7：保育相談支援の実践Ⅰ－保護者支援の在り方について考える－ 8：保育相談支援の実践Ⅱ－保護者支援の内容－ 9：保育相談支援の実践Ⅲ－保護者支援の方法と技術－ 10：保育相談支援の実践Ⅳ－保育相談支援の計画、記録、評価、カンファレンス－ 11：保育相談支援の実践Ⅰ－配慮を要する家庭への支援－ 12：保育相談支援の実践Ⅱ－発達に気がかりな点がある子どもと家庭への支援－ 13：児童福祉施設における保育相談支援－要保護児童家庭への保育相談支援－ 14：児童福祉施設における保育相談支援－障害児施設における保育相談支援－ 15：保育士に求められる保育相談支援とは						
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	・実習やその他の活動を通して、保護者のことや気がかりな親子について考える機会をもつようにして下さい。 ・テキストに沿って授業を行います。事前に各回に対応するチャプター（第一回目はチャプター1）に目を通してから授業に参加して下さい（学習時間1時間）。						
授業方法	授業の前半では講義を行い、授業の後半では個別ワークやグループまたはペアによるディスカッションを行う。質問はワークまたはディスカッション中に個別に受け付けますので、自分なりに理解し、説明できるように積極的に質問してください。						
評価基準と評価方法	授業内での提出物 40％ 期末試験 60％ [授業内での提出物] 各回提出の生レポートの内容・記述の的確さ[問われている内容を把握し、自分の言葉で端的かつ分かりやすくまとめられているか]等を評価する。到達目標(1)(2)(3)の到達度の確認。 [期末試験] 保育相談支援に関する理解度、実践につながり技術や支援方法に関する明確性・具体性について評価する。到達目標(1)(2)(3)の到達度の確認。						
履修上の注意	・授業回数の2/3以上の出席者に限り、期末試験を受験することができます。 ・20分以上の遅刻は、欠席扱いになります。 ・自身の受講時限に参加して下さい。どうしても難しい場合は、事前に連絡をください。 ・プリントは各回の出席者におのみ配布します(欠席の場合は翌週に限り、再配布)。 ・席は、見えやすい、聞こえやすい位置に着席してください。						
教科書	大嶋恭二・金子恵美(編著)2011「保育相談支援」建帛社 (ISBN：978-4-7679-3290-3)						
参考書	太田光洋(編著)2016「保育教育相談支援－子育てを支える」建帛社 (ISBN：978-4-7679-5034-1) その他、必要に応じ、随時示します。						

科目区分	子ども発達学科専門教育科目						
科目名	保育内容環境／保育内容（環境）						
担当教員	上中 修					科目ナンバー	K72020
学期	前期／1st semester	曜日・時限	金曜3	配当学年	2	単位数	2.0
授業のテーマ	「環境を通して行う教育」の意義と援助法を理解する。						
授業の概要	幼児は自然、人、社会、物、文化などの身近な環境に直接かかわる体験を通して、人としての基盤や学習の基盤を培います。この授業ではこのような「環境にかかわる保育」の意義について学びます。さらにより共感者、援助者となるために必要な知識や技術を身につけるため、自然あそびや動物飼育、栽培や製作活動、伝統や生活文化などについて学び、実際に演習を行って実践的な力を養成していきます。						
到達目標	・子どもが育つために必要な環境の重要性について具体的に説明できる。 ・子どもと環境とのかかわりを援助する保育実践のあり方について例を挙げて説明できる。 ・多様な場面や活動を具体的に取り上げ、「環境」について説明できる。 ・様々な事例を考察でき、活動を促す環境構成の工夫や指導者としての役割等について列挙できる。						
授業計画	第1回 保育内容環境の意義 第2回 保育内容環境と幼児理解 第3回 好奇心・探求心を育てる指導 第4回 思考力の芽生えを育む指導 第5回 人的環境としての友達、保育者 第6回 物的環境としての園具・遊具・素材 第7回 前半授業のまとめと試験 第8回 自然環境としての動植物 第9回 日常生活の中での興味や関心 第10回 地域・行事との関わり 第11回 環境からみた道徳性の芽生えを培う指導 第12回 乳幼児の安全環境 第13回 保育内容環境からみた実践的課題 第14回 食農教育・食育 第15回 後半授業のまとめと試験						
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	授業前学習：次の授業の中で示されている課題を次の授業までに調べて授業に臨むこと。（学習時間：2時間） 授業後学習：授業内で示した課題について教科書だけでなく、配布プリントも参照し、発表できるようにしておくこと。（学習時間：2時間）						
授業方法	前回授業で示された課題の発表を聞き、さらに深めるために小グループでディスカッションを行う。その成果を踏まえて、解説・講義を行う。						
評価基準と評価方法	試験70%、レポート30% 履修カルテの評価は、「意欲」「知識」「適性」の3観点で行う。						
履修上の注意	10回以上の出席がないと、受講資格を失います。 ※質問は授業の前後で受け付けます。						
教科書	保育実践に活かす保育内容環境 保育出版社						
参考書							

科目区分	子ども発達学科専門教育科目						
科目名	保育内容環境／保育内容（環境）						
担当教員	上中 修					科目ナンバー	K72020
学期	前期／1st semester	曜日・時限	金曜4	配当学年	2	単位数	2.0
授業のテーマ	「環境を通して行う教育」の意義と援助法を理解する。						
授業の概要	幼児は自然、人、社会、物、文化などの身近な環境に直接かかわる体験を通して、人としての基盤や学習の基盤を培います。この授業ではこのような「環境にかかわる保育」の意義について学びます。さらにより共感者、援助者となるために必要な知識や技術を身につけるため、自然あそびや動物飼育、栽培や製作活動、伝統や生活文化などについて学び、実際に演習を行って実践的な力を養成していきます。						
到達目標	・子どもが育つために必要な環境の重要性について具体的に説明できる。 ・子どもと環境とのかかわりを援助する保育実践のあり方について例を挙げて説明できる。 ・多様な場面や活動を具体的に取り上げ、「環境」について説明できる。 ・様々な事例を考察でき、活動を促す環境構成の工夫や指導者としての役割等について列挙できる。						
授業計画	第1回 保育内容環境の意義 第2回 保育内容環境と幼児理解 第3回 好奇心・探求心を育てる指導 第4回 思考力の芽生えを育む指導 第5回 人的環境としての友達、保育者 第6回 物的環境としての園具・遊具・素材 第7回 前半授業のまとめと試験 第8回 自然環境としての動植物 第9回 日常生活の中での興味や関心 第10回 地域・行事との関わり 第11回 環境からみた道徳性の芽生えを培う指導 第12回 乳幼児の安全環境 第13回 保育内容環境からみた実践的課題 第14回 食農教育・食育 第15回 後半授業のまとめと試験						
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	授業前学習：次の授業の中で示されている課題を次の授業までに調べて授業に臨むこと。（学習時間：2時間） 授業後学習：授業内で示された課題について教科書だけでなく、配布プリントも参照し、発表できるようにしておくこと。（学習時間2時間）						
授業方法	前回授業で示された課題の発表を聞き、さらに深めるために小グループでディスカッションを行う。その成果を踏まえて、解説・講義を行う。						
評価基準と評価方法	試験70%、レポート30% 履修カルテの評価は、「意欲」「知識」「適性」の3観点で行う。						
履修上の注意	10回以上の出席がないと、受講資格を失います。 ※質問は授業の前後で受け付けます。						
教科書	保育実践に活かす保育内容環境 保育出版社						
参考書							

科目区分	子ども発達学科専門教育科目						
科目名	保育内容健康／保育内容（健康）						
担当教員	倉 真智子					科目ナンバ－	K73070
学期	前期／1st semester	曜日・時限	火曜1	配当学年	3	単位数	2.0
授業のテーマ	子どもの健康教育						
授業の概要	幼児期は生涯にわたって必要となる健康な心と体づくりの基礎を培う重要な時期である。今日においては社会的変化により、幼児の健康に様々な問題がおこっている。この授業では、それらの要因を探り、グループ討議を交えながら学習していく。また、保育者となる学生自身が自らの健康を意識し、生活の仕方をふりかえることによって、健康に対する認識をもち、指導・援助が行えるよう実践力を習得する。						
到達目標	(1) 領域「健康」のねらい・内容を理解し、他領域と関連して考えることができる(知識・理解) (2) 年齢による発達段階を理解し、年齢に応じた援助や指導ができる(汎用的技能) (3) 幼児を取り巻く現状と課題を探り、保育者として学ぶ姿勢をもっている(態度・志向性)						
授業計画	1回 子どもの健康と五領域における「健康」のねらいと内容 2回 今日における健康の課題 3回 子どもの発育・発達 4回 子どもを取り巻く環境の現状および子どもと自然 5回 基本的生活習慣について－自立と支援－ 6回 救急法について－応急手当の重要性－(DVD) 7回 子どもの事故等の応急処置・安全保育と危機管理(ゲストスピーカー予定) 8回 生活になかみける動きと運動遊びとの関連について 9回 子どもの健康と運動遊び 10回 運動の重要性と援助 11回 発達段階による遊びの特徴 12回 運動遊びの重要性－幼児期運動指針から－ 13回 動機づけと保育者の役割 14回 健康教育と期末試験 15回 まとめと試験およびふりかえり学習						
授業外における学習(準備学習の内容・時間)	事業前準備：子どもの発達を捉えておく。また、自分自身の生活をふりかえり、健康な生活習慣についての意識を高め、その意義を調べておく(学習時間2時間) 授業後学習：授業で学んだ幼児期の発達段階を復習し、実習に臨めるよう準備しておく(学習時間3時間)						
授業方法	講義と演習(グループワーク) 講義では幼児期の特徴や発達、援助や指導方法を述べる。 演習ではグループワークを通して援助法や指導法を学ぶ。						
評価基準と評価方法	授業で取り上げた課題をリアクションペーパーと発表で評価する。到達目標(1)(2)(40%) 期末試験では、幼児期の理解や保育者の指導の在り方や考え方を評価する。到達目標(1)(3)(60%)						
履修上の注意	(1) 幼・保の免許必修科目である。保育者としての意識をもって受講すること。 (2) 授業回数の3分の2以上の出席であること。3分の1以上欠席した者は期末試験の受験資格を失うものとする。						
教科書	「保育者を目指すあなたへ 子どもと健康」 みらい ISBN 978-4-86015-316-8C3037						
参考書	「子どもが育つ運動遊び」 みらい ISBN 978-4-86015-379-3C3037						

科目区分	子ども発達学科専門教育科目						
科目名	保育内容健康／保育内容（健康）						
担当教員	倉 真智子					科目ナンバー	K73070
学期	前期／1st semester	曜日・時限	火曜2	配当学年	3	単位数	2.0
授業のテーマ	子どもの健康教育						
授業の概要	幼児期は生涯にわたって必要となる健康な心と体づくりの基礎を培う重要な時期である。今日においては社会的変化により、幼児の健康に様々な問題がおこっている。この授業では、それらの要因を探り、グループ討議を交えながら学習していく。また、保育者となる学生自身が自らの健康を意識し、生活の仕方をふりかえることによって、健康に対する認識をもち、指導・援助が行えるよう実践力を習得する。						
到達目標	(1) 領域「健康」のねらい・内容を理解し、他領域と関連して考えることができる(知識・理解) (2) 年齢による発達段階を理解し、年齢に応じた援助や指導ができる(汎用的技能) (3) 幼児を取り巻く現状と課題を探り、保育者として学ぶ姿勢をもっている(態度・志向性)						
授業計画	1回 子どもの健康と五領域における「健康」のねらいと内容 2回 今日における健康の課題 3回 子どもの発育・発達 4回 子どもを取り巻く環境の現状および子どもと自然 5回 基本的生活習慣について―自立と支援― 6回 救急法について―応急手当の重要性―(DVD) 7回 子どもの事故等の応急処置・安全保育と危機管理(ゲストスピーカー予定) 8回 生活になかにもみる動きと運動遊びとの関連について 9回 子どもの健康と運動遊び 10回 運動の重要性と援助 11回 発達段階による遊びの特徴 12回 運動遊びの重要性―幼児期運動指針から― 13回 動機づけと保育者の役割 14回 健康教育と期末試験 15回 まとめと試験およびふりかえり学習						
授業外における学習(準備学習の内容・時間)	事業前準備: 子どもの発達を捉えておく。また、自分自身の生活をふりかえり、健康な生活習慣についての意識を高め、その意義を調べておく(学習時間2時間) 授業後学習: 授業で学んだ幼児期の発達段階を復習し、実習に臨めるよう準備しておく(学習時間3時間)						
授業方法	講義と演習(グループワーク) 講義では幼児期の特徴や発達、援助や指導方法を述べる。 演習ではグループワークを通して援助法や指導法を学ぶ。						
評価基準と評価方法	授業で取り上げた課題をリアクションペーパーと発表で評価する。到達目標(1)(2)(40%) 期末試験では、幼児期の理解や保育者の指導の在り方や考え方を評価する。到達目標(1)(3)(60%)						
履修上の注意	(1) 幼・保の免許必修科目である。保育者としての意識をもって受講すること。 (2) 授業回数の3分の2以上の出席であること。3分の1以上欠席した者は期末試験の受験資格を失うものとする。						
教科書	「保育者を目指すあなたへ 子どもと健康」 みらい ISBN 978-4-86015-316-8C3037						
参考書	「子どもが育つ運動遊び」 みらい ISBN 978-4-86015-379-3C3037						

科目区分	子ども発達学科専門教育科目						
科目名	保育内容言葉／保育内容（言葉）						
担当教員	古茂田 貴子					科目ナンバー	K73080
学期	後期／2nd semester	曜日・時限	月曜4	配当学年	2	単位数	2.0
授業のテーマ	幼児教育の専門的な知識を得ると共に、子ども達のことばを豊かにする環境について考える。						
授業の概要	ことばは、最も優れたコミュニケーションの道具の一つです。この講義では、言葉の大切さやことばの発達過程を学び、こども達が豊かなことばを獲得するために、保育者としてどのような援助や環境構成が必要かについて考えます。						
到達目標	①領域「言葉」の内容を理解し、保育におけることばの教育の位置づけを知る。 ②子どものことばの発達過程を学び、ことばの面白さ、コミュニケーションの道具としての重要性に気づく。 ③子どものことばの発達を促す環境構成や保育活動について考える力を養う。						
授業計画	第1回 イン트로ダクション 第2回 幼稚園教育要領 領域言葉について 第3回 幼稚園教育要領 領域言葉について（目標・ねらい） 第4回 幼稚園教育要領 領域ことばについて（内容・内容の取扱い） 第5回 ことばの発達（1～2歳） 第6回 ことばの発達（3～4歳） 第7回 ことばの発達（5～6歳） 第9回 幼児語・幼児音、文化としてのことば 第10回 一次的事ことば二次的事ことば 第11回 文字教育について 言語相対性理論 第12回 聞くことについて 第13回 ことばがけについて 第14回 児童文化財について 第15回 総括 定期試験						
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	予習は必要ありませんが、前回のノートや資料を参照し、復習して講義に臨んでください。また、授業や参考図書・資料などを通して、興味をもって自分なりに知識を広げていってください。						
授業方法	講義形式 基本的には講義ですが、講義の冒頭に数名ずつ発表してもらう時間を設けています。また、たくさんの絵本やお話を毎時間体験してもらうことを通して、現場での実践に役立てて頂きたいと思います。						
評価基準と評価方法	定期試験（50％）授業の中で適宜提出する小レポート等（50％）						
履修上の注意	出席を取ります。出席するだけでなく、意欲的に授業から知識を得てください。授業回数の3分の1以上欠席した人は、定期試験の受験資格を失うものとします。						
教科書	指定していません。適宜資料を配布します。						
参考書	『増補版 ことばと保育』古茂田貴子編著 久美株式会社						

科目区分	子ども発達学科専門教育科目						
科目名	保育内容言葉／保育内容（言葉）						
担当教員	古茂田 貴子					科目ナンバー	K73080
学期	後期／2nd semester	曜日・時限	月曜5	配当学年	2	単位数	2.0
授業のテーマ	幼児教育の専門的な知識を得ると共に、子ども達のことばを豊かにする環境について考える。						
授業の概要	ことばは最も優れたコミュニケーションの道具の一つです。この講義では、ことばの大切さやことばの発達過程を学び、子ども達が豊かなことばを獲得するために保育者としてどのような援助や環境構成が必要かについて考えます。						
到達目標	①領域「言葉」の内容を理解し、保育におけることばの教育の位置づけを知る。 ②子どものことばの発達過程を学び、ことばの面白さ、コミュニケーションの道具としての重要性に気づく。 ③子どものことばの発達を促す環境構成や保育活動について考える力を養う。						
授業計画	第1回 イン트로ダクション 第2回 幼稚園教育要領 領域言葉について 第3回 幼稚園教育要領 領域言葉について（目標・ねらい） 第4回 幼稚園教育要領 領域言葉について（内容・内容の取り扱い） 第5回 ことばの発達（1～2歳） 第7回 ことばの発達（3～4歳） 第8回 ことばの発達（5～6歳） 第9回 幼児語・幼児音、文化としてのことば 第10回 一次のことば二次のことば 第11回 文字教育について・言語相対性理論 第12回 聞くことについて 第13回 ことばがけについて 第14回 児童文化財について 第15回 総括 定期試験						
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	予習は必要ありませんが、前回のノートや資料を参照し、復習して講義に臨んでください。 授業や参考図書や資料などを通して、興味を持って自分なりに知識を広げていってください。						
授業方法	講義形式 基本的には講義ですが、講義の冒頭に数名ずつ発表してもらう時間を設けています。 また、たくさんの絵本やお話を毎時間体験してもらうことを通して、現場での実践に役立てて頂きたいと思ひます。						
評価基準と評価方法	定期試験（５０％）授業の中で適宜提出する小レポート等（５０％）						
履修上の注意	出席を取ります。出席するだけでなく、意欲的に授業から知識を得てください。						
教科書	指定していません。適宜資料を配付します。						
参考書	『増補版 ことばと保育』古茂田貴子編著 久美株式会社						

科目区分	子ども発達学科専門教育科目						
科目名	保育内容総論						
担当教員	寺見 陽子					科目ナンバー	K72180
学期	前期／1st semester	曜日・時限	金曜1	配当学年	2	単位数	2.0
授業のテーマ	保育所認定こども園における保育の目的、保育の内容、計画・実践・評価の実際、指導案の作成						
授業の概要	保育所保育の基本と保育の全体構造を理解しながら、保育の内容とは何か、保育のねらい、保育の内容と具体的な実践の展開、保護者の多様な保育ニーズに応じる保育の方法と内容について考えていきます。実際の保育実習を意識して、指導案の作成に取り組みます。						
到達目標	(1) 保育所と認定こども園における保育実践とその実際を理解することができる。 (2) 保育の実践に向けた保育の計画を立てることができる。 (3) 保育の基本とその在り方を学び、自分で実践計画を考えることができるようになる。						
授業計画	第1回 保育所保育の特性と基本 第2回 保育の内容とは 第3回 保育の内容の変遷①ー海外の保育 第4回 保育の内容の変遷②ー日本の保育 第5回 保育の内容とその構造①ー3歳未満児 第6回 保育の内容とその構造②ー3歳以上児 第7回 保育の内容と展開①ー生活づくり 第8回 保育の内容と展開②ー遊びと学び 第9回 多様な保育の展開とその内容①ー保育の全体計画について 第10回 多様な保育の展開とその内容②ー指導計画について 第11回 保育の計画と実践①ー指導計画の立て方 第12回 保育の計画と実践②ー日案の作成（グループディス・カッションによる作成） 第13回 保育の記録と省察・評価・改善（グループ・ディスカッションによる評価） 第14回 保育の内容と小学校との接続 第15回 まとめとテスト						
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	保育現場に出かけて、保育の実際を理解する機会を積極的にもつことを望みます。						
授業方法	講義・グループ・ディスカッション						
評価基準と評価方法	レポート20点、小テスト20点、テスト60点						
履修上の注意	各領域の保育の内容について、他の保育内容の講義を通して十分に理解してほしい。積極的な態度を期待する。						
教科書	プリント配布						
参考書	必要に応じて示します。						

科目区分	子ども発達学科専門教育科目						
科目名	保育内容総論						
担当教員	寺見 陽子					科目ナンバー	K72180
学期	前期／1st semester	曜日・時限	金曜2	配当学年	2	単位数	2.0
授業のテーマ	保育所認定こども園における保育の目的、保育の内容、計画・実践・評価の実際、指導案の作成						
授業の概要	保育所保育の基本と保育の全体構造を理解しながら、保育の内容とは何か、保育のねらい、保育の内容と具体的な実践の展開、保護者の多様な保育ニーズに応じる保育の方法と内容について考えていきます。実際の保育実習を意識して、指導案の作成に取り組みます。						
到達目標	(1) 保育所と認定こども園における保育実践とその実際を理解することができる。 (2) 保育の実践に向けた保育の計画を立てることができる。 (3) 保育の基本とその在り方を学び、自分で実践計画を考えることができるようになる。						
授業計画	第1回 保育所保育の特性と基本 第2回 保育の内容とは 第3回 保育の内容の変遷①ー海外の保育 第4回 保育の内容の変遷②ー日本の保育 第5回 保育の内容とその構造①ー3歳未満児 第6回 保育の内容とその構造②ー3歳以上児 第7回 保育の内容と展開①ー生活づくり 第8回 保育の内容と展開②ー遊びと学び 第9回 多様な保育の展開とその内容①ー保育の全体計画について 第10回 多様な保育の展開とその内容②ー指導計画について 第11回 保育の計画と実践①ー指導計画の立て方 第12回 保育の計画と実践②ー日案の作成（グループディス・カッションによる作成） 第13回 保育の記録と省察・評価・改善（グループ・ディスカッションによる評価） 第14回 保育の内容と小学校との接続 第15回 まとめとテスト						
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	保育現場に出かけて、保育の実際を理解する機会を積極的にもつことを望みます。						
授業方法	講義・グループ・ディスカッション						
評価基準と評価方法	レポート20点、小テスト20点、テスト60点						
履修上の注意	各領域の保育の内容について、他の保育内容の講義を通して十分に理解してほしい。積極的な態度を期待する。						
教科書	プリント配布						
参考書	必要に応じて示します。						

科目区分	子ども発達学科専門教育科目							
科目名	保育内容人間関係／保育内容（人間関係）							
担当教員	藤井 恵子					科目ナンバー	K72060	
学期	後期／2nd semester		曜日・時限	水曜1	配当学年	2	単位数	2.0
授業のテーマ	幼稚園・保育所における領域「人間関係」の意義とその内容について理解する。また、人とのかかわりによって育つ自我の発達過程と、その育ちを支える子どもの内的能力の発達、保育環境や保育者の役割について理解する。							
授業の概要	幼児の人とのかかわりに関する現状や課題を踏まえた上で、幼稚園教育要領や保育所保育指針等に示された領域「人間関係」のねらい及び内容について背景となる専門領域と関連させて理解できるようにする。その上で幼児の発達に即して主体的・対話的で深い学びが実現する過程を踏まえて具体的な指導場面を想定して子どもとのかかわりの基本と子どもの育ちを促す人間関係、保育の内容、保育者の援助のあり方について解説する。							
到達目標	（１）子どもの心の育ちとその育ちを支える人とのかかわりのあり方について理解することができる。 （２）保育内容「人間関係」のねらいと内容を理解することができる。 （３）人とのかかわりを育てる保育の在り方と実践方法について理解することができる。 （４）保育者としての感性や関わりのセンス、実践に生かせる力を身に付けることができる。							
授業計画	第1回 保育内容「人間関係」の意義と内容 第2回 領域「人間関係」がめざすもの 第3回 乳幼児期の人間関係と育ち 第4回 道徳性の芽生えを培う 第5回 乳児の人間関係と保育 第6回 1、2歳児の人間関係と保育 第7回 3歳児の人間関係と保育 第8回 4歳児の人間関係と保育 第9回 5、6歳児の人間関係と保育 第10回 人間関係の基礎をつくる遊びの実践と計画 第11回 気になる子どもの人間関係づくりと援助 第12回 保護者との関係づくりと地域との連携 第13回 人とのかかわりを育てる保育者の役割 第14回 かかわりの育ちを「みる」 第15回 授業内容についてのまとめと試験							
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	子どもとかわる機会を作り、乳幼児期の子どもの人とのかかわりについて興味を持ち、「人間関係」の発達について理解を深める。 授業後学習：授業で取り上げた内容の要点と重要箇所の確認整理。（学習時間60分）							
授業方法	講義と演習（エピソードによる事例やDVD等によって具体的な子どもの姿に触れながら、子どもの内面理解と援助、保育の方法やあり方、解釈に関連する理論について講義を行う）							
評価基準と評価方法	平常点20％：各回提出のリアクションペーパー（講義についてのコメント・質問・事例提案）などにより評価する。 筆記試験70％、小レポート10％							
履修上の注意	（１） プリントは各回の出席者のみ配布する（欠席の時は翌週授業時に限り再配布） （２） 授業回数の1/3以上欠席した人は定期試験の受験資格を失うものとする。							
教科書	寺見陽子編「子どもの心の育ちと人間関係」保育出版							
参考書	田宮緑著「領域人間関係」萌文書林							

科目区分	子ども発達学科専門教育科目						
科目名	保育内容人間関係／保育内容（人間関係）						
担当教員	藤井 恵子					科目ナンバー	K72060
学期	後期／2nd semester	曜日・時限	水曜2	配当学年	2	単位数	2.0
授業のテーマ	幼稚園・保育所における領域「人間関係」の意義とその内容について理解する。また、人とのかかわりによって育つ自我の発達過程と、その育ちを支える子どもの内的能力の発達、保育環境や保育者の役割について理解する。						
授業の概要	幼児の人とのかかわりに関する現状や課題を踏まえた上で、幼稚園教育要領や保育所保育指針等に示された領域「人間関係」のねらい及び内容について背景となる専門領域と関連させて理解できるようにする。その上で幼児の発達に即して主体的・対話的で深い学びが実現する過程を踏まえて具体的な指導場面を想定して子どもとのかかわりの基本と子どもの育ちを促す人間関係、保育の内容、保育者の援助のあり方について解説する。						
到達目標	(1) 子どもの心の育ちとその育ちを支える人とのかかわりのあり方について理解することができる。 (2) 保育内容「人間関係」のねらいと内容を理解することができる。 (3) 人とのかかわりを育てる保育の在り方と実践方法について理解することができる。 (4) 保育者としての感性や関わりのセンス、実践に生かせる力を身に付けることができる。						
授業計画	第1回 保育内容「人間関係」の意義と内容 第2回 領域「人間関係」がめざすもの 第3回 乳幼児期の人間関係と育ち 第4回 道徳性の芽生えを培う 第5回 乳児の人間関係と保育 第6回 1、2歳児の人間関係と保育 第7回 3歳児の人間関係と保育 第8回 4歳児の人間関係と保育 第9回 5、6歳児の人間関係と保育 第10回 人間関係の基礎をつくる遊びの実践と計画 第11回 気になる子どもの人間関係づくりと援助 第12回 保護者との関係づくりと地域との連携 第13回 人とのかかわりを育てる保育者の役割 第14回 かかわりの育ちを「みる」 第15回 授業内容についてのまとめと試験						
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	子どもとのかかわる機会を作り、乳幼児期の子どもの人とのかかわりについて興味を持ち、「人間関係」の発達について理解を深める。 授業後学習：授業で取り上げた内容の要点と重要箇所の確認整理。（学習時間60分）						
授業方法	講義と演習（エピソードによる事例やDVD等によって具体的な子どもの姿に触れながら、子どもの内面理解と援助、保育の方法やあり方、解釈に関連する理論について講義を行う）						
評価基準と評価方法	平常点20％：各回提出のリアクションペーパー（講義についてのコメント・質問・事例提案）などにより評価する。 筆記試験70％、小レポート10％						
履修上の注意	(1) プリントは各回の出席者のみ配布する（欠席の時は翌週授業時に限り再配布） (2) 授業回数の1/3以上欠席した人は定期試験の受験資格を失うものとする。						
教科書	寺見陽子編「子どもの心の育ちと人間関係」保育出版						
参考書	田宮緑著「領域人間関係」萌文書林						

科目区分	子ども発達学科専門教育科目						
科目名	保育内容表現（音楽）／保育内容表現Ⅰ（音楽表現）／保育内容（表現Ⅰ）						
担当教員	奥村 正子					科目ナンバー	K72030
学期	後期／2nd semester	曜日・時限	木曜1	配当学年	2	単位数	2.0
授業のテーマ	保育者に求められる音楽的な専門性の探求。						
授業の概要	幼稚園教育要領の目標を達成するための具体的な内容を理解し、領域「表現」のねらいと内容を学ぶ。 乳幼児の発達に即した総合的な援助・指導が行えるよう、保育計画について学習する。 楽器遊びや、弾き歌いによる指導など、具体的・実践的な音楽技能を習得する。 音楽表現に関わる援助方法を企画し、シミュレーションを行う中で、自らの技能、表現力の拡充を図る。						
到達目標	領域「表現」が示すねらいと内容について説明ができる。 乳幼児の「音楽的な表現」の特性とその発達について、具体的な例をあげて説明することができる。 音楽表現に関わる援助方法を企画し、シミュレーションを行う。						
授業計画	第1回 ガイダンス：授業の方法の説明・領域「表現」のねらいと内容 第2回 領域「表現」の歴史的変遷 弾き歌い実習1 第3回 乳幼児期の「うたう」表現活動と発達 音楽表現活動の実際の姿（VTR視聴を含む） 第4回 乳幼児期の「ものと関わる」表現活動と発達 弾き歌い実習2 第5回 乳幼児期の「さく・つくる」表現活動と発達 音楽表現活動の実際の援助の姿（VTR視聴を含む） 第6回 子どもの楽器を使った合奏実習 第7回 子どもの声と身体（リトミック1） 弾き歌い実習3 第8回 身の周りにおける様々な音とイメージ 第9回 身体と音楽（リトミック2） 弾き歌い実習4 第10回 領域「表現」における指導計画・シミュレーション指導案の作成に向けて 弾き歌い実習5 第11回 年齢に応じた保育計画 弾き歌い実習6 第12回 担当学生第1組による音楽活動の保育シミュレーションとディスカッション 第13回 担当学生第2組による音楽活動の保育シミュレーションとディスカッション 第14回 担当学生第3組による音楽活動の保育シミュレーションとディスカッション 第15回 まとめと期末試験						
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	指定したテキストの該当箇所は、次回までに予習すること。 弾き歌いの課題曲等、保育シミュレーションでの実演に向けて、各自が平素から実技の練習を怠らないこと。 （学習時間：2時間）						
授業方法	演習 後半の授業では、グループワークにより保育シミュレーションを実施した後、ディスカッションを行う。						
評価基準と評価方法	平常点60点（小テスト、保育シミュレーション、レポートの総合） 期末試験 40点 出席回数が授業全体の2/3未満である場合には欠席とし、評価の対象としない。						
履修上の注意	すべての学生が、作成した指導案に基づいて保育シミュレーションを行います。 保育シミュレーションやディスカッションに、積極的に参加すること。 「音楽科研究」を履修していること。						
教科書	『乳幼児の音楽表現』日本赤ちゃん学会 監修、小西行郎 他 編著、中央法規出版 ISBN978-4-8058-5448-8						
参考書	授業中に紹介する。						

科目区分	子ども発達学科専門教育科目						
科目名	保育内容表現（音楽）／保育内容表現Ⅰ（音楽表現）／保育内容（表現Ⅰ）						
担当教員	奥村 正子					科目ナンバー	K72030
学期	後期／2nd semester	曜日・時限	木曜2	配当学年	2	単位数	2.0
授業のテーマ	保育者に求められる音楽的な専門性の探求。						
授業の概要	幼稚園教育要領の目標を達成するための具体的な内容を理解し、領域「表現」のねらいと内容を学ぶ。 乳幼児の発達に即した総合的な援助・指導が行えるよう、保育計画について学習する。 楽器遊びや、弾き歌いによる指導など、具体的・実践的な音楽技能を習得する。 音楽表現に関わる援助方法を企画し、シミュレーションを行う中で、自らの技能、表現力の拡充を図る。						
到達目標	領域「表現」が示すねらいと内容について説明ができる。 乳幼児の「音楽的な表現」の特性とその発達について、具体的な例をあげて説明することができる。 音楽表現に関わる援助方法を企画し、シミュレーションを行う。						
授業計画	第1回 ガイダンス：授業の方法の説明・領域「表現」のねらいと内容 第2回 領域「表現」の歴史的変遷 弾き歌い実習1 第3回 乳幼児期の「うたう」表現活動と発達 音楽表現活動の実際の姿（VTR視聴を含む） 第4回 乳幼児期の「ものと関わる」表現活動と発達 弾き歌い実習2 第5回 乳幼児期の「きく・つくる」表現活動と発達 音楽表現活動の実際の援助の姿（VTR視聴を含む） 第6回 子どもの楽器を使った合奏実習 第7回 子どもの声と身体（リトミック1） 弾き歌い実習3 第8回 身の周りにおける様々な音とイメージ 第9回 身体と音楽（リトミック2） 弾き歌い実習4 第10回 領域「表現」における指導計画・シミュレーション指導案の作成に向けて 弾き歌い実習5 第11回 年齢に応じた保育計画 弾き歌い実習6 第12回 担当学生第1組による音楽活動の保育シミュレーションとディスカッション 第13回 担当学生第2組による音楽活動の保育シミュレーションとディスカッション 第14回 担当学生第3組による音楽活動の保育シミュレーションとディスカッション 第15回 まとめと期末試験						
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	指定したテキストの該当箇所は、次回までに予習すること。 弾き歌いの課題曲等、保育シミュレーションでの実演に向けて、各自が平素から実技の練習を怠らないこと。 （学習時間：2時間）						
授業方法	演習 後半の授業では、グループワークにより保育シミュレーションを実施した後、ディスカッションを行う。						
評価基準と評価方法	平常点60点（小テスト、保育シミュレーション、レポートの総合） 期末試験 40点 出席回数が授業全体の2/3未満である場合には欠席とし、評価の対象としない。						
履修上の注意	すべての学生が、作成した指導案に基づいて保育シミュレーションを行います。 保育シミュレーションやディスカッションに、積極的に参加すること。 「音楽科研究」を履修していること。						
教科書	『乳幼児の音楽表現』日本赤ちゃん学会 監修、小西行郎 他 編著、中央法規出版 ISBN978-4-8058-5448-8						
参考書	授業中に紹介する。						

科目区分	子ども発達学科専門教育科目						
科目名	保育内容表現（身体）／保育内容表現Ⅲ（身体表現）／保育内容（表現Ⅲ）						
担当教員	倉 真智子					科目ナンバー	K72050
学期	後期／2nd semester	曜日・時限	水曜3	配当学年	2	単位数	2.0
授業のテーマ	子どもの表現力を読み取り、自らの表現能力を身につける。						
授業の概要	幼児の表現活動は、最も基本的な心の表れである。感じたことや考えたことを素直に身体で表現しようとする。これらを理解するには、学生自身が表現する楽しさや豊かな感性をもつことが重要である。幼児の表現の萌芽を見落とさないためにも、総合的な視点から幼児の表現力を高めるための援助の仕方や指導法、技能の習得をする。また、幼児の動きを見据えての伴奏法についても学ぶ。						
到達目標	(1) 表現にねらいと内容を理解し、乳幼児の身体表現の意味を理解している【知識・理解】 (2) 専門家として発達や特性に応じたリズムあそびや指遊び等の模擬保育ができる【態度・志向性】 (3) 簡易なピアノ伴奏ができる。また、発達に応じたリズムダンスや体操を制作できる（汎用的技能）						
授業計画	第1回 保育内容（表現Ⅲ）の授業のねらいと計画 第2回 領域「表現」（保育所保育指針・幼稚園教育要領）の理解 第3回 わらべ歌と身体遊び 第4回 表現活動（身近な生き物や事象） 第5回 表現活動（身近な事象） 第6回 イメージの世界で遊ぶ、ノンバーバルコミュニケーション 第7回 律動運動 第8回 子どもの歌から律動運動への応用 第9回 リズム遊び 第10回 年齢に応じた手遊びの指導法 第11回 手遊び等の模擬保育 ー0～3歳児対象ー 第12回 手遊び等の模擬保育 ー4～5歳児対象ー 第13回 幼児のリズム体操の創作 第14回 幼児のリズムダンスの創作 第15回 リズム体操およびリズムダンスの発表とまとめ						
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	授業前学習：さまざまな場面における幼児の表現活動の意味を読み取れるよう学習しておく。 幼児のうたや手遊びを収集してファイリングしておく（学習時間2時間） 授業後学習：さまざまな発表の反省を踏まえ、実習に向けて整理しておく（学習時間3時間）						
授業方法	演習では多くがグループワークになる。自分の意見を伝えると共に他者を受け入れることを通じてコミュニケーションを図る機会とする。幼児の発達を理解し、グループ発表や模擬保育の実践を行う。						
評価基準と評価方法	グループワークと課題 到達目標 (1) (2) (30%)、 模擬保育発表 到達目標 (1) (2) (3) (40%) リズムダンス・体操の創作 到達目標 (2) (3) (30%)						
履修上の注意	①保育者にふさわしい服装（体操服・靴）や身なり（髪を束ねる・装飾品を外す）で受講すること。 ②保育者をイメージし、積極的な態度で受講すること。 ③12回以上出席すること。						
教科書	資料等を配布 「こどものリズム表現・手遊びアラカルト」						
参考書	「保育園・幼稚園のうたあそび」 吉津晶子 成美堂出版 「2、3歳児のふれあい歌遊び」 塩野マリ ひかりのくに 「これなら弾けるピアノ伴奏160」 本田玖美子 ナツメ社						

科目区分	子ども発達学科専門教育科目						
科目名	保育内容表現（身体）／保育内容表現Ⅲ（身体表現）／保育内容（表現Ⅲ）						
担当教員	倉 真智子					科目ナンバー	K72050
学期	後期／2nd semester	曜日・時限	水曜4	配当学年	2	単位数	2.0
授業のテーマ	子どもの表現力を読み取り、自らの表現能力を身につける。						
授業の概要	幼児の表現活動は、最も基本的な心の表れである。感じたことや考えたことを素直に身体で表現しようとする。これらを理解するには、学生自身が表現する楽しさや豊かな感性をもつことが重要である。幼児の表現の萌芽を見落とさないためにも、総合的な視点から幼児の表現力を高めるための援助の仕方や指導法、技能の習得をする。また、幼児の動きを見据えての伴奏法についても学ぶ。						
到達目標	(1) 表現にねらいと内容を理解し、乳幼児の身体表現の意味を理解している【知識・理解】 (2) 専門家として発達や特性に応じたリズムあそびや指遊び等の模擬保育ができる【態度・志向性】 (3) 簡易なピアノ伴奏ができる。また、発達に応じたリズムダンスや体操を制作できる（汎用的技能）						
授業計画	第1回 保育内容（表現Ⅲ）の授業のねらいと計画 第2回 領域「表現」（保育所保育指針・幼稚園教育要領）の理解 第3回 わらべ歌と身体遊び 第4回 表現活動（身近な生き物や事象） 第5回 表現活動（身近な事象） 第6回 イメージの世界で遊ぶ、ノンバーバルコミュニケーション 第7回 律動運動 第8回 子どもの歌から律動運動への応用 第9回 リズム遊び 第10回 年齢に応じた手遊びの指導法 第11回 手遊び等の模擬保育 ー0～3歳児対象ー 第12回 手遊び等の模擬保育 ー4～5歳児対象ー 第13回 幼児のリズム体操の創作 第14回 幼児のリズムダンスの創作 第15回 リズム体操およびリズムダンスの発表とまとめ						
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	授業前学習：さまざまな場面における幼児の表現活動の意味を読み取れるよう学習しておく。 幼児のうたや手遊びを収集してファイリングしておく（学習時間2時間） 授業後学習：さまざまな発表の反省を踏まえ、実習に向けて整理しておく（学習時間3時間）						
授業方法	演習では多くがグループワークになる。自分の意見を伝えると共に他者を受け入れることを通じてコミュニケーションを図る機会とする。幼児の発達を理解し、グループ発表や模擬保育の実践を行う。						
評価基準と評価方法	グループワークと課題 到達目標 (1) (2) (30%)、 模擬保育発表 到達目標 (1) (2) (3) (40%) リズムダンス・体操の創作 到達目標 (2) (3) (30%)						
履修上の注意	①保育者にふさわしい服装（体操服・靴）や身なり（髪を束ねる・装飾品を外す）で受講すること。 ②保育者をイメージし、積極的な態度で受講すること。 ③12回以上出席すること。						
教科書	資料等を配布 「こどものリズム表現・手遊びアラカルト」						
参考書	「保育園・幼稚園のうたあそび」 吉津晶子 成美堂出版 「2、3歳児のふれあい歌遊び」 塩野マリ ひかりのくに 「これなら弾けるピアノ伴奏160」 本田玖美子 ナツメ社						

科目区分	子ども発達学科専門教育科目						
科目名	保育内容表現（造形）／保育内容表現Ⅱ（造形表現）／保育内容（表現Ⅱ）						
担当教員	奥 美佐子					科目ナンバー	K72040
学期	前期／1st semester	曜日・時限	火曜2	配当学年	2	単位数	2.0
授業のテーマ	乳幼児の造形表現の研究						
授業の概要	乳幼児の造形表現を指導・援助するために必要な理論と実践の方法を学ぶ。造形表現の理念、乳幼児の発達との関係、指導に必要な造形表現の素材・用具・表現技法を身につけ、実践的な造形指導に活用できるように導く。実技や教育・保育現場の資料を通して造形保育を構想し、幼児が主体的に活動できる環境構成や一人ひとりにあった指導・援助について学ぶ。						
到達目標	(1) 乳幼児の造形表現の特徴を解説することができる。 (2) 身近な環境にある自然や事象から、造形表現の題材を見つけ、造形活動の構想へつなぐことができる。 (3) 造形素材、用具、表現技法を選択して、指導案を作成することができる。						
授業計画	第1回 幼児の造形表現の実際と特質・幼稚園教育要領、保育所保育指針「領域表現」の理解 第2回 造形表現が生まれる道筋・乳幼児の造形活動の実際 第3回 乳幼児の造形表現の発達 第4回 幼児と描画表現 (1) 多様な描画材と出会う 第5回 幼児と描画表現 (2) 五感と描画 第6回 幼児と描画表現 (3) 表現を読む：子どもの絵の見方 第7回 「もの」とかかわる (1) ものと出会う（感触教材） 第8回 「もの」とかかわる (2) 行為や操作の遊び（紙・粘土） 第9回 「もの」とかかわる (3) 多様な素材でつくる 第10回 造形活動の指導の原理：保育の構想・環境構成・評価 第11回 造形保育の構想 (1) 指導計画と指導案 第12回 造形保育の構想 (2) 指導案作成と保育の試行 第13回 素材研究 (1) 一つの素材からの展開 第14回 素材研究 (2) 飾る 第15回 子どもの造形を読む：造形表現の読み取りと子ども理解						
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	授業前学習：シラバスの内容に沿って、事前に教科書および参考図書の該当ページを学習しておくこと。教材の準備も事前学習であるから、内容に適した材料を選択して使用方法をイメージできるようにしておくこと。（学習時間2時間） 授業後学習：各授業のテーマ毎に乳幼児の保育・教育現場での造形活動の事例との関連がわかるように、事例をあげ、ファイルして提出する。（学習時間2時間）						
授業方法	演習						
評価基準と評価方法	受講態度・プレゼンテーション等20%、作品・活動に関わるレポート等の提出物40%、指導案・課題レポート40%で評価する。						
履修上の注意	・履修者は基本的な美術教材（1年次の図画工作Ⅰで購入し、4年間の美術系科目共通で使用する）を全員購入してしておくこと。 ・各回に必要な教材については随時伝達するので、各自準備すること。 ・幼稚園教育要領、保育所保育指針、教育保育要領が必要な回があるので、準備しておくこと。（必要な場合は前回の授業で予告します）						
教科書	『新・保育実践を支える 表現』横井志保・奥美佐子編著 福村出版 ISBN978-4-571-1-11616-2 C3337						
参考書	・奥美佐子著『0、1、2歳児の造形あそび』ひかりのくに ISBN978-4-564-60892-6 ・奥美佐子著『3、4、5歳児の造形あそび』ひかりのくに ISBN978-4-564-60908-4 その他、必要に応じて授業内で紹介する。						

科目区分	子ども発達学科専門教育科目						
科目名	保育内容表現（造形）／保育内容表現Ⅱ（造形表現）／保育内容（表現Ⅱ）						
担当教員	奥 美佐子					科目ナンバー	K72040
学期	前期／1st semester	曜日・時限	火曜4	配当学年	2	単位数	2.0
授業のテーマ	乳幼児の造形表現の研究						
授業の概要	乳幼児の造形表現を指導・援助するために必要な理論と実践の方法を学ぶ。造形表現の理念、乳幼児の発達との関係、指導に必要な造形表現の素材・用具・表現技法を身につけ、実践的な造形指導に活用できるように導く。実技や教育・保育現場の資料を通して造形保育を構想し、幼児が主体的に活動できる環境構成や一人ひとりにあった指導・援助について学ぶ。						
到達目標	(1) 乳幼児の造形表現の特徴を解説することができる。 (2) 身近な環境にある自然や事象から、造形表現の題材を見つけ、造形活動の構想へつなぐことができる。 (3) 造形素材、用具、表現技法を選択して、指導案を作成することができる。						
授業計画	第1回 幼児の造形表現の実際と特質・幼稚園教育要領、保育所保育指針「領域表現」の理解 第2回 造形表現が生まれる道筋・乳幼児の造形活動の実際 第3回 乳幼児の造形表現の発達 第4回 幼児と描画表現 (1) 多様な描画材と出会う 第5回 幼児と描画表現 (2) 五感と描画 第6回 幼児と描画表現 (3) 表現を読む：子どもの絵の見方 第7回 「もの」とかかわる (1) ものと出会う（感触教材） 第8回 「もの」とかかわる (2) 行為や操作の遊び（紙・粘土） 第9回 「もの」とかかわる (3) 多様な素材でつくる 第10回 造形活動の指導の原理：保育の構想・環境構成・評価 第11回 造形保育の構想 (1) 指導計画と指導案 第12回 造形保育の構想 (2) 指導案作成と保育の試行 第13回 素材研究 (1) 一つの素材からの展開 第14回 素材研究 (2) 飾る 第15回 子どもの造形を読む：造形表現の読み取りと子ども理解						
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	授業前学習：シラバスの内容に沿って、事前に教科書および参考図書の該当ページを学習しておくこと。教材の準備も事前学習であるから、内容に適した材料を選択して使用方法をイメージできるようにしておくこと。（学習時間2時間） 授業後学習：各授業のテーマ毎に乳幼児の保育・教育現場での造形活動の事例との関連がわかるように、事例をあげ、ファイルして提出する。（学習時間2時間）						
授業方法	演習						
評価基準と評価方法	受講態度・プレゼンテーション等20%、作品・活動に関わるレポート等の提出物40%、指導案・課題レポート40%で評価する。						
履修上の注意	・履修者は基本的な美術教材（1年次の図画工作Ⅰで購入し、4年間の美術系科目共通で使用する）を全員購入してしておくこと。 ・各回に必要な教材については随時伝達するので、各自準備すること。 ・幼稚園教育要領、保育所保育指針、教育保育要領が必要な回があるので、準備しておくこと。（必要な場合は前回の授業で予告します）						
教科書	『新・保育実践を支える 表現』横井志保・奥美佐子編著 福村出版 ISBN978-4-571-1-11616-2 C3337						
参考書	・奥美佐子著『0、1、2歳児の造形あそび』ひかりのくに ISBN978-4-564-60892-6 ・奥美佐子著『3、4、5歳児の造形あそび』ひかりのくに ISBN978-4-564-60908-4 その他、必要に応じて授業内で紹介する。						

科目区分	子ども発達学科専門教育科目						
科目名	保育の心理学／子ども心理Ⅰ（発達心理）						
担当教員	寺見 陽子					科目ナンバ－	K71140
学期	前期／1st semester	曜日・時限	水曜1	配当学年	1	単位数	2.0
授業のテーマ	発達理論と乳幼児の発達と保育						
授業の概要	人間性の育ちの観点から、乳幼児期の子どもの発達について、ワロン、エリクソン、ピアジェの理論を基に学ぶ。人の心はなぜ、どのように芽生え、心の内面を形成していくのか、その過程を理解するとともに、保育や育児の現場における乳幼児の理解のあり方、発達援助のあり方、環境のあり方などについて考える。						
到達目標	①発達の基本と乳幼児の発達過程を理解することができる。 ②乳幼児期の子どもの心の育ちについて理解することができる。 ③乳幼児を理解し、援助するための発達の視点を学ぶとともに、大人の役割を理解することができる。。						
授業計画	第1回 発達と環境 第2回 ヒトの誕生と生物学的基盤の発達 第3回 人間性の発達とその基盤－初期経験の重要性 第4回 新生児期・乳児期の発達－初期コミュニケーションと心の芽生え 第5回 身体と自我と社会－愛着形成と基本的信頼感の形成 第6回 幼児前期の発達－自我の芽生えと自立 第7回 象徴と言葉と思考の芽生え 第8回 幼児中期の発達－内面世界と自分らしさの形成 第9回 遊びと社会性の発達 第10回 幼児後期の発達①－自分を見つめる自分の誕生 第11回 幼児後期の発達②－みんなの中の自分の形成 第12回 心の理論と道徳性の芽生え 第13回 子どもの発達と障害 第14回 親性の発達 第15回 まとめとテスト						
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	発達理論を実際の子どもの発達の姿に結び付けて理解できるようにするために、実際の子どもとかかわり、ふれあう経験を日常生活の中で持つよう心がけてほしい。また、また、幼稚園・保育所等での子どもの姿に触れる経験を大切にしてほしい。						
授業方法	講義と演習						
評価基準と評価方法	2/3以上の出席 小レポート20点 テスト80点						
履修上の注意	積極的な学習態度で望んでほしい。						
教科書	プリント配布						
参考書	必要に応じて示す。						

科目区分	子ども発達学科専門教育科目						
科目名	幼児体育						
担当教員	岸本 みさ子					科目ナンバー	K73270
学期	後期／2nd semester	曜日・時限	金曜1	配当学年	3	単位数	1.0
授業のテーマ	幼稚園・保育所・認定こども園における子どもの発達の理解すること。 幼児教育現場における、運動遊び指導のあり方について学ぶ。						
授業の概要	乳幼児期の発育発達の段階を理解し、年齢に合った運動指導を考え、実践できる力を養う。また、乳幼児が置かれている状況（環境）を理解し、現代の子ども達にどのような運動が必要であるかを考え、指導する力を身につける。それだけではなく、子ども達が動きたくなるような環境構成を考える力を身につける。						
到達目標	・乳幼児期の発育発達を理解する。 ・乳幼児期の運動遊びの重要性を理解する。 ・年齢に合った運動指導ができるようになる。 ・年齢に合った指導計画作成ができるようになる。						
授業計画	第1回 オリエンテーション 第2回 子どもの発達について 第3回 指導計画について 第4回 道具を使用しない遊び1 第5回 道具を使用しない遊び2 第6回 道具を使用しない遊び3 第7回 ボールを使用した遊び 第8回 マットを使用した遊び 第9回 跳び箱や縄を使用した遊び 第10回 模擬保育の実施1 第11回 模擬保育の実施2 第12回 模擬保育の実施3 第13回 模擬保育の実施4 第14回 模擬保育の振り返り 第15回 授業レポート及びまとめ						
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	授業前準備学習：各回授業で実施する活動を教科書で予習をすること。（学習時間1時間） 指導案の作成をすること。（学習時間1時間） 授業後学習：授業内で実施した活動を振り返り、実施内容・活動する際の注意点・考察等をまとめたノートを作成する。（学習時間2時間）						
授業方法	演習形式。 グループで指導計画を立て、模擬保育を実施する。 その後、グループごとに振り返りを行う。						
評価基準と評価方法	指導計画・模擬保育指導 40％ 授業ノート作成 40％ 平常点 20％						
履修上の注意	動きやすい格好で受講すること。 積極的に授業参加すること。 2／3以上の出席に満たない者は、単位認定資格を失う。 教員連絡先：m-kishimoto [at] cs.kinran.ac.jp（メールをする場合は[at]を@に置き換えること）						
教科書	「子どもが育つ運動遊び」みらい 2016 ISBN978-4-86015-379-3						
参考書	「遊びの指導」幼少年教育研究所 同文書院						

科目区分	子ども発達学科専門教育科目						
科目名	幼児体育						
担当教員	岸本 みさ子					科目ナンバー	K73270
学期	後期／2nd semester	曜日・時限	金曜2	配当学年	3	単位数	1.0
授業のテーマ	幼稚園・保育所・認定こども園における子どもの発達の理解すること。 幼児教育現場における、運動遊び指導のあり方について学ぶ。						
授業の概要	乳幼児期の発育発達の段階を理解し、年齢に合った運動指導を考え、実践できる力を養う。また、乳幼児が置かれている状況（環境）を理解し、現代の子ども達にどのような運動が必要であるかを考え、指導する力を身につける。それだけではなく、子ども達が動きたくなるような環境構成を考える力を身につける。						
到達目標	・乳幼児期の発育発達を理解する。 ・乳幼児期の運動遊びの重要性を理解する。 ・年齢に合った運動指導ができるようになる。 ・年齢に合った指導計画作成ができるようになる。						
授業計画	第1回 オリエンテーション 第2回 子どもの発達について 第3回 指導計画について 第4回 道具を使用しない遊び1 第5回 道具を使用しない遊び2 第6回 道具を使用しない遊び3 第7回 ボールを使用した遊び 第8回 マットを使用した遊び 第9回 跳び箱や縄を使用した遊び 第10回 模擬保育の実施1 第11回 模擬保育の実施2 第12回 模擬保育の実施3 第13回 模擬保育の実施4 第14回 模擬保育の振り返り 第15回 授業レポート及びまとめ						
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	授業前準備学習：各回授業で実施する活動を教科書で予習をすること。（学習時間1時間） 指導案を作成すること。（学習時間1時間） 授業後学習：授業内で実施した活動を振り返り、実施内容・活動する際の注意点・考察等をまとめたノートを作成する。（学習時間2時間）						
授業方法	演習形式。 グループで指導計画を立て、模擬保育を実施する。 その後、グループごとに振り返りを行う。						
評価基準と評価方法	指導計画・模擬保育指導 40％ 授業ノート作成 40％ 平常点 20％						
履修上の注意	動きやすい格好で受講すること。 積極的に授業参加すること。 2／3以上の出席に満たない者は、単位認定資格を失う。 教員連絡先：m-kishimoto [at] cs.kinran.ac.jp（メールをする場合は[at]を@に置き換えること）						
教科書	「子どもが育つ運動遊び」みらい 2016 ISBN978-4-86015-379-3						
参考書	「遊びの指導」幼少年教育研究所 同文書院						

科目区分	子ども発達学科専門教育科目						
科目名	幼児理解						
担当教員	井上 知子					科目ナンバー	K74100
学期	前期／1st semester	曜日・時限	金曜1	配当学年	4	単位数	2.0
授業のテーマ	幼児理解から始まる保育						
授業の概要	第一に、幼児を理解するために必要な考え方や視点について学ぶ。 第二に、具体的な事例を通して、保育者として幼児の行動や育ちをどのように読み取るのかを考える。 第三に、理解したことを基に、幼児にどうかかわるのかを考え、保育者の役割を理解する。 そのための方策として、記録された事例や動画を考察したり、意見交換したりすることにより、他者の考えに触れ、視野を広げて幼児を理解する手立てとする。						
到達目標	・一人一人の幼児の内面を理解するための手掛かりを見付け、個々に即した対応の仕方を学ぶ。 ・具体的な事例について自分の考えをもち、言語化して他者に伝える力を付ける。						
授業計画	第1回 オリエンテーション :授業概要の説明 保育の始まりとしての幼児理解 第2回 幼児を理解するために :絵本から学ぶ子どもの姿 第3回 幼児理解の基盤になるもの :幼児期にふさわしい生活 第4回 幼児理解と発達の理解 :幼児期の発達の捉え方 第5回 幼児理解と保育者の援助 :DVD動画を活用して 第6回 幼児の行動や行為の意味 :記録事例を活用して 第7回 幼児理解の方法 :観察・記録の仕方 第8回 保育者の姿勢(1) :様々な関わり方と意図 第9回 保育者の姿勢(2) :保護者対応、家庭との連携 第10回 友達とのかわりを通した幼児の育ち :DVD動画を活用して 第11回 個と集団の関係を捉える(1) :幼児期の集団形成の過程 第12回 個と集団の関係を捉える(2) :特別な支援を必要とする幼児 第13回 一人一人の幼児に応じた援助 :DVD動画を活用して 記録の取り方と考察 第14回 幼児理解を深める研修 :園内研修について 筆記試験 第15回 まとめと授業評価(レポート提出) :質疑応答						
授業外における学習(準備学習の内容・時間)	授業前学習:授業計画に沿って、教科書に目を通しておく。(週30分程度) 授業後学習:配布プリント等にそって学習内容を整理し、次回に備える(週30分程度)						
授業方法	講義 事例を読んだりDVDを視聴した後に、グループでディスカッションしたり、意見をまとめたりする。発表する機会が全員にいきわたるよう配慮する。また、自分の考えを文章にまとめる機会を多くもつ。						
評価基準と評価方法	筆記試験による評価 50% 授業態度(意欲・関心・発言)、レポート等の提出物による評価 50% を総合して評価します。						
履修上の注意	意欲的に授業に参加してください。提出物の期限は厳守すること。 単位認定には、全授業数2/3以上の出席が必要です。						
教科書	プリントを配付する。						
参考書	幼稚園教育要領解説 文部科学省 2018年						

科目区分	子ども発達学科専門教育科目						
科目名	幼児理解						
担当教員	井上 知子					科目ナンバー	K74100
学期	前期／1st semester	曜日・時限	金曜2	配当学年	4	単位数	2.0
授業のテーマ	幼児理解から始まる保育						
授業の概要	第一に、幼児を理解するために必要な考え方や視点について学ぶ。 第二に、具体的な事例を通して、保育者として幼児の行動や育ちをどのように読み取るのかを考える。 第三に、理解したことを基に、幼児にどうかかわるのかを考え、保育者の役割を理解する。 そのための方策として、記録された事例や動画を考察したり、意見交換したりすることにより、他者の考えに触れ、視野を広げて幼児を理解する手立てとする。						
到達目標	・一人一人の幼児の内面を理解するための手掛かりを見付け、個々に即した対応の仕方を学ぶ。 ・具体的な事例について自分の考えをもち、言語化して他者に伝える力を付ける。						
授業計画	第1回 オリエンテーション :授業概要の説明 保育の始まりとしての幼児理解 第2回 幼児を理解するために :絵本から学ぶ子どもの姿 第3回 幼児理解の基盤になるもの :幼児期にふさわしい生活 第4回 幼児理解と発達の理解 :幼児期の発達の捉え方 第5回 幼児理解と保育者の援助 :DVD動画を活用して 第6回 幼児の行動や行為の意味 :記録事例を活用して 第7回 幼児理解の方法 :観察・記録の仕方 第8回 保育者の姿勢(1) :様々な関わり方と意図 第9回 保育者の姿勢(2) :保護者対応、家庭との連携 第10回 友達とのかかわりを通した幼児の育ち :DVD動画を活用して 第11回 個と集団の関係を捉える(1) :幼児期の集団形成の過程 第12回 個と集団の関係を捉える(2) :特別な支援を必要とする幼児 第13回 一人一人の幼児に応じた援助 :DVD動画を活用して 記録の取り方と考察 第14回 幼児理解を深める研修 :園内研修について 筆記試験 第15回 まとめと授業評価(レポート提出) :質疑応答						
授業外における学習(準備学習の内容・時間)	授業前学習:授業計画に沿って、教科書に目を通しておく。(週30分程度) 授業後学習:配布プリント等によって学習内容を整理し、次回に備える(週30分程度)						
授業方法	講義 事例を読んだりDVDを視聴した後に、グループでディスカッションしたり、意見をまとめたりする。発表する機会が全員にいきわたるよう配慮する。また、自分の考えを文章にまとめる機会を多くもつ。						
評価基準と評価方法	筆記試験による評価 50% 授業態度(意欲・関心・発言)、レポート等の提出物による評価 50% を総合して評価します。						
履修上の注意	意欲的に授業に参加してください。提出物の期限は厳守すること。 単位認定には、全授業数2/3以上の出席が必要です。						
教科書	プリントを配付する。						
参考書	幼稚園教育要領解説 文部科学省 2018年						

科目区分	子ども発達学科専門教育科目						
科目名	理科研究						
担当教員	内田 祐貴					科目ナンバー	K72500
学期	前期／1st semester	曜日・時限	火曜4	配当学年	2	単位数	2.0
授業のテーマ	小学校における理科教育について、その内容構成、指導方法の基礎的な知識技術を習得する。						
授業の概要	学習指導要領における理科の目標とその趣旨、「エネルギー・粒子」、「生命・地球」の各領域について教材の構成と指導方法について学習する。特に、小学校理科を教えるにあたり、指導計画や指導案の作り方、授業時の指導方法、実験授業の方法など、基礎基本となる事柄を取り扱う。また、授業中にも実験を行い、実験の基本的操作を身に付けられるようにする。						
到達目標	(1) 小学校理科の基本的指導方法の知識技術を習得し、学習指導要領の内容を説明できる【知識・理解】 (2) 小学校理科の指導計画、指導案を作成できる【知識理解】 (3) 小学校理科の実験観察の操作法を身に付け、実際に実験できる【汎用的技能】						
授業計画	第01回 ガイダンス、理科研究について 第02回 理科の指導方法の基本理論 第03回 実験指導と理科の評価方法 第04回 理科の構造（生命 第3学年、第4学年） 第05回 理科の構造（生命 第5学年、第6学年） 第06回 発表と検討（生命）理科の構造（地球 全学年） 第07回 理科の構造（地球 全学年） 第08回 発表と検討（地球） 第09回 理科の構造（エネルギー 第3学年、第4学年） 第10回 理科の構造（エネルギー 第5学年、第6学年） 第11回 発表と検討（エネルギー） 第12回 理科の構造（粒子 第3学年、第4学年） 第13回 理科の構造（粒子 第5学年、第6学年） 第14回 発表と検討（粒子） 第15回 まとめとテスト						
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	授業前準備学習：各回で取り扱う単元を教科書などで予習し、ポイントになる点についてまとめておく（学習時間2時間） 授業後学習：松蔭manabaコースコンテンツを利用して、授業で扱った内容の確認、復習、改善方法を考察する（学習時間2時間）						
授業方法	講義、演習：最初に各回で扱う単元の基本事項を講義した後、ペア・グループで実験観察、デジタル教材、ICT教材の利用などのワークをし、指導計画、指導案を作成する。作成した指導計画、指導案を発表し、ディスカッションを行う。クリッカーなどを用い双方向型授業を行う。						
評価基準と評価方法	提出物と授業態度 40%：各回のワークで作成する指導計画、指導案の内容、実験観察、発表やディスカッションへの参加度により評価する。 到達目標 (1) (2) (3) に関する到達度の確認 期末試験：60%：授業で扱った小学校理科指導法に関する基本知識の理解度、指導案の作成法について評価する。 到達目標 (1) (2) に関する到達度の確認						
履修上の注意	小学校免許取得希望者は「理科研究」と「理科指導法」をセットで履修すること。						
教科書	「わくわく理科3～6」（小学校理科教科書3学年～6学年用）、啓林館 「小学校学習指導要領解説 理科編 一平成29年7月」、文部科学省、大日本図書、ISBN-13：978-4491034638						
参考書							

科目区分	子ども発達学科専門教育科目							
科目名	理科研究							
担当教員	内田 祐貴					科目ナンバー	K72500	
学期	前期／1st semester		曜日・時限	水曜4	配当学年	2	単位数	2.0
授業のテーマ	小学校における理科教育について、その内容構成、指導方法の基礎的な知識技術を習得する。							
授業の概要	学習指導要領における理科の目標とその趣旨、「エネルギー、粒子」、「生命、地球」の各領域について教材の構成と指導方法について学習する。特に、小学校理科を教えるにあたり、指導計画や指導案の作り方、授業時の指導方法、実験授業の方法など、基礎基本となる事柄を取り扱う。また、授業中にも実験を行い、実験の基本的操作を身に付けられるようにする。							
到達目標	(1) 小学校理科の基本的指導方法の知識技術を習得し、学習指導要領の内容を説明できる【知識・理解】 (2) 小学校理科の指導計画、指導案を作成できる【知識理解】 (3) 小学校理科の実験観察の操作法を身に付け、実際に実験できる【汎用的技能】							
授業計画	第01回 ガイダンス、理科研究について 第02回 理科の指導方法の基本理論 第03回 実験指導と理科の評価方法 第04回 理科の構造（生命 第3学年、第4学年） 第05回 理科の構造（生命 第5学年、第6学年） 第06回 発表と検討（生命）理科の構造（地球 全学年） 第07回 理科の構造（地球 全学年） 第08回 発表と検討（地球） 第09回 理科の構造（エネルギー 第3学年、第4学年） 第10回 理科の構造（エネルギー 第5学年、第6学年） 第11回 発表と検討（エネルギー） 第12回 理科の構造（粒子 第3学年、第4学年） 第13回 理科の構造（粒子 第5学年、第6学年） 第14回 発表と検討（粒子） 第15回 まとめとテスト							
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	授業前準備学習：各回で取り扱う単元を教科書などで予習し、ポイントになる点についてまとめておく（学習時間2時間） 授業後学習：松蔭manabaコースコンテンツを利用して、授業で扱った内容の確認、復習、改善方法を考察する（学習時間2時間）							
授業方法	講義、演習：最初に各回で扱う単元の基本事項を講義した後、ペア・グループで実験観察、デジタル教材、ICT教材の利用などのワークをし、指導計画、指導案を作成する。作成した指導計画、指導案を発表し、ディスカッションを行う。クリッカーなどをを用い双方向型授業を行う。							
評価基準と評価方法	提出物と授業態度 40%：各回のワークで作成する指導計画、指導案の内容、実験観察、発表やディスカッションへの参加度により評価する。 到達目標(1)(2)(3)に関する到達度の確認 期末試験：60%：授業で扱った小学校理科指導法に関する基本知識の理解度、指導案の作成法について評価する。 到達目標(1)(2)に関する到達度の確認							
履修上の注意	小学校免許取得希望者は「理科研究」と「理科指導法」をセットで履修すること。							
教科書	「わくわく理科3～6」（小学校理科教科書3学年～6学年用）、啓林館 「小学校学習指導要領解説 理科編 ―平成29年7月」、文部科学省、大日本図書、ISBN-13：978-4491034638							
参考書								

科目区分	子ども発達学科専門教育科目							
科目名	理科指導法							
担当教員	内田 祐貴					科目ナンバー	K72330	
学期	後期／2nd semester		曜日・時限	水曜2	配当学年	2	単位数	2.0
授業のテーマ	小学校理科の授業を行うために必要な事を理解習得し、実際に授業を行うことができる。							
授業の概要	小学校理科の学習内容、指導方法を、模擬授業などの実践的演習をすることにより、身に付ける。 前期「理科研究」で学習した理科指導の知識技術が、小学校の45分間の授業内で、どのように使えば、児童が理科を好きになる授業を行えるのかを、模擬授業を通して考える。							
到達目標	(1) 小学校理科の授業の授業計画、指導案を作成できる【知識・理解】 (2) 小学校理科の模擬授業ができる(教材分析、板書、評価、安全な実験指導等)【汎用的技能】 (3) 小学校理科の児童を想定した模擬授業を出来る(話し方、様々な場面での対応)【汎用的技能】							
授業計画	第01回 ガイダンス 理科を教えるということ 第02回 授業展開と指導の方法 第03回 3学年「生命・地球」の学習と模擬授業実習 第04回 3学年「粒子・エネルギー」の学習と模擬授業実習 第05回 4学年「生命・地球」の学習と模擬授業実習 第06回 4学年「粒子・エネルギー」の学習と模擬授業実習 第07回 まとめ1 (3～4年生) 第08回 5学年「生命・地球」の学習と模擬授業実習 第09回 5学年「エネルギー」の学習と模擬授業実習 第10回 5学年「粒子」の学習と模擬授業実習 第11回 6学年「生命」の学習と模擬授業実習 第12回 6学年「粒子」の学習と模擬授業実習 第13回 6学年「エネルギー」の学習と模擬授業実習 第14回 6学年「地球」の学習と模擬授業実習 第15回 まとめ2 (5～6年生) 模擬授業実習のなかに、グループ指導演習とTT指導演習を含みます。							
授業外における学習 (準備学習の内容・時間)	授業前準備学習：各回で取り扱う単元を教科書などで予習し、ポイントになる点についてまとめておく (学習時間2時間) 授業後学習：松蔭manabaコースコンテンツを利用して、授業で扱った内容の確認、復習、改善方法を考察する (学習時間2時間)							
授業方法	講義と演習：必要事項について講義し、各人orペアで模擬授業案を作成し、実施に模擬授業を行う。その後、グループで模擬授業についてディスカッションし、全体で改善案を考える。							
評価基準と評価方法	提出物 40%：各回のワークで作成する指導案の内容で評価する。 到達目標 (1) (2) (3) に関する到達度の確認 授業態度 40%：模擬授業、その後のディスカッションなどへの参加度、発表内容などで評価する。 到達目標 (1) (2) に関する到達度の確認							
履修上の注意	小学校免許取得希望者は「理科研究」と「理科指導法」をセットで履修すること。							
教科書	「わくわく理科3～6」 (小学校理科教科書 3学年～6学年用)、啓林館 「小学校学習指導要領解説 理科編 ―平成29年7月」、文部科学省、大日本図書、ISBN-13：978-4491034638							
参考書								

科目区分	子ども発達学科専門教育科目							
科目名	理科指導法							
担当教員	内田 祐貴					科目ナンバー	K72330	
学期	後期／2nd semester		曜日・時限	金曜5	配当学年	2	単位数	2.0
授業のテーマ	小学校理科の授業を行うために必要な事を理解習得し、実際に授業を行うことができる。							
授業の概要	小学校理科の学習内容、指導方法を、模擬授業などの実践的演習をすることにより、身に付ける。前期「理科研究」で学習した理科指導の知識技術が、小学校の45分間の授業内で、どのように使えば、児童が理科を好きになる授業を行えるのかを、模擬授業を通して考える。							
到達目標	(1) 小学校理科の授業の授業計画、指導案を作成できる【知識・理解】 (2) 小学校理科の模擬授業ができる(教材分析、板書、評価、安全な実験指導等)【汎用的技能】 (3) 小学校理科の児童を想定した模擬授業を出来る(話し方、様々な場面での対応)【汎用的技能】							
授業計画	第01回 ガイダンス 理科を教えるということ 第02回 授業展開と指導の方法 第03回 3学年「生命・地球」の学習と模擬授業実習 第04回 3学年「粒子・エネルギー」の学習と模擬授業実習 第05回 4学年「生命・地球」の学習と模擬授業実習 第06回 4学年「粒子・エネルギー」の学習と模擬授業実習 第07回 まとめ1 (3～4年生) 第08回 5学年「生命・地球」の学習と模擬授業実習 第09回 5学年「エネルギー」の学習と模擬授業実習 第10回 5学年「粒子」の学習と模擬授業実習 第11回 6学年「生命」の学習と模擬授業実習 第12回 6学年「粒子」の学習と模擬授業実習 第13回 6学年「エネルギー」の学習と模擬授業実習 第14回 6学年「地球」の学習と模擬授業実習 第15回 まとめ2 (5～6年生) 模擬授業実習のなかに、グループ指導演習とTT指導演習を含みます。							
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	授業前準備学習：各回で取り扱う単元を教科書などで予習し、ポイントになる点についてまとめておく（学習時間2時間） 授業後学習：松蔭manabaコースコンテンツを利用して、授業で扱った内容の確認、復習、改善方法を考察する（学習時間2時間）							
授業方法	講義と演習：必要事項について講義し、各人orペアで模擬授業案を作成し、実施に模擬授業を行う。その後、グループで模擬授業についてディスカッションし、全体で改善案を考える。							
評価基準と評価方法	提出物 40%：各回のワークで作成する指導案の内容で評価する。 到達目標 (1) (2) (3) に関する到達度の確認 授業態度 40%：模擬授業、その後のディスカッションなどへの参加度、発表内容などで評価する。 到達目標 (1) (2) に関する到達度の確認							
履修上の注意	小学校免許取得希望者は「理科研究」と「理科指導法」をセットで履修すること。							
教科書	「わくわく理科3～6」（小学校理科教科書3学年～6学年用）、啓林館 「小学校学習指導要領解説 理科編 ー平成29年7月」、文部科学省、大日本図書、ISBN-13：978-4491034638							
参考書								